

講義概要・授業計画

令和6年度
(2024)

高野山大学

本誌の利用に際して

この「講義概要・授業計画」は、令和6年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目のページを開くことで見ることができます。

目 次

文学部・別科	1
シラバスを活用しよう!	2
履修登録と見方	3
◆目次について	
◆講義コードについて	
◆受講登録について	
◆出席票について	
◆報恩日(21日)の授業実施について	
◆GPAについて	
◆科目ナンバリングについて	
◆シラバス「他」欄について	
◆授業形態について	
◆卒業認定・学位授与に関する方針(文学部ディプロマ・ポリシー DP)	
入学から卒業までの履修について	
密教学科(2022年度からの入学生用)	8
◆卒業認定・学位授与に関する方針(密教学科ディプロマ・ポリシー DP)	
◆教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)	
◆必修科目◆選択科目◆自由科目	
カリキュラムマップ	
密教学科(2021年度までの入学生用)	10
◆卒業認定・学位授与に関する方針(密教学科ディプロマ・ポリシー DP)	
◆教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)	
◆必修科目◆選択科目◆自由科目	
カリキュラムマップ	
僧侶実力養成プログラム	12
科目目次(文学部/別科)	13
密教学科(2022年度からの入学生用)	14
密教学科(2021年度までの入学生用)	21
別 科	28
講義概要・授業計画	29
密教学科/別科	文-1 ~ 文-231
科目目次(大学院)	i
文学研究科修士課程 密教学専攻	ii
文学研究科修士課程 仏教学専攻	iii
文学研究科博士後期課程	iv
講義概要・授業計画	v
大学院	院-1 ~ 院-58
教員別索引(50音順)	

文 学 部
别 科

シラバスを活用しよう！

松長 潤慶（副学長・高野山キャンパス）

この『高野山大学・大学院 講義概要・授業計画 令和6年度』は一般にシラバス（syllabus）と呼ばれています（以下、「シラバス」）。シラバスには今年度の高野山大学の文学部密教学科で開講されるすべての科目に関する情報（授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、準備学習とその時間、テキスト、参考書・参考資料、学生に対する評価方法、ルーブリック（目標に準拠した評価）、課題に対するフィードバックの方法、その他の注意点など）がコンパクトにまとめられています。シラバスは、今年度1年間のみなさんの学修の指針となるものです。別の言い方をすると、シラバスは、学生諸君に対する私たち教員の約束です。今年度1年間の授業はここに書いてあるように展開されます。シラバスを大切に、学修に役立ててください。

本学は、2019年度からGPA（グレード・ポイント・アベレージ）制を導入しました。GPAについては後のページに載せてありますが、もし分かりにくければ、教務担当の事務職員にたずねてください。とても大事なことから、よく理解をしてください。

また本学は、2022年度から密教学科の中に従来の密教学科を継承する密教学コースと、国際的視点から日本文化を学ぶ留学生のための日本文化コースを設置しました。さらに2023年度には、密教・仏教の思想や歴史を基本から学ぶ社会人編入生のための密教文化コースを設けました。提供しているカリキュラムが「宗教的教養を持った社会人」を育成するように設計されていることは、これまで通りです。宗教的教養を持った社会人とは、宗教の智慧を人生の指針とし、様々な問題を抱える現代社会で活かしていける力を持った社会人のことです。言い換えれば、弘法大師の教えを具現化できる人です。

カリキュラムマップは、そういう人になるための学修の体系を図示したものです。弘法大師の教えを具体化し、実践するためには、密教・仏教の古典の知識はもちろん必要ですが、それだけでは足りません。人に教えを伝えるためには高いコミュニケーション能力も必要ですし、寺院を経営したり、福祉事業を展開したりするための社会活動力も必要です。哲学・歴史・文学といった広い教養も求められ、さらに語学力も求められます。本学カリキュラムは、そうした勉強が段階を追って出来るようになっていきます。

こうした能力、こうした教養は、僧侶になる人にも一般企業に就職する人、公務員を目指す人にも役に立ちます。これを基礎に、僧侶を目指す人は教学実習科目等の授業を、一般企業・公務員を目指す人は就職支援授業をさらに活用してください。

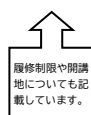
みなさんの健闘を期待しています。

履修登録と見方

◆目次について

この『令和6年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学科のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	科目名	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	添田 隆昭	2	1年次	—		1



◆講義コードについて

講義コードは5ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

5 2 1 0 2

課程

- 5 = 密教学科
- 6 = 教育学科
- 8 = 別科生用
- 9 = 大学院生用

曜日

- 1 = 月曜日
- 2 = 火曜日
- 3 = 水曜日
- 4 = 木曜日
- 5 = 金曜日
- 6 = 土曜日
- 7 = 集中講義
- 8 = 実習
- 9 = 論文

時限

- 1 = 1 講時
- 2 = 2 講時
- 3 = 3 講時
- 4 = 4 講時
- 5 = 5 講時
- 6 = 6 講時
- 7 = 7 講時

通し番号

- 01 ~ 25 = 前期授業
および通年授業（高野山）
- 26 ~ 49 = 前期授業
および通年授業（遠隔授業・難波）
- 51 ~ 75 = 後期授業（高野山）
- 76 ~ 99 = 後期授業（遠隔授業・難波）

◆受講登録について

- 1 受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、4月8日(月)から4月12日(金)午後4時までに学務課教務係へ提出してください。ただし、遠隔授業科目の登録については、4月5日(金)午後4時までに行ってください。(期限までの登録が無いと、LMSへの登録ができず、授業に参加ができなくなります。)
 - 2 履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。
 - ① 学籍番号(※身分証明書を参照)・氏名・所属学科・学年を記入もしくはチェックしてください。
 - ② 履修登録欄は、今年度受講するすべての授業科目を、『令和6年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名(卒業論文も含む)を記入してください。
- ※1年間に履修登録できるのは卒業論文・自由科目を除き50単位までです。
- 3 履修登録票を学務課教務係へ提出した学生は、4月22日(月)から4月26日(金)午後4時までに、学務課教務係から各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。窓口での受け取り時には学生証(身分証明書)が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、学務課教務係へ提出してください。
 - 4 最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、1年間保管してください。
 - 5 履修を取り消したい科目がある場合は、前期は5月31日(金)まで、後期は10月31日(木)午後4時まで受け付けますので学務課教務係に申し出てください。(※ただし、一部の科目は履修取り消しができません。)
- ※論文を提出しなかった学生は、前期は7月末までに、後期は1月末までに必ず学務課教務係まで取り消しにしてください。
- 6 後期(9月23日開講)授業科目の追加及び登録変更は、9月23日(月)から9月27日(金)午後4時までの後期履修登録変更期間に、学務課教務係へ申し出てください。また、遠隔授業科目の登録については、9月19日(木)午後4時までに行ってください。(期限までの登録が無いと、LMSへの登録ができず、授業に参加ができなくなります。)ただし、通年科目の追加・変更・取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第1回目から第3回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の3分の2以上の出席がないと「失格」(999)になりますので留意してください。

◆報恩日(21日)の授業実施について

報恩日(21日)は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。

◆GPAについて

1 GPAとは

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のGP（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

2 目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

3 対象

平成31年度入学生から対象となります。また3年次編入学生は令和3年度入学生からとなります。

4 GPAの計算方法

履修登録した各科目の成績（GP）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第3位は四捨五入。

合否	評点	評語	GP	判定基準
合格	90点以上	S	4	授業の到達目標を達成し特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	授業の到達目標を達成し優れた成績である
	79点～70点	B	2	授業の到達目標を概ね達成している
	69点～60点	C	1	授業の到達目標を最低限達成している
不合格	59点以下	D	0	授業の到達目標を達成していない
失格	999	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認定	888	N	対象外	編入等で単位を認定した

5 GPAに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「N」評価の科目。

6 履修取り消し

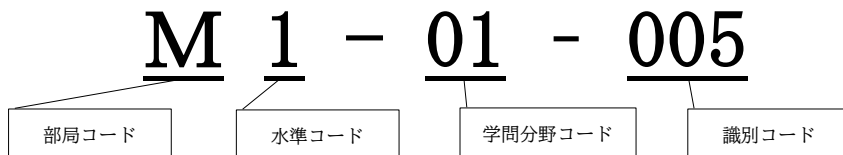
前期は5月31日（金）まで、後期は10月31日（木）まで履修取消期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、GPA算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

※論文を提出しなかった学生は、前期は7月末までに、後期は1月末までに必ず学務課教務係まで取り消しにきてください。

◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

<高野山大学科目ナンバリングの形式>



<各コードの定義について>

1 部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するために項目です。

<部局コード分類表>

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

2 水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

3 学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字2ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

4 識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字3ケタで表記しています。

◆シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「A」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「I」については、ICTを用いて実施する科目を表しています。授業ではスマートフォンを利用した理解度把握システムを使用します。スマートフォンを必ず持ってきてください。また、持っていない学生は学務課教務係まで申し出てください。

◆授業形態について

授業の中には多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で行うものもあります。そのような授業科目には科目名の最後に、授業形態の略名が入っています。主な授業形態には、以下のものがあります。ただし、卒業に必要な単位数のうち、遠隔授業により修得可能な単位数の上限は60単位までとなります。

授業形態	略名	解説
対面授業	I P	原則対面で実施する授業科目のことを指します。ただし、授業によっては授業の一部（授業時数の半分未満）を遠隔授業によって実施する場合があります。
ライブ配信	L S	ZOOMなどによって教員等と非対面でつないで行う同時双方向型授業のことをいいます。資料等のオンデマンド配信は実施しますが、映像のオンデマンド配信（事後配信）は行いません。
ライブ配信 + オンデマンド	L S O	ZOOMなどによって教員等と非対面でつないで行う同時双方向型授業のことをいいます。資料等のオンデマンド配信（事後配信）とともにその映像のオンデマンド配信も実施する科目です。
オンデマンド	O D	動画やスライド等の授業教材の配信により実施する科目です。

※L S O・O D科目については、毎授業課されるリアクションペーパーの提出により出席をとります。

※科目名に【L S O】など授業形態が書かれていない科目は、原則高野山キャンパスでの対面授業です。

◆卒業認定・学位授与に関する方針（文学部ディプロマ・ポリシー DP）

本学の教育理念に照らし、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

1. 体系的に学んだ専門的な知識と方法論に基づいて、総合的に問題を解決し新たな価値の創造につなげていく能力が、一定の水準に達したと認められる学生。
2. 生命尊重の精神に基づいて人間の存在と叡智を敬い、種々なる文化の価値を創造的に理解する能力を有する学生。

入学から卒業までの履修について(密教学科) (2022年度からの入学生用)

◆卒業認定・学位授与に関する方針(密教学科ディプロマ・ポリシー DP)

高野山大学密教学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような知識や技能、能力を身につけた学生に学位を授与します。

1. 仏教・密教に関する専門知識。(DP1)
2. 体系的に学んだ方法論・技能にもとづいて問題を探求し、論理的・実証的に思考するとともに、それを表現する能力。(DP2)
3. 真言宗僧侶としての基礎的技能。(DP3)
4. 日本やアジアの伝統文化をグローバルな視点から理解する能力。(DP4)
5. 現代社会における宗教の役割を理解し、実践することのできる能力。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

文学部密教学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります。

密教学科の科目は、必修科目、選択科目、自由科目に区分されています。

必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の同一区分内で、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計64単位以上を取得してください。

また、必修科目以外に、選択科目の中から60単位を取得する必要があります。ただし、1年間に履修できるのは50単位までです。(卒業論文・自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが3.0以上の人は58単位まで履修可能です。)

密教学科の学生は、必修科目64単位と選択科目60単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

教養科目36単位	密教学科 コース	日本文化 コース	応用科目28単位	密教学科 コース	日本文化 コース
建学の精神科目	2単位	2単位	講 読	4単位	0単位
導入科目	2単位	0単位	キャリア科目	0単位	4単位
語学科目	6単位	6単位	特殊講義	4単位	4単位
基礎ゼミ	4単位	4単位	講読演習	4単位	4単位
教養基礎科目	6単位	8単位	演 習	8単位	8単位
キャリア科目	4単位	8単位	卒業論文	8単位	4単位
講 義	4単位	4単位		必修科目合計	64単位
基礎科目	0単位	0単位		選択科目合計	60単位
講 読	4単位	4単位		合 計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、1回生は履修できません。

◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず64単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義が設定されており、選択できるものもあります。

◆選択科目

密教学科の必修科目を64単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの選択科目60単位は、総合、企画、外国語、僧侶、実技・実習、歴史学、普通、書道師範、社会福祉主事、キャリア、学芸員資格から履修することができます。また余分に履修した密教学科必修科目(一部)を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、教員免許状を取得するためのものです。卒業単位にはなりませんので、注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（密教学科）（2022年度からの入学生用）

科目区分	1年次			2年次			3年次			4年次		
	科目名	密教学	日本史	科目名	密教学	日本史	科目名	密教学	日本史	科目名	密教学	日本史
進学の精華目	空海の思想入門	◎	◎									
導入科目	導入研修	◎	○									
語学科目	英語Ⅰ	◎	○									
				英語Ⅱ	◎	○						
	漢文	○	○									
	サンスクリット語	○	○									
	日本語	-	◎									
基礎ゼミ	密教学基礎ゼミ	◎	◎									
教養基礎科目	常用経典	◎	○									
	声明	○	○									
	法式	○	○									
	布教	○	○									
	漢字Ⅰ	○	○									
	かなⅠ	○	○									
	梵字悉曇	○	○									
	伝統文化	○	○									
	宗教芸能	○	○									
	加行Ⅰ	○	○									
	加行Ⅱ	○	○									
	宗教思想史Ⅰ	○	○									
	宗教思想史Ⅱ	○	○									
	哲学	○	○									
	心理学Ⅰ	○	○									
	心理学Ⅱ	○	○									
	情報処理	○	○									
	日本文化	-	○									
キャリア科目	キャリアデザインⅠ	◎	◎	キャリアデザインⅢ	○	◎						
	キャリアデザインⅡ	◎	◎	キャリアデザインⅣ	○	◎						
講義				密教学概論	○	○						
				仏教学概論	○	○						
				密教史概説	○	○						
				仏教史概説	○	○						
基礎科目				歴史学	○	○						
				宗教学Ⅰ	○	○						
				宗教学Ⅱ	○	○						
				宗教Ⅰ	○	○						
				宗教Ⅱ	○	○						
講読			祖典講読Ⅰ	◎	◎							
講読				祖典講読Ⅱ	○	○						
				宗典講読	○	○						
キャリア科目				キャリアデザインⅤ	○	◎						
				キャリアデザインⅥ	○	◎						
特殊講義				密教学特殊講義	○	○						
				仏教学特殊講義	○	○						
				真言密教特殊講義	○	○						
講読演習				密教学講読演習	○	○						
				仏教学講読演習	○	○						
				真言密教講読演習	○	○						
演習				密教学演習	◎	◎			密教学演習	◎	◎	
卒業論文										密教学科卒業論文	◎	○
										密教学科卒業研究	-	○
選択科目												

※◎は必修、○は選択必修、-は履修不可

入学から卒業までの履修について(密教学科) (2021年度までの入学生用)

◆卒業認定・学位授与に関する方針(密教学科ディプロマ・ポリシー DP)

高野山大学密教学科では、所定の単位を修得し、かつ以下のような知識や技能、能力を身につけた学生に学位を授与します。

1. 仏教・密教に関する専門知識。(DP1)
2. 体系的に学んだ方法論・技能にもとづいて問題を探求し、論理的・実証的に思考するとともに、それを表現する能力。(DP2)
3. 真言宗僧侶としての基礎的技能。(DP3)
4. 日本やアジアの伝統文化をグローバルな視点から理解する能力。(DP4)
5. 現代社会における宗教の役割を理解し、実践することのできる能力。(DP5)

◆教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

文学部密教学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります(履修規程第3条)。

密教学科の科目は、必修科目、選択科目、自由科目に区分されています。

必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の同一区分内で、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計64単位以上を取得してください。

また、必修科目以外に、選択科目の中から60単位を取得する必要があります。ただし、1年間に履修できるのは50単位までです。(卒業論文・自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが3.0以上の人は58単位まで履修可能です。)

密教学科の学生は、必修科目64単位と選択科目60単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	2単位	基礎科目	4単位	特殊講義	4単位
導入科目	2単位	実技科目	10単位	講読演習	4単位
語学科目	6単位	講読	8単位	演習	8単位
基礎ゼミ	4単位	実習	4単位	卒業論文	8単位
				必修科目合計	64単位
				選択科目合計	60単位
				合計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、1回生は履修できません。

◆必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず64単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義を設定されており、選択することができるものもあります。

◆選択科目

密教学科の必修科目を64単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの60単位は、総合、企画、外国語、僧侶、実技・実習、歴史学、普通、書道師範、社会福祉主事、キャリア、学芸員から履修することができます。また余分に履修した密教学科必修科目(一部)を充てることもできます。

◆自由科目

自由科目は、教員免許状を取得するためのものです。卒業単位にはなりませんので、注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（密教学科）（2021年度までの入学生用）

	1年次	2年次	3年次	4年次
建学の精神科目	空海の思想入門			
導入科目	導入研修			
語学科目	英語 I	英語 II		
	漢文			
	※1 科目選択 サンスクリット語			
基礎ゼミ	密教学基礎ゼミ	※2 科目受講		
基礎科目		密教学概論		
		仏教学概論	※2 科目選択	
		密教史概説		
		仏教史概説		
実技科目	常用経典			
	声明			
	法式			
	布教			
	漢字 I	※1 科目選択		
	かな I			
講読		祖典講読 I	祖典講読 II	※1 科目選択
			宗典講読	
実習	加行 I	※春期休業中	加行 II	※夏期休業中
	ボランティア			
	巡礼・遍路	※4 単位選択		
特殊講義			密教学特殊講義	
			仏教学特殊講義	※2 科目選択
			真言密教特殊講義	
講読演習			密教学講読演習	
			仏教学講読演習	※2 科目選択
			真言密教講読演習	
演習			密教学演習	密教学演習
卒業論文				密教学科卒業論文
選択科目				

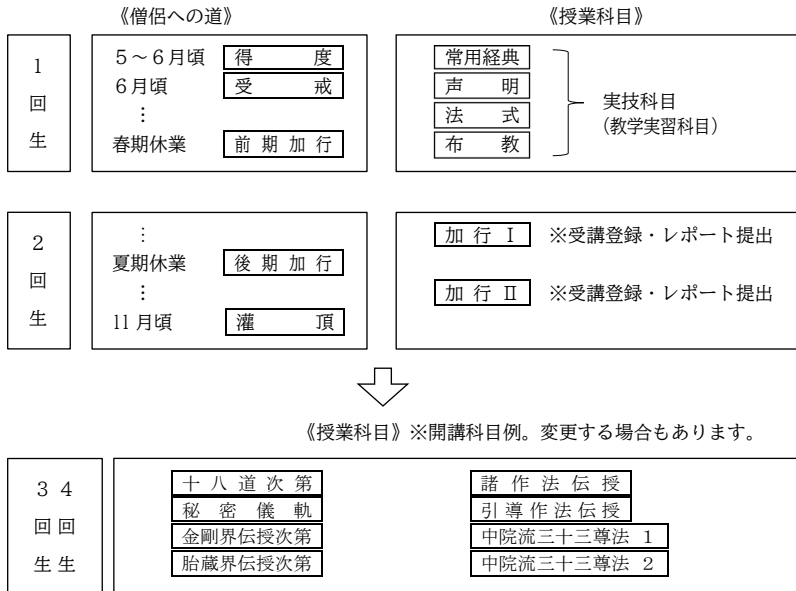
僧侶実力養成プログラム

密教学科主任

密教学科の講義の中には灌頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

密教学科では、2回生までに得度・受戒・加行・灌頂を終えるケースをモデルとして想定しています。

<モデルケース>



2年次において高野山専修学院（学外施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用経典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用経典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので、必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

高野山専修学院（学外施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、高野山専修学院（学外施設）において開講する指定科目を履修することができます。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。

科目目次
(文学部／別科)

文学部目次

密教学科(2022年度からの入学者用)

「備考・履修条件」欄について
 難 波・・・難波サテライト教室にて開講
 社 会 人・・・社会人学生に限る(入学時に25歳以上)
 留 学 生・・・外国人留学生に限る
 已 灌 頂 者・・・已灌頂者に限る
 科 目 名・・・科目名の書かれた科目と同年度に履修すること
 付・・・集中講義開催日(詳細は掲示などを確認のこと)

1 必修科目

1) 「建学の精神」科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	添 田 隆 昭	2	1年次			文-1
前期	月	4	51426	空海の思想入門S【LSO】	北 川 真 寛	2	1年次			文-201

2) 導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57006	導入研修	密教学科主任	2	1年次			文-2

3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	3	52301	英語 I	伊 藤 佳 世 子	2	1年次	教職基礎		文-3
通年	火	5	52501	英語 I (再履修)【LS】	森 本 敦 子	2	2年次	教職基礎	再履修	文-4
通年	月	1	51101	英語 II	亀 位 卓 阿	2	2年次	教職基礎		文-5
通年	火	4	52402	英語 II (再履修)【LS】	森 本 敦 子	2	3年次	教職基礎	再履修	文-6
通年	金	4	55401	漢文	南 昌 宏	2	1年次	教免(国)		文-7
通年	木	3	54326	漢文 S【LSO】	木 下 智 雄	2	1年次		難波/社会人	文-202
通年	月	1	51102	サンスクリット語 A	菊 谷 竜 太	2	1年次			文-8
通年	水	3	53326	サンスクリット語 S【LSO】	徳 重 弘 志	2	2年次		難波/社会人	文-203
通年	水	4	53401	日本語 A	藤 井 知 枝	2	1年次		留学生	文-9
通年	水	3	53301	日本語 B	藤 井 知 枝	2	1年次		留学生	文-10

4) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53101	密教学基礎ゼミ A1	土 居 夏 樹	2	1年次			文-11
後期	水	1	53151	密教学基礎ゼミ A2	土 居 夏 樹	2	1年次			文-12
前期	水	1	53102	密教学基礎ゼミ B1	鈴 木 晴 久	2	1年次			文-13
後期	水	1	53152	密教学基礎ゼミ B2	鈴 木 晴 久	2	1年次			文-14
前期	水	1	53103	密教学基礎ゼミ C1	溝 端 悠 朗	2	1年次			文-15
後期	水	1	53153	密教学基礎ゼミ C2	溝 端 悠 朗	2	1年次			文-16
前期	水	1	53104	密教学基礎ゼミ D1	森 本 一 彦	2	1年次			文-17
後期	水	1	53154	密教学基礎ゼミ D2	森 本 一 彦	2	1年次			文-18
前期	水	5	53502	密教学基礎ゼミ F1 (再履修)	密教学科主任	2	1年次		再履修	文-19
後期	水	5	53551	密教学基礎ゼミ F2 (再履修)	密教学科主任	2	1年次		再履修	文-20

5) 教養基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53402	常用経典	宮 田 永 明	2	1年次		僧階補任	文-21
通年	金	1	55101	声明	辻 秀 道	2	1年次		僧階補任	文-22
通年	木	1	54101	法式	加 藤 善 弘	2	1年次		僧階補任	文-23
通年	火	4	52401	布教 A	橋 本 真 人	2	1年次		僧階補任	文-24
通年	木	3	54301	布教 B (詠歌)	辻・西山・岩田	2	1年次		僧階補任	文-25
通年	金	2	55201	漢字 I	野 田 悟	2	1年次	教免(国)/普通師範		文-26
通年	木	2	54201	かな I	塩 野 三 恵 子	2	1年次		書道師範	文-27
通年	金	3	55301	梵字悉曇 A	齋 藤 天 誓	2	1年次			文-28

通年	金	5	55526	梵字悉曇 S【IP】	添野了	2	1年次		難波/社会人	文-204
通年	水	3	53302	伝統文化(茶道)	岡本文音	2	1年次			文-29
通年	火	4	52403	伝統文化(華道)	五味和樹	2	1年次			文-30
通年	月	3	51301	宗教芸能(宗教舞踊)	高祖・辻	2	1年次			文-31
通年	集中	集中	57001	加行 I	密教学科主任	1	1年次			文-32
通年	集中	集中	57004	加行 II	密教学科主任	1	2年次			文-33
前期	水	4	53403	宗教思想史 I S	小田龍哉	2	1年次	教免(宗)		文-34
前期	水	4	53426	宗教思想史 I S【LSO】	小田龍哉	2	1年次		社会人	文-34
後期	月	4	51454	宗教思想史 II S	櫻木潤	2	1年次	教免(宗)		文-35
後期	月	4	51476	宗教思想史 II S【LSO】	櫻木潤	2	1年次		社会人	文-35
後期	火	1	52152	哲学 S	南昌宏	2	1年次	教免(宗)		文-36
後期	火	1	52177	哲学 S【LSO】	南昌宏	2	1年次		社会人	文-36
前期	金	2	55202	心理学 I S	森崎雅好	2	1年次	心理士/社福		文-37
前期	金	2	55226	心理学 I S【LSO】	森崎雅好	2	1年次	心理士/社福	社会人	文-37
後期	金	2	55251	心理学 II S	森崎雅好	2	1年次	心理士/社福		文-38
後期	金	2	55276	心理学 II S【LSO】	森崎雅好	2	1年次	心理士/社福	社会人	文-38
通年	水	3	53303	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		文-39
前期	月	3	51304	日本文化 A	松本貴子	2	1年次		留学生	文-40
後期	月	3	51351	日本文化 B	松本貴子	2	1年次		留学生	文-41
前期	月	4	51402	日本文化 C	松本貴子	2	1年次		留学生	文-42
後期	月	4	51451	日本文化 D	松本貴子	2	1年次		留学生	文-43
前期	月	5	51501	日本文化 E	松本貴子	2	1年次		留学生	文-44
後期	月	5	51551	日本文化 F	松本貴子	2	1年次		留学生	文-45

6) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52205	キャリアデザイン I	高田綾子	2	1年次		I・IIを同時に履修すること	文-46
後期	火	2	52252	キャリアデザイン II	高田綾子	2	1年次			文-47
前期	火	3	52303	キャリアデザイン III	高田綾子	2	2年次		III・IVを同時に履修すること	文-48
後期	火	3	52351	キャリアデザイン IV	高田綾子	2	2年次			文-49

7) 講義

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52151	密教学概論 S	北川真寛	2	2年次	教免(宗)		文-50
後期	火	1	52176	密教学概論 S【OD】	北川真寛	2	2年次		社会人	文-50
前期	月	3	51306	仏教学概論 S	菊谷竜太	2	2年次	教免(宗)		文-51
前期	月	3	51328	仏教学概論 S【LSO】	菊谷竜太	2	2年次		社会人	文-51
前期	火	1	52103	密教史概説 S	徳重弘志	2	2年次	教免(宗)		文-52
前期	火	1	52126	密教史概説 S【LSO】	徳重弘志	2	2年次		社会人	文-52
後期	月	3	51353	仏教史概説 S	菊谷竜太	2	2年次	教免(宗)		文-53
後期	月	3	51376	仏教史概説 S【LSO】	菊谷竜太	2	2年次		社会人	文-53

8) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	3	55303	歴史学	坂口太郎	2	2年次			文-54
前期	火	4	52426	歴史学 S【LSO】	坂口太郎	2	2年次		難波/社会人	文-205
前期	水	3	53305	宗教学 I S	小田龍哉	2	2年次	教免(宗)		文-55
前期	水	3	53329	宗教学 I S【LSO】	小田龍哉	2	2年次		社会人	文-55
後期	水	3	53352	宗教学 II S	小田龍哉	2	2年次	教免(宗)		文-56
後期	水	3	53376	宗教学 II S【LSO】	小田龍哉	2	2年次		社会人	文-56

前期	金	4	55402	宗教史Ⅰ	徳重弘志	2	2年次	教免(宗)		文-57
後期	金	4	55451	宗教史Ⅱ	徳重弘志	2	2年次	教免(宗)		文-58

9) 講読

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	2	52201	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	2年次	教免(宗)		文-59
通年	火	2	52202	祖典講読ⅠB	北川真寛	4	2年次	教免(宗)		文-60
通年	火	2	52203	祖典講読ⅠC	徐東軍	4	2年次			文-61
通年	火	2	52204	祖典講読ⅠS【LSO】	土居夏樹	4	2年次		社会人	文-62
通年	月	3	51302	祖典講読ⅡA	大柴清圓	4	3年次	教免(宗)		文-63
通年	水	5	53501	祖典講読ⅡB【LS】	米田弘仁	4	3年次			文-64
通年	水	3	53327	祖典講読ⅡT【LSO】	川崎一洋	4	3年次		難波/社会人	文-206
通年	木	2	54202	宗典講読B【LS】	Tドライブライン	4	3年次		已灌頂者	文-65
通年	水	2	53226	宗典講読S【LSO】	徳重弘志	4	3年次		難波/社会人	文-207
通年	木	2	54203	宗典講読T	川崎一洋	4	3年次			文-66
通年	木	2	54226	宗典講読T【LSO】	川崎一洋	4	3年次		社会人	文-66

10) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	4	55403	キャリアデザインⅤA	足立信行	2	3年次			文-67
後期	金	4	55453	キャリアデザインⅥA	足立信行	2	3年次		ⅤA・ⅥAを同時に履修すること	文-68
前期	集中	集中	57009	キャリアデザインⅤB(留学生)	森本一彦	2	3年次			文-69
後期	集中	集中	57056	キャリアデザインⅥB(留学生)	森本一彦	2	3年次		ⅤB・ⅥBを同時に履修すること	文-70

11) 特殊講義

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	4	52405	密教学特殊講義B	和田圭子	2	3年次	教免(宗)		文-71
後期	火	4	52451	密教学特殊講義C	和田圭子	2	3年次	教免(宗)		文-72
後期	月	2	51251	密教学特殊講義D	森本一彦	2	3年次			文-73
前期	木	3	54306	密教学特殊講義S	川崎一洋	2	3年次			文-74
前期	木	3	54329	密教学特殊講義S【LSO】	川崎一洋	2	3年次		社会人	文-74
後期	木	3	54351	密教学特殊講義T	川崎一洋	2	3年次			文-75
後期	木	3	54376	密教学特殊講義T【LSO】	川崎一洋	2	3年次		社会人	文-75
後期	金	3	55353	密教学特殊講義U	柴谷宗叔	2	3年次			文-76
後期	金	3	55377	密教学特殊講義U【LSO】	柴谷宗叔	2	3年次		社会人	文-76
前期	火	3	52326	密教学特殊講義Ⅴ【LSO】	櫻木潤	2	3年次		難波/社会人	文-208
前期	火	2	52206	仏教学特殊講義A	前谷彰	2	3年次	教免(宗)		文-77
後期	火	2	52251	仏教学特殊講義B	前谷彰	2	3年次	教免(宗)		文-78
前期	金	3	55326	仏教学特殊講義S【IP】	前谷彰	2	3年次		難波/社会人	文-209
前期	金	4	55427	仏教学特殊講義T【LSO】	岡田英作	2	3年次		難波/社会人	文-210
前期	木	4	54404	仏教学特殊講義Ⅴ	那須真裕美	2	3年次	教免(宗)		文-79
前期	木	4	54426	仏教学特殊講義Ⅴ【LSO】	那須真裕美	2	3年次		社会人	文-80
後期	木	4	54451	仏教学特殊講義Ⅴ	岡田英作	2	3年次	教免(宗)		文-80
後期	木	4	54476	仏教学特殊講義Ⅴ【LSO】	岡田英作	2	3年次		社会人	文-80
前期	月	1	51104	真言密教特殊講義A	中西雄泰	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-81
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義B	中西雄泰	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-82
前期	金	2	55203	真言密教特殊講義D【LS】	Tドライブライン	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-83
後期	金	2	55252	真言密教特殊講義E【LS】	Tドライブライン	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-84
前期	月	4	51403	真言密教特殊講義F	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-85
後期	月	4	51452	真言密教特殊講義G	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-86
前期	集中	集中	57028	真言密教特殊講義T【IP】	五十嵐啓道	2	3年次		難波/社会人	文-211
後期	集中	集中	57076	真言密教特殊講義U【IP】	佐藤隆彦	2	3年次		難波/社会人	文-87

12) 講読演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	1	51103	密教学講読演習A	松長潤慶	2	3年次			文-88
通年	集中	集中	57007	密教学講読演習B	坂口太郎	2	3年次			文-89
後期	火	3	52352	密教学講読演習S	土居夏樹	2	3年次	教免(宗)		文-90
後期	火	3	52378	密教学講読演習S【LSO】	土居夏樹	2	3年次		社会人	文-90
前期	木	1	54102	密教学講読演習T	森崎雅好	2	3年次			文-91
前期	木	1	54126	密教学講読演習T【LSO】	森崎雅好	2	3年次		社会人	文-91
後期	火	3	52376	密教学講読演習U【LSO】	櫻木潤	2	3年次		難波/社会人	文-212
前期	水	4	53404	仏教学講読演習A	テンジン・ウセル	2	3年次			文-92
後期	水	4	53453	仏教学講読演習B	テンジン・ウセル	2	3年次			文-93
後期	集中	集中	57051	仏教学講読演習F	平岡宏一	2	3年次	教免(宗)		文-94
後期	金	3	55376	仏教学講読演習S【IP】	前谷彰	2	3年次		難波/社会人	文-213
後期	金	4	55477	仏教学講読演習T【LSO】	岡田英作	2	3年次		難波/社会人	文-214
後期	火	4	52476	仏教学講読演習U【IP】	坂口太郎	2	3年次		難波/社会人	文-215
前期	木	5	54501	仏教学講読演習V	岡田英作	2	3年次	教免(宗)		文-95
前期	木	5	54527	仏教学講読演習V【LSO】	岡田英作	2	3年次		社会人	文-95
後期	木	5	54551	仏教学講読演習W	岡田英作	2	3年次	教免(宗)		文-96
後期	木	5	54577	仏教学講読演習W【LSO】	岡田英作	2	3年次		社会人	文-96
前期	火	3	52304	真言密教講読演習B	北川真寛	2	3年次	教免(宗)		文-97
後期	集中	集中	57052	真言密教講読演習C	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-98
前期	金	1	55103	真言密教講読演習D【LS】	T.ドライブライン	2	3年次		已灌頂者	文-99
後期	金	1	55151	真言密教講読演習E【LS】	T.ドライブライン	2	3年次		已灌頂者	文-100
前期	火	2	52207	真言密教講読演習G	木下智雄	2	3年次	教免(宗)		文-101

13) 演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53209	密教学演習A	野田悟	4	3・4年次			文-102
通年	水	2	53201	密教学演習D	櫻木潤	4	3・4年次			文-103
通年	水	2	53202	密教学演習F	松長潤慶	4	3・4年次			文-104
通年	水	2	53203	密教学演習G	菊谷竜太	4	3・4年次			文-105
通年	水	4	53405	密教学演習H(再履修)	岡田英作	4	4年次		再履修	文-106
通年	水	2	53204	密教学演習K	坂口太郎	4	3・4年次			文-107
通年	月	2	51226	密教学演習L【LSO】	土居夏樹	4	4年次		難波/社会人	文-216
通年	水	2	53205	密教学演習N	北川真寛	4	3・4年次			文-108
通年	水	2	53207	密教学演習O	森崎雅好	4	3・4年次			文-109
通年	火	5	52526	密教学演習S【LSO】	櫻木潤	4	3・4年次		密教文化コース	文-217
通年	火	5	52527	密教学演習T【LSO】	菊谷竜太	4	3・4年次		密教文化コース	文-218
通年	火	5	52528	密教学演習U【LSO】	土居夏樹	4	3・4年次		密教文化コース	文-219

12) 卒業論文

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	—	—	59001	密教学科卒業論文	密教学科主任	8	4年次			—
通年	—	—	59002	密教学科卒業研究	密教学科主任	4	4年次			—
前期	—	—	59003	密教学科卒業論文(前期)	密教学科主任	8	4年次		7月提出許可者	—

2 選択科目

1) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51201	総合科目(仏教入門ⅠA)	テンジン・ウセル	2	1年次			文-110
後期	月	2	51252	総合科目(仏教入門ⅡA)	テンジン・ウセル	2	1年次			文-111
前期	金	4	55426	総合科目(仏教入門ⅠS)【LSO】	テンジン・ウセル	2	1年次		難波/社会人	文-220
後期	金	4	55476	総合科目(仏教入門ⅡS)【LSO】	テンジン・ウセル	2	1年次		難波/社会人	文-221

2) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51401	企画科目(仏画)	有松孝雄	2	1年次			文-112
前期	火	2	52209	企画科目(発達心理学)	上野和久	2	2年次	認定心理士		文-114
前期	火	2	52226	企画科目(発達心理学)【LSO】	上野和久	2	2年次	認定心理士	社会人	文-114
後期	火	2	52254	企画科目(高野山の歴史と文化S)	木下智雄	2	3年次			文-113
後期	火	2	52276	企画科目(高野山の歴史と文化S)【LSO】	木下智雄	2	3年次		社会人	文-113
後期	火	3	52353	企画科目(カウンセリング論)	上野和久	2	2年次	認定心理士		文-115
後期	火	3	52379	企画科目(カウンセリング論)【LSO】	上野和久	2	2年次	認定心理士	社会人	文-115
前期	火	3	52306	企画科目(学校臨床心理学)	上野和久	2	2年次	認定心理士		文-116
前期	火	3	52327	企画科目(学校臨床心理学)【LSO】	上野和久	2	2年次	認定心理士	社会人	文-116
前期	水	3	53304	企画科目(寺院経営入門)	藤本善光	2	1年次			文-117
前期	木	1	54103	企画科目(中国語で学ぶ仏教の歴史)	徐東軍	2	1年次			文-121
前期	木	1	54127	企画科目(中国語で学ぶ仏教の歴史)【LSO】	徐東軍	2	1年次		社会人	文-121
後期	木	1	54151	企画科目(中国語で仏典を読む)	徐東軍	2	1年次			文-122
後期	木	1	54176	企画科目(中国語で仏典を読む)【LSO】	徐東軍	2	1年次		社会人	文-122
前期	木	2	54205	企画科目(歴史学入門)	坂口太郎	2	1年次			文-123
後期	木	2	54251	企画科目(歴史学入門演習)	坂口太郎	2	1年次			文-124
前期	木	2	54206	企画科目(民俗調査A)	森本一彦	2	2年次			文-125
後期	木	2	54252	企画科目(民俗調査B)	森本一彦	2	2年次			文-126
通年	木	4	54401	企画科目(詠歌上級)	辻西山・岩田	2	1年次			文-127
前期	木	4	54405	企画科目(地域連携)	森本一彦	2	2年次			文-128
前期	木	5	54526	企画科目(スピリチュアルケア論A)【LSO】	大河内大博	2	2年次		難波	文-227
後期	木	5	54576	企画科目(スピリチュアルケア論B)【LSO】	大河内大博	2	2年次		難波	文-228
前期	金	1	55104	企画科目(死生観)	森崎雅好	2	2年次	認定心理士		文-129
前期	金	1	55106	企画科目(死生観)【LSO】	森崎雅好	2	2年次	認定心理士	社会人	文-129
後期	金	1	55152	企画科目(グリーンケア)	森崎雅好	2	2年次	認定心理士		文-130
後期	金	1	55154	企画科目(グリーンケア)【LSO】	森崎雅好	4	2年次	認定心理士	社会人	文-130
通年	月	3	51326	企画科目(仏画S)【IP】	徐東軍	2	1年次		難波/社会人	文-223
前期	水	2	53227	企画科目(スーパーヴィジョンⅠ)【LS】	山添正	2	2年次		難波	文-225
後期	水	2	53276	企画科目(スーパーヴィジョンⅡ)【LS】	山添正	2	2年次		難波	文-226
前期	集中	集中	57008	企画科目(高野山国際ガイド体験)	伊藤佳世子	2	2年次			文-132
前期	集中	集中	57026	企画科目(マインドフルネス)【IP】	山本和美	2	1年次	認定心理士	難波	文-224
前期	集中	集中	57027	企画科目(心理統計学)【OD】	五明優介	2	2年次	認定心理士	難波	文-229
後期	集中	集中	57055	企画科目(宗教間対話)	森崎雅好	2	3年次			文-131
前期	集中	集中	57029	企画科目(仏教美術入門S)【IP】	内藤栄	2	1年次		難波	文-222
後期	集中	集中	57079	企画科目(社会心理学)【LSO】	松下步睦	2	2年次	認定心理士	難波	文-231
後期	集中	集中	57080	企画科目(産業心理学)【OD】	東正訓	2	2年次	認定心理士	難波	文-118
後期	集中	集中	57081	企画科目(コミュニケーション心理学)【OD】	東真由美	2	2年次	認定心理士	難波	文-119
後期	集中	集中	57082	企画科目(人間関係論)【OD】	東真由美	2	2年次	認定心理士	難波	文-120
後期	集中	集中	57083	企画科目(心理測定法)【OD】	五明優介	2	2年次	認定心理士	難波	文-230

3) 外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	3	51303	サンスクリット語上級S	徳重弘志	2	2年次			文-133
通年	月	3	51327	サンスクリット語上級S【LSO】	徳重弘志	2	2年次		密教文化コース	文-133
通年	木	5	54528	チベット語S【LSO】	井内真帆	2	2年次			文-134
通年	木	3	54303	パーリ語S	岡田英作	2	2年次			文-135
通年	木	3	54328	パーリ語S【LSO】	岡田英作	2	2年次		社会人	文-135
通年	水	2	53206	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次			文-136
通年	水	1	53106	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次			文-137

4) 僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	2	54204	法式上級	北川真寛	2	2年次			文-138
通年	金	3	55302	声明上級	辻秀道	2	2年次			文-139

5) 実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	54402	体育実技	本山司	2	1年次	教職基礎		文-140
通年	集中	集中	57003	ボランティア	森本一彦	2	1年次			文-141
通年	集中	集中	57002	巡礼・遍路S	密教学科主任	2	1年次		社会人	文-142
前期	金	3	55305	巡礼・遍路T	柴谷宗叔	2	1年次			文-143
前期	金	3	55328	巡礼・遍路T【LSO】	柴谷宗叔	2	1年次		社会人	文-143

6) 歴史学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53105	書誌学	坂口太郎	2	3年次			文-144
後期	水	1	53155	古文書学	坂口太郎	2	3年次			文-145
後期	金	4	55452	古文書解説A	西川哲矢	2	2年次			文-146

7) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	3	51305	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉士		文-147
後期	水	4	53452	現代の人権	竹村和也	2	1年次			文-148
後期	水	4	53451	宗教学方法論S	小田龍哉	2	2年次	教免(宗)		文-149
後期	水	4	53476	宗教学方法論S【LSO】	小田龍哉	2	2年次		社会人	文-149
前期	火	5	52502	国語学I	鈴木晴久	2	2年次	教免(国)		文-150
後期	火	5	52551	国語学II	鈴木晴久	2	2年次	教免(国)		文-151
前期	月	4	51404	国文法I	溝端悠朗	2	2年次	教免(国)		文-152
後期	月	4	51453	国文法II	溝端悠朗	2	2年次	教免(国)		文-153
前期	火	4	52406	日本文学史概説I	溝端悠朗	2	2年次	教免(国)		文-154
後期	火	4	52452	日本文学史概説II	溝端悠朗	2	2年次	教免(国)		文-155
前期	水	5	53503	日本文学I S	溝端悠朗	2	1年次	教免(国)		文-156
前期	水	5	53526	日本文学I S【LSO】	溝端悠朗	2	1年次		社会人	文-156
後期	水	5	53552	日本文学II S	溝端悠朗	2	1年次	教免(国)		文-157
後期	水	5	53576	日本文学II S【LSO】	溝端悠朗	2	1年次		社会人	文-157
前期	木	3	54304	漢文学概論I	南昌宏	2	2年次	教免(国)		文-158
後期	木	3	54352	漢文学概論II	南昌宏	2	2年次	教免(国)		文-159
前期	火	1	52104	中国文化特殊講義S	南昌宏	2	3年次	教免(国)		文-160
前期	火	1	52127	中国文化特殊講義S【LSO】	南昌宏	2	3年次		社会人	文-160
後期	水	3	53551	日本国憲法	竹村和也	2	1年次	教職基礎		文-161

8) 書道師範科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52404	漢字II	野田悟	2	2年次	書道師範		文-162
通年	木	3	54302	かなII	塩野三恵子	2	2年次	書道師範		文-163
通年	火	1	52101	篆刻	野田悟	2	2年次	書道師範		文-164
通年	火	3	52302	条幅制作A(漢字)	野田悟	2	3年次	書道師範		文-165
通年	木	4	54403	条幅制作B(かな)	塩野三恵子	2	3年次	書道師範		文-166
通年	金	1	55102	書道史(中国)	野田悟	2	2年次	書道師範		文-167

9) 社会福祉主事科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	1	55105	社会福祉論	溝 渕 淳	2	1年次	社会福祉主事		文-168
後期	金	1	55153	社会保障論	溝 渕 淳	2	1年次	社会福祉主事		文-169

10) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	集中	集中	57053	インターンシップ	森 本 一 彦	2	3年次			文-170

11) 学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51502	生涯学習概論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		文-171
前期	木	4	54406	博物館概論	山 口 文 章	2	1年次	学芸員		文-172
後期	木	4	54452	博物館経営論	山 口 文 章	2	2年次	学芸員		文-173
後期	金	3	55351	博物館資料論	西 川 哲 矢	2	2年次	学芸員		文-174
後期	木	3	54353	博物館資料保存論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		文-175
後期	集中	集中	57054	博物館展示論【LS】	山 口 隆 介	2	2年次	学芸員		文-176
前期	木	3	54305	博物館情報・メディア論	那 須 真 裕 美	2	2年次	学芸員		文-177
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻 木 潤	2	1年次	学芸員		文-178
通年	実習	実習	58001	博物館実習	櫻 木 潤	3	3年次	学芸員		文-179

3 自由科目（卒業要件には参入されません）

1) 教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	4	51455	教育原論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修/社福		文-180
前期	水	2	53208	教職入門	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修		文-181
前期	水	5	53504	教育心理学	岡 田 英 作	2	2年次	教免必修/心理士		文-182
前期	水	5	53527	教育心理学【LSO】	岡 田 英 作	2	2年次	教免必修/心理士	社会人	文-182
後期	月	3	51352	教育社会学	森 本 一 彦	2	1年次	教免必修/心理士		文-183
前期	集中	集中	57005	特別支援教育	宮 本 直 美	1	1年次	教免必修/心理士		文-184
後期	水	2	53251	教育課程論	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修/心理士		文-185
後期	水	5	53553	道徳教育指導論	岡 田 英 作	2	2年次	教免必修/心理士		文-186
前期	火	1	52105	総合的な学習の時間・特別活動	鈴 木 晴 久	2	1年次	教免必修/心理士		文-187
前期	木	2	54207	教育方法論・ICT活用論	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修/心理士		文-188
後期	木	2	54253	生徒指導・進路指導	佐 々 木 聡	2	2年次	教免必修/心理士		文-189
後期	火	2	52255	教育相談	上 野 和 久	2	3年次	教免必修/心理士		文-190
後期	火	2	52277	教育相談【LSO】	上 野 和 久	2	3年次	教免必修/心理士	社会人	文-190
前期	月	2	51202	宗教科教育法Ⅰ	松 長 潤 慶	2	2年次	教免(宗)		文-191
後期	月	2	51253	宗教科教育法Ⅱ	松 長 潤 慶	2	2年次	教免(宗)		文-192
前期	木	4	54408	宗教科教育法Ⅲ	岡 田 英 作	2	3年次	教免(宗)		文-193
後期	火	4	52453	宗教科教育法Ⅳ	富 田 向 真	2	3年次	教免(宗)		文-194
前期	火	3	52305	国語科教育法Ⅰ	鈴 木 晴 久	2	2年次	教免(国)		文-195
後期	火	3	52354	国語科教育法Ⅱ	鈴 木 晴 久	2	2年次	教免(国)		文-196
前期	火	2	52208	国語科教育法Ⅲ	溝 端 悠 朗	2	3年次	教免(国)		文-197
後期	金	3	55352	国語科教育法Ⅳ	南 昌 宏	2	3年次	教免(国)		文-198
前期	実習	実習	58002	教育実習Ⅰ	鈴 木 晴 久	2	3年次	教免必修		—
前期	実習	実習	58003	教育実習Ⅱ	鈴 木 晴 久	2	4年次	教免必修		—
前期	木	4	54407	教育実習の研究	鈴 木 晴 久	1	3・4年次	教免必修		文-199
後期	木	4	54453	教職実践演習(中・高)	鈴 木 晴 久	2	4年次	教免必修		文-200

密教学科(2021年度までの入学者用)

「備考・履修条件」欄について

難 波・・・難波サテライト教室にて開講
 社 会 人・・・社会人学生に限る(入学時に25歳以上)
 留 学 生・・・外国人留学生に限る
 已 達 頂 者・・・已達頂者に限る
 科 目 名・・・科目名の書かれた科目と同年度に履修すること
 日 付・・・集中講義開催日(詳細は掲示などを確認のこと)

1 必修科目

1) 建学の精神科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	添 田 隆 昭	2	1年次			文-1
前期	月	4	51426	空海の思想入門S【LSO】	北 川 真 寛	2	1年次			文-201

2) 導入科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	57006	導入研修	密教学科主任	2	1年次			文-2

3) 語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	5	52501	英語Ⅰ(再履修)【LS】	森 本 敦 子	2	2年次	教職基礎	再履修	文-4
通年	火	4	52402	英語Ⅱ(再履修)【LS】	森 本 敦 子	2	3年次	教職基礎	再履修	文-6
通年	金	4	55401	漢文	南 昌 宏	2	1年次	教免(国)		文-7
通年	木	3	54326	漢文S【LSO】	木 下 智 雄	2	1年次		難波/社会人	文-202
通年	月	1	51102	サンスクリット語A	菊 谷 竜 太	2	1年次			文-8
通年	水	3	53326	サンスクリット語S【LSO】	徳 重 弘 志	2	2年次		難波/社会人	文-203

4) 基礎ゼミ

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	5	53502	密教学基礎ゼミF1(再履修)	密教学科主任	2	1年次		再履修	文-19
後期	水	5	53551	密教学基礎ゼミF2(再履修)	密教学科主任	2	1年次		再履修	文-20

5) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	1	52151	密教学概論S	北 川 真 寛	2	2年次	教免(宗)		文-50
後期	火	1	52176	密教学概論S【OD】	北 川 真 寛	2	2年次		社会人	文-50
前期	月	3	51306	仏教学概論S	菊 谷 竜 太	2	2年次	教免(宗)		文-51
前期	月	3	51328	仏教学概論S【LSO】	菊 谷 竜 太	2	2年次		社会人	文-51
前期	火	1	52103	密教史概説S	徳 重 弘 志	2	2年次	教免(宗)		文-52
前期	火	1	52126	密教史概説S【LSO】	徳 重 弘 志	2	2年次		社会人	文-52
後期	月	3	51353	仏教史概説S	菊 谷 竜 太	2	2年次	教免(宗)		文-53
後期	月	3	51376	仏教史概説S【LSO】	菊 谷 竜 太	2	2年次		社会人	文-53

6) 実技科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53402	常用経典	宮 田 永 明	2	1年次	僧階補任		文-21
通年	金	1	55101	声明	辻 秀 道	2	1年次	僧階補任		文-22
通年	木	1	54101	法式	加 藤 善 弘	2	1年次	僧階補任		文-23
通年	火	4	52401	布教A	橋 本 真 人	2	1年次	僧階補任		文-24
通年	木	3	54301	布教B(詠歌)	辻・西山・岩田	2	1年次	僧階補任		文-25
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野 田 悟	2	1年次	教免(国)/普通師範		文-26
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩 野 三 恵 子	2	1年次	書道師範		文-27

7) 講読

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	2	52201	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	2年次	教免(宗)		文-59
通年	火	2	52202	祖典講読ⅠB	北川真寛	4	2年次	教免(宗)		文-60
通年	火	2	52204	祖典講読ⅠS【LSO】	土居夏樹	4	2年次		社会人	文-62
通年	月	3	51302	祖典講読ⅡA	大柴清園	4	3年次	教免(宗)		文-63
通年	水	5	53501	祖典講読ⅡB【LS】	米田弘仁	4	3年次			文-64
通年	水	3	53327	祖典講読ⅡT【LSO】	川崎一洋	4	3年次		難波/社会人	文-206
通年	木	2	54202	宗典講読B【LS】	Tドライブライン	4	3年次		已灌頂者	文-65
通年	水	2	53226	宗典講読S【LSO】	徳重弘志	4	3年次		難波/社会人	文-207
通年	木	2	54203	宗典講読T	川崎一洋	4	3年次			文-66
通年	木	2	54226	宗典講読T【LSO】	川崎一洋	4	3年次		社会人	文-66

8) 実習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	57001	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次			文-32
通年	集中	集中	57004	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次			文-33
通年	集中	集中	57003	ボランティア	森本一彦	2	1年次			文-141
通年	集中	集中	57002	巡礼・遍路S	密教学科主任	2	1年次		社会人	文-142
前期	金	3	55305	巡礼・遍路T	柴谷宗叔	2	1年次			文-143
前期	金	3	55328	巡礼・遍路T【LSO】	柴谷宗叔	2	1年次		社会人	文-143

9) 特殊講義

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	4	52405	密教学特殊講義B	和田圭子	2	3年次	教免(宗)		文-71
後期	火	4	52451	密教学特殊講義C	和田圭子	2	3年次	教免(宗)		文-72
後期	月	2	51251	密教学特殊講義D	森本一彦	2	3年次	教免(宗)		文-73
前期	木	3	54306	密教学特殊講義S	川崎一洋	2	3年次			文-74
前期	木	3	54329	密教学特殊講義S【LSO】	川崎一洋	2	3年次		社会人	文-74
後期	木	3	54351	密教学特殊講義T	川崎一洋	2	3年次			文-75
後期	木	3	54376	密教学特殊講義T【LSO】	川崎一洋	2	3年次		社会人	文-75
後期	金	3	55353	密教学特殊講義U	柴谷宗叔	2	3年次			文-76
後期	金	3	55377	密教学特殊講義U【LSO】	柴谷宗叔	2	3年次		社会人	文-76
前期	火	3	52326	密教学特殊講義V【LSO】	櫻木潤	2	3年次		難波/社会人	文-208
前期	火	2	52206	仏教学特殊講義A	前谷彰	2	3年次	教免(宗)		文-77
後期	火	2	52251	仏教学特殊講義B	前谷彰	2	3年次	教免(宗)		文-78
前期	金	3	55326	仏教学特殊講義S【IP】	前谷彰	2	3年次		難波/社会人	文-209
前期	金	4	55427	仏教学特殊講義T【LSO】	岡田英作	2	3年次		難波/社会人	文-210
前期	木	4	54404	仏教学特殊講義V	那須真裕美	2	3年次	教免(宗)		文-79
前期	木	4	54426	仏教学特殊講義V【LSO】	那須真裕美	2	3年次	教免(宗)	社会人	文-79
後期	木	4	54451	仏教学特殊講義W	岡田英作	2	3年次	教免(宗)		文-80
後期	木	4	54476	仏教学特殊講義W【LSO】	岡田英作	2	3年次	教免(宗)	社会人	文-80
前期	月	1	51104	真言密教特殊講義A	中西雄泰	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-81
後期	月	1	51151	真言密教特殊講義B	中西雄泰	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-82
前期	金	2	55203	真言密教特殊講義D【LS】	Tドライブライン	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-83
後期	金	2	55252	真言密教特殊講義E【LS】	Tドライブライン	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-84
前期	月	4	51403	真言密教特殊講義F	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-85
後期	月	4	51452	真言密教特殊講義G	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-86
前期	集中	集中	57028	真言密教特殊講義T【IP】	五十嵐啓道	2	3年次		難波/社会人	文-211
後期	集中	集中	57076	真言密教特殊講義U【IP】	佐藤隆彦	2	3年次		難波/社会人	文-87

10) 講読演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	1	51103	密教学講読演習A	松長潤慶	2	3年次			文-88
通年	集中	集中	57007	密教学講読演習B	坂口太郎	2	3年次			文-89
後期	火	3	52352	密教学講読演習S	土居夏樹	2	3年次	教免(宗)		文-90
後期	火	3	52378	密教学講読演習S【LSO】	土居夏樹	2	3年次		社会人	文-90
前期	木	1	54102	密教学講読演習T	森崎雅好	2	3年次			文-91
前期	木	1	54126	密教学講読演習T【LSO】	森崎雅好	2	3年次		社会人	文-91
後期	火	3	52376	密教学講読演習U【LSO】	櫻木潤	2	3年次		難波/社会人	文-212
前期	水	4	53404	仏教学講読演習A	テンジン・ウセル	2	3年次			文-92
後期	水	4	53453	仏教学講読演習B	テンジン・ウセル	2	3年次			文-93
後期	集中	集中	57051	仏教学講読演習F	平岡宏一	2	3年次	教免(宗)		文-94
後期	金	3	55376	仏教学講読演習S【IP】	前谷彰	2	3年次		難波/社会人	文-213
後期	金	4	55477	仏教学講読演習T【LSO】	岡田英作	2	3年次		難波/社会人	文-214
後期	火	4	52476	仏教学講読演習U【IP】	坂口太郎	2	3年次		難波/社会人	文-215
前期	木	5	54501	仏教学講読演習V	岡田英作	2	3年次	教免(宗)		文-95
前期	木	5	54527	仏教学講読演習V【LSO】	岡田英作	2	3年次		社会人	文-95
後期	木	5	54551	仏教学講読演習W	岡田英作	2	3年次	教免(宗)		文-96
後期	木	5	54577	仏教学講読演習W【LSO】	岡田英作	2	3年次		社会人	文-96
前期	火	3	52304	真言密教講読演習B	北川真寛	2	3年次	教免(宗)		文-97
後期	集中	集中	57052	真言密教講読演習C	佐藤隆彦	2	3年次	教免(宗)	已灌頂者	文-98
前期	金	1	55103	真言密教講読演習D【LS】	Tドライブライン	2	3年次		已灌頂者	文-99
後期	金	1	55151	真言密教講読演習E【LS】	Tドライブライン	2	3年次		已灌頂者	文-100
前期	火	2	52207	真言密教講読演習G	木下智雄	2	3年次	教免(宗)		文-101

11) 演習

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	53209	密教学演習A	野田 悟	4	3・4年次			文-102
通年	水	2	53201	密教学演習D	櫻木潤	4	3・4年次			文-103
通年	水	2	53202	密教学演習F	松長潤慶	4	3・4年次			文-104
通年	水	2	53203	密教学演習G	菊谷竜太	4	3・4年次			文-105
通年	水	4	53405	密教学演習H(再履修)	岡田英作	4	4年次		再履修	文-106
通年	水	2	53204	密教学演習K	坂口太郎	4	3・4年次			文-107
通年	月	2	51226	密教学演習L【LSO】	土居夏樹	4	4年次		難波/社会人	文-216
通年	水	2	53205	密教学演習N	北川真寛	4	3・4年次			文-108
通年	水	2	53207	密教学演習O	森崎雅好	4	3・4年次			文-109
通年	火	5	52526	密教学演習S【LSO】	櫻木潤	4	3・4年次		密教文化コース	文-217
通年	火	5	52527	密教学演習T【LSO】	菊谷竜太	4	3・4年次		密教文化コース	文-218
通年	火	5	52528	密教学演習U【LSO】	土居夏樹	4	3・4年次		密教文化コース	文-219

12) 卒業論文

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	—	—	59001	密教学科卒業論文	密教学科主任	8	4年次			—
通年	—	—	59002	密教学科卒業研究	密教学科主任	4	4年次			—
前期	—	—	59003	密教学科卒業論文(前期)	密教学科主任	8	4年次		7月提出許可者	—

1) 総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	51201	総合科目(仏教入門ⅠA)	テンジン・ウセル	2	1年次			文-110
後期	月	2	51252	総合科目(仏教入門ⅡA)	テンジン・ウセル	2	1年次			文-111
前期	金	4	55426	総合科目(仏教入門ⅠS)【LSO】	テンジン・ウセル	2	1年次		難波/社会人	文-220
後期	金	4	55476	総合科目(仏教入門ⅡS)【LSO】	テンジン・ウセル	2	1年次		難波/社会人	文-221

2) 企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	4	51401	企画科目(仏画)	有松孝雄	2	1年次			文-112
前期	火	2	52209	企画科目(発達心理学)	上野和久	2	2年次	認定心理士		文-114
前期	火	2	52226	企画科目(発達心理学)【LSO】	上野和久	2	2年次	認定心理士	社会人	文-114
後期	火	2	52254	企画科目(高野山の歴史と文化S)	木下智雄	2	3年次			文-113
後期	火	2	52276	企画科目(高野山の歴史と文化S)【LSO】	木下智雄	2	3年次		社会人	文-113
後期	火	3	52353	企画科目(カウンセリング論)	上野和久	2	2年次	認定心理士		文-115
後期	火	3	52379	企画科目(カウンセリング論)【LSO】	上野和久	2	2年次	認定心理士	社会人	文-115
前期	火	3	52306	企画科目(学校臨床心理学)	上野和久	2	2年次	認定心理士		文-116
前期	火	3	52327	企画科目(学校臨床心理学)【LSO】	上野和久	2	2年次	認定心理士	社会人	文-116
前期	水	3	53304	企画科目(寺院経営入門)	藤本善光	2	1年次			文-117
前期	木	1	54103	企画科目(中国語で学ぶ仏教の歴史)	徐東軍	2	1年次			文-121
前期	木	1	54127	企画科目(中国語で学ぶ仏教の歴史)【LSO】	徐東軍	2	1年次		社会人	文-121
後期	木	1	54151	企画科目(中国語で仏典を読む)	徐東軍	2	1年次			文-122
後期	木	1	54176	企画科目(中国語で仏典を読む)【LSO】	徐東軍	2	1年次		社会人	文-122
前期	木	2	54205	企画科目(歴史学入門)	坂口太郎	2	1年次			文-123
後期	木	2	54251	企画科目(歴史学入門演習)	坂口太郎	2	1年次			文-124
前期	木	2	54206	企画科目(民俗調査A)	森本一彦	2	2年次			文-125
後期	木	2	54252	企画科目(民俗調査B)	森本一彦	2	2年次			文-126
通年	木	4	54401	企画科目(詠歌上級)	辻・西山・岩田	2	1年次			文-127
前期	木	4	54405	企画科目(地域連携)	森本一彦	2	2年次			文-128
前期	木	5	54526	企画科目(スピリチュアルケア論A)【LSO】	大河内大博	2	2年次		難波	文-227
後期	木	5	54576	企画科目(スピリチュアルケア論B)【LSO】	大河内大博	2	2年次		難波	文-228
前期	金	1	55104	企画科目(死生観)	森崎雅好	2	2年次	認定心理士		文-129
前期	金	1	55106	企画科目(死生観)【LSO】	森崎雅好	2	2年次	認定心理士	社会人	文-129
後期	金	1	55152	企画科目(グリーンケア)	森崎雅好	2	2年次	認定心理士		文-130
後期	金	1	55154	企画科目(グリーンケア)【LSO】	森崎雅好	4	2年次	認定心理士	社会人	文-130
通年	月	3	51326	企画科目(仏画S)【IP】	徐東軍	2	1年次		難波/社会人	文-223
前期	水	2	53227	企画科目(スーパーヴィジョンI)【LS】	山添正	2	2年次		難波	文-225
後期	水	2	53276	企画科目(スーパーヴィジョンII)【LS】	山添正	2	2年次		難波	文-226
前期	集中	集中	57008	企画科目(高野山国際ガイド体験)	伊藤佳世子	2	2年次			文-132
前期	集中	集中	57026	企画科目(マインドフルネスS)【IP】	山本和美	2	1年次	認定心理士	難波	文-224
前期	集中	集中	57027	企画科目(心理統計学)【OD】	五明優介	2	2年次	認定心理士	難波	文-229
後期	集中	集中	57055	企画科目(宗教間対話)	森崎雅好	2	3年次			文-131
前期	集中	集中	57029	企画科目(仏教美術入門S)【IP】	内藤栄	2	1年次		難波	文-222
後期	集中	集中	57079	企画科目(社会心理学)【LSO】	松下步睦	2	2年次	認定心理士	難波	文-231
後期	集中	集中	57080	企画科目(産業心理学)【OD】	東正訓	2	2年次	認定心理士	難波	文-118
後期	集中	集中	57081	企画科目(コミュニケーション心理学)【OD】	東真由美	2	2年次	認定心理士	難波	文-119
後期	集中	集中	57082	企画科目(人間関係論)【OD】	東真由美	2	2年次	認定心理士	難波	文-120
後期	集中	集中	57083	企画科目(心理測定法)【OD】	五明優介	2	2年次	認定心理士	難波	文-230

3) 外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	3	51303	サンスクリット語上級S	徳重弘志	2	2年次			文-133
通年	月	3	51327	サンスクリット語上級S【LSO】	徳重弘志	2	2年次		密教文化コース	文-133
通年	木	5	54528	チベット語S【LSO】	井内真帆	2	2年次			文-134
通年	木	3	54303	パーリ語S	岡田英作	2	2年次			文-135
通年	木	3	54328	パーリ語S【LSO】	岡田英作	2	2年次		社会人	文-135
通年	水	2	53206	中国語I	土生川正賢	2	1年次			文-136
通年	水	1	53106	中国語II	土生川正賢	2	1年次			文-137

4) 僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	2	54204	法式上級	北川真寛	2	2年次			文-138
通年	金	3	55302	声明上級	辻秀道	2	2年次			文-139
通年	金	3	55301	梵字悉曇A	齋藤天誓	2	1年次			文-28
通年	金	5	55526	梵字悉曇S【IP】	添野了	2	1年次		難波/社会人	文-204

5) 実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	54402	体育実技	本山司	2	1年次	教職基礎		文-140
通年	水	3	53303	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		文-141
通年	火	4	52403	伝統文化(華道)	五味和樹	2	1年次			文-30
通年	水	3	53302	伝統文化(茶道)	岡本文音	2	1年次			文-29
通年	月	3	51301	宗教芸能(宗教舞踊)	高祖・辻	2	1年次			文-31

6) 歴史学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	3	55303	歴史学	坂口太郎	2	2年次			文-54
前期	火	4	52426	歴史学S【LSO】	坂口太郎	2	2年次		難波/社会人	文-205
前期	水	1	53105	書誌学	坂口太郎	2	3年次			文-144
後期	水	1	53155	古文書学	坂口太郎	2	3年次			文-145
後期	金	4	55452	古文書解説A	西川哲矢	2	2年次			文-146

7) 普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	3	53305	宗教学I S	小田龍哉	2	2年次	教免(宗)		文-55
前期	水	3	53329	宗教学I S【LSO】	小田龍哉	2	2年次			文-55
後期	水	3	53352	宗教学II S	小田龍哉	2	2年次	教免(宗)		文-56
後期	水	3	53376	宗教学II S【LSO】	小田龍哉	2	2年次			文-56
前期	水	4	53403	宗教思想史I S	小田龍哉	2	1年次	教免(宗)		文-34
前期	水	4	53426	宗教思想史I S【LSO】	小田龍哉	2	1年次		社会人	文-34
後期	月	4	51454	宗教思想史II S	櫻木潤	2	1年次	教免(宗)		文-35
後期	月	4	51476	宗教思想史II S【LSO】	櫻木潤	2	1年次		社会人	文-35
前期	金	2	55202	心理学I S	森崎雅好	2	1年次	心理士/社福		文-37
前期	金	2	55226	心理学I S【LSO】	森崎雅好	2	1年次	心理士/社福	社会人	文-37
後期	金	2	55251	心理学II S	森崎雅好	2	1年次	心理士/社福		文-38
後期	金	2	55276	心理学II S【LSO】	森崎雅好	2	1年次	心理士/社福	社会人	文-38
前期	月	3	51305	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		文-147
後期	水	4	53452	現代の人権	竹村和也	2	1年次			文-148
前期	金	4	55402	宗教史I	徳重弘志	2	2年次	教免(宗)		文-57
後期	金	4	55451	宗教史II	徳重弘志	2	2年次	教免(宗)		文-58
後期	火	1	51252	哲学S	南昌宏	2	1年次	教免(宗)		文-36
後期	火	1	52177	哲学S【LSO】	南昌宏	2	1年次		社会人	文-36
後期	水	4	53451	宗教学方法論S	小田龍哉	2	2年次	教免(宗)		文-149
後期	水	4	53476	宗教学方法論S【LSO】	小田龍哉	2	2年次		社会人	文-149
前期	火	5	52502	国語学I	鈴木晴久	2	2年次	教免(国)		文-150
後期	火	5	52551	国語学II	鈴木晴久	2	2年次	教免(国)		文-151
前期	月	4	51404	国文法I	溝端悠朗	2	2年次	教免(国)		文-152
後期	月	4	51453	国文法II	溝端悠朗	2	2年次	教免(国)		文-153

前期	火	4	52406	日本文学史概説Ⅰ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国)		文-154
後期	火	4	52452	日本文学史概説Ⅱ	溝端悠朗	2	2年次	教免(国)		文-155
前期	水	5	53503	日本文学ⅠS	溝端悠朗	2	1年次	教免(国)		文-156
前期	水	5	53526	日本文学ⅠS【LSO】	溝端悠朗	2	1年次		社会人	文-156
後期	水	5	53552	日本文学ⅡS	溝端悠朗	2	1年次	教免(国)		文-157
後期	水	5	53576	日本文学ⅡS【LSO】	溝端悠朗	2	1年次		社会人	文-157
前期	木	3	54304	漢文学概論Ⅰ	南昌宏	2	2年次	教免(国)		文-159
後期	木	3	54352	漢文学概論Ⅱ	南昌宏	2	2年次	教免(国)		文-159
前期	火	1	52104	中国文化特殊講義S	南昌宏	2	3年次	教免(国)		文-160
前期	火	1	52127	中国文化特殊講義S【LSO】	南昌宏	2	3年次		社会人	文-160
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹村和也	2	1年次	教職基礎		文-161

8) 書道師範科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52404	漢字Ⅱ	野田悟	2	2年次	書道師範		文-162
通年	木	3	54302	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範		文-163
通年	火	1	52101	篆刻	野田悟	2	2年次	書道師範		文-164
通年	火	3	52302	条幅制作A(漢字)	野田悟	2	3年次	書道師範		文-165
通年	木	4	54403	条幅制作B(かな)	塩野三恵子	2	3年次	書道師範		文-166
通年	金	1	55102	書道史(中国)	野田悟	2	2年次	書道師範		文-167

9) 社会福祉主事科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	1	55105	社会福祉論	溝渕淳	2	1年次	社会福祉主事		文-168
後期	金	1	55153	社会保障論	溝渕淳	2	1年次	社会福祉主事		文-169

10) キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52205	キャリアデザインⅠ	高田綾子	2	1年次		I・Ⅱを同時に履修すること	文-46
後期	火	2	52252	キャリアデザインⅡ	高田綾子	2	1年次			文-47
前期	火	3	52303	キャリアデザインⅢ	高田綾子	2	2年次		Ⅲ・Ⅳを同時に履修すること	文-48
後期	火	3	52351	キャリアデザインⅣ	高田綾子	2	2年次			文-49
前期	金	4	55403	キャリアデザインⅤA	足立信行	2	3年次		ⅤA・ⅤIAを同時に履修すること	文-67
後期	金	4	55453	キャリアデザインⅤIA	足立信行	2	3年次			文-68
後期	集中	集中	57053	インターンシップ	森本一彦	2	3年次			文-170

11) 学芸員資格科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	51502	生涯学習概論	櫻木潤	2	1年次	学芸員		文-171
前期	木	4	54406	博物館概論	山口文章	2	1年次	学芸員		文-172
後期	木	4	54452	博物館経営論	山口文章	2	2年次	学芸員		文-173
後期	金	3	55351	博物館資料論	西川哲矢	2	2年次	学芸員		文-174
後期	木	3	54353	博物館資料保存論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		文-175
後期	集中	集中	57054	博物館展示論【LS】	山口隆介	2	2年次	学芸員		文-176
前期	木	3	54305	博物館情報・メディア論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		文-177
後期	月	5	51552	博物館教育論	櫻木潤	2	1年次	学芸員		文-178
通年	実習	実習	58001	博物館実習	櫻木潤	2	3年次	学芸員		文-179

3 自由科目（卒業要件には参入されません）

1) 教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単 位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	4	51455	教育原論	鈴木 晴久	2	1年次	教免必修/社福		文-180
前期	水	2	53208	教職入門	鈴木 晴久	2	1年次	教免必修		文-181
前期	水	5	53504	教育心理学	岡田 英作	2	2年次	教免/認定心理士		文-182
前期	水	5	53527	教育心理学【LSO】	岡田 英作	2	2年次	教免/認定心理士	社会人	文-182
後期	月	3	51352	教育社会学	森本 一彦	2	1年次	教免必修/心理士		文-183
前期	集中	集中	57005	特別支援教育	宮本 直美	2	2年次	教免必修/心理士		文-184
後期	水	2	53251	教育課程論	鈴木 晴久	2	1年次	教免必修/心理士		文-185
後期	水	5	53553	道徳教育指導論	岡田 英作	2	2年次	教免必修/心理士		文-186
前期	火	1	52105	総合的な学習の時間・特別活動	鈴木 晴久	2	2年次	教免必修/心理士		文-187
前期	木	2	54207	教育方法論	佐々木 聡	2	2年次	教免必修/心理士	兼ICT活用論	文-188
後期	木	2	54253	生徒指導・進路指導	佐々木 聡	2	2年次	教免必修/心理士		文-189
後期	火	2	52255	教育相談	上野 和久	2	3年次	教免必修/心理士		文-190
後期	火	2	52277	教育相談【LSO】	上野 和久	2	3年次	教免必修/心理士	社会人	文-190
前期	月	2	51202	宗教科教育法Ⅰ	松長 潤慶	2	2年次	教免(宗)		文-191
後期	月	2	51253	宗教科教育法Ⅱ	松長 潤慶	2	2年次	教免(宗)		文-192
前期	木	4	54408	宗教科教育法Ⅲ	岡田 英作	2	3年次	教免(宗)		文-193
後期	火	4	52453	宗教科教育法Ⅳ	富田 向真	2	3年次	教免(宗)		文-194
前期	火	3	52305	国語科教育法Ⅰ	鈴木 晴久	2	2年次	教免(国)		文-195
後期	火	3	52354	国語科教育法Ⅱ	鈴木 晴久	2	2年次	教免(国)		文-196
前期	火	2	52208	国語科教育法Ⅲ	溝端 悠朗	2	3年次	教免(国)		文-197
後期	金	3	55352	国語科教育法Ⅳ	南 昌 宏	2	3年次	教免(国)		文-198
前期	実習	実習	58002	教育実習Ⅰ	鈴木 晴久	2	3年次	教免必修		—
前期	実習	実習	58003	教育実習Ⅱ	鈴木 晴久	2	4年次	教免必修		—
前期	木	4	54407	教育実習の研究	鈴木 晴久	1	3・4年次	教免必修		文-199
後期	木	4	54453	教職実践演習(中・高)	鈴木 晴久	2	4年次	教免必修		文-200

別 科 目 次

別科

1 必修科目

1) 基礎科目 (16)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
前期	火	1	82102	真言宗の教えA (別)	密教史概説S	徳重弘志	2	1年次	A・Bは同年に履修 すること	文-52
後期	火	1	82151	真言宗の教えB (別)	密教史概説S	北川真寛	2	1年次		文-50
前期	木	5	84501	釈尊の生涯 (別)	仏教学講読演習V	岡田英作	2	1年次		文-95
前期	火	1	82101	弘法大師空海の生涯 (別)	空海の思想入門A	添田隆昭	2	1年次		文-1
通年	火	2	82201	真言宗典講読1 (別)	祖典講読1A	松長潤慶	4	1~2年次		文-59
通年	木	2	84201	真言宗典講読2 (別)	宗典講読T	川崎一洋	4	1~2年次		文-66

2) 実習科目 (14)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
後期	集中	集中	87051	観法の理論と実習B (別)	真言密教特殊講義U【1P】	佐藤隆彦	2	1~2年次	4単位必修	文-87
通年	金	3	85302	梵字悉曇 (別)	梵字悉曇A	齋藤天誓	2	1年次		文-28
通年	金	1	85101	声明 (別)	声明	辻秀道	2	1年次		文-22
通年	水	4	83401	常用経典 (別)	常用経典	宮田永明	2	1年次		文-21
通年	木	1	84101	法式 (別)	法式	加藤善弘	2	1年次		文-23
通年	火	4	82401	布教 (別)	布教A	橋本真人	2	1年次		文-24

3) 実習科目 (18)

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
後期	水	4	83451	人権と福祉 (別)	現代の人権	竹村和也	2	1~2年次		文-148
通年	水	3	83301	世界の宗教 (別)	宗教学ⅠS	小田能哉	4	1~2年次		文-55
					宗教学ⅡS					文-56
通年	金	4	85401	宗教の歴史 (別)	宗教学Ⅰ	土居夏樹	4	1~2年次		文-57
					宗教学Ⅱ					文-58
通年	金	2	85201	心の科学 (別)	心理学ⅠS	森崎雅好	2	1~2年次		文-37
					心理学ⅡS					文-38
通年	月	4	81401	仏教芸術 (別)	企画科目 (仏画)	有松孝雄	2	1~2年次		文-112
前期	月	3	81301	社会保障A (別)	社会学	森本一彦	2	1~2年次	A・Bは同年に履修 すること	文-147
前期	金	1	85102	社会保障B (別)	社会福祉論	溝淵淳	2	1~2年次		文-168
後期	金	1	85151	地域福祉A (別)	社会保障論	溝淵淳	2	1~2年次	A・Bは同年に履修 すること	文-169
前期	木	4	84401	地域福祉B (別)	企画科目 (地域連携)	森本一彦	2	1~2年次		文-128
通年	月	1	81102	サンスクリット語 (別)	サンスクリット語A	菊谷竜太	2	1~2年次		文-8
通年	木	5	84502	チベット語 (別)	チベット語S【LSO】	井内真帆	2	1~2年次		文-134
通年	木	3	84301	パリー語 (別)	パリー語S	岡田英作	2	1~2年次		文-135
通年	金	3	85301	声明上級 (別)	声明上級	辻秀道	2	1~2年次		文-139
通年	木	2	84202	法式上級 (別)	法式上級	北川真寛	2	1~2年次	已灌頂者	文-138
通年	月	1	81101	密教儀礼の理論と実習 (別)	真言密教特殊講義A	中西雄泰	4	1~2年次	已灌頂者	文-81
					真言密教特殊講義B					文-82

講 義 概 要
授 業 計 画

科目名	空海思想入門A／弘法大師空海の生涯(別)						学期	前期	
副題	弘法大師信仰と高野山				授業方法	講義	担当者	添田隆昭	
ナンバリング	M-01-001	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海の伝えられた密教の教えを建学の精神としている。では密教はインドでどのように発達し、日本に伝えられたのか。弘法大師はどのように密教を理解したのか。現在の大師信仰の根拠となっている「入定留身」とはどういうものかについて考察する。

授業の到達目標

弘法大師の生涯及び密教思想の全体像を理解する。

授業計画

1. インド ヨーロッパ語族の広がり
2. ブッダの誕生
3. 部派仏教の成立
4. 大乘仏教の興起
5. 大乘経典 (維摩経 般若経 法華経 華嚴経 涅槃経)
6. 密教経典の深化
7. 大日経 金剛頂経の成立
8. 弘法大師の生涯 1 (出生から唐よりの帰国まで)
9. 弘法大師の生涯 2 (薬子の乱から入定まで)
10. 弘法大師の著作 1 (三教指帰・請来目録・声字義・卍字義)
11. 弘法大師の著作 2 (二教論・十住心論)
12. 入定留身
13. 入定留身以後
14. 大師信仰の現在 1 (臨死体験)
15. 大師信仰の現在 2 (東北震災後の体験)

準備学習(予習・復習)・時間

授業内容について関心のあった部分について関連図書で調べておくこと (90分)

テキスト

必要に応じて プリントを配布する

参考書・参考資料等

添田隆昭「大師はいまだおられますか」(高野山出版社)

学生に対する評価

期末の筆記試験 (80%) と授業への積極性 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解できる。
- (B) 講義の内容を自分の言葉で表現できる。
- (A) 専門用語を理解し 自分の文章の中で駆使できる。
- (S) 興味のある部分について 自分で探求し 文章化できる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には授業中に対応する。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職でもある学長が、本学の建学の精神について、弘法大師の教え及び密教思想の重要性を通して認識させる。

科目名	導入研修						学期	前期	
副題	オリエンテーション・履修指導				授業方法	講義	担当者	密教育学科主任	
ナンバリング	M-26-002	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

集中講義により、大学での学びを体験するとともに、グループによって活動することで、協調性を身に付ける。また、宗教体験を経験することで、自己を見つめる。

授業の到達目標

各自が高野山大学における学ぶ目的意識を持つとともに、学習の仕方を習得する。

授業計画

1. 高野山、高野山大学について
2. 宗教体験①金剛峯寺参拝
3. 宗教体験②奥之院参拝
4. 大学で学ぶ意義を考える
5. 大学生活を考える
6. 自己を理解する
7. ワークショップ①大学教育を考える
8. 宗教体験③勤行
9. 山内フィールドワーク
10. ワークショップ②将来像を考える
11. 宗教体験④写経
12. ワークショップ③大学での計画を立てる
13. ワークショップ④計画をプレゼンテーションする
14. 宗教体験⑦（報恩日）
15. 宗教体験⑧（宗祖降誕日）

準備学習(予習・復習)・時間

学習した内容、発表、討論やワークを踏まえて、内容について各自で整理する。(180分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』ミネルヴァ書房、2009年

学生に対する評価

レポート(40%)、発表など授業参加の積極性(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指示されたことが理解できる。
 (B) 授業内容を理解した上で、積極的に行動する。
 (A) グループをまとめ、リーダーシップを発揮することができる。
 (S) 大学で学ぶ意義を理解して、行動することができる。

課題に対するフィードバックの方法

各回ごとに質問を受けるとともに、提出されたレポートを添削する。

その他

・本講義は、2019年度以降の密教学科密教学コース入学生は全員必修となっているので、必ず履修すること。
 ・本講義は、入学式後のオリエンテーション期間中を中心に開講されるが、宗教行事(報恩日、宗祖降誕日など)への参加、およびレポートを提出することによって単位を認定する。
 ・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを行う。

科目名	英語 I					学期	通年		
副題	英語ニュースを使用し四技能一領域を高める				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	M-07-003	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義では、語彙力・文法力、リスニング力を総合的に伸ばしていく。またトピックの内容から多文化を理解しそれらと共存する社会について考え、グループによるディスカッションをした後、その要旨を英語で述べたり書いたりすることによって、アウトプット力を養う。

授業の到達目標

時事英語教材を使用して、基本的な英文法を再確認しながら意味理解ができるようになる。あわせて音声モデルに合わせてリスニング（主にシャドーイング練習）を実施し英語の内容が聞き取れるようにする。

授業計画

【前期】

1. 予習・復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2. 【Unit 1】 Topic の読解/内容理解/リスニング
3. 【Unit 1】 文法解説/グループワーク
4. 【Unit 2】 topic の読解/内容理解/リスニング
5. 【Unit 2】 文法解説/グループワーク
6. 中間テストと講評
7. 【Unit 3】 Topic の読解/内容理解/リスニング
8. 【Unit 3】 文法解説/グループワーク
9. 【Unit 4】 Topic の読解/内容理解/リスニング
10. 【Unit 4】 文法解説/グループワーク
11. 【Unit 5】 Topic の読解/内容理解/リスニング
12. 【Unit 5】 文法解説/グループワーク
13. 【Unit 6】 Topic の読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
14. 前期まとめテストとリスニングガイダンス
15. 総括とフィードバック

【後期】

1. 後期の講義計画とプレゼンの説明
2. 【Unit 6】 文法解説/グループワーク
3. 【Unit 7】 Topic の読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
4. 【Unit 7】 文法解説/グループワーク/文法解説/グループワーク
5. 【Unit 8】 Topic の読解/内容理解/リスニング
6. 中間テストと講評
7. 【Unit 9】 Topic の読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
8. 【Unit 10】 Topic の読解/内容理解/リスニング / 文法解説/グループワーク
9. 【Unit 11】 Topic の読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
10. 【Unit 12】 Topic の読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
11. 【Unit 13】 Topic の読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
12. 【Unit 14 Young Carers】 Topic の読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
13. 【Unit 15】 Topic の読解/内容理解/リスニング/ 文法解説/グループワーク
14. 後期まとめテストとリスニングガイダンス
15. 総括とフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として毎回担当を指名するので、その担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと。英語シャドーイング練習は自主学習として実施する。

テキスト

4 月最初の講義で販売する。

参考書・参考資料等

参考書は、講義中に適宜紹介し、プリント教材は初回講義（オリエンテーション）で配布する

学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験、プレゼンテーションを加味して行う。テスト（50%）、発表（30%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な語彙や英文法が理解できる。
- (B) パラグラフ単位で英文を理解できる。
- (A) 短い会話のやり取りができるようになる。
- (S) ある程度まとまった英文を読んで理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他

担当部分は必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ5回まで。講義開始30分を超えて入室した場合は欠席とする。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	英語 I (再履修)						学期	通年	
副題	基本的な英会話の習得を目指す実践型講義				授業方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバリング	M-07-004	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

基本的な英文法を学び直し、簡単な日常会話ができる力を身につける。SCHOLASTIC のデジタル英語教材を利用した多読多聴で英語の 4 技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の向上を目指す。英語での発表やプレゼンテーションも行い、英語の発表力も養う。

授業の到達目標

初歩的な英文法を学び直し、基礎力を高めながら簡単な英会話ができるようになる。音声付きのデジタル英語絵本を読むことで、英語の発音を向上させ、同時に Speaking, Listening, Reading, Writing 能力を高めることができる。

授業計画

【前期】

1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出方について説明する。
2. Lesson 1① (Personal Information)
3. Lesson 1② (Meeting People)
4. Lesson 2① (Subject Pronouns)、Book Flix①
5. Lesson 2② (Places and Nationalities)、
6. Lesson 3① (Everyday Activities)、Book Flix②
7. Lesson 3② (Titles, Names, Nicknames)
8. 中間テスト、解答と解説
9. Lesson 4① (Everyday Activities)
10. Lesson 4② (Possessive Adjectives)、Book Flix③
11. Lesson 5① (Describing People and Things)
12. Lesson 5② (Weather)、Book Flix④
13. 英語発表① (Presentation)
14. 前期まとめテスト
15. まとめテストの解答と解説、フィードバック

【後期】

1. Lesson 6① (Family Members)
2. Lesson 6② (Describing Activities and Events)、Book Flix⑤
3. Lesson 7① (Places Around Town)
4. Lesson 7② (Locating Places)、Book Flix⑥
5. Lesson 8① (Clothing)
6. Lesson 8② (Colors)、Book Flix⑦
7. 英語発表② (Presentation)
8. Lesson 9① (Languages and Nationalities)、Book Flix⑧
9. Lesson 9② (Everyday Activities)
10. Lesson 10① (Habitual Actions)、Book Flix⑨
11. Lesson 10② (People's Interests and Activities)
12. Lesson 11① (Describing Frequency of Actions)、Book Flix⑩
13. Lesson 11② (Describing People)、デジタルブックまとめ
14. 後期まとめテスト
15. テストの解答と解説、年間を通した講義のフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

予習として、テキストの学習予定範囲の問題をあらかじめ解いておくこと。デジタル絵本は随時視聴しておくこと。講義後は英語レポートを英語で書き、テキストの学習範囲を復習しておくこと。

テキスト

Side by Side Level 1 Activity Workbook (Third Edition) SCHOLASTIC Book Flix (オンライン教材)

参考書・参考資料等

Side by Side Level 1 Extra Edition: Student Book and eText (Third Edition)、

学生に対する評価

講義中の積極性 (30%)、講義後の英語レポート (20%)、発表に対する評価 (20%)、試験 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な語彙や英文法が理解できる。
- (B) 基本的な語彙や英文法を使って、簡単な会話を行うことができる。
- (A) 読んだ英文の内容を理解し、その内容について短い文でやり取りを行うことができる。
- (S) 豊かな語彙や英文法を使って、様々な内容について会話でやり取りを続けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義についての質問は授業内、レポートのフィードバックはクラスルームで返却、試験等の課題についてのフィードバックは次時に行う。

その他

欠席は有効欠席を含めて前期と後期合わせて 10 回まで。講義は英語で実施 (時折、日本語)。オンラインによる講義のため、インターネットに自由にアクセスができる環境と背景画像を準備して、カメラオンで講義に臨むこと。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニング型講義である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

元英会話スクール講師として勤務していた経験を活かし、基礎的な英語力を活用する英会話の訓練をする。試験だけでなく、英語のレポート課題や発表があり、英語での writing や発音・発表指導も行う予定である。

科目名	英語Ⅱ						学期	通年	
副題	英会話と話題についての探求				授業方法	講義	担当者	亀位卓阿	
ナンバリング	M-07-005	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】受講生がこれまでに身につけた知識としての英語を「実用英語」に「活性化」する。具体的には、時事英語や、読解系の日常社会英語の教材などで親和性のあるものを扱いたい。【後期】実用的なコミュニケーション英語に取り組む。前期後期とも受講生にカスタマイズした役に立つ授業にする。

授業の到達目標

【前期】時事英語、宗教英語、トピック等に親しむ。【後期】上記のことを生かして卒業後も末永く英語を生かせる思考を身につけてもらう。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス
2. 高野山についての英語説明 (1)・読み物
3. 高野山についての英語説明 (2)・読み物
4. 高野山についての英語説明 (3)・読み物
5. 高野山についての英語説明 (4)・読み物
6. 高野山についての英語説明 (5)・読み物
7. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (1)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
8. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (2)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
9. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (3)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
10. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (4)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
11. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (5)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
12. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (6)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
13. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (7)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
14. 英字新聞を利用して読みやすい記事の解釈 (8)・読み物 (英文 擅信徒必携等)
15. まとめ

【後期】

1. ガイダンス
2. 英字新聞解釈・トピック作業 (1)
3. 英字新聞解釈・トピック作業 (2)
4. 英字新聞解釈・トピック作業 (3)
5. 英字新聞解釈・トピック作業 (4)
6. 英字新聞解釈・トピック作業 (5)
7. 英字新聞解釈・トピック作業 (6)
8. 英字新聞解釈・トピック作業 (7)
9. 英字新聞解釈・トピック作業 (8)
10. 英字新聞解釈・トピック作業 (9)
11. 英字新聞解釈・トピック作業 (10)
12. まとめ①
13. まとめ②
14. まとめ③
15. 試験

準備学習(予習・復習)・時間

中学・高校で習った英語の英文法理解、読解、作文をおさらいしておく。(計 90 分以上)。リスニングも普段から親しんで欲しい。

テキスト

英文擅信徒必携 (@500)・英文高野山パンフレット (@50)。その他は授業中にコピーを配付する。自分の気に入っている英文法参考書などを持っておく。

参考書・参考資料等

授業を進める中で紹介する。

学生に対する評価

テスト (40%)、授業参加の積極性・態度 (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 英文読解力をつけ、情報収集能力をつける。
- (B) 英語で高野山はもちろん、身の回りのことについて紹介できる。
- (A) 英会話ができるよう英語での情報収集能力をつける。
- (S) ビジネス英文を読解できるようになる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は授業時、または期間中にフィードバックする。

その他

役に立つ勉強を工夫する。ネットを利用した情報伝達も工夫し、進めていきたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	英語Ⅱ(再履修)						学期	通年	
副題	英会話の習得を目指す実践型講義				授業方法	講義	担当者	森本敦子	
ナンバリング	M-07-006	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

会話でよく使われる英文法を学び直し、基礎的な日常会話ができる力を身につける。SCHOLASTIC のデジタル英語教材を利用した多読多聴で英語の4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の向上を目指す。英語での発表やプレゼンテーションも行い、英語の発表力も養う。

授業の到達目標

基本的な英文法を学び直し、基礎力を高めながら簡単な英会話ができるようになる。音声付きのデジタル英語絵本を読むことで、英語の発音を向上させ、同時に Speaking, Listening, Reading, Writing 能力を高めることができる。

授業計画

【前期】

1. 予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2. Lesson 1① (Simple Present, Simple Past)
3. Lesson 1② (Future: Going to, Like to)
4. Lesson 2① (Count Nouns), Book Flix①
5. Lesson 2② (Non/Count Nouns)
6. Lesson 3① (Partitives, Nouns), Book Flix②
7. Lesson 3② (Imperatives)
8. 中間テスト、解答と解説
9. Lesson 4① (Future Tense: Will)
10. Lesson 4② (Might), Book Flix③
11. Lesson 5① (Comparatives)
12. Lesson 5② (Should, Possessive Pronouns), Book Flix④
13. 英語発表① (Presentation)
14. 前期まとめテスト
15. まとめテストの解答と解説、前期フィードバック

【後期】

1. Lesson 6① (Superlatives 1)
2. Lesson 6② (Superlatives 2), Book Flix⑤
3. Lesson 7① (Imperatives)
4. Lesson 7② (Directions), Book Flix ⑥
5. Lesson 8① (Adverbs, Comparative Adverbs)
6. Lesson 8② (Agent Nouns, If-Clauses), Book Flix⑦
7. 英語発表② (Presentation)
8. Lesson 9① (Past Continuous Tense), Book Flix⑧
9. Lesson 9② (Reflexive Pronouns, While-Clauses)
10. Lesson 10① (Could, Be Able to), Book Flix⑨
11. Lesson 10② (Have Got to, Too+Adjective)
12. Lesson 11 (Review, Must, Should), Book Flix⑩
13. Lesson 12 (Future Continuous Tense)
14. 後期まとめテスト
15. まとめテストの解答と解説、年間を通した講義のフィードバック

準備学習(予習・復習)・時間

予習として、テキストの学習予定範囲の問題をあらかじめ解いておくこと。デジタル絵本は随時視聴しておくこと。講義後は英語レポートを英語で書き、テキストの学習範囲を復習しておくこと。

テキスト

Side by Side Level 2 Activity Workbook (Third Edition) SCHOLASTIC Book Flix (オンライン教材)

参考書・参考資料等

Side by Side Level 2 Extra Edition: Student Book and eText

学生に対する評価

講義中の積極性 (30%)、講義後の英語レポート (20%)、発表に対する評価 (20%)、試験 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な語彙や英文法が理解できる。
- (B) 基本的な語彙や英文法を使って、簡単な会話をすることができる。
- (A) 読んだ英文の内容を理解し、その内容について短い文でやり取りすることができる。
- (S) 豊かな語彙や英文法を使って、様々な内容について会話でやり取りを続けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義についての質問は授業内、レポートのフィードバックはクラスルームで返却、試験等の課題についてのフィードバックは次時に行う。

その他

欠席は有効欠席を含めて前期と後期合わせて10回まで。講義は英語で実施(時折、日本語)。オンラインによる講義のため、インターネットに自由にアクセスができる環境と背景画像を準備して、カメラオンで講義に臨むこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニング型講義である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

元英会話スクール講師として勤務していた経験を活かし、基礎的な英語力を活用する英会話の訓練をする。試験だけでなく、英語のレポート課題や発表があり、英語での writing や発音・発表指導も行う予定である。

科目名	漢文						学期	通年	
副題	漢文の基礎				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M-07-007	実務経験の有無	無	関連DP	2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。返り点に従って読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加などを修得する。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについても言及する。

授業の到達目標

漢文について、高校卒業段階相当の能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点を利用して書き下し文を書ける。置き字・再読文字など、多用される特殊な用法を修得する。漢文を逐語訳・直訳することができる。漢文を自然な口語訳にすることができる。

授業計画

【前期】

1. 送りがな・返り点 (テキスト第1日)
2. 書き下し文 (1) (テキスト第2日)
3. 書き下し文 (2) (テキスト第3日)
4. 熟語の構造 (テキスト第4日)
5. 漢文の構造 (テキスト第5日)
6. 再読文字 (1) (テキスト第7日)
7. 再読文字 (2) (テキスト第8日)
8. 否定の形 (1) (テキスト第10日)
9. 否定の形 (2) (テキスト第11日)
10. 否定の形 (3) (テキスト第12日)
11. 否定の形 (4) (テキスト第13日)
12. 疑問・反語の形 (1) (テキスト第15日)
13. 前期の総復習
14. 到達度の確認
15. 前期の総括

【後期】

1. 疑問・反語の形 (2) (テキスト第16日)
2. 疑問・反語の形 (3) (テキスト第17日)
3. 使役・受身の形 (テキスト第19日)
4. 比較選択・願望の形 (テキスト第20日)
5. 仮定・抑揚の形 (テキスト第21日)
6. 限定・累加の形 (テキスト第22日)
7. 文字の整理 (1) (テキスト第24日)
8. 文字の整理 (2) (テキスト第25日)
9. 文字の整理 (3) (テキスト第26日)
10. 文字の整理 (4) (テキスト第27日)
11. 文字の整理 (5) (テキスト第28日)
12. 文字の整理 (6) (テキスト第29日)
13. 後期の総復習
14. 到達度の確認
15. 後期の総括

準備学習(予習・復習)・時間

毎回、テキスト2ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。疑問・質問がある場合は、具体的に文章化する。自分の解答・質問は宿題として提出する。(60分)

テキスト

佐藤雅一『発展 30日完成 漢文高校初級用』(日栄社) 書店等で購入すること。

参考書・参考資料等

佐藤雅一『発展 30日完成 漢文高校中級用』(日栄社) 日比野純三『発展 30日完成 漢文高校上級用』(日栄社) 加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫 2010年 など。

学生に対する評価

前期試験40%・後期試験60%で評価。定期試験が60点未満の時、宿題1枚を1点として加算し、60点以上に達すれば60点。上記の条件で合格点に満たない場合、後期試験のみ60点以上であれば60点で合格。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 訓点を機械的に扱える。
- (B) 基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
- (A) 訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
- (S) 訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。授業中にスマホ・PCは必要ないので、使用したい者は退室すること。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	サンスクリット語A／サンスクリット語(別)						学期	通年	
副題	サンスクリット初級				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M-07-008	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

古典サンスクリット文法について語形のなりたち注目し、基本的な文法書だけでなく工具類の扱いかたを射程に入れ、韻律・シンタックスに関する基礎知識をも修得する。精読する際に詩節を唱えてみることで実際に声に出してサンスクリットに親しむ感覚を身につける。

授業の到達目標

初等文法で習う文法規則を実際の古典資料と照らし合わせることによって連声や語形、韻律について正しく理解することができる。テキストやリーダーの指示どおりに文法事項やグロッサリー、注記を参照することで文献学の基礎を学び、作文や読誦を通じて実践的な知識をも身につける。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 音韻論と連声 (サンディ)、問題演習
3. 名詞の変化① (-a-語幹)、問題演習
4. 名詞の変化② (-a-語幹)、問題演習
5. 名詞の変化③ (男性-i-および-u-語幹、中性、女性の-i-および-u-語幹)、問題演習
6. 名詞の変化④ (-i-および-u-語幹、単音節、-r-語幹、二重母音語幹)、問題演習
7. 名詞の変化⑤ (語根語幹、-as-, -is-, -us-語幹)、問題演習
8. 名詞の変化⑥ (-ant-, -vant-および-mant-語幹)、問題演習
9. 名詞の変化⑦ (-in-, -an-, -van-および-man-語幹)、問題演習
10. 名詞の変化⑧ (-vas-, -yas-語幹)、問題演習
11. 名詞の変化⑨ (-anc-語幹およびその他の語幹)、問題演習
12. 比較法、問題演習
13. 代名詞、問題演習
14. 数詞、問題演習
15. 試験と総括

【後期】

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 現在語幹① (第一種活用・幹母音語幹、未完了過去、願望法・命令法)、問題演習
3. 現在語幹② (第二種活用・語根型語幹)、問題演習
4. 現在語幹③ (第二種活用・重複型語幹)、問題演習
5. 現在語幹④ (第二種活用・鼻音挿入型語幹)、問題演習
6. 現在語幹⑤ (未来語幹)、問題演習
7. アオリスト語幹、問題演習
8. 完了語幹・受動態、問題演習
9. 二次活用動詞① (使役活用と名詞起源動詞)、問題演習
10. 二次活用動詞② (意欲活用と強意活用)、問題演習
11. 準動詞 (動詞的形容詞、不定詞、絶対詞)、問題演習
12. 複合語① (動詞複合語と副詞的複合語、名詞複合語 (Dv))、問題演習
13. 複合語② (名詞複合語 (TP, KD, BV))、問題演習
14. シンタックス (統語論)、問題演習
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として指示された次回の授業範囲について文法事項を調べ日本語訳を作成すること (90 分)。事後学習としてテキストと自分のノートとを読み直し、必要な文法事項や語彙を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

J. ゴンダ (著) 鏜淳 (翻訳) 『サンスクリット語初等文法—練習題、選文、語彙付』東京・春秋社、1989年 (書店で購入)

参考書・参考資料等

①W. D. Whitney. Sanskrit Grammar. ②H. The Roots, Verb-forms and Primary Derivates of the Sanskrit Language. ③J. S. Speijer. Sanskrit Syntax.

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに各授業における課題 (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

(C) テキストやリーダーに指示された文法事項を忠実に押さえ、グロッサリーや注記を正確に参照することができている。

(B) 連声 (サンディ) や語形を正しく押さえ、語形を正しく比定することができている。

(A) 韻文・散文の平易な文章について正しく理解し、散文で簡単な文章を作ることができる。

(S) 韻文で簡単な文章を作ることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。少しでもサンスクリット語に興味をもつ希望者の積極的な参加をもとめるアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本語A						学期	通年	
副題	中級日本語				授業方法	講義	担当者	藤井知枝	
ナンバリング	M-07-009	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

大学で学ぶために必要となる、日本語の「話す・聞く・読む・書く」の四技能を総合的に学習する。中級から中上級レベルの文法・語彙を学習し、日本の社会や文化などについて書かれた文章を読み、理解する。自分の考えを理由とともに表現する力を身につける。講義や口頭発表を聞く力を養う。大学に必要な小論文やレポートを書く力をつける。

授業の到達目標

大学の講義内容を理解し、大学での基本的な活動ができる。日本の社会や文化を理解できるようになる。

授業計画

【前期】

1. 自己紹介/ テーマ:色「病院の色」語彙
2. テーマ:色「病院の色」読解
3. テーマ:色「病院の色」重要表現(～という他)
4. テーマ:色「病院の色」重要表現(～に基づく他)・聴解
5. テーマ:色 関連読み物「就職活動と色彩心理」
6. テーマ:ユーモア・ジョーク「エープリル・フール」語彙
7. テーマ:ユーモア・ジョーク「エープリル・フール」読解
8. テーマ:ユーモア・ジョーク「エープリル・フール」重要表現(～とされている他)
9. テーマ:ユーモア・ジョーク「エープリル・フール」重要表現(～にかけては他)・聴解
10. テーマ:ユーモア・ジョーク 関連読み物「人はなぜウソをつくのか」
11. テーマ:制服「学校の制服」語彙
12. テーマ:制服「学校の制服」読解
13. テーマ:制服「学校の制服」重要表現(～を問わず他)
14. テーマ:制服「学校の制服」重要表現(～をめぐる他)・聴解
15. テーマ:制服 関連読み物「卒業生の学校制服に対する意識調査」

【後期】

1. テーマ:算数「計算の方法を説明する」語彙
2. テーマ:算数「計算の方法を説明する」読解
3. テーマ:算数「計算の方法を説明する」重要表現(～に至る他)
4. テーマ:算数「計算の方法を説明する」重要表現(～うえで他)・聴解
5. テーマ:算数 関連読み物「活用力」
6. テーマ:遊びと運動「子供の遊び」語彙
7. テーマ:遊びと運動「子供の遊び」読解
8. テーマ:遊びと運動「子供の遊び」重要表現(～をもたらす他)
9. テーマ:遊びと運動「子供の遊び」重要表現(～に対して他)・聴解
10. テーマ:遊びと運動 関連読み物「ラジオ体操80年継続が大切」
11. テーマ:お金「古くなったお札の行方」語彙
12. テーマ:お金「古くなったお札の行方」読解
13. テーマ:お金「古くなったお札の行方」重要表現(～ぶり他)
14. テーマ:お金「古くなったお札の行方」重要表現(～とはいえ他)・聴解
15. テーマ:お金 関連読み物「お金を投げる・洗う」

準備学習(予習・復習)・時間

新出語彙を事前に調べておくこと。テキストの指定された文に目を通しておくこと。(計 60 分) 課終了後、小テストを行うので、十分に学習しておくこと。(60 分)

テキスト

平井悦子・三輪さち子『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 8 2 中級中期』スリーエーネットワーク(2009) (書店で購入)

参考書・参考資料等

①ABK『TRY! 日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語(改訂版)』アスク出版(2014) ②友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 5 0 0(改訂版)』アルク(2010)

学生に対する評価

期末試験(50%)、課題(25%)、小テスト(25%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した文法、語彙をある程度理解することができる。
 (B) 学習した文法、語彙をほぼ理解することができる。
 (A) 学習した文法、語彙を理解し、使うことができる。
 (S) 学習した文法、語彙を場面に応じ、自分の言葉として使うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は添削し、次回返却する。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本語B					学期	通年		
副題	上級日本語				授業方法	講義	担当者	藤井知枝	
ナンバリング	M-07-010	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

大学で学ぶために必要となる日本語の「話す・聞く・読む・書く」の四技能を総合的に学習する。中上級から上級レベルの語彙や表現を学ぶ。社会的なテーマについて書かれたエッセイ、説明文、記事などを読み、自分の考えを詳しく具体的に表現する力を身につける。日本文化や日本人の考え方についての文を読み理解する。大学で必要な小論文やレポートを書く力をつける。

授業の到達目標

大学でのアカデミックな活動が円滑にできる。日本の社会や文化への理解を深めることができる。

授業計画

【前期】

1. 自己紹介 / テーマ：しる一初めての雪 語彙
2. テーマ：しる一初めての雪 読解・要約
3. テーマ：しる一初めての雪 重要表現（～となく 他）
4. テーマ：いたわる一春の一日 語彙
5. テーマ：いたわる一春の一日 読解・要約
6. テーマ：いたわる一春の一日 重要表現（～からといって、～というものではない 他）
7. アカデミック・ライティング 助詞・引用のスタイル
8. テーマ：ならう一そば屋の先生 語彙
9. テーマ：ならう一そば屋の先生 読解・要約
10. テーマ：ならう一そば屋の先生 重要表現（～ならまだしも 他）
11. アカデミック・ライティング 引用の表現・レポート作成
12. テーマ：よみとる一記事の裏側 語彙
13. テーマ：よみとる一記事の裏側 読解・要約
14. テーマ：よみとる一記事の裏側 重要表現（～手前 他）
15. アカデミック・ライティング 数値に関する表現のスタイル

【後期】

1. テーマ：さばく一裁判員のもやもや 語彙
2. テーマ：さばく一裁判員のもやもや 読解・要約
3. テーマ：さばく一裁判員のもやもや 重要表現（～とも～ともつかない 他）
4. アカデミック・ライティング 図表・データの表現
5. テーマ：うやまう一ガイドさんの宗教 語彙
6. テーマ：うやまう一ガイドさんの宗教 読解・要約
7. テーマ：うやまう一ガイドさんの宗教 重要表現（～には当たらない 他）
8. テーマ：ふせぐ一並ぶ文化 語彙
9. テーマ：ふせぐ一並ぶ文化 読解・要約
10. テーマ：ふせぐ一並ぶ文化 重要表現（～とは 他）
11. アカデミック・ライティング レポート作成 テーマ：持続可能な世界
12. アカデミック・ライティング レポート作成 テーマ：持続可能な世界
13. テーマ：もてなす一ローソクの島 語彙
14. テーマ：もてなす一ローソクの島 読解・要約
15. テーマ：もてなす一ローソクの島 重要表現（～かがある/ない 他）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの新出語彙を調べ、指定された文に目を通しておくこと。(計 60 分) ユニット終了後小テストを行うので、十分に学習しておくこと。(60 分)

テキスト

松田浩志・亀田美保『テーマ別 上級で学ぶ日本語（三訂版）』研究社(2016)（書店で購入）

参考書・参考資料等

- ①伊集院郁子・高野愛子『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』アスク出版（2020）
- ②ABK『TRY！日本語能力試験N1 文法から伸ばす日本語（改訂版）』アスク出版(2013)
- ③友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型500』アルク(2010)

学生に対する評価

期末試験（50%）、課題（25%）小テスト（25%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した文法・表現をある程度理解することができる。
 (B) 学習した文法・表現をほぼ理解することができる。
 (A) 学習した文法・表現を理解し、使うことができる。
 (S) 学習した文法・表現を場面に応じ、自分の言葉として使うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は添削し、次回返却する。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミA1						学期	前期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅠ				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M-01-011	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの意味を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしたがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
 (B) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
 (A) 授業で説明したことを活かして、プレゼンテーションができる。
 (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③担当者は、アドバイザー教員(担任教員)である。④受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミA2						学期	後期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M-01-012	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどのようなことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
 (B) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
 (A) 授業で説明したことを活かして、プレゼンテーションができる。
 (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③担当者は、アドバイザー教員(担任教員)である。④受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミB1						学期	前期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅠ				授業方法	演習	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	M-01-013	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの意味を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方（1）授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方（2）キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方（1）全体像を理解する
7. 本の読み方（2）内容を要約する
8. レポートの作成の仕方（1）論文の書式
9. レポートの作成の仕方（2）文章構成
10. レポートの作成の仕方（3）分かりやすい文章
11. 資料の検索（1）図書館の利用
12. 資料の検索（2）インターネットの利用
13. レポート作成の実践（1）論文を要約する
14. レポート作成の実践（2）意見文を書く
15. レポート作成の実践（3）課題にしたがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90分）

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年）②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年）③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法蔵館、1995年）④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
 (B) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
 (A) 授業で説明したことを活かして、プレゼンテーションができる。
 (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③担当者は、アドバイザー教員（担任教員）である。④受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミB2						学期	後期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	M-01-014	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどのようなことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの意味を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
 (B) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
 (A) 授業で説明したことを活かして、プレゼンテーションができる。
 (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③担当者は、アドバイザー教員(担任教員)である。④受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミC1						学期	前期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅠ				授業方法	演習	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	M-01-015	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしたがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
 (B) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
 (A) 授業で説明したことを活かして、プレゼンテーションができる。
 (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③担当者は、アドバイザー教員(担任教員)である。④受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミC2						学期	後期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	M-01-016	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
 (B) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
 (A) 授業で説明したことを活かして、プレゼンテーションができる。
 (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③担当者は、アドバイザー教員(担任教員)である。④受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミD1						学期	前期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅠ				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	M-01-017	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしたがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
 (B) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
 (A) 授業で説明したことを活かして、プレゼンテーションができる。
 (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③担当者は、アドバイザー教員(担任教員)である。④受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミD2						学期	後期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	M-01-018	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明したことが理解できている。
 (B) 授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
 (A) 授業で説明したことを活かして、プレゼンテーションができる。
 (S) 授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③担当者は、アドバイザー教員(担任教員)である。④受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミF1(再履修)						学期	前期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅠ				授業方法	演習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M-01-019	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの意味を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

1. 大学の学び方
2. ノートの取り方 (1) 授業内容を正確に理解する
3. ノートの取り方 (2) キーワードを中心に整理する
4. 配布資料の整理と使い方
5. 予習・復習の必要性
6. 本の読み方 (1) 全体像を理解する
7. 本の読み方 (2) 内容を要約する
8. レポートの作成の仕方 (1) 論文の書式
9. レポートの作成の仕方 (2) 文章構成
10. レポートの作成の仕方 (3) 分かりやすい文章
11. 資料の検索 (1) 図書館の利用
12. 資料の検索 (2) インターネットの利用
13. レポート作成の実践 (1) 論文を要約する
14. レポート作成の実践 (2) 意見文を書く
15. レポート作成の実践 (3) 課題にしたがって文章を書く

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することながらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学基礎ゼミF2(再履修)						学期	後期	
副題	スタディスキルの基礎的トレーニングⅡ				授業方法	演習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M-01-020	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの意味を見出すことを目指す。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。③①・②をふまえて高野山大学での4年間の目標を設定する。

授業計画

- 発表するには
- データの収集 (1) データの種類を説明する
- データの収集 (2) 具体的な収集方法を説明する
- データの記録 (1) メモ
- データの記録 (2) 写真
- データの記録 (3) 動画
- データと思考の整理
- レジュメの作成 (1) レジュメの書式
- レジュメの作成 (2) 分かりやすいレジュメ
- パワーポイントの作成 (1) パワーポイントの基礎
- パワーポイントの作成 (2) 発表のためのパワーポイント
- 発表の実践 (1) 課題に対する発表
- 発表の実践 (2) 意見を発表する発表
- 討論 (1) 課題に関する討論
- 討論 (2) 他の報告に対する討論

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業内容について、関連することながらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと (90分)

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』(岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991年) ②松長有慶『高野山』(岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014年) ③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』(法蔵館、1995年) ④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート (60%)、授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
 (B) 密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
 (A) 密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
 (S) 密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、欠席をしないこと。3分の2以上の出席がない場合には評価の対象とならない。②少人数クラスの編成を行う。③受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	常用経典／常用経典(別)						学期	通年	
副題	特殊な読み方・抑揚・多人数での唱法。				授業方法	実技	担当者	宮田永明	
ナンバリング	M-01-021	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『理趣経』、『観音経』、『梵網経』を中心に、寺院日常の勤行・法要などに用いる諸経典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い梵文などを暗誦できるように務める。『真言宗常用諸経要聚』等の経典に用いられている仏教用語の基礎的理解を助け、経典が描く仏教・密教の世界観が理解しやすくなるようなるべく簡単に用語の概説をおこなう。また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『観音経』、『梵網経』、『金胎礼懺』、『三陀羅尼』、『梵讃』に務める。

授業の到達目標

『理趣経』、『梵網経』、礼懺、三陀羅尼、般若心経、立義分、諸真言等が読誦できる様に務める。受戒・加行などへの参加者の必要性に伴い、必要となる諸経の認識と基本的理解に努め、仏教徒として各教典の内容を如何に捉え、実践としての行法を修する上での参考となる様指導する。

授業計画

【前期】

1. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (開経偈) (懺悔文)
2. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (礼文)
3. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (理趣経)
4. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (理趣経)
5. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵網経)
6. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵網経)
7. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (金・胎礼懺)
8. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (金・胎礼懺)
9. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (観音経)
10. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (観音経)
11. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (般若心経)
12. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (立義分) (九条錫杖)
13. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵讃・三陀羅尼) (諸真言)
14. 経典や偈文の読誦法の解説と練習 (梵讃・三陀羅尼) (諸真言)
15. 試験と講評

【後期】

1. 前期の復習と補足解説 (開経偈) (懺悔文) (礼文)
2. 前期の復習と補足解説 (理趣経)
3. 前期の復習と補足解説 (理趣経)
4. 前期の復習と補足解説 (金・胎礼懺)
5. 前期の復習と補足解説 (金・胎礼懺)
6. 前期の復習と補足解説 (観音経)
7. 前期の復習と補足解説 (梵讃・三陀羅尼) (諸真言)
8. 前期の復習と補足解説 (梵網経)・外
9. 前期の復習と補足解説 (般若心経)・外
10. 前期の復習と補足解説 (般若心経)・外
11. 前期の復習と補足解説 (立義分)・外
12. 前期の復習と補足解説 (立義分)・外
13. 『般若心経秘鍵』を読む
14. 『般若心経秘鍵』を読む
15. 試験と講評

準備学習(予習・復習)・時間

実技実習の習得を求める。(30分程度)

テキスト

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を用いる。その他、資料を配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

実技 (50%)・筆記試験 (50%) 授業内容からの出題。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『理趣経』がある程度読める。
- (B) 『理趣経』・『観音経』・『般若心経』が読める。
- (A) 常用経典のほぼ主要な経典が読め、概略の理解がある。
- (S) 常用経典のほぼ主要な経典が読め、特に諸経の理解に優れている。本人にとって以後の展望が見込める。

課題に対するフィードバックの方法

質問等はその都度対応する。テストの次回授業時フィードバックを行う。

その他

講義には、念珠と輪袈裟、中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を持参すること。他の経本は授業を進める上で(ページの指示・訂正箇所)の不一致など)時間のロスが多くなる。経典の不所持は、出席を認めない。受講拒否とみなす。ICレコーダー等の用意があれば使用を許可する。なるべく持って来ることを勧める。伽藍の金堂で開壇される「結縁灌頂」があれば入壇することを原則として義務付ける。これは法会の中でどの様に用いられているか、実際に知ってもらう為である。また、各種法会に参詣することを勧める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、高野山山内住職であって、元伽藍雑那職で諸法会に携わった経験と、高野山大学受戒会の伝戒阿闍梨、及び高野山大学加行傳授大阿闍梨を務めた経験がある教員が真言宗僧侶として、常に用いる諸経を通じて、経典に対する宗教者としての受講者各人が、実際上の読誦技術の向上と内容理解の重要性を認識出来るよう授業する。これは、これからの社会に於て僧侶として仏教経典が何の為に説かれて、讀誦し、護持し、流布する事が必要なのかを理解し布教活動する為である。

科目名	声明／声明(別)						学期	通年	
副題	真言僧侶として必須の声明を研鑽する				授業方法	実技	担当者	辻秀道	
ナンバリング	M-01-022	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」。我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎（楽理を含む）の導入部分から学ぶ。

授業の到達目標

真言宗法要の基本となる「理趣三昧法会」で使われる声明を研鑽する。

授業計画

【前期】

1. 声明の楽譜の見方・唱え方（旋律型）の解説・テキスト『南山進流声明類聚・附加陀』を必ず持参すること。
2. 「三礼」声明譜と唱え方の説明。
3. 四智梵語（1）
4. 四智梵語（2）
5. 大日讃（1）
6. 大日讃（2）
7. 不動讃
8. 四智漢語（1）
9. 四智漢語（2）
10. 心略漢語（1）
11. 心略漢語（2）
12. 仏讃（1）
13. 仏讃（2）
14. 前期個人発表と講評
15. 散華（初段目）（1）

【後期】

1. 散華（初段目）（2）散華（2段目）（1）
2. 散華（2段目）（2）
3. 散華（2段目）（3）散華（3段目）（1）
4. 散華（3段目）（2）
5. 個人発表
6. 対揚（1）
7. 対揚（2）
8. 対揚（3）
9. 唱礼（金剛界）（1）
10. 唱礼（2）
11. 唱礼（3）
12. 回向伽陀（1）
13. 回向伽陀（2）
14. 後期個人発表と講評
15. 唱礼（5）中曲（各段の頭の部分のみ）

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだ唱え方に関して練習をしておくこと（90分）

テキスト

宮野宥智編『南山進流声明類聚・附加陀』を松本日進堂にて事前に購入する事。【必ず1講目授業より持参すること。】（注、必ず同一内容の声明類聚で、できるだけ新しく購入した本を準備する事）

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介する。

学生に対する評価

前期試験（40%）、授業参加の積極性（20%）、後期試験（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 南山進流声明を、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
 (B) 南山進流声明の楽譜や唱え方を概ね理解し、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
 (A) 理趣三昧法会の声明を概ね理解し、一人で唱える事が出来る。
 (S) 南山進流声明の理論・唱え方を理解し、理趣三昧法会の声明を一人で唱える事が出来る。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

筆記用具は鉛筆（シャープペンシル）等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。声明は毎週の積み重ねとなるので、できる限り欠席しない様にする事。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校・尼僧学院・大学に於ける声明授業の授業経験。音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	法式／法式(別)							学期	通年
副題	高野山で学ぶ法会の実際				授業方法	実技	担当者	加藤善弘	
ナンバリング	M-01-023	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

真言宗の僧侶として法式の基礎知識を理解する。

授業の到達目標

真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘厳の基礎知識と意識を理解し、説明できるようになる。

授業計画

【前期】

1. 講義内容の説明
2. 道場荘厳の解説について (1) 事相と教相
3. 道場荘厳の解説について (2) 荘厳の目的と心構え
4. 道場荘厳の解説について (3) 道場荘厳の歴史
5. 道場荘厳の解説について (4) 祀り方の実際
6. 道場荘厳の解説について (5) 道場荘厳具の説明
7. 道場荘厳の解説について (6) 道場荘厳具の説明
8. 道場荘厳の解説について (7) 密壇荘厳具の説明
9. 道場荘厳の解説について (8) 密壇荘厳具の説明
10. 六種供養について (1) 供養の基本
11. 六種供養について (2) 供養の内容
12. 六種供養について (3) 供養の意義
13. 六種供養について (4) 供養の意義
14. 道場荘厳見学
15. 試験と総括

【後期】

1. 講義内容の説明
2. 真言宗の本尊について
3. 真言宗の八祖について
4. 壇荘厳の解説について (1) 壇荘厳の意義と歴史
5. 壇荘厳の解説について (2) 壇の形式と種類
6. 壇荘厳の解説について (3) 大壇荘厳具の説明と意義
7. 壇荘厳の解説について (4) 大壇荘厳具の説明と意義
8. 壇荘厳の解説について (5) 大壇荘厳具の説明と意義
9. 壇荘厳の解説について (6) 大壇荘厳具の説明と意義
10. 壇荘厳の解説について (7) 大壇荘厳具の説明と意義
11. 壇荘厳の解説について (8) 大壇荘厳具の説明と意義
12. 壇荘厳の解説について (9) 大壇荘厳具の説明と意義
13. 壇荘厳の解説について (10) 総括
14. 壇荘厳見学
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90分)

テキスト

前期：『真言宗の事作法』教務課にて購入のこと。後期：授業時にプリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

大山公淳著『真言宗法儀解説<新装版>』東方出版、平成24年

学生に対する評価

定期試験 (80%)、授業参加の積極性 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語を覚えている。
- (B) 道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語の理解が出来ている。
- (A) 道場荘厳・壇荘厳の様式について理解が出来ている。
- (S) 道場荘厳・壇荘厳の基礎を理解した上で、説明することが出来る。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶で高野山内寺院の住職であり、現法会課長である教員が、真言宗の法式について、講義や道場見学を通してその重要性を認識させる。

科目名	布教A／布教(別)						学期	通年	
副題	布教の基本を学ぶー				授業方法	実技	担当者	橋本真人	
ナンバリング	M-01-024	実務経験の有無	有	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義は布教の入門的な役割を果たす科目である。布教の基本的な知識と方法を学び、一般大衆に広く弘法大師や真言密教の教えを伝える教化伝道の重要性を認識する。また寺院子弟には、檀信徒の面前で法語を行なえるように自信をつけさせることがこの講義の目的である。

授業の到達目標

布教理論の学習により教化伝道の重要性を認識し、布教実修を通じて自ら原稿を作成し法語を語れるようになる。

授業計画

【前期】

1. 講義の概要について解説する
2. 布教伝道の精神
3. 布教の目的
4. 布教の任務
5. 仏教の布教伝道
6. 真言宗の布教理念
7. 信仰心の喚起
8. 礼拝の実践
9. 安心（あんじん）の獲得
10. 真言宗布教史
11. 布教の対象
12. 布教の種類
13. 説法の十事
14. 布教資料について
15. 布教の五段、三段法

【後期】

1. 布教原稿の書き方
2. 教材収集の方法
3. 布教の心得と教材の扱い方
4. 布教実修①
5. 布教実修②
6. 布教実修③
7. 布教実修④
8. 布教実修⑤
9. 布教実修⑥
10. 布教実修⑦
11. 実修の所感
12. 文書布教のあり方
13. 高野山開創の意義
14. 布教作法とその心得
15. 講義の総括

準備学習(予習・復習)・時間

(予習) 講義前にテキストを正しく読めるようにしておくこと。(60分) (復習) 講義で学習した弘法大師の聖語を『定本弘法大師全集』で調べ、研究方法を身につける。(60分)

テキスト

寺河俊海著『現代布教の理論と実際』高野山出版社、配布プリント

参考書・参考資料等

橋本真人著『弘法大師の贈り物』春秋社

学生に対する評価

授業態度・出席状況(50%)、文書レポート・布教実修(50%)で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教、密教の基本用語が理解できる。
- (B) 布教に関する資料収集と学習方法を習得する。
- (A) 基本的な布教原稿を作成できる。
- (S) 法語を創作して、それを布教実修(発表)を通じ人々に語るができる。

課題に対するフィードバックの方法

法語発表者の内容について学生からも感想を述べ、聴くことの大切さと難しさを学ぶ。また、布教は一般大衆の目線に合わせ、常に「わかる法語」を心掛けることの大切さを習得する。

その他

布教は「法語」に限定されたものではない。現代社会の動向を紐解き、時代に即した布教方法を見いだすことも大切である。しかしながら僧侶である以上、人前で話す「法語」は避けて通れないことも事実である。そのことを意識して受講いただきたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

担任教員は、高野山真言宗本山布教師であり高野山真言宗寺院住職である。基本的な布教理論の学習と布教実修を通して、教化伝道の重要性を認識していただけるよう努める。

科目名	布教B(詠歌)						学期	通年	
副題	金剛流御詠歌と宗教音楽を学ぶ。				授業方法	実技	担当者	辻・西山・岩田	
ナンバリング	M-01-025	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

御詠歌の唱え方や理論や歴史を学びながら、その他の宗教音楽にもふれる。布教活動の実践の参考となるよう学外授業も交えながら楽しい御詠歌をめざす。

授業の到達目標

御詠歌を中心に宗教音楽を学び布教活動の実践に生かせるようになる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション・各種使用テキストと法具の説明・詠階説明
2. いろは歌・追弔和讃・詠歌、和讃の概略と歴史
3. 宗教音楽、布教活動と実践
4. 誕生和讃 (所作全般)
5. 相互供養和讃 (誕生和讃)
6. 楽理、宗教音楽
7. 生かせ いのち (誕生和讃)
8. 遍照尊 (誕生和讃)
9. 楽理、宗教音楽 (個人発表予告)
10. 個人発表
11. めぐみの光がゆき
12. 法悦歡喜和讃
13. 楽理、宗教音楽
14. 地藏菩薩 (テスト予告)
15. 前期テスト (前期履修曲より)

【後期】

1. 前期履修曲復習総括
2. みあかし
3. 宗教音楽、布教活動と実践
4. 御願前
5. 高野の四季
6. 楽理、宗教音楽
7. 心経和讃 (個人発表予告)
8. 個人発表
9. 妙遍 (所作全般)
10. 楽理、宗教音楽
11. 入定和讃
12. 梵音 (所作全般)
13. 楽理、宗教音楽 (テスト予告)
14. 後期テスト
15. 後期履修曲復習総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ曲を、声を出して何度もお唱えし練習をすること。(60分)

テキスト

オリエンテーション時に購入する書籍・法具等の説明をする。

参考書・参考資料等

オリエンテーション時参考書を指示する。

学生に対する評価

前期実技発表(40%)、後期実技発表(40%)、授業参加の積極性(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 他の人と一緒に唱える事が出来る。
 (B) 一人でお唱えだけ出来る。
 (A) 2～3曲を安定して唱え、所作も少し出来る。
 (S) 一人で数曲を安定して唱える事ができ、所作もできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

受講した年数により詠階を授与する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の住職である教員が、僧侶としての経験と、長年にわたる御詠歌の実務実績、指導実績を踏まえた講師により、御詠歌を通して布教の重要性を認識させる。高野山内寺院の住職である教員が、高等学校、尼僧学園等の指導実績を踏まえ宗教音楽について指導する。

科目名	漢字 I						学期	通年	
副題	書道学・漢字学の中国伝統的実践				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	M-06-026	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

現在世界的にも特異な表意文字の重要性を理解することを思想の根底とする。古典の臨書を基本から学ぶことにより、書学において徹底的な法帖の形臨を土台に、背臨を経て文字結構の時代的特徴を認識し、自己批評や学生間での相互批評をもって最後は個々に作品課題の制作を行う。受講生自身での発見からの実践を目的とした国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根拠にした指導を行う。授業はすべて繁体字(旧漢字)をもって理解する。また書道学・漢字学を通して、東洋を中心とした他の学問分野に関連する意識を最重要視する。

授業の到達目標

1. 「眼高手低、手高眼低」を書学原点として、各時代における古典臨書の基本的認識。2. 「尚古思想」を根拠に漢字を扱う上での歴史的関連性の認識。3. 最終的に作品制作をもって臨書で培った基礎を体現する。4. 緑に囲まれた自然豊かな高野山において日本の書聖空海を实践でもって感じる意識を持つ。5. 繁体字(旧漢字)の理解を持ち古代文献を扱う基礎とする。6. 前期の心経作品は、2月に開催される高野山大学学外書道展に展示する。その際の表具代等は個人負担とする。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスによる書を学ぶ上での注意点及び漢字の歴史の概要
2. 顔真卿『多寶塔碑』の形臨(2回目の受講生は「張猛龍碑」)①
3. 顔真卿『多寶塔碑』の形臨(Ⅱ)②
4. 顔真卿『多寶塔碑』の形臨(Ⅲ)③
5. 褚遂良『雁塔聖教序』の形臨(2回目の受講生は「張玄墓誌」)①
6. 褚遂良『雁塔聖教序』の形臨(Ⅱ)②
7. 褚遂良『雁塔聖教序』の形臨(Ⅲ)③
8. 前半紙臨書作品の提出
9. 二つの法帖を比較臨書(形臨及び背臨)
10. 自分で法帖を1つに絞り、自身の考えた方法で創作に繋がる練習を行う。
11. 背臨課題における自身の理解度を確認する。
12. 写経創作①(歴史的文書の意義)
13. 写経創作②(写経体や異体字の認識)
14. 写経創作③(原文の書き方)
15. 予備(作品提出までの再度確認及び反復練習)

【後期】

1. 『摩山刻石』の形臨(2回生以上は『礼器碑』)①
2. 『摩山刻石』の形臨(Ⅱ)②
3. 『摩山刻石』の形臨(Ⅲ)③
4. 鄧石如『白氏草堂記』(2回生以上は『礼器碑』以外で自分で選択)①
5. 鄧石如『白氏草堂記』(Ⅱ)の形臨②
6. 鄧石如『白氏草堂記』(Ⅲ)の形臨③
7. 前半紙臨書作品の提出、呉讓之『崔子玉座右銘』の形臨①
8. 呉讓之『崔子玉座右銘』(Ⅱ)の形臨②
9. 呉讓之『崔子玉座右銘』(Ⅲ)の形臨③
10. 自分で法帖を1つに絞り再度臨書(形臨及び背臨)する。①
11. 自分で法帖を1つに絞り再度臨書(形臨及び背臨)する。②
12. 半切の制作に至る独自の練習①
13. 半切の制作に至る独自の練習②
14. 半切の制作に至る独自の練習③
15. 予備(作品提出までの再度確認及び反復練習)

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の授業に備える。また積極的に下山し出来るだけ多くの展覧会を見て学んで来る(120分以上)

テキスト

・二玄社法書選(二玄社):40 顔真卿『多寶塔碑』、34 褚遂良『雁塔聖教序』/56『鄧石如集』、58『呉照載集』2回目の受講生……23『張猛龍碑』、26『墓誌銘集・下』/3『石門頌』、5『礼器碑』、8『曹全碑』、9『張遷碑』※写経用紙セット LA26-59(各書店にて購入)

参考書・参考資料等

・字書:『字源』、伏見沖敏編『書道字典』(角川書店)、『清人篆隸字典』(雄山閣)等・その他必要に応じて個々に指示したり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。・各学期ごとに採点し、平均点を算出する。そのため欠席が、各学期 1/3 を超えた場合その時点で失格とする。(欠席各ー3点、遅刻各ー1点)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 法帖の形臨ができる。
- (B) 学んだ法帖の背臨ができる。
- (A) 臨書を基にした高いレベルでの創作ができる。
- (S) 自身で研究した長落款(跋文)を含めた高いレベルでの創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・休み時間の間に毎回の課題(作品を前に貼ってもらい、授業の前半部分でフィードバックを行う。・毎回の課題は作品(レポート)として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

その他

・筆(太筆・細筆)、墨(原則として墨汁は許可しない)、半紙用毛氈、半紙、文鎮は個々に準備のこと(ガイダンス時に説明する)。・書道実技の講座として、毎回の課題が課され、授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。課題は半切画宣紙を使用する。・休み時間のうちにすべての準備を済ませ、授業に臨むこと。・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。全出席が望ましい、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が添削しながら上達させることを目的とする。

科目名	かな I					学期	通年		
副題	かなの基本から古筆の臨書へ				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	M-06-027	実務経験の有無	有	関連DP	2,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】「かな」の成立の歴史を知り、字母を覚える。かなの運筆を理解し正しく表現する。行書きから散らし書きへと発展させ作品に仕上げる。【後期】かな古筆を臨書する意義と心得を理解する。古筆の臨書を通し、書写形式や書風、連綿の特徴を理解し、かなの多様な表現ができるようになる。古筆を臨書することにより、かな特有の「流動美」や「変化の妙」について考えることができるようになる。

授業の到達目標

【前期】「かな」成立の歴史を知り、ひらがな単体と変体仮名から二字連綿、三字連綿、行書きから俳句のちらし書きのかな創作ができるようになる。【後期】古筆の書風、連綿等の特徴を理解し仮名の多様な表現ができるようになる。

授業計画

【前期】	【後期】
1. 講義目標・概要の解説・アンケート	1. 古筆臨書（蓬萊切）1
2. かなの成立の歴史を解説・かなの基本的な線の練習	2. 古筆臨書（蓬萊切）2
3. 「いろは歌」による単体練習・字母説明	3. 古筆臨書（高野切第3種）1
4. 「変体仮名」解説・実習・字母テスト	4. 古筆臨書（高野切第3種）2
5. 「いろは歌」単体、作品提出	5. 古筆臨書（高野切第3種）3
6. 連綿の解説・実習（二字連綿・三字連綿）	6. 古筆臨書（高野切第1種）1
7. 連綿の解説・実習（多字連綿）	7. 古筆臨書（高野切第1種）2
8. ちらし書きの解説・実習1「春の俳句」	8. 古筆臨書（関戸本古今和歌集）1
9. ちらし書きの実習2「夏の俳句」	9. 古筆臨書（関戸本古今和歌集）2
10. ちらし書きの実習3「秋の俳句」	10. 古筆臨書（関戸本古今和歌集）3
11. ちらし書きの実習4「冬の俳句」	11. 古筆臨書（曼殊院本古今和歌集）1
12. ちらし書き創作1、資料作り	12. 古筆臨書（曼殊院本古今和歌集）2
13. ちらし書き創作2、作品制作	13. 古筆臨書（曼殊院本古今和歌集）3
14. ちらし書き創作3、作品提出	14. 古筆臨書（針切）1
15. 古筆蓬萊切解説、臨書の仕方解説と実習	15. 古筆臨書（針切）2 まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる(120分) 事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。(60分)

テキスト

石飛博光他著「書道Ⅰ」東京書籍（高等学校芸術科用 2東書 書Ⅰ701）
石飛博光他著「書道Ⅱ」東京書籍（高等学校芸術科用 2東書 書Ⅱ701）小堀南岳堂書店で購入

参考書・参考資料等

「日本名筆選 1 高野切第1種」二玄社、「日本名筆選 5 高野切第3種」二玄社、「日本名筆選 19 関戸本古今集」二玄社、「日本名筆選 7 曼殊院本古今集」二玄社、「日本名筆選 25 針切」二玄社、

学生に対する評価

授業提出課題（70%）、授業への主体的な取り組み姿勢・態度（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 筆を正しく持ち、正しく運び、基本的な筆使いができる。
- (B) かな創作、古筆の臨書ができる。
- (A) かな創作、古筆の臨書が確実にできる。
- (S) 高いレベルでの創作、臨書が自分でできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他

テキスト及び書道用具一式・筆（かな小筆）、かな用墨、かな半紙、硯、毛氈、文鎮、水差し、創作用の半懐紙、臨書用紙は前もって購入すること。・粘り強く実習に取り組むこと。・授業以外の課題が毎週課される。・授業中スマホ使用禁止。90分着席しておくことができるように集中力が必要。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とす。・前期欠席が5回になった時点で成績は出ない。出席不可。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いの実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	梵字悉曇A／梵字悉曇(別)						学期	通年	
副題	梵字悉曇の基礎知識と実践				授業方法	実技	担当者	齋藤天譬	
ナンバリング	M-01-028	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

摩多・体文・切継など、梵字を書きながら学ぶ。

授業の到達目標

梵字悉曇の基礎知識の修得

授業計画

【前期】

1. 年間授業計画の説明
2. 梵字・悉曇の伝来と歴史
3. テキストを読みながら説明
4. テキストを読みながら説明
5. 筆を使って実習通摩多 12 文字
6. 筆を使って実習通摩多 12 文字
7. 筆を使って実習通摩多 12 文字
8. 別摩多 4 文字他
9. 別摩多 5 文字他
10. (ka) (kha) (ga) の 3 文字
11. (gha) (ṅa) の 2 文字
12. (ca) (cha) の 2 文字
13. (ja) (jha) (ṅa) の 3 文字
14. (ṭa) (ṭha) (ḍa) の 3 文字
15. (dha) (ṇa) の 2 文字

【後期】

1. 筆を使って実習 (ta) (tha) の 2 文字
2. " (da) (dha) の 2 文字
3. " (na) (pa) の 2 文字
4. " (pha) (ba) の 2 文字
5. " (bha) (ma) の 2 文字
6. " (ya) (ra) (la) の 3 文字
7. " (va) (ṣa) (ṣa) の 3 文字
8. " (sa) (ha) の 2 文字
9. " 重字の 2 文字
10. 塔婆の書き方
11. 刷毛書体について
12. 三尊仏について
13. 光明真言①
14. 光明真言②
15. 諸真言について

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味を理解しておくこと (90 分) 授業で学んだ文字を練習しておくこと (90 分)

テキスト

児玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房「小堀南岳堂」で購入

参考書・参考資料等

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』

学生に対する評価

授業参加の積極性 (20%)、作品提出 (80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 習った「梵字」を書くことが出来る。
 (B) 「梵字」に慣れて、上達が見られる。
 (A) きれいな梵字を書くことが出来る。
 (S) 「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法

質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

その他

書道用具を準備すること。半紙も必要である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山内寺院の住職である教員が、真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、習字を通して、その上達を指導する。

科目名	伝統文化(茶道)						学期	通年	
副題	茶の湯の理論と実践				授業方法	実技	担当者	岡本文音	
ナンバリング	M-26-029	実務経験の有無	無	関連DP	4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

日本の伝統的な文化のひとつである茶の湯(茶道)の理解を深めるために、初風炉・開炉・初釜などの茶会を経験し、また実際に基本的な所作や初歩の点前(盆略点前)を修得する。くわえて茶の湯(茶道)の歴史・文化について知る。そのうえで受講生自らが茶会を企画し実践し、亭主側と客側の体験をし、それらをとおして、茶の湯(茶道)の精神や美意識について考える。

授業の到達目標

茶の湯(茶道)における、礼の仕方・歩き方、茶のいただき方などの基本的な所作、および初歩の点前(盆略点前)ができるようになる。茶の湯(茶道)の歴史・文化について学び、思想や美意識について考察できるようにする。

授業計画

【前期】

1. 講義 茶道概説 茶事(茶会)のながれ
2. 実習 客の所作と心得1 お茶のいただき方(薄茶)
3. 実習 客の所作と心得2 席入りの仕方
4. 講義 茶の湯の文化1 茶道史 茶の湯以前
5. 実習 盆略点前1 割稽古
6. 実習 盆略点前2 割稽古
7. 講義 茶の湯の文化2 茶道史 草創期の茶の湯
8. 実習 盆略点前3 割稽古
9. 実習 盆略点前4 割稽古
10. 講義 茶の湯の文化3 茶道具について
11. 実習 盆略点前5 通し稽古
12. 実習 盆略点前6 通し稽古
13. 講義 茶の湯の文化4 茶書講読『南方録』『覚書』の巻から
14. 実習 盆略点前6 通し稽古
15. 実習 茶会体験 風炉の茶会(夏茶事)

【後期】

1. 講義 茶の湯の文化5 茶書講読『南方録』『滅後』の巻から
2. 実習 盆略点前の復習1 割稽古
3. 実習 盆略点前の復習2 通し稽古
4. 実習 盆略点前の復習3 通し稽古
5. 講義 茶の湯の文化6 茶書講読『南方録』『墨引』の巻から
6. 実習 客の所作と心得3 お茶のいただき方(濃茶)
7. 実習 茶会体験 炉開きの茶会
8. 講義 茶の湯の文化7 茶道史 近代茶道
9. 実習 茶杓削り
10. 実習 茶会の企画と実践1
11. 実習 茶会の企画と実践2
12. 実習 茶会の企画と実践3
13. 講義 茶の湯の文化8 茶書講読『心の文』
14. 実習 茶会体験 新年の茶会(初釜)
15. 実習 七事式

準備学習(予習・復習)・時間

実技実習では、毎回の実技内容を振り返り、繰り返し復習し、実技内容を身につける。(60分) 体験実習では、体験成果を整理し、レポートにまとめる。(60分) 講義では、事後学修として授業で学んだ資料およびテキストを再読し、内容の要点をノートに整理する。(90分)

テキスト

学校茶道編集委員会編 『学校茶道(初級編)』 財団法人茶道文化振興財団発行 平成15年出版 授業時に一括購入

参考書・参考資料等

①谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社2007年 ②谷晃著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社2005年

学生に対する評価

授業時に随時課す提出物(30%) 茶会の企画と実践(35%) 期末試験(35%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な客の所作と盆略点前がひと通りできる
- (B) 基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある
- (A) 客の所作と盆略点前を修得している
- (S) 茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

茶室に入れる人数に限りがあるため、受講生が多い場合は面談によって選考する。実習の費用(茶・菓子・炭)として、前期・後期、それぞれ3,500円必要である。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	伝統文化(華道)						学期	通年
副題	法会及び灌頂に生けられる華の意味について				授業方法	実技	担当者	五味和樹
ナンバリング	M-26-030	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

【前期】仏様にお花をお供えしたのが始まりとされる日本の華道の歴史を現代まで解説すると共に、華道の基本の解説と実技の実習を行なう。【後期】高野山の伝統行事が行なわれる会場を荘厳する真華の解説と真華の実技実習。

授業の到達目標

【前期】日本の伝統文化である華道の歴史の理解と基本的実技の修得。【後期】高野山の伝統行事(年中行事)に生けられる伝統華・荘厳真華の理解

授業計画

【前期】

【後期】

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 華道高野山についての解説 3. 供華様式から投入花の解説 4. 投入花から現代花の解説 5. 盛花の解説 6. 盛花の実技実習 7. 盛花の変化態の解説と実習 8. 投入花の解説と実習 9. 投入花の変化態の解説と実習 10. 格花の解説と実習 11. 格花の変化態の解説と実習 12. 自由花の解説と実習 13. 自由花のテーマのもとめ方と実習 14. 自由花のテーマを決めた実習 15. 格花寸胴での実習 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 真華の解説 2. 五段華の解説 (内談義五段華) 3. 五段華の解説 (勸学会五段華) 4. 真華実習 (1) (基礎) 5. 真華実習 (2) (変化態) 6. 二つ真の解説 7. 仏生会の華の解説 8. 白羽の矢竹の解説 9. 小品真華の解説と実習 10. 法印転衣式の華の解説 11. 合真の解説 12. 元三の花の解説 13. 万年青の解説と実技 14. 真華・格花の三態九姿の解説 15. 水仙の葉組 |
|--|--|

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の実習内容を振り返り、他の学生の作品も鑑賞し、自分の作品との相違や今後参考にしたいと思う点を確認し、今回の作品を手直しする。(60分)

テキスト

華道高野山教本

参考書・参考資料等

特に無し

学生に対する評価

実技定期試験 (60%)、小試験 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 盛花・自由花・格花の基本を理解し、生けられる。
 (B) 作品に創意・工夫が見られる。
 (A) 高野山の伝統華である真華を理解し、生けられる。
 (S) すべての花態を理解し、特に技術的に優れている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

実技実習時に花材費 1,000 円～1,200 円程度必要である。材料の入荷状況によっては講義実施の順序を入れ替えることがある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教芸能(宗教舞踊)						学期	通年	
副題	御詠歌に付いた舞踊を舞う				授業方法	実技	担当者	高祖・辻	
ナンバリング	M-26-031	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

宗教舞踊の基本的な身体の動かし方・理念・法具の扱い方・教典の譜の見方等基本を学ぶ。御詠歌の歌詞の意味、舞踊で表現されている意味を学び、心の表現の仕方について学ぶ。

授業の到達目標

宗教舞踊の基礎を身につけ、練習を積み重ねることにより、心技体を磨く。

授業計画

【前期】

1. 宗教舞踊を見てみる。本的理念・法具(持ち物)の扱い方の解説。
2. 「金剛舞踊和讃」実習(1) 身体の動かし方の基本を学ぶ。
3. 「金剛舞踊和讃」実習(2)
4. 「金剛舞踊和讃」実習(3) 仕上げ
5. 「三宝和讃」実習(1)
6. 「三宝和讃」実習(2)
7. 「三宝和讃」実習(3)
8. 「みあかし」実習(1)
9. 「みあかし」実習(2)
10. 「みあかし」実習(3)
11. 「みあかし」実習(4) 歌詞の解説
12. 「みあかし」実習(5)
13. 「みあかし」実習(6) 前期試験に向けた実技試験の実技の復習するべき注意点の説明
14. 「みあかし」の仕上げ
15. 前期実技試験と講評

【後期】

1. 「光明真言和讃」実習(1)
2. 「光明真言和讃」実習(2)
3. 「光明真言和讃」実習(3) 歌詞の説明
4. 「光明真言和讃」実習(4)
5. 「光明真言和讃」実習(5)
6. 「光明真言和讃」実習(6) 仕上げ
7. 「密厳浄土誓願和讃」実習(1)
8. 「密厳浄土誓願和讃」実習(2)
9. 「密厳浄土誓願和讃」実習(3)
10. 「密厳浄土誓願和讃」実習(4)
11. 「密厳浄土誓願和讃」実習(5)
12. 「密厳浄土誓願和讃」実習(6)
13. 「密厳浄土誓願和讃」実習の仕上げ
14. 「密厳浄土誓願和讃」・登壇の仕方
15. 後期実技試験と講評・1年間の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだ実技の注意点を中心に練習をしておくこと(60分)

テキスト

高野山宗教舞踊会師範会監修教典(1曲ずつの教典)を大師教会で購入

参考書・参考資料等

高野山金剛流宗教舞踊基本教典 ・『はじめての「高野山宗教舞踊」入門』セルバ出版

学生に対する評価

授業中の技術の習熟度(30%)・努力度(30%)・実技試験(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本動作(合掌の形・立座の仕方・法具の扱い方)ができる。
 (B) 御詠歌に合わせてみんなと一緒に舞う事ができる。
 (A) 御詠歌に合わせて一人で舞う事が出来る。
 (S) 歌詞を理解し、心を表現しながら一人で舞う事ができる。

課題に対するフィードバックの方法

前後期の試験の講評を行い注意・復習すべき点を指導する。

その他

単位取得者は希望により『高野山金剛流宗教舞踊会』の〔入門〕と〔初伝〕が取得できる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山宗教舞踊会大師範で有り、教室・司部弟子指導の経験、本山宗教舞踊研究部員・巡回布教派遣講師の経験を持つ教員が、初心者に体の使い方のわかりやすい指導と曲の深い理解・実際の舞踊登壇への完成を指導する。

科目名	加行 I						学期	通年	
副題	前期加行の体験を振り返る				授業方法	実習	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	M-01-032	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	1	他	A

授業の目的と概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（前期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は前期加行（十八道／金剛界）とし、事後のレポートを作成する。

授業の到達目標

真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

授業計画

1. 加行申し込み：前期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2. 前期加行①
3. 前期加行②
4. 前期加行③
5. 前期加行④
6. 前期加行⑤
7. 前期加行⑥
8. 前期加行⑦
9. 前期加行⑧
10. 前期加行⑨
11. 前期加行⑩
12. 前期加行⑪
13. 前期加行⑫
14. 前期加行⑬
15. 前期加行結願後：所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。受講登録はこの時点で行うこと。

準備学習(予習・復習)・時間

加行での体験を整理し、文章化する (30 分)

テキスト

加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

学生に対する評価

加行結願 (50%)、事後レポート：テーマ「前期加行を終えて」2,000 字程度 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 前期加行の結願、および事後レポートの提出。
 (B) 上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
 (A) 上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
 (S) 上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポート返却時に講評を実施する。

その他

・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。・受講登録は前期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。・結願していない者のレポート提出は認めない。・事後レポートの未提出者の単位は認めない。・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。

科目名	加行Ⅱ						学期	通年
副題	後期加行の体験を振り返る				授業方法	実習	担当者	密教育学科主任
ナンバリング	M-01-033	実務経験の有無	無	関連DP	3	単位数	1	他 A

授業の目的と概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（後期・約50日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は後期加行（胎蔵／護摩）とし、事後のレポートを作成する。

授業の到達目標

真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

授業計画

1. 加行申し込み：後期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2. 後期加行①
3. 後期加行②
4. 後期加行③
5. 後期加行④
6. 後期加行⑤
7. 後期加行⑥
8. 後期加行⑦
9. 後期加行⑧
10. 後期加行⑨
11. 後期加行⑩
12. 後期加行⑪
13. 後期加行⑫
14. 後期加行⑬
15. 後期加行成満後：掲示される所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。

準備学習(予習・復習)・時間

加行での体験を整理し、文章化する (30分)

テキスト

加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

学生に対する評価

加行成満 (50%)、事後レポート：テーマ「後期加行を終えて」2,000字程度 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 後期加行の成満、および事後レポートの提出。
 (B) 上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
 (A) 上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
 (S) 上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポート返却時に講評を実施する。

その他

・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。・受講登録は後期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。・結願していない者のレポート提出は認めない。・事後レポートの未提出者の単位は認めない。・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。

科目名	宗教思想史 IS						学期	前期	
副題	南方熊楠と真言密教				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	M-03-034	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

近代日本の「知の巨人」として知られる生物学者・民俗学者の南方熊楠と高野山のかかわりを中心に、真言密教の近代化と南方の「マンダラ思想」について学習する。

授業の到達目標

真言密教の近代化について基礎的な知識を養うと共に、その牽引者であった土宜法龍との交流に多大な影響を受けた南方の思想を、真言密教の立場から読み解くことができるようになる。

授業計画

1. ガイダンスの後、南方熊楠・土宜法龍の人物紹介
2. 「神社合祀に関する意見」を読む
3. 南方の粘菌学
4. 南方熊楠の前半生（少年期～ロンドン滞在期）
5. 「龍聖法印に与ふる書」を読む
6. 土宜法龍の前半生（東京遊学～世界一周旅行）
7. 後七日御修法再興運動
8. シカゴ万国宗教会議
9. 南方・土宜往復書簡を読む（ロンドン滞在期）
10. 南方・土宜往復書簡を読む（那智隠栖期）
11. 南方・土宜往復書簡を読む（第一マンダラ）
12. 南方・土宜往復書簡を読む（第二マンダラ）
13. 「月下氷人——系図紛乱の話」を読む
14. 「二而不二」の思想
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと（90分）。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90分）。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

・南方熊楠『南方熊楠全集』（平凡社、1971年） ・土宜法龍『木母堂全集』（六大大新報社、1924年） ・奥山直司・雲藤等・神田英昭編『高山寺蔵 南方熊楠書翰 土宜法龍宛 1893-1922』（藤原書店、2010年） ・小田龍哉『ニニフニ 南方熊楠と土宜法龍の複数論理思考』（左右社、2021）

学生に対する評価

期末レポート（70%）、授業中の発言、発表（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 南方熊楠の思想を説明できる。
 (B) 真言宗の近代化について大まかな見取り図を説明できる。
 (A) 日本仏教の近代化と近代日本思想について大まかな見取り図を説明できる。
 (S) 曼荼羅の思想について独自の知見を述べるができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教思想史ⅡS						学期	後期	
副題	日本人のメンタリティのあゆみ				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M-03-035	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

宗教は、時代や社会のメンタリティを映し出す鏡である。本授業では、古代から近現代までの日本人の宗教思想のトピックスを取り上げながら、歴史学の視点でその変遷を概観し、日本人のメンタリティの変化のあり様をさぐり、日本人の精神性のルーツを探求する。

授業の到達目標

- ①日本人のメンタリティの変化をたどることによって、それぞれの時代のムードを感じとることができる。
- ②現在の日本人の心のあり様と、これからの日本人にとって宗教とはどうあるべきかについて、自分なりの考えを提示することができる。

授業計画

1. 宗教のはじまりをさぐるー人類はいつ「心」を持つようになったのかー
2. 日本人の基層信仰ー自然崇拝と八百万の神々ー
3. 仏教の伝来と受容ー僧尼令にみる国家と仏教ー
4. 大仏造立と神仏習合ー民衆への仏教のひろがりー
5. 「平安仏教」の成立ー「日本仏教」の成立ー
6. 来世への希求ー末法の到来ー
7. 現世をどう生きるかー憂世の克服ー
8. 東山文化の世界ー「わび・さび」の背景ー
9. 日本の伝統の源流ー総合と啓蒙の時代ー
10. 浮世へのまなざしー儒学による社会秩序の構築ー
11. 日本古典への回帰ー“復古”への潮流ー
12. 世直しの気運ー民衆宗教の勃興ー
13. 廃仏毀釈と文化財保護ー精神文化の喪失ー
14. 「総力戦体制」時代の宗教界ー「国家神道」体制の宗教ー
15. 日本人のメンタリティのゆくえ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分） 事後学修：授業内容について関心をもったテーマや人物について調べる（60分）

テキスト

テキストは使用せず、テーマごとにプリントを配布し、授業を進める。

参考書・参考資料等

①家永三郎『日本文化史〔第二版〕』（岩波新書〔黄版〕187、2007年。初版1982年） ②田尻祐一郎『江戸の思想史人物・方法・連環』（中公新書2097、2011年） ③村上重良『国家神道』（岩波新書〔青版〕770、2010年。初版1970年）。

学生に対する評価

期末レポート（70%）、毎回の授業時での課題（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本人のメンタリティの歴史の変遷について説明することができる。
- (B) 日本人のメンタリティについて理解し、現在の日本人の精神性のルーツを説明することができる。
- (A) 日本人のメンタリティについて深く理解し、現代の宗教に関する諸課題について論理的に述べるることができる。
- (S) 日本人のメンタリティについて深く理解し、これからの日本人にとって、宗教がどうあるべきかを論理的に述べるることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①仏像や絵画などの美術作品は、それが制作された時代の宗教思想が表現された造形物である。講義をふまえて、そうしたさまざまな造形物を実際に鑑賞し、それらが制作された時代の人々の思いに積極的に触れる時間をつくるように心がけること。講義でも、博物館・美術館などの展覧会について紹介する。②履修者は、博物館学芸員資格の取得を目指すことが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	哲学S						学期	後期	
副題	哲学・宗教の歴史と基礎				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	M-08-036	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

西洋・東洋の哲学史・宗教史から、代表的な人物・思想・事項を学ぶ。知的な快楽「?」「!」を体験する。人間とは何か、世界とは何か、宗教とは何かについて考える。難解なものに向き合い、現実の人生における問題解決に哲学を活用し、自ら哲学する姿勢を身に付ける。授業後には、WebClassによる質問の提出を必須とする。

授業の到達目標

知っていること、理解していること、分からないことを自覚できる。じっくりと考える習慣を身に付ける。論理的に考えることができる。自分の言葉で論理的に説明できる。

授業計画

1. ガイダンス・哲学「パークリ」①
2. 哲学「パークリ」②
3. 哲学「パークリ」③質問回答
4. 中国思想「北宋の五子」①
5. 中国思想「北宋の五子」②
6. 中国思想「北宋の五子」③質問回答
7. 宗教「音楽と宗教」①
8. 宗教「音楽と宗教」②
9. 宗教「音楽と宗教」③質問回答
10. 哲学「パスカル」①
11. 哲学「パスカル」②
12. 哲学「パスカル」③質問回答
13. 中国思想「陸象山」①
14. 中国思想「陸象山」②
15. 中国思想「陸象山」③質問回答

準備学習(予習・復習)・時間

テキストを音読する。(10分) 分からない単語を調べる。(10分) 理解できないことを事前に書き出す。(10分) 質問事項を考える。(30分)

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

納富信留ほか『よくわかる哲学・思想』ミネルヴァ書房、2019年 湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房、2022年 櫻井義秀・平藤喜久子編著『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015年

学生に対する評価

平常の質問 (50%) 論述形式の期末試験 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義内容について、適切な疑問を提示できる。
 (B) 「哲学的な問い」を設定できる。
 (A) 「哲学的な問い」に論理的に回答できる。
 (S) 「哲学的な問い」への回答に説得力を持たせることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	心理学ⅠS/心の科学(別)1							学期	前期
副題	心理学の歴史と基礎Ⅰ				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	M-10-037	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達の視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3. 感覚と知覚について学ぶ。＜感覚の仕組み＞
4. 感覚と知覚について学ぶ。＜知覚の仕組み＞
5. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の分類＞
6. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の過程・長期記憶の種類＞
7. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜脳と記憶について＞
8. 学習について学ぶ。＜古典的条件付け＞
9. 学習について学ぶ。＜道具的条件付け・学習と認知＞
10. 学習について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
11. 言語と思考について学ぶ。＜言語の発達＞
12. 言語と思考について学ぶ。＜概念カテゴリー＞
13. 言語と思考について学ぶ。＜推論とイメージ思考＞
14. 意識と認知システムについて学ぶ。
15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと(90分)

テキスト

梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年(書店で購入)

参考書・参考資料等

森津太子・森公美子(編著)『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇(編)『図説心理学入門』、誠信書房、2005年 梅本堯夫・大山正『心理学への招待 こころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
- (B) 感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを理解している。
- (A) 感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを説明できる。
- (S) 感覚・記憶・学習・言語と思考および脳生理学の理論から心のメカニズムを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

ICTを活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット(学内のWiFi利用可)に接続できるスマートフォン、タブレット、PCを利用することがある。また、LMSを通じて授業の連絡を行ったり、感想・質問や課題を提出してもらったりする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師およびガイダンスカウンセラーの資格を有する教員が、心理支援の実務経験を活かして、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	心理学ⅡS/心の科学(別)2							学期	後期
副題	心理学の歴史と基礎Ⅱ				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	M-10-038	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

授業の到達目標

社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2. 動機づけと情動について学ぶ。〈動因とホメオスタシス〉
3. 動機づけと情動について学ぶ。〈誘因動機づけ〉
4. 動機づけと情動について学ぶ。〈学習と動機づけ〉
5. 性格理論を学ぶ。〈特性論と類型論〉
6. 性格理論を学ぶ。〈アイゼンクの性格理論〉
7. 性格理論を学ぶ。〈ビッグファイブ理論〉
8. 人間の発達理論と課題について学ぶ。〈ピアジェの発達理論〉
9. 人間の発達理論と課題について学ぶ。〈フロイトの心理性発達理論〉
10. 人間の発達理論と課題について学ぶ。〈エリクソンのライフサイクル理論〉
11. 対人関係の心理学を学ぶ。〈集団の機能〉
12. 対人関係の心理学を学ぶ。〈意思決定〉
13. 対人関係の心理学を学ぶ。〈社会的手抜き・集団規範〉
14. 個人と社会の心理について学ぶ。
15. まとめ。疑問点の再確認等。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと(90分)

テキスト

梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年(書店で購入)

参考書・参考資料等

森津太子・森公美子編著『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇編『図説心理学入門』、誠信書房、2005年 梅本堯夫・大山正『心理学への招待 ころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をする。
 (B) 基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学(社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学)の領域を理解する。
 (A) 心理学の基礎理論が全般を説明できる。
 (S) 心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

ICTを活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット(学内のWiFi利用可)に接続できるスマートフォン、タブレット、PCを利用することがある。また、LMSを通じて授業の連絡を行ったり、感想・質問や課題を提出してもらったりする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師およびガイダンスカウンセラーの資格を有する教員が、心理支援の実務経験を活かして、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	情報処理					学期	通年		
副題	情報(データ)の分析の大切さを知る				授業方法	講義	担当者	木地茂典	
ナンバリング	M-13-039	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

情報処理という中でこれから必要とされるデータ処理の方法を身につける。【前期】基本的なことを通してデータ処理から分析ができるようになる。数学的論理思考が必要。【後期】前期を踏まえて、データ内容から分析まで表現できるものとしてプレゼンテーションし、情報の一般知識を活用してひとつの処理結果を制作する。

授業の到達目標

情報ネットワーク社会の中で情報を利用する上での重要な基礎技術を、データ分析を通して修得する。【前期】数学的論理を踏まえ基本的な office 機能の利用をもってプレゼンテーションができるようになる。【後期】実践的に表現していく中で、情報理論の体系化を修得をし、分析力身につける。

授業計画

【前期】

- 1.ガイダンス(序章) 一年間の流れを説明しながらデータサイエンスの説明をする
- 2.Office 機能の確認～WORD を基本使いこなす準備と機能の知識確認
- 3.Word で文書作成(1 枚の文書作成)～企画書作成の例を参考に発想に行っていく
- 4.Word で文書作成(表を挿入しながらの文書作成)～文書策作成に伴い、表の挿入を行っていく
- 5.Excel での文書・表作成(基本的な機能操作～関数)～関数の使い方の基本を身につける
- 6.Excel での文書・表作成(機能を使いながらの実表作成)～総合的にまとめる作業
- 7.情報伝達について(スライドを用いながらの伝達)～パワーポイントを利用しながらの手順の確認
- 8.情報伝達の理論～実践的な手法から講義式に理論の確認
- 9.暗号化と情報管理～データ・サイエンス的に重要なものである
- 10.データベースの理解と活用～実践を交えながら理解度を深める
- 11.オペレーティングシステムの理解～参考動画で確認作業を試みる
- 12.サーバとネットワークの構造(基本編)～動画を資料にして確認作業をしていく
- 13.サーバとネットワークの構造(実践編)～今までのを参考に発想のものを作成していく
- 14.プレゼンテーション～数時間で学んだ過程で作成し始める
- 15.総括機能の活用～すべての総括とプレゼンテーションの報告

【後期】

- 1.問題解決手法一般について～毎回課題を提示しての解決法を考察
- 2.問題の表し方と解決策について(同様)
- 3.データの分析から評価・解決手順～データ分析の手順の実践編
- 4.プログラム言語と論理について～一つのプログラムを提示しての確認作業
- 5.構造プログラムの設計方法論
- 6.構造プログラムの設計実践編～方法論から実践作成法を身につける
- 7.分析論(基本データ分析方法)～各データからの分析方法を確認
- 8.分析論(データの解析的な活用)～具体的なデータからの解析方法を考えさす
- 9.情報活用論～動画参照からの方法論
- 10.情報活用による実践論～動画を参考にしながら学んでいく
- 11.情報メディアについて～動画を参考にしながら学んでいく
- 12.情報デザインについて
- 13.表現メディアの編集と表現について
- 14.情報メディア～まとめたプレゼンテーションによる総括報告
- 15.総括メディアのプレゼンテーション

準備学習(予習・復習)・時間

PC での実践に向けての体験的な知識を必要とするので、復習の学習時間が必要である。PC の利用が当たり前の社会である。それに関わる積み重ねが必要、毎回文章入力を課しているが、テーマを与えて学習を必要としていく(90 分)

テキスト

必要に応じて文献を提示していく。素材データを共有する。

参考書・参考資料等

毎回参考資料を提示していく。数学的論理・解決が必要でもあり随時提示していく。

学生に対する評価

レポート(30%)、発表(30%)、授業参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 情報機能を興味深く研究する姿勢が感じられること。
- (B) 情報機能が理解をされていてより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
- (A) 情報機能が技術的に把握していて、授業を通して認識・理解を探究できること。
- (S) 情報機能が技術的にできていて、授業を通じて認識・理解できていること。

課題に対するフィードバックの方法

課題を必要としていく。PC を使いこなせることがこの講座の必要性である。フィードバックに対することは毎回提示していく

その他

情報処理の講座を通して今後の社会に出た時の活用も含めてこれから A I がより一層の変化・進化していく中でそれをうまく自分のものになるように技術ももちろんだが、利用方法を見つける工夫を考える必要がある。情報機能の技術を年間通してどれだけ進歩させるかをひとつの評価になり、技術ではなくそれを用いた表現力を身につけることを目標にし、それを生かしてどのように作り上げるかを考えること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員としての経験を元に、社会に出た時の必要性を十分認識させていき、その活用が有意義に感じられるものにしていく。なお、ほとんどがまだまだ PC を使っていない現状であることを踏まえて最小限の使用方法を理解させていく。

科目名	日本文化A						学期	前期	
副題	日本史の大きな流れを学ぶ。				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	M-26-040	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

簡単な日本語のテキストを読み、留学生が日本史の大きな流れをつかめるようになる。

授業の到達目標

多角的に日本事情を学ぶ事を通して日本語能力を向上し、思考力を深め、物事を考察する能力を身につける。

授業計画

1. オリエンテーション 授業の進め方について
2. 1. 「いま、どこにすんでいますか」～6. 「いつの時代ですか」
3. 7. 「歴史をまなぶ」～8. 「ひとがすむー石器から土器へ」
4. 9. 「米をつくるー農耕と金属器の時代」
5. 10. 「統一政権の誕生ー古墳の時代」
6. 11. 「古代国家の形成ー律令時代」
7. 12. 「律令国家の変容ー貴族の時代」
8. 13. 「武士政権の登場ー貴族と武士の二重政権」
9. 考えてみようー「なぜ貴族の時代（平安時代）から武士の時代になったのか」
10. 14. 「武士社会の展開ー庶民と戦国大名の台頭」（前）
11. 14. 「武士社会の展開ー庶民と戦国大名の台頭」（後）
12. 調べてみようー戦国時代・戦国大名・文化
13. 発表しようー戦国時代・戦国大名・文化
14. 行ってみようー奥の院と戦国大名
15. 総まとめ：前期を振り返る

準備学習(予習・復習)・時間

授業前に必ず「学習者用ノート」を読んでおくこと。

テキスト

『留学生のための日本史』東京外国語大学編 山川出版社 『留学生のための日本史 学習者用ノート』東京外国語大学編 山川出版社

参考書・参考資料等

必要に応じて教師がプリントを配布

学生に対する評価

期末試験（40%）、小テスト（30%）、発表（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した内容を理解できている。
- (B) 学習した表現を正確に使用できている。
- (A) 学習した表現を応用できている。
- (S) 学習した表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポート提出：添削、講評を翌週に返却 発表：その場で講評

その他

日本史を通して、現在の日本文化について理解を深めてほしい。

科目名	日本文化B						学期	後期	
副題	日本史の大きな流れを学ぶ。				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	M-26-041	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

簡単な日本語のテキストを読み、留学生が日本史の大きな流れをつかめるようになる。

授業の到達目標

多角的に日本事情を学ぶ事を通して日本語能力を向上し、思考力を深め、物事を考察する能力を身につける。

授業計画

1. 1 5. 「全国統一の完成ーヨーロッパ人の来航と日本」
2. 1 6. 「幕藩体制の確立ー身分制と鎖国の時代」前
3. 1 6. 「幕藩体制の確立ー身分制と鎖国の時代」中
4. 1 6. 「幕藩体制の確立ー身分制と鎖国の時代」後
5. 江戸時代の日本文化について学ぼう
6. 江戸時代の日本文化について調べてみよう
7. 江戸時代の日本文化について発表しよう
8. 1 7. 「開港と日本の近代化ー明治維新の時代」前
9. 1 7. 「開港と日本の近代化ー明治維新の時代」後
10. 明治維新の日本について調べてみよう
11. 明治維新の日本について発表しよう
12. 1 8. 「帝国憲法体制の展開ー立憲主義から軍国主義へ」前
13. 1 8. 「帝国憲法体制の展開ー立憲主義から軍国主義へ」後
14. 1 9. 「現代日本の出発」
15. 総まとめ：1年間学んだことを思い出し話し合う

準備学習(予習・復習)・時間

授業前に必ず「学習者用ノート」を読んでおくこと。

テキスト

『留学生のための日本史』東京外国語大学編 山川出版社 『留学生のための日本史 学習者用ノート』東京外国語大学編 山川出版社

参考書・参考資料等

必要に応じて教師がプリントを配布

学生に対する評価

期末試験 (40%)、小テスト (30%)、発表 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した内容を理解できている。
- (B) 学習した表現を正確に使用できている。
- (A) 学習した表現を応用できている。
- (S) 学習した表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポート提出：添削、講評を翌週に返却 発表：その場で講評

その他

日本史を通して、日本文化について理解を深めてほしい。

科目名	日本文化C						学期	前期
副題	日本文化を読む				授業方法	講義	担当者	松本貴子
ナンバリング	M-26-042	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

現代日本社会の現状を反映した文章や、日本文化を理解する上で欠かせない人物、物事についての文章を読むことで、より深く日本を理解して欲しい。著名な小説、エッセイ、評論を通し、日本文化、事情や上質な日本語を学ぶ。同時に「読む、書く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。

授業の到達目標

大学生活、さらに日本社会に出た時に必要な日本語での自己表現力を身につける。学んだ内容について、感想を日本語でなめらかに発話できる。

授業計画

1. オリエンテーション 授業の進め方について
2. 『日本文化を読む』 1. 「途中下車」 宮本輝 読解
3. 『日本文化を読む』 1. 「途中下車」 宮本輝 感想を言う
4. 『日本文化を読む』 2. 「愛情としつけ」 河合雅雄 読解
5. 『日本文化を読む』 2. 「愛情としつけ」 河合雅雄 感想を言う
6. 『日本文化を読む』 3. 「贈るかたちと意味」 野田正彰 読解
7. 『日本文化を読む』 3. 「贈るかたちと意味」 野田正彰 感想を言う
8. 『日本文化を読む』 4. 「鞆」 安部公房 読解
9. 『日本文化を読む』 4. 「鞆」 安部公房 感想を言う
10. 『日本文化を読む』 5. 「平成おとぎ話」(1) 河合隼雄 読解 感想を言う
11. 『日本文化を読む』 5. 「平成おとぎ話」(2) 河合隼雄 読解 感想を言う
12. 『日本文化を読む』 6. 『主人』から『夫』へ 寿岳章子 読解 感想を言う
13. 『日本文化を読む』 7. 「安楽死ということば」 松田道雄 読解 感想を言う
14. 『日本文化を読む』 8. 「わずれ傘」 吉田道子 読解 感想を言う
15. 総まとめ 前期で学んだ表現を使い、総合的な感想を言う

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として教科書の該当ページを読み、内容把握をしてくること。(60分)

テキスト

『上級者向け日本語教材・日本文化を読む』

参考書・参考資料等

必要に応じてプリントを配布。

学生に対する評価

授業時の参加態度 (30%) 期末試験 (30%)、小テスト (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した文型や語彙・表現を理解できている。
- (B) 学習した文型や語彙・表現を正確に使用できている。
- (A) 学習した文型や表現を応用できている。
- (S) 学習した文型や語彙・表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法

語彙、文法の小テストを実施した際には、翌週に採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

その他

現時点での日本語力をさらに向上させ、日本語能力が身につくよう、読解、感想スピーチ、発表などを毎回実施したい。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本語文化D						学期	後期
副題	日本語文化を読む				授業方法	講義	担当者	松本貴子
ナンバリング	M-26-043	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

現代日本社会の現状を反映した文章や、日本語文化を理解する上で欠かせない人物、物事についての文章を読むことで、より深く日本を理解して欲しい。著名な小説、エッセイ、評論を通し、日本語文化、事情や上質な日本語を学ぶ。同時に「読む、書く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。

授業の到達目標

大学生活、さらに日本社会に出た時に必要な日本語での自己表現力を身につける。学んだ内容について、感想を日本語でなめらかに発話できる。

授業計画

- 『日本語文化を読む』 9. 「リーダーシップ論」 西堀榮三郎 読解
- 『日本語文化を読む』 9. 「リーダーシップ論」 西堀榮三郎 読解 感想を言う
- 『日本語文化を読む』 10. 「魚の骨」 山田稔 読解 感想を言う
- 『日本語文化を読む』 11. 「痛いといわなければ、痛くないのと同じです」 柳沢嘉一郎 読解
- 『日本語文化を読む』 12. 国字作成のメカニズム 阿辻哲次 読解
- 『日本語文化を読む』 13. 「足の表現力」 山口昌男 読解
- 『日本語文化を読む』 13. 「足の表現力」 山口昌男 様々な文化に発展させてみる
- 『日本語文化を読む』 14. 「ソムリエの妻」 加藤周一 読解 感想を言う
- 『日本語文化を読む』 15. 「自然という書物」 志村ふくみ 読解 感想を言う
- 『日本語文化を読む』 16. 「鼻」 芥川龍之介 読解
- 『日本語文化を読む』 16. 「鼻」 芥川龍之介 日本文学について学ぶ
- 『日本語文化を読む』 17. 「檸檬」 梶井基次郎 読解
- 『日本語文化を読む』 17. 「檸檬」 梶井基次郎 読解 感想を言う
- 『日本語文化を読む』 全体の中から印象深い内容について感想を言う
- 1年間を振り返り、日本語文化の特徴についての考察を述べる

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として教科書の該当ページを読み、内容把握をしていくこと。(60分)

テキスト

『上級者向け日本語教材・日本語文化を読む』

参考書・参考資料等

必要に応じてプリントを配布。

学生に対する評価

授業時の参加態度 (30%) 期末試験 (30%)、小テスト (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 学習した文型や語彙・表現を理解できている。
- 学習した文型や語彙・表現を正確に使用できている。
- 学習した文型や表現を応用できている。
- 学習した文型や語彙・表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法

語彙、文法の小テストを実施した際には、翌週に採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

その他

現時点での日本語力をさらに向上させ、日本語能力が身につくよう、読解、感想スピーチ、発表などを毎回実施したい。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文化E						学期	前期	
副題	自分の意見を論理的に伝える技術				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	M-26-044	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本語の表現技術を養成する。的確な表現を使い、正しい構造の文を書く。 JLPT N1 レベルの文法を理解する。

授業の到達目標

日本語で文を書くときの土台作り、基礎固めをすることで、基本的な表現技術が身につく。

授業計画

1. オリエンテーション：授業の進め方について
2. 1. 表記のしかた
3. 2. 文体 前
4. 2. 文体 後・練習
5. 3. モードチェンジ 前
6. 3. モードチェンジ 後・練習
7. 4. 主語と述語の関係 前
8. 4. 主語と述語の関係 後・練習
9. 5. 文のつながり 前
10. 5. 文のつながり 後・練習
11. 6. 小論文によく使われる表現 前
12. 6. 小論文によく使われる表現 後・練習
13. 7. 段落 前
14. 7. 段落 後・練習
15. 総まとめ：前期に学習したことを思い出し、文章に活かす

準備学習(予習・復習)・時間

予習は必要ないが、宿題が出た場合は必ず完成させること。(60分)

テキスト

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等

必要に応じて教師が配布する

学生に対する評価

宿題 (40%) 小テスト (20%) 期末テスト (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 学習した内容をある程度使いこなしている。
- (A) 学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
- (S) 学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

課題に対するフィードバックの方法

テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

その他

日本語の様々な段階の表現を理解し、慣れる。

科目名	日本文化F							学期	後期
副題	自分の意見を論理的に伝える技術				授業方法	講義	担当者	松本貴子	
ナンバリング	M-26-045	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

日本語の表現技術を養成する。的確な表現を使い、正しい構造の文を書く。 JLPT N1 レベルの文法を理解する。

授業の到達目標

日本語で文を書くときの土台作り、基礎固めをすることで、基本的な表現技術が身につく。

授業計画

1. 8. 要約文を書く 前
2. 8. 要約文を書く 中
3. 8. 要約文を書く 後・練習
4. 9. 説明文を書く 前
5. 9. 説明文を書く 後
6. 10. 意見文を書く 前
7. 10. 意見文を書く 後・練習
8. 11. 事実を示す方法 前
9. 11. 事実を示す方法 後
10. 12. 小論文のはじめとおわり 前
11. 12. 小論文のはじめとおわり 後・練習
12. アカデミックライティングの基礎 タイプⅠ 賛成・反対の意見を述べる (二項対立)
13. アカデミックライティングの基礎 タイプⅡ 利点と問題点を指摘し、解決策を述べる
14. アカデミックライティングの基礎 タイプⅢ 現状を説明し、解決策を述べる
15. 総まとめ: 1年間学んだことを振り返る

準備学習(予習・復習)・時間

予習は必要ないが、宿題が出た場合は必ず完成させること。(60分)

テキスト

『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等

必要に応じて教師が配布する

学生に対する評価

宿題 (40%) 小テスト (20%) 期末テスト (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習した内容を最低限理解できている。
- (B) 学習した内容をある程度使いこなしている。
- (A) 学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
- (S) 学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

課題に対するフィードバックの方法

テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

その他

日本語の様々な段階の表現を理解し、慣れる。

科目名	キャリアデザインⅠ						学期	前期
副題	コミュニケーション力をつける				授業方法	講義	担当者	高田綾子
ナンバリング	M-16-046	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

①これまでの自分の目的意識、価値観、経験などを振り返りながら、将来のキャリアを見据え大学で学ぶことの意味を考え、現時点でできること、これから学習していくことは何かを、学生同士が議論しながら進める。②主体性、コミュニケーション能力など、社会人になる前段階として必要な基本スキルを、体感ワークを通じて身につけていく。

授業の到達目標

大学生活と社会の接点、職業観を養うとともに、キャリア形成の基本となる自己表現や自己形成の考え方を習得する。

授業計画

1. キャリアとは何かを考える
2. 大学生生活を考える①（大学生と高校生の違い・役割）
3. 大学生生活を考える②（これまでの歩みを整理する）
4. 大学生生活を考える③（学びの意味を考え目標を立てる）
5. コミュニケーション力をつける①（基礎づくり①）
6. コミュニケーション力をつける②（基礎づくり②）
7. コミュニケーション力をつける③（基礎づくり③）
8. コミュニケーション力をつける④（傾聴）
9. コミュニケーション力をつける⑤（伝える）
10. コミュニケーション力をつける⑥（プレゼンテーション）
11. コミュニケーション力をつける⑦（アンガーマネジメント）
12. コミュニケーション力をつける⑧（アサーション）
13. コミュニケーション力をつける⑨（ホスピタリティ）
14. コミュニケーション力をつける⑩（チーム・ビルディング）
15. 成果と課題を考える

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①平木典子『アサーション・トレーニング—さわやかな「自己表現」のために』2009（金子書房）②大山雅嗣『コミュニケーションスキルワークブック 15講』2012（公益財団法人日本生産性本部）③齊藤博・上本裕子『大学1年からのキャリアデザイン実践』2017（八千代出版） 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解している。
 (B) 傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解し、その内容を説明できる。
 (A) 傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解した上で、他人の意見を尊重して聞き、正しく理解し、自分の意見を分かりやすく表現できる。
 (S) グループでの討論や議論において適切な手順・手段を用いて、グループの中での意見を自分なりにまとめ、分かりやすくメンバーに伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアデザインⅡ					学期	後期		
副題	自己理解とキャリアデザイン				授業方法	講義	担当者	高田綾子	
ナンバリング	M-16-047	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

①自分自身を見つめ、キャリアデザインのための自己理解を深める。②アセスメントを活用しながら自分の興味関心、能力を認識するとともに、さらに自分の置かれた環境を分析し、職業選択を含めた自分の生き方を考える。③グループワークを通して、人間関係形成・社会形成能力やコミュニケーション能力を高めるとともに課題対応能力や将来に向けたキャリアプランニング能力も身につける。

授業の到達目標

自己理解を深め、働くことの本質を理解し、就労への関心を高める。職業社会を理解する上で必要な基礎知識を習得する。

授業計画

1. 自己理解とキャリアデザインについて考える
2. 自分らしさについて考える①（自分らしさを表現する）
3. 自分らしさについて考える②（自己概念）
4. 自分らしさについて考える③（性格）
5. 自分らしさについて考える④（価値観）
6. 自分らしさについて考える⑤（興味）
7. 自分らしさについて考える⑥（行動特性）
8. 職業興味の探索①（自己理解・適性のアセスメントワーク）
9. 職業興味の探索②（自己理解・適性のグループワーク）
10. キャリアデザインの意識（自尊感情と自己評価）
11. キャリアデザインに必要な考え方・行動①（機会の創出）
12. キャリアデザインに必要な考え方・行動②（感情のマネジメント）
13. 就労をイメージする
14. キャリアプランを作り実行する①
15. キャリアプランを作り実行する②

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①大山雅嗣『キャリアデザインワークブック 15講』2013（公益財団法人日本生産性本部）②川崎友嗣『大学生のためのキャリアデザイン 自分を知る・社会を知る・未来を考える』2019（ミネルヴァ書房）③池上彰『なぜ僕らは働くのか』2020（学研プラス）他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解できる。
 (B) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。
 (A) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。また、グループワークでわかりやすく他者に説明することができる。
 (S) キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、将来を展望しキャリアプランニングについて考えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアデザインⅢ						学期	前期
副題	社会人基礎力				授業方法	講義	担当者	高田綾子
ナンバリング	M-16-048	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

グループディスカッション等を通じて実践しながら社会人基礎力について考える。近年の働き方や生き方の変化に伴い提唱されている新たな社会人基礎力について学ぶことにより、より中長期的な視点に立った必要な能力について考える。

授業の到達目標

職場や地域社会で多様な人々と仕事・社会生活をしていくために社会人として必要な基礎的な力について、知識の習得だけでなくとどまらず、行動に繋げる。

授業計画

1. 人生設計とキャリアデザインを考える
2. 社会人の心構えと求められる能力を考える
3. 社会人基礎力（前に踏み出す力①－主体性）
4. 社会人基礎力（前に踏み出す力②－実行力）
5. 社会人基礎力（前に踏み出す力③－働きかけ力）
6. 社会人基礎力（考え抜く力①－課題発見力）
7. 社会人基礎力（考え抜く力②－計画力）
8. 社会人基礎力（考え抜く力③－創造力）
9. 社会人基礎力（チームで働く力①－発信力）
10. 社会人基礎力（チームで働く力②－傾聴力）
11. 社会人基礎力（チームで働く力③－柔軟性）
12. 社会人基礎力（チームで働く力④－状況把握力）
13. 社会人基礎力（チームで働く力⑤－規律性）
14. 社会人基礎力（チームで働く力⑥－ストレスコントロール力）
15. 人生100年時代に求められる能力を考える

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

山崎紅「社会人基礎力講座」(日経BP社)「書店で購入」

参考書・参考資料等

①村山昇『働き方の哲学』2018(ディスカバー・トゥエンティワン) ②井下千以子『思考を鍛える大学の学び入門 第2版』2020(慶応義塾大学出版会) ③リンダ・グラットン・アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT-100年時代の人生戦略』2016(東洋経済新報社) 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート(30%)、発表(40%)、授業への参加度・学習態度(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会人基礎力について理解している。
- (B) 社会人基礎力について理解でき、積極的な意見の発表、質問ができる。
- (A) 社会人基礎力について理解でき、テーマについてセルフワークができ、グルーワークで議論できる。
- (S) 社会人基礎力について理解でき、テーマについてプレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	キャリアデザインⅣ						学期	後期
副題	職業理解				授業方法	講義	担当者	高田綾子
ナンバリング	M-16-049	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

① 産業・業種・職業の定義を理解し、産業と職業の関係を考える。② 労働法を理解し、グループワークを通じて望ましい労働環境と働き方について考える。③ 社会保険及び税金制度を理解するとともに、ライフステージに応じたマネープランについて考える。④ 志望する業界や職種の研究と自己分析を通じて就職に対する意識を高め、社会に対する視野を広げる。⑤ 社会人として必要なマナーやコミュニケーション能力の重要性を知り、インターンシップに向けた自信を身につける。

授業の到達目標

現代社会における多様な働き方についての現状を理解することにより、自分自身の生き方をデザインするために役立つ知識や考え方を、必要な力を身につけることを目指す。

授業計画

1. 「社会人」と「働くこと」
2. 産業の多様性を知る
3. 仕事と組織を理解する
4. 日本の就労環境の変化
5. 職業探索①
6. 職業探索②
7. 労働関係の法律・制度①（労働契約と労働条件）
8. 労働関係の法律・制度②（安全衛生、ハラスメントの無い職場づくり）
9. 企業福祉と社会保険
10. 税金制度
11. ライフステージとマネープラン
12. インターンシップを考える①（必要性、目標）
13. インターンシップを考える②（ビジネスマナーの基礎知識と実践）
14. インターンシップを考える②（グループディスカッションの基礎知識と実践）
15. キャリアプランを意識した自己分析

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①『知って役立つ労働法 働くときに必要な基礎知識』(厚生労働省) ②『会社四季報業界地図』(東洋経済新報社) ③田宮寛之『みんなが知らない超優良企業：新しいニッポンの業界地図』(講談社新書) ④中野美香『大学生からのプレゼンテーション入門』2012(ナカニシヤ出版) ⑤中野美香『大学生からのグループ・ディスカッション入門』2018(ナカニシヤ出版) 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート(60%)、授業への参加度・学習態度(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 職業や産業に関する基礎的事項を理解している。
 (B) キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、内容を適切な文章で表現できる。
 (A) キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考えることができる。
 (S) キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考え、プレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。他のキャリア科目を履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	密教学概論S／真言宗の教えB(別)						学期	後期
副題	密教学の思想				授業方法	講義	担当者	北川真寛
ナンバリング	M-01-050	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 I

授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標

密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

授業計画

1. ガイダンス・密教総論
2. インド・チベット密教
3. アジアの密教
4. 日本密教
5. 神仏習合（・修験道）
6. 密教の聖典（1）—『大日経』—
7. 密教の聖典（2）—『金剛頂経』（・『理趣経』）—
8. 密教の聖典（3）—『菩提心論』・『釈摩訶衍論』—
9. 密教の曼荼羅（1）—胎藏曼荼羅—
10. 密教の曼荼羅（2）—金剛界曼荼羅—
11. 密教の成仏論
12. 密教の仏身論
13. 密教の灌頂
14. 期末試験と解説
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと（30分）。・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと（60分）。

テキスト

講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

①高神覚昇『密教概論』（大法輪閣、1989年）、②金岡秀友『密教の哲学』（講談社学術文庫、1989年）、③勝又俊教『密教入門』（春秋社、1991年）、④松長有慶『密教』（岩波新書、1991年）など。

学生に対する評価

・高野山キャンパス—試験（55%）、講義参加の積極性（45%）・密教文化コース—レポート（55%）、リアクションペーパー（45%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な密教の思想を理解できる。
 (B) 基本的な密教の思想・用語を理解できる。
 (A) 専門的な密教の思想・用語を理解できる。
 (S) 専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・ICTを活用した講義である。・密教文化コースはODで実施する。・密教文化コースの14回目「期末試験」を「真言密教の教え—事六度—」に変更する。その他にも講義の内容や順番を変更する場合がある。

科目名	仏教学概論S							学期	前期
副題	仏教学の思想				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M-02-051	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 仏教の伝達と受容① 南アジア
3. 仏教の伝達と受容② 西・中央アジア
4. 仏教の伝達と受容③ 東南アジア
5. 仏教の伝達と受容④ 東アジア
6. 仏教における聖典分類法と言語文化
7. 初期仏教① ブッダの生涯
8. 初期仏教② ブッダの思想
9. 初期仏教③ 仏典結集と阿含聖典
10. 部派仏教① アショーカ王と根本分裂
11. 部派仏教② 部派における律の違い
12. 部派仏教③ 部派における思想的違い
13. 大乘思想の起源① 僧院生活と大乘思想
14. 大乘思想の起源② 聖典と仏像
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90 分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

①馬場紀寿『初期仏教—ブッダの思想をたどる』(岩波新書)、2018 年、②「仏教の思想」2・3・4(角川文庫ソフィア)、1996-1997 年、③グレゴリー・シヨベン・小谷信千代訳『大乘仏教興起時代 インドの僧院生活(新装版)』、春秋社、2018 年

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
 (B) 仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
 (A) 部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
 (S) アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	密教史概説S/真言宗の教えA(別)						学期	前期	
副題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M-01-052	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

真言密教は、弘法大師による独自の思想も盛り込まれているが、その思想や儀礼の多くはインドの伝統を受け継いでいる。そのため、真言宗について深く理解するためには、インドにおける密教の歴史を把握する必要がある。さらに、日本密教の独自性を理解するためには、比較対象としてチベット密教を知ることが重要である。この授業は、学生がインドやチベットにおける密教の歴史を学ぶことによって、密教史全体における日本密教の位置づけを理解することを目的とする。

授業の到達目標

・初期仏教や大乘仏教に対する密教の特色を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教史の大まかな流れを理解し、他者に説明できるようになる。

授業計画

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. インドにおける仏教の歴史（1）：初期仏教
3. インドにおける仏教の歴史（2）：部派仏教・大乘仏教
4. インド初期密教（1）：密教の萌芽
5. インド初期密教（2）：密教の形成期
6. インド初期密教（3）：『大日経』の先行経典
7. インド中期密教（1）：『大日経』
8. インド中期密教（2）：『理趣経』・『理趣広経』
9. インド中期密教（3）：『初会金剛頂経』
10. インド後期密教（1）：父タントラ
11. インド後期密教（2）：母タントラ・不二タントラ
12. チベットの密教（1）：前伝仏教期
13. チベットの密教（2）：後伝仏教期
14. チベットの密教（3）：宗派の概説
15. チベットの密教（4）：近代の仏教

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（60分）。 ・授業後に毎回宿題を課すので、次回までに小レポートとして提出すること（120分）。

テキスト

・田中公明『インド密教史』、春秋社、2022年（小堀南岳堂書店で購入） ・杉木恒彦、On the Chronology of the Buddhist Tantras、2022年（論文のため、コピーを配布する）

参考書・参考資料等

・高橋尚夫 他編『初期密教 一思想・信仰・文化一』、春秋社、2013年 ・高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』、春秋社、2016年 ・松長有慶 編『インド後期密教』(上・下)、春秋社、2005・2006年

学生に対する評価

レポート（55%）、毎回の授業で課す小レポート（45%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教、大乘仏教、密教の関係を理解できている。
 (B) インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解できている。
 (A) 主要な密教経典の特徴を理解できている。
 (S) インド・チベット密教史の流れを包括的に理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された小レポートに関しては、次の授業において解説を行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・調査学習を取り入れた科目である。

科目名	仏教史概説S							学期	後期
副題	仏教の歴史				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M-02-053	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。代表的な大乘思想の種類をその聖典とともに提示できる。サンスクリット文化に仏教が与えた影響を簡潔に説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 大乘思想① 般若思想① 般若経系聖典群
3. 大乘思想② 般若思想② 般若経注釈群
4. 大乘思想③ 浄土思想
5. 大乘思想④ 法華・華嚴・如来藏思想
6. サンスクリット文化と仏教① 仏伝文学
7. サンスクリット文化と仏教② 菩薩の思想
8. 大乘思想⑤ 中観思想① ナーガールジュナ・アーリヤデーヴァ
9. 大乘思想⑥ 中観思想② 自立派と帰謬派
10. 大乘思想⑦ 唯識思想① マイトレーヤ、アサンガ・ヴァスバンドゥ
11. 大乘思想⑧ 唯識思想② 有相派と無相派
12. サンスクリット文化と仏教③ 大僧院における詩作教師
13. 大乘思想⑨ 認識論と論理学① ナーガールジュナ
14. 大乘思想⑩ 認識論と論理学② ディグナーガとダルマキールティ
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90 分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

- ①「シリーズ大乘仏教」全 10 巻、春秋社、2011-2014 年、②「仏教の思想」2・3・4 (角川文庫ソフィア)、1996-1997 年、③梶山雄一『大乘仏教の誕生 「さとり」と「廻向」』(講談社学術文庫)、2021 年、④桂紹隆『インド人の論理学 問答法から帰納法へ』(法蔵館文庫)、2021 年

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
 (B) サンスクリット文化と仏教との関わりを簡潔に説明できる。
 (A) いわゆる仏教四学派 (説一切有部・経量部・唯識・中観) の思想的特徴を説明できる。
 (S) 仏教における認識論と論理学の位置付けについて簡単に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	歴史学						学期	前期	
副題	「日本における歴史思想と史学の展開」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M-12-054	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義では、日本における代表的な史書や歴史家を取り上げ、各時代の歴史思想の特質を考えるとともに、歴史学と社会との関係について透徹した理解を得ることを、第一の目的とする。また、日本史を研究する上では、厳密な史料批判や、数多の史実を総合的に判断する能力も必要となる。そこで、これらを習得するための学問的素地を整えることを、第二の目的とする。なお、「授業計画」に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標

日本の各時代における歴史思想の特徴、史書の持つ豊かさ、歴史学の発展について、関係史料・講義内容を踏まえて正確に説明できるようになることを目標とする。

授業計画

1. 歴史思想・史学史を学ぶ意味①
2. 歴史思想・史学史を学ぶ意味②
3. 『日本書紀』とその周辺
4. 平安時代の国史編纂
5. 『栄花物語』と『大鏡』
6. 慈円と『愚管抄』
7. 北畠親房と『神皇正統記』
8. 『金剛三昧院文書』の調査
9. 林家と『本朝通鑑』
10. 近世史学の発達と『大日本史』
11. 『大日本史』編纂と史料探訪
12. 塙保己一と和学講談所
13. 明治以降の歴史編纂と史料集
14. 近代史学の発展と民間史学
15. 大正史学の群像

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、歴史学や史学史に関する専門用語の意味を理解しておくこと(100分)【復習】講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること(80分)

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①遠藤慶太『六国史』(中公新書、2016年)、②大隅和雄『愚管抄を読む』(講談社学術文庫、1999年。初出1986年)、③久保田収『近世史学史論考』(皇學館大学出版部、1968年)、④マーガレット・メール著、千葉功・松沢裕作訳者代表『歴史と国家』(東京大学出版会、2017年)、⑤坂口太郎『大正・昭和戦前期における徳富蘇峰と平泉澄』(北九州市立松本清張記念館、2019年)

学生に対する評価

レポート(100%) ※4000字以上

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本史学史に関する基礎的事項を理解している。
 (B) 日本史学史について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
 (A) 日本史学史について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
 (S) 本講義の内容を踏まえて、日本史学史について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点后に講評する。

その他

本講義は、歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。基本的に講義形式を取るが、一部の回は文書調査も行なうアクティブ・ラーニングであるので、受講生の積極的参加が必要である。

科目名	宗教学 I S / 世界の宗教(別)1						学期	前期	
副題	宗教学入門				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	M-03-055	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

宗教学の歴史と基礎的な理論を学ぶことによって、現代社会のさまざまな現象を宗教の観点から理解する姿勢を身につける。テキストと一緒に読む形で授業を進める。

授業の到達目標

19世紀後半に生まれた宗教学の代表的な理論を説明できるようになる。現代における社会現象・文化現象を宗教の観点から解釈、分析できるようになる。

授業計画

1. ガイダンスの後、テキスト第1章「宗教学の立場と分野 1」を読む
2. テキスト第1章「宗教学の立場と分野 2」を読む
3. テキスト第1章「宗教学の立場と分野 3」を読む
4. テキスト第2章「宗教の原初形態 1」を読む
5. テキスト第2章「宗教の原初形態 2」を読む
6. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 1」を読む
7. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 2」を読む
8. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 3」を読む
9. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 4」を読む
10. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 5」を読む
11. テキスト第4章「宗教の諸類型 1」を読む
12. テキスト第4章「宗教の諸類型 2」を読む
13. テキスト第4章「宗教の諸類型 3, 4」を読む
14. テキスト第4章「宗教の諸類型 5, 6」を読む
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと(90分)。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること(90分)。

テキスト

脇本平也『宗教学入門』(講談社、1997年) ※テキスト購入の必要はありません。

参考書・参考資料等

ジョージ・フレイザー『図説 金枝篇』(上)(下)(講談社、2011年)

学生に対する評価

期末レポート(70%)、授業中の発言、発表(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に読み解くことができる。
- (B) テキストを要約し、批判的に検討することができる。
- (A) 宗教学の代表的理論を説明することができる。
- (S) 社会・文化現象を宗教学の観点から読み解き、自分なりの見方ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教学ⅡS／世界の宗教(別)2						学期	後期	
副題	宗教と公共性				授業方法	講義	担当者	小田龍哉	
ナンバリング	M-03-056	実務経験の有無	無	関連DP	1,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

今日の日本社会でもあらためて注目されている宗教と公共性のかかわりについて、宗教学の立場から近代の世俗主義を理論的に再検討することをつうじて、批判的に読み解く。

授業の到達目標

世俗主義の基本的理解を得るとともに、比較宗教の観点から宗教と公共空間のかかわりの多様な事例について知識を深める。テキストを一緒に読む形で授業を進める。

授業計画

1. ガイダンスの後、テキストの概略を紹介する
2. テキスト第2章「二つの世俗主義」第1節を読む
3. テキスト第2章「二つの世俗主義」第2節を読む
4. テキスト第2章「二つの世俗主義」第3節を読む
5. テキスト第4章「世俗化時代のヨーロッパ」前半を読む
6. テキスト第4章「世俗化時代のヨーロッパ」後半を読む
7. テキスト第6章「宗教と政治のあいだで」を読む
8. テキスト第6章「宗教と政治のあいだで」解題前半を読む
9. テキスト第6章「宗教と政治のあいだで」解題後半を読む
10. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第1節を読む
11. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第2節を読む
12. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第3節を読む
13. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第4節を読む
14. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第5節を読む
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと(90分)。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること(90分)。

テキスト

島菌進・磯前順一編『宗教と公共空間——見直される宗教の役割』(東京大学出版会、2014年)※テキスト購入の必要はありません。

参考書・参考資料等

タラル・アサド『世俗の形成——キリスト教、イスラム、近代』(みすず書房、2006年)

学生に対する評価

期末レポート(70%)、授業中の発言、発表(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に読み解くことができる。
 (B) 世俗主義の概念を説明できる。
 (A) 宗教と社会の関係を具体的な事例から説明できる。
 (S) 宗教と公共性の観点から社会・文化現象を読み解くことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教史Ⅰ／宗教の歴史(別)1						学期	前期	
副題	宗教の歴史				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M-03-057	実務経験の有無	無	関連DP	4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、原始・古代における宗教の発生から、ギリシャ・ローマの宗教の歴史を踏まえつつ、キリスト教へとつながる宗教の歴史を概観する。

授業の到達目標

人類の歴史の中で、古代の宗教やユダヤ教、キリスト教といった諸宗教が、どのように展開してきたのかを概観し、人類の営みの中で宗教の果たす役割を理解する。

授業計画

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 宗教の起源
3. 古代諸文明の宗教①－メソポタミアの宗教－
4. 古代諸文明の宗教②－古代エジプトの宗教－
5. ギリシャ・ローマの神話
6. ユダヤ教の歴史①－天地創造からエジプト脱出－
7. ユダヤ教の歴史②－王国の成立－
8. ユダヤ教の歴史③－バビロン虜囚－
9. キリスト教の歴史①－イエス・キリストの生涯－
10. キリスト教の歴史②－使徒たちの活動－
11. キリスト教の歴史③－ローマ帝国とキリスト教－
12. キリスト教の歴史④－東方教会・西方教会－
13. キリスト教の歴史⑤－十字軍・魔女裁判－
14. キリスト教の歴史⑥－宗教改革－
15. 前期のまとめとレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる(30分) ・授業で紹介された宗教について、自分で調べてみる(30分)

テキスト

※各回、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ(ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房) ・『図解世界五大宗教全史』(中村圭志、ディスカヴァー21) ※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート(60%)、授業時の積極的参加(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 関心のある宗教の概要を理解している。
 (B) 関心のある宗教の歴史的展開について、大まかに理解している。
 (A) 関心のある宗教の歴史的展開について、現代的な意味や意義を説明できる。
 (S) 上記(C)～(A)を踏まえて、自説を展開できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でレポートへの講評を実施する。

その他

※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。 ※受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教史Ⅱ／宗教の歴史(別)2						学期	後期	
副題	現代社会と宗教				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M-03-058	実務経験の有無	無	関連DP	4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、現代でも大きな問題として取り上げられることの多いイスラム教の歴史をおさえた上で、現代社会における新宗教の歴史や教義を踏まえつつ、今日に続く宗教の歴史を概観する。

授業の到達目標

人類の歴史の中で、イスラム教、および現代社会における新宗教がどのように展開してきたのかを概観し、人類の営みの中で宗教の果たす役割を理解する。

授業計画

1. ガイダンスとイントロダクション
2. イスラム教の歴史①－ムハンマドの生涯－
3. イスラム教の歴史②－イスラム国家の誕生－
4. イスラム教の歴史③－イスラム各派の発生－
5. イスラム教の歴史④－復興主義と原理主義－
6. 現代宗教の諸相①－オウム真理教(1)－
7. 現代宗教の諸相②－オウム真理教(2)－
8. 現代宗教の諸相③－オウム真理教(3)－
9. 現代宗教の諸相④－幸福の科学(1)－
10. 現代宗教の諸相⑤－幸福の科学(2)－
11. 現代宗教の諸相⑥－幸福の科学(3)－
12. 現代宗教の諸相⑦－FSM 教－
13. 現代宗教の諸相⑧－創価学会－
14. 現代宗教の諸相⑨－旧・統一教会－
15. 後期のまとめとレポート講評

準備学習(予習・復習)・時間

・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる (30 分) ・授業で紹介された宗教について、自分で調べてみる (30 分)

テキスト

※プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ (ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房) ・『図解世界五大宗教全史』(中村圭志、ディスカヴァー21) ※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート (60%)、授業時の積極的参加 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 関心のある宗教の概要を理解している。
- (B) 関心のある宗教の歴史的展開について、大まかに理解している。
- (A) 関心のある宗教の歴史的展開について、現代的な意味や意義を説明できる。
- (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえて、自説を展開できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でレポートへの講評を実施する。

その他

※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。 ※受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読 I A / 真言宗典講読 I (別)						学期	通年	
副題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M-01-059	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

【前期】

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは？－三劫成仏と即身成仏－
3. 『即身成仏義』の撰述時期と異本『即身成仏義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答
6. " (2) 二経一論八箇の証文①『金剛頂経』
7. " (3) 二経一論八箇の証文②『大日経』
8. " (4) 二経一論八箇の証文③『菩提心論』
9. " (5) 二頌八句① 即身の頌(前編)
10. " (6) 二頌八句② 即身の頌(後編)
11. " (7) 二頌八句③ 成仏の頌(前編)
12. " (8) 二頌八句④ 成仏の頌(後編)
13. " (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」① 六大の秘義(前編)
14. " (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」② 六大の秘義(後編)
15. 前期のまとめ－即身成仏思想の特徴

【後期】

1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む (11) 「六大能生」①
3. " (12) 「六大能生」②
4. " (13) 「六大の顕密/無碍自在の身」
5. " (14) 「四種曼荼各不雜」① 三種秘密身
6. " (15) 「四種曼荼各不雜」② 四種曼荼羅・四種智印
7. " (16) 「三密加持速疾頌」① 法仏の三密と三密行
8. " (17) 「三密加持速疾頌」② 『五秘密儀軌』
9. " (18) 「三密加持速疾頌」③ 加と持
10. " (19) 「重重帝網名即身」
11. " (20) 「法然具足薩婆若」
12. " (21) 「心数天王過刹塵」
13. " (22) 「各具五智無際智」
14. " (23) 「円鏡力成実寛智」
15. 後期のまとめ－即身成仏とは何か

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。 ・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。 ・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←書店で購入)

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈母『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読 I B						学期	通年	
副題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M-01-060	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

【前期】

1. 講義の進め方とテキストの紹介
2. 成仏とは？—三劫成仏と即身成仏—
3. 『即身義』の撰述時期と異本 『即身義』
4. 四声読み
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答
6. " (2) 二經一論八箇の証文①『金剛頂経』
7. " (3) 二經一論八箇の証文②『大日経』
8. " (4) 二經一論八箇の証文③『菩提心論』
9. " (5) 二頌八句① 即身の頌 (前編)
10. " (6) 二頌八句② 即身の頌 (後編)
11. " (7) 二頌八句③ 成仏の頌 (前編)
12. " (8) 二頌八句④ 成仏の頌 (後編)
13. " (9) 「六大無碍にして常ニ輪加り」① 六大の秘義前編
14. " (10) 「六大無碍にして常ニ輪加り」② 六大の秘義後編
15. 前期のまとめ—即身成仏思想の特徴

【後期】

1. 概論と前期の復習
2. 『即身成仏義』を読む (1) 「六大能生」①
3. " (2) 「六大能生」②
4. " (3) 「六大の顕密/無碍自在の身」
5. " (4) 「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6. " (5) 「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種智印
7. " (6) 「三密加持速疾頌」① 法仏の三密と三密行
8. " (7) 「三密加持速疾頌」② 『五秘密儀軌』
9. " (8) 「三密加持速疾頌」③ 加と持
10. " (9) 「重重帝網名即身」
11. " (20) 「法然具足薩婆若」
12. " (21) 「心教天王過利慶」
13. " (22) 「各具五智無際智」
14. " (23) 「円鏡力故美覺智」
15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。 ・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。 ・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 (←書店で購入)

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈母『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末テスト (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。 ・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。 ・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読 I C					学期	通年		
副題	中国語で『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	徐東軍	
ナンバリング	M-01-061	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

【前期】		【後期】	
1. 講義の進め方とテキストの紹介		1. 概論と前期の復習	
2. 成仏とは？—三劫成仏と即身成仏—		2. 『即身成仏義』を読む	(11) 「六大能生」①
3. 『即身義』の撰述時期と異本『即身義』		3. " "	(12) 「六大能生」②
4. 四声読み		4. " "	(13) 「六大の顕密／無碍自在の身」
5. 『即身成仏義』を読む (1) 発端問答		5. " "	(14) 「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6. " (2) 二経一論八箇の証文①『金剛頂経』		6. " "	(15) 「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種智印
7. " (3) 二経一論八箇の証文②『大日経』		7. " "	(16) 「三密加持速疾頭」① 法仏の三密
8. " (4) 二経一論八箇の証文③『菩提心論』		8. " "	(17) 「三密加持速疾頭」② 『五秘密儀軌』
9. " (5) 二頌八句① 即身の頌 (前編)		9. " "	(18) 「三密加持速疾頭」③ 加と持
10. " (6) 二頌八句② 即身の頌 (後編)		10. " "	(19) 「重重帝網名即身」
11. " (7) 二頌八句③ 成仏の頌 (前編)		11. " "	(20) 「法然具足薩般若」
12. " (8) 二頌八句④ 成仏の頌 (後編)		12. " "	(21) 「心教心王過刹塵」
13. " (9) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」①		13. " "	(22) 「各具五智無際智」
14. " (10) 「六大無碍にして常に瑜伽なり」②		14. " "	(23) 「円鏡力故究竟智」
15. 前期のまとめ—即身成仏思想の特徴		15. 後期のまとめ—即身成仏とは何か	

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと (60分)。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと (60分)。・その他の学習については講義内で指示する (60分)。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部・毎回配布する資料

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈母『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など (40%)、期末レポート (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
 (B) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
 (A) 『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
 (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・毎回資料を配布する。方が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。・中国語と日本語の文献を併用し、中日二ヶ国語で講義を行う。履修前提として、基礎的な中国語の「聴く」「読む」力を持っていること。

科目名	祖典講読 I S						学期	通年	
副題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M-01-062	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスとテキストの紹介
2. 成仏とは？ —三劫成仏と即身成仏—
3. 『即身成仏義』の周辺（附・音便と四声論）
4. 発端問答
5. 二経一論八箇の証文① 『金剛頂経』(1)
6. 二経一論八箇の証文② 『金剛頂経』(2)
7. 二経一論八箇の証文③ 『金剛頂経』(3)
8. 二経一論八箇の証文④ 『大日経』(1)
9. 二経一論八箇の証文⑤ 『大日経』(2)
10. 二経一論八箇の証文⑥ 『菩提心論』
11. 二頌八句（前編） 即身の頌
12. 二頌八句（後編） 成仏の頌
13. 「六大無礙常瑜伽」① 六大の秘義（前編）
14. 「六大無礙常瑜伽」② 六大の秘義（後編）
15. 前期のまとめとおまけ

【後期】

1. 概論と前期の復習
2. 「六大無礙常瑜伽」③ 「六大能生」①
3. 「六大無礙常瑜伽」④ 「六大能生」②
4. 「六大無礙常瑜伽」⑤ 「六大能生」③
5. 「六大無礙常瑜伽」⑥ 「六大の顕密／無碍自在の身」
6. 「四種曼荼各不離」
7. 「三密加持速疾頌」① 法仏の三密と三密行
8. 「三密加持速疾頌」② 『観智儀軌』
9. 「三密加持速疾頌」③ 『五秘密儀軌』
10. 「三密加持速疾頌」④ 加と持
11. 「重々帝網身即身」
12. 「法然具足薩般若」
13. 「心教心王過利塵」& 「各具五智無際智」
14. 「円鏡力故実覺智」
15. 後期のまとめと期末レポート総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所を素読を行うこと（30分）。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60分）。・その他の学習については講義内で指示する（30分）。

テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 ・毎回配布する資料

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

年度末最終レポート（60%）、授業中の積極的な発言（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
 (B) (B) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
 (A) (A) 『即身成仏義』の素読でき、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
 (S) (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

年度末最終レポートの総評を行い、復習すべき点を中心に講義をする。

その他

・事前に該当箇所の書き下し等、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読ⅡA					学期	通年			
副題	『三教指帰』を読む					授業方法	講義	担当者	大柴清園	
ナンバリング	M-01-063	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	-	

授業の目的と概要

『三教指帰』の真偽問題の研究経緯について学び、『聾瞽指帰』との比較を通して『三教指帰』が弘法大師の真作であることを理解する。『三教指帰』を通読し、弘法大師の出家に対する思いを知り、弘法大師の儒教・道教・仏教に対する考えを認識する。四六駢儷体の漢文の構造を理解し、『三教指帰』の文章を解説する。

授業の到達目標

『聾瞽指帰』から『三教指帰』への改変意図を知る。偽作説のどこが誤りであるかを把握する。駢儷文の文章構造を理解できるようになる。十韻詩に使われている音韻技巧と、守られている音韻の規則を理解する。

授業計画

【前期】

1. 『聾瞽指帰』と『三教指帰』・『三教指帰』の真偽問題の経緯。
2. 『聾瞽指帰』と『三教指帰』の序文・駢儷文の特徴。
3. 両『指帰』の本文比較①対偶・訂正。
4. 両『指帰』の本文比較②音韻・表現。
5. 両『指帰』末尾の十韻詩の比較。音韻の病と技巧。
6. 『三教指帰』の濟運師偽作説の誤りについて。
7. 再偽作説の誤り①文字。
8. 再偽作説の誤り②音韻。
9. 再偽作説の誤り③意味内容。
10. 『三教指帰』を読む①鼈毛先生論：鼈毛の風貌・教養・蛭牙の人物となり。
11. 『三教指帰』を読む②鼈毛先生論：兎角の要請と鼈毛の応答。
12. 『三教指帰』を読む③鼈毛先生論：世間の悪・人格を磨くべき事・蛭牙の品行に対する叱責。
13. 『三教指帰』を読む④鼈毛先生論：行動規範の説示・忠孝の実践・匠工と学問の勧め。
14. 『三教指帰』を読む⑤鼈毛先生論：重用されて高官となるべきこと・妻を娶り人と莫する楽しさ。
15. 『三教指帰』を読む⑥鼈毛先生論：蛭牙に立身出世を論ず・蛭牙が鼈毛に屈する・兎角の賛辞。

【後期】

1. 『三教指帰』を読む⑦虚亡隠士論：虚亡の批判と鼈毛の懇請。
2. 『三教指帰』を読む⑧虚亡隠士論：方術・道術の開示。
3. 『三教指帰』を読む⑨虚亡隠士論：高潔を保ち、高禄と女色から離れるべき事。
4. 『三教指帰』を読む⑩虚亡隠士論：神薬の服用・効用。
5. 『三教指帰』を読む⑪虚亡隠士論：仙術による長寿・鼈毛の謝辞。
6. 『三教指帰』を読む⑫仮名乞児論：仮名の生い立ち・外見・ある人の難詰①。
7. 『三教指帰』を読む⑬仮名乞児論：ある人の難詰②・仮名の反論。
8. 『三教指帰』を読む⑭仮名乞児論：写懐詩・仮名の書・仮名が兎角の館に到る。
9. 『三教指帰』を読む⑮仮名乞児論：鼈毛と虚亡の論戦・仮名と鼈毛の問答・仮名と虚亡の問答。
10. 『三教指帰』を読む⑯仮名乞児論：観無常賦（無常・身体・美人）。
11. 『三教指帰』を読む⑰仮名乞児論：観無常賦（家族・友人・若き男女・貴賤）。
12. 『三教指帰』を読む⑱仮名乞児論：観無常賦（地獄と救い無き事・生前に精進すべき事）。
13. 『三教指帰』を読む⑲仮名乞児論：鼈毛らの悶絶と説法の要請・生死海賦（生死毎に溺れる者）。
14. 『三教指帰』を読む⑳仮名乞児論：生死海賦（生死毎に溺れる者を魚類と鳥類に譬える）。
15. 『三教指帰』を読む㉑仮名乞児論：大菩提の果・鼈毛らの謝辞。

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『三教指帰』の内容を、テキストの〈返り点〉の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『三教指帰』の内容を、テキストの〈書き下し文〉と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清園『聾瞽指帰と三教指帰 一空海大師真作の証明―』大遍照院(アマゾンで購入)

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂有勝『三教指帰 性盡集 日本古典文学大系』岩波書店、1965年。福永光司『空海 三教指帰ほか』中公文庫ラジックス、2003年。

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。『三教指帰』の文章に対して、書き下し文の内容を理解できること。
- (B) 学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『三教指帰』の文章に対して、返り点の文章を読むことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (A) 学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。『三教指帰』の白文に対して、正確に返り点を施すことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (S) 学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その語句の意味を正確に把握できること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

『三教指帰』を読むは、『聾瞽指帰』と比較しながら読んでゆく。学期末試験はペーパーテストで行う。

科目名	祖典講読ⅡB						学期	通年	
副題	『声字実相義』を読む				授業方法	講義	担当者	米田弘仁	
ナンバリング	M-01-064	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 4	単位数	4	他	I

授業の目的と概要

弘法大師空海の著作である『声字実相義』全編を読了することを第一の目的とする。あわせて真言宗伝統の訓読を批判的に読むことによって深く内容を理解すること、大乘仏教の思想との比較を通じて空海 of 思想の特異性を理解すること、言語哲学というジャンルの中でこの書を見たばあいにかなる位置を占めるものであるのか理解することを目的とする。

授業の到達目標

『声字実相義』の本文をスラスラと読めるようになること。表層的な理解に終わることなく、一文一句、出典を確認しながら空海がいかなる経緯を経てその理解に至ることができたのかを確認しつつ正しく内容が理解できるようになること。

授業計画

【前期】

1. 空海の諸著作の紹介。
2. 『十卷章』の編纂過程、四声・声調みの解説。
3. 日本における仏教学・漢文学の歴史。
4. 真言宗における伝統教学の歴史についての解説。
5. 仏教における言語観の概説①（三科百法における声・字の位置づけ）。
6. 仏教における言語観の概説②（『成唯識論』の説）。
7. 仏教における言語観の概説③（『大日経疏』の説）。
8. 序分講読（叙意①、テキスト p. 33）
9. 序分講読（叙意②、テキスト pp. 33-34）
10. 正宗分講読（釈名、「声字実相義」各別釈、テキスト p. 34）
11. 正宗分講読（釈名、六離合釈①、テキスト p. 34）
12. 正宗分講読（釈名、六離合釈②、テキスト p. 35）
13. 正宗分講読（釈体義、引証①、テキスト pp. 35-37）
14. 正宗分講読（釈体義、引証②、テキスト p. 37）
15. 正宗分講読（釈体義、五大皆有響、テキスト p. 38）

【後期】

1. 正宗分講読（釈体義、十界具言語、テキスト pp. 38-40）
2. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、顕形表等色①、テキスト pp. 41-43）
3. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、顕形表等色②、テキスト pp. 41-43）
4. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、顕形表等色③、テキスト pp. 44-47）
5. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、顕形表等色④、テキスト pp. 44-47）
6. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、顕形表等色⑤、テキスト pp. 44-47）
7. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、顕形表等色⑥、テキスト pp. 44-47）
8. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、顕形表等色⑦、テキスト pp. 44-47）
9. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、能迷亦能悟、テキスト p. 47）
10. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、内外依正具①、テキスト pp. 47-48）
11. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、内外依正具②、テキスト pp. 47-48）
12. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、法然随縁有①、テキスト pp. 48-51）
13. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、法然随縁有②、テキスト pp. 48-51）
14. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、法然随縁有③、テキスト pp. 48-51）
15. 正宗分講読（釈体義、六塵悉文字、法然随縁有④、テキスト pp. 48-51）

準備学習(予習・復習)・時間

予習は講義当日の範囲の素読を練習しておくこと（60分）。復習は当日の講義範囲のノートを作成すること（60分）。

テキスト

高野山大学編『十卷章』（有限高野で購入）

参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 声字実相義』（春秋社）

学生に対する評価

素読ができるかどうか（50%）、内容が理解できているかどうか（30%）、講義において提示した出典の文献を原文で確認できるかどうか（20%）。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 本文の素読ができること。
 (B) 参考書を用いて事前に本文の内容のあらすじをつかめていること。
 (A) 本文の内容を批判的に読む（なぜそのように訳せるのかその意識を探る）姿勢ができていないこと。
 (S) 自身で出典を検索して、実際に他の資料との比較を通じて原文を深く読みこむ技術が習得されていないこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問・意見を受ける時間を設ける。次の授業の中においてその質問・意見をとりあげてそのことについて考察する。

その他

授業のはじめに受講者全員に一人ずつ割り当てて本文を読んでもらうため、必ず事前に読みの練習をしておくこと。

科目名	宗典講読B						学期	通年	
副題	秘密儀軌				授業方法	講義	担当者	T.ドライトライ	
ナンバリング	M-01-065	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	4	他	I

授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道・金剛界・一尊法の各種次第への理解を深める。前期では十八道次第の本となった漢文の秘密儀軌『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『阿闍法』、『烏芻濇摩儀軌』などを読む。後期では金剛頂経系の儀軌の『千手儀』、『如意輪瑜伽』、『文殊軌』、『普賢金剛薩埵軌』、『理趣会軌』などを読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

【前期】

1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①(灌頂と受法について)
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②(修法する場所について)
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③(壇場荘嚴について)
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④(淨三業・礼拝・五悔について)
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤(著塵・塗香・三部被甲について)
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥(结界法について)
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦(莊嚴道場法について)
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧(勧請法について)
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨(結誦法について)
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩(供養法について)
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪(入我我入と本尊加持について)
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫(正念誦について)
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬(字輪観について)
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭(出堂までの行法、その他)

【後期】

1. 『金剛頂経』系の儀軌を読む①(『如意輪瑜伽』を読む)
2. 『金剛頂経』系の儀軌を読む②(『如意輪瑜伽』を読む)
3. 『金剛頂経』系の儀軌を読む③(『如意輪瑜伽』を読む)
4. 『金剛頂経』系の儀軌を読む④(『千手儀軌』を読む)
5. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤(『千手儀軌』を読む)
6. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥(『千手儀軌』を読む)
7. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦(『千手儀軌』を読む)
8. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧(『文殊軌』を読む)
9. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨(『文殊軌』を読む)
10. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩(『文殊軌』を読む)
11. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑪(『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
12. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑫(『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
13. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑬(『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
14. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑭(『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
15. 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑮(『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

浄厳の江戸期の木版『秘密儀軌』のPDF、その他の資料のPDFを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。

科目名	宗典講読T／真言宗典講読2(別)						学期	通年	
副題	『理趣経』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M-01-066	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

『初会の金剛頂経』（『真実摂経』）と、真言宗の常用經典である『理趣経』は、序分がほぼ同内容であり、金剛界曼荼羅の十六大菩薩は、『理趣経』の八大菩薩を2倍にして成立したことが知られている。この講義では、『理趣経』（不空訳『般若理趣経』）を『初会の金剛頂経』の内容と比較しながら読み、『金剛頂経』系密教の理解を深める。漢訳のテキストを中心に講読するが、必要に応じて、サンスクリット原典やチベット語訳、注釈書などを参照する（講師が和訳にて紹介）。また、『理趣経』の曼荼羅についても解説する。

授業の到達目標

漢文の読解力と、密教經典とその註釈書等に対する知識を培う。

授業計画

【前期】

1. インド密教史通観
2. 『理趣経』とはどのような經典か（書誌的解説）
3. 『理趣経』の曼荼羅
4. 『金剛頂経』と『理趣経』（『金剛頂経』系密教における『理趣経』の位置）
5. 『初会の金剛頂経』（『真実摂経』）概説
6. 金剛界曼荼羅概説
7. 八大菩薩と十六大菩薩
8. 『理趣経』講読1（序分）
9. 『理趣経』講読2（初段①）
10. 『理趣経』講読3（初段②）
11. 十七清浄句と金剛薩埵十七尊曼荼羅（理趣会曼荼羅）
12. 『理趣経』講読4（第二段）
13. 『初会の金剛頂経』に説かれる降三世明王の諸天降伏の物語
14. 『理趣経』講読5（第三段）
15. 試験と、試験問題の解説

【後期】

1. 『理趣経』講読6（第四段）
2. 『理趣経』講読7（第五段）
3. 『理趣経』講読8（第六段）
4. 『理趣経』講読9（第七段）
5. 『理趣経』講読10（第八段）
6. 『理趣経』講読11（第九段）
7. 『理趣経』講読12（第十段）
8. 『理趣経』講読13（第十一段～第十五段）
9. 『理趣経』講読14（第十六段）
10. 『理趣経』講読15（第十七段、百字の偈）
11. 金剛薩埵垂軌類概観①
12. 金剛薩埵垂軌類概観②
13. 弘法大師の『理趣経開題』を読む①
14. 弘法大師の『理趣経開題』を読む②
15. 試験と、試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(90分)

テキスト

松長有慶『理趣経講讀』（大法輪閣） ※絶版のため、コピーを配布する。

参考書・参考資料等

田中公明『インド密教史』（春秋社） / 高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』（春秋社） / 高橋尚夫『般若理趣経の基礎的研究』（ノンブル社） / 宮坂有勝『密教經典 一大日経・理趣経・大日経疏・理趣釈一』（講談社） など

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教經典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) サンスクリット原典・チベット語訳・漢訳を比較しながら『理趣経』を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができ、

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	キャリアデザインⅤA						学期	前期
副題	現代社会における僧侶の役割				授業方法	講義	担当者	足立信行
ナンバリング	M-16-068	実務経験の有無	有	関連DP	2.5	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

現代ほど僧侶の役割が求められる時代はない。僧侶の役割は多岐にわたり、葬儀での読経や法会の執行など多種様々である。寺院の経営、運営的側面も現代では必須の能力と言える。本講義では僧侶の役割を全体的に学びながら、特に経営的側面、布教的側面を中心に身につけていく。

授業の到達目標

現代の僧侶に何が求められているかを理解する 僧侶の役割を学び現代社会に何ができるかを学ぶ 現代社会の構造を理解し僧侶が果たすべき役目を考える

授業計画

1. ガイダンス、並びに、現代社会における僧侶の役割総論
2. 現代社会とはどんな社会か① 現代社会を考察する
3. 現代社会とはどんな社会か② VUCAの時代を考察する
4. 現代社会から見た時の僧侶とは何か① 釈尊の言葉から考える
5. 現代社会から見た時の僧侶とは何か② 弘法大師の言葉から考える
6. 現代社会における僧侶の役割① 「生」をめぐり
7. 現代社会における僧侶の役割② 「老」をめぐり
8. 現代社会における僧侶の役割③ 「病」をめぐり
9. 現代社会における僧侶の役割④ 「死」をめぐり① 葬儀
10. 現代社会における僧侶の役割⑤ 「死」をめぐり② 法事・墓
11. 現代社会の僧侶が学ぶこと① 自己成長のために
12. 現代社会の僧侶が学ぶこと② リーダーシップのために
13. 現代社会の僧侶が学ぶこと③ 寺院の組織作りのために
14. 現代社会の僧侶が学ぶこと④ 信徒教育・信徒育成のために
15. まとめと総括 現代社会における僧侶の役割

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

井出 悦郎 『これからの供養のかたち』2023年 祥伝社 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

試験(50%)・授業への参加度・学習態度(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 現代を認識する。
 (B) 現代を認識し、僧侶の役割を熟知する。
 (A) 現代を認識し、僧侶の役割を熟知し、自らの未来にあてはめることができる。
 (S) 現代を認識し、僧侶の役割を熟知し、自らの未来にあてはめ、将来の僧侶像を計画することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

問題解決型学習(PBL)を取り入れたアクティブ・ラーニングの科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

株式会社の代表であり、僧侶の経験があり、現在、多数の寺院のコンサルティングなどを手掛けている教員がその経験を活かして、授業を行い、未来の僧侶、未来の寺院を考え、キャリア形成とは何かを理論的な側面と、実践的な側面の両面から講義をする。

科目名	キャリアデザインⅦA						学期	後期	
副題	現代社会の寺院活動				授業方法	講義	担当者	足立信行	
ナンバリング	M-16-070	実務経験の有無	有	関連DP	2.5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

現代ほど僧侶の役割が求められる時代はない。僧侶の役割は多岐にわたり、葬儀での読経や法会の執行など多種様々である。寺院の経営、運営的側面も現代では必須の能力と言える。本講義では僧侶の役割を全体的に学びながら、特に経営的側面、布教的側面を中心に身につけていく。

授業の到達目標

現代に寺院に何が求められているかを理解する 寺院の役割を学び現代社会に何ができるかを学ぶ 現代社会の構造を理解し寺院が果たすべき役目を考える

授業計画

1. ガイダンス、ならびに、現代社会の寺院活動総論
2. 現代社会から見た寺院とは何か① これまでの寺院とこれからの寺院
3. 現代社会から見た寺院とは何か② 寺院と僧侶の関わり
4. 現代社会の寺院① 寺院の可能性を探る
5. 現代社会の寺院② 寺院の活動事例を見る
6. 現代社会の寺院③ 寺院の経営学① マーケティング
7. 現代社会の寺院④ 寺院の経営学② 戦略と戦術
8. 現代社会の寺院⑤ 生をめぐり
9. 現代社会の寺院⑥ 老をめぐり
10. 現代社会の寺院⑦ 病をめぐり
11. 現代社会の寺院⑧ 死をめぐり① 葬儀
12. 現代社会の寺院⑨ 死をめぐり② 法事・墓
13. 現代社会の寺院が学ぶこと① 寺報などの情報発信について
14. 現代社会の寺院が学ぶこと② 寺業立案について
15. まとめと総括 現代社会の寺院活動

準備学習(予習・復習)・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60分) ・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

井出 悦郎 『これからの供養のかたち』2023年 祥伝社 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

試験(50%)・授業への参加度・学習態度(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 現代を認識する。
 (B) 現代を認識し、寺院の役割を熟知する。
 (A) 現代を認識し、寺院の役割を熟知し、寺院の未来にあてはめることができる。
 (S) 現代を認識し、寺院の役割を熟知し、寺院の未来にあてはめ、将来の寺院像を計画することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

問題 解決型学習を取り入れた科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

株式会社の代表であり、僧侶の経験があり、現在、寺院のコンサルティングなどを手掛けている教員がその経験を活かして、授業を行い、未来の僧侶、未来の寺院を考え、キャリア形成とは何かを理論的な側面と、実践的な側面の両面から講義をする。

科目名	キャリアデザインVB						学期	前期
副題	日本社会を知る(留学生のみ対象)				授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	M-16-067	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

本講義は、留学生対象としており、留学生が日本社会で長期在留することを想定して、日本社会や文化を理解することを目指す。特にキャリア教育として、実際の日本社会を実見し、その後日本社会について検討することを基本とする。高野山との比較とすることが重要であるので、和歌山や大阪などの学外研修を実施する。そのため、集中講義とし、土日、祝日、長期休暇などに学外研修を実施する。場合によっては、宿泊を伴うことがある。

授業の到達目標

高野山と他の地域（京都や神戸など）との比較を通して、日本の社会や文化のより深い部分を理解できるようにする。特に日本の働き方について理解できるようにする。

授業計画

1. 日本社会と文化について
2. 学外研修①
3. 学外研修②
4. 学外研修③
5. 学外研修④
6. 学外研修⑤
7. 学外研修⑥
8. 学外研修⑦
9. 学外研修⑧
10. 学外研修⑨
11. 学外研修⑩
12. 学外研修⑪
13. 学外研修⑫
14. 学外研修⑬
15. 学外研修の報告会

準備学習(予習・復習)・時間

・学外研修地について調べる (60分)。 ・学外研修で気づいた点をまとめる (60分)。

テキスト

その都度関係する資料を配布する。

参考書・参考資料等

木山三佳、田川麻央『学生・留学生のキャリアプランニング』実教出版、2022年。他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

発表 (30%)、授業への参加度・学習態度 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学外研修で体験した内容を母国語で説明できる。
- (B) 学外研修で体験した内容を日本語で説明できる。
- (A) 学外研修で体験した内容を分析した上で、日本語で説明できる。
- (S) 学外研修で体験した内容を分析した上で、キャリアに関連付けて日本語で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業中・前後、オフィスアワーなどで受け付ける。

その他

本授業は、留学生の日本文化コースの必修科目である。日本人学生は履修できない。土日、祝日、長期休暇を利用して、学外研修を実施する。場合によっては、宿泊を伴うことがある。日程は、別途連絡するので、注意すること。他のキャリア科目や日本語を履修しておくこと。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	キャリアデザインⅦB						学期	後期
副題	日本社会を知る(留学生のみ対象)				授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	M-16-069	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

本講義は、留学生対象としており、留学生が日本社会で長期在留することを想定して、日本社会や文化を理解することを目指す。特にキャリア教育として、実際の日本社会を実見し、その後日本社会について検討することを基本とする。高野山との比較とすることが重要であるので、和歌山や大阪などの学外研修を実施する。そのため、集中講義とし、土日、祝日、長期休暇などに学外研修を実施する。

授業の到達目標

高野山と他の地域（和歌山や大阪など）との比較を通して、日本の社会や文化の基本を理解できるようになる。特に日本の働き方について理解できるようになる。

授業計画

1. 日本社会と文化について
2. 学外研修①
3. 学外研修②
4. 学外研修③
5. 学外研修④
6. 学外研修⑤
7. 学外研修⑥
8. 学外研修⑦
9. 学外研修⑧
10. 学外研修⑨
11. 学外研修⑩
12. 学外研修⑪
13. 学外研修⑫
14. 学外研修⑬
15. 学外研修の報告会

準備学習(予習・復習)・時間

・学外研修地について調べる (60分)。 ・学外研修で気づいた点をまとめる (60分)。

テキスト

その都度関係する資料を配布する。

参考書・参考資料等

木山三佳、田川麻央『学生・留学生のキャリアプランニング』実教出版、2022年。 他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

発表 (30%)、授業への参加度・学習態度 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学外研修で体験した内容を母国語で説明できる。
- (B) 学外研修で体験した内容を日本語で説明できる。
- (A) 学外研修で体験した内容を分析した上で、日本語で説明できる。
- (S) 学外研修で体験した内容を分析した上で、キャリアに関連付けて日本語で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業中・前後、オフィスアワーなどで受け付ける。

その他

本授業は、留学生の日本文化コースの必修科目である。日本人学生は履修できない。 土日、祝日、長期休暇を利用して、学外研修を実施する。日程は、別途連絡するので、注意すること。 他のキャリア科目や日本語を履修しておくこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学特殊講義B						学期	前期	
副題	尊像の信仰の歴史と形像1 如来・菩薩編				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	M-12-071	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多様である。講義では、密教に関係の深い尊像や曼荼羅に登場する主要な尊格について、その信仰の歴史と形を学ぶことにより、各尊像の基本的な知識を習得する。またスライド画像を用いて視覚的に確認することにより、各尊像の美術史的な理解を深めることができる。さらに、多くの文化財を所蔵する高野山霊宝館において実地に見学を行い、実際の仏像・仏画等を拝観することで、尊像を多角的に知ることができ、像容を理解する上で貴重な経験となる。

授業の到達目標

・仏尊の種類や信仰の歴史について学び、各尊像の基礎的な知識を習得できるようになる。・尊像の形像について学び、各尊像の姿、形の特徴について説明できるようになる。・仏像・仏画などを実地に見学し学ぶことにより、各尊像について解説できるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション、仏教美術の基礎知識（尊像の種類や形式など仏教美術全般にわたる基礎知識）
2. 尊像の信仰の歴史と形像1（如来1）：釈迦如来
3. 尊像の信仰の歴史と形像2（如来2）：大日如来
4. 高野山霊宝館での実地見学1：春期企画展前期「展示内容未定」
5. 尊像の信仰の歴史と形像3（如来3）：阿弥陀如来・薬師如来
6. 尊像の信仰の歴史と形像4（如来4・菩薩1）：弥勒仏・弥勒菩薩
7. 尊像の信仰の歴史と形像5（菩薩2）：十一面観音・千手観音
8. 高野山霊宝館での実地見学2：春期企画展後期「展示内容未定」
9. 尊像の信仰の歴史と形像6（菩薩3）：不空罽索観音
10. 尊像の信仰の歴史と形像7（菩薩4）：如意輪観音
11. 尊像の信仰の歴史と形像8（菩薩5）：文殊菩薩
12. 高野山霊宝館での実地見学3：大宝蔵展「展示内容未定」
13. 尊像の信仰の歴史と形像9（菩薩6）：普賢菩薩
14. 尊像の信仰の歴史と形像10（菩薩7）：虚空蔵菩薩
15. 尊像の信仰の歴史と形像11（菩薩8）：地藏菩薩

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、「仏教美術の基礎知識」で配布した資料の仏教美術に関する全般的な知識を理解、確認しておくこと(30分)、事後学習として、講義内容と配布された資料の要点を整理、確認すること(90分)、実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめること(60分)

テキスト

講義内容に沿った参考資料（文字・画像資料およびスライドの資料）を毎回配付する。

参考書・参考資料等

①『日本美術全集』小学館 2012～16年などの美術全集 ②文化庁等監修『日本の美術』至文堂 1966～2009年・ぎょうせい 2009～11年 ③熊田由美子著『比べてもともとよくわかる仏像』朝日新聞出版 2017年 ④水野敬三郎監修『日本仏像史』美術出版社 2001年

学生に対する評価

授業参加および実地見学への積極性(40%)、期末レポート(60%)で評価する。前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて4000字程度のレポートを提出する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教美術についての基礎知識を理解している。
- (B) 各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。
- (A) 各尊像の基本的な姿や形について、その特徴について説明できる。
- (S) 各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。提出されたレポートについての講評は、添削後、返却時にひとりひとり行う。

その他

・教室での講義だけではなく、高野山霊宝館において見学を行うアクティブラーニングを取り入れた科目である。・密教学特殊講義C(後期)はB(前期)から内容が継続しているので、履修・聴講することが望ましい。・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。・日頃から仏教美術作品に興味を持ち、受講生各自でも積極的に霊宝館や奈良・京都などで開催される仏教美術の展覧会などを見学することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

大学の教員及び非常勤講師として仏教美術史の講義、寺院等の見学授業や仏像調査の経験をもつ教員が、その経験を活かして、仏教美術史の基礎的な知識を解説し、霊宝館での実地見学を通してより深い作品への理解力を身につける科目である。

科目名	密教学特殊講義C					学期	後期		
副題	尊像の信仰の歴史と形像2 明王・天部編				授業方法	講義	担当者	和田圭子	
ナンバリング	M-12-072	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多様である。講義では、密教に関係の深い尊像や曼荼羅に登場する主要な尊格について、その信仰の歴史と形を学ぶことにより、各尊像の基本的な知識を習得する。またスライド画像を用いて視覚的に確認することにより、各尊像の美術史的な理解を深めることができる。さらに、多くの文化財を所蔵する高野山霊宝館において実地に見学を行い、実際の仏像・仏画等を拝観することで、尊像を多角的に知ることができ、像容を理解する上で貴重な経験となる。

授業の到達目標

・仏尊の種類や信仰の歴史について学び、各尊像の基礎的な知識を習得できるようになる。・尊像の形像について学び、各尊像の姿、形の特徴について説明できるようになる。・仏像・仏画などを実地に見学しその見方を学ぶことによって、見学しながら説明することができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション、仏教美術の基礎知識（尊像の種類や形式など仏教美術全般にわたる基礎知識）
2. 尊像の信仰の歴史と形像1（明王1）：不動明王
3. 尊像の信仰の歴史と形像2（明王2）：愛染明王
4. 高野山霊宝館での実地見学 1： 秋期企画展前期（展覧会詳細未定）
5. 尊像の信仰の歴史と形像3（明王3）：孔雀明王
6. 尊像の信仰の歴史と形像4（明王4）：五大明王
7. 尊像の信仰の歴史と形像5（天部1）：梵天・帝釈天
8. 高野山霊宝館での実地見学 2： 秋期企画展後期（展覧会詳細未定）
9. 尊像の信仰の歴史と形像6（天部2）：吉祥天
10. 尊像の信仰の歴史と形像7（天部3）：弁才天
11. 尊像の信仰の歴史と形像8（天部4）：四天王
12. 高野山霊宝館での実地見学 3： 冬期平常展（展覧会詳細未定）
13. 尊像の信仰の歴史と形像9（天部5）：十二天
14. 尊像の信仰の歴史と形像10（天部6）：十二神将
15. 尊像の信仰の歴史と形像11（天部7）：八部衆等

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学修として、「仏教美術の基礎知識」で配布した資料の仏教美術に関する全般的な知識を理解、確認しておくこと(30分)、事後学修として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認すること(90分)、実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめること(60分)

テキスト

授業内容に沿った参考資料(文字・画像資料およびスライドの資料)を毎回配付する。

参考書・参考資料等

- ①『日本美術全集』小学館 2012～16年などの美術全集 ②文化庁等監修『日本の美術』至文堂 1966～2009年・ぎょうせい 2009～11年 ③熊田由美子著『比べてもっとよくわかる仏像』朝日新聞出版 2017年 ④水野敬三郎監修『日本仏像史』美術出版社 2001年

学生に対する評価

授業参加および実地見学への積極性(40%)、期末レポート(60%)で評価する。前期授業終了までに各自テーマを設定し、それについて4000字程度のレポートを提出する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教美術についての基礎知識を理解している。
- (B) 各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。
- (A) 各尊像の基本的な姿や形について、その特徴について説明できる。
- (S) 各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、原則として授業内または授業終了後にフィードバックを行う。提出されたレポートの講評は、添削後、返却時にひとりひとりを行う。

その他

・教室での講義だけではなく、高野山霊宝館において見学を行うアクティブラーニングを取り入れた科目である。・密教学特殊講義B(前期)はC(後期)へと内容が継続しているので、履修・聴講することが望ましい。・事前に日本史に関する基礎知識を確認しておくこと。・日頃から仏教美術作品に興味を持ち、受講生各自でも積極的に霊宝館や奈良・京都などで開催される仏教美術の展覧会などを見学することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

大学の教員及び非常勤講師として仏教美術史の講義、寺院等の見学授業や仏像調査の経験をもつ教員が、その経験を活かして、仏教美術史の基礎的な知識を解説し、霊宝館での実地見学を通してより深い作品への理解力を身につける科目である。

科目名	密教学特殊講義D						学期	後期	
副題	高野山と周辺地域の関係				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	M-11-073	実務経験の有無	無	関連DP	2, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について民俗や歴史を学ぶことによって、身近な地域について理解する。

授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗や歴史について理解するとともに、地域文化圏の意義を説明できるようになる。

授業計画

1. 高野文化圏研究の意義
2. 高野文化圏をめぐる環境（1）自然環境
3. 高野文化圏をめぐる環境（2）社会環境
4. 景観の諸問題（1）景観権
5. 景観の諸問題（2）具体的な事例
6. 生業（1）1次産業
7. 生業（2）2次産業・3次産業
8. 交通・交易（1）高野七口
9. 交通・交易（2）高野参詣
10. 社会生活（1）村について
11. 社会生活（2）近隣組織
12. 民俗宗教（1）年中行事
13. 民俗宗教（2）高野山の信仰
14. 民俗宗教（3）人生儀礼
15. 高野文化圏の特徴

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90分）。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編高野町2012年、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

最終レポート（70%）、授業時の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 高野文化圏の歴史や民俗について基本的事項を説明できる。
- (B) 授業内容を理解した上で、高野文化圏の歴史や民俗について説明できる。
- (A) 高野文化圏の歴史や民俗について自己の意見を述べることができる。
- (S) 高野文化圏の課題に対する対策を提案できる。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学特殊講義S							学期	前期
副題	胎蔵曼荼羅を読み解く				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M-01-074	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

はじめに「曼荼羅とは何か？」をインド密教の歴史とともに解説し、弘法大師・空海が日本に伝えた胎蔵曼荼羅・金剛界曼荼羅の両部曼荼羅のうち、『大日経』に説かれる胎蔵曼荼羅を取り上げ、その図像の解析をしながら、そこに象徴される思想を読み解く。

授業の到達目標

密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画

1. いろいろな曼荼羅を見てみよう
2. 密教の歴史と曼荼羅
3. 曼荼羅とは何か？①
4. 曼荼羅とは何か？②
5. 『大日経』概説
6. 『大日経』が説く胎蔵曼荼羅
7. 胎蔵曼荼羅の図像の発展
8. 中台八葉院
9. 蓮華部院
10. 金剛手院
11. 遍知院と持明院
12. 釈迦院と文殊院
13. 虚空藏院、地藏院、除蓋障院
14. 外金剛部院の神々①
15. 外金剛部院の神々②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等

田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンドラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) / 田中公明『インド密教史』(春秋社) など

学生に対する評価

試験・レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 曼荼羅とは何かが説明できる。
- (B) 胎蔵曼荼羅の全体構造を把握し、説明することができる。
- (A) 胎蔵曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
- (S) 胎蔵曼荼羅を『大日経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義T							学期	後期
副題	金剛界曼荼羅を読み解く					授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	M-01-075	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

両部曼荼羅のうち、『金剛頂経』に説かれる金剛界曼荼羅について、その図像を解析しながら、そこに象徴される思想を読み解く。日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本のほか、インドやチベットの金剛界曼荼羅についても紹介し、さらに、金剛界曼荼羅から発展した後期密教の曼荼羅にも触れてみたい。

授業の到達目標

密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画

- 『金剛頂経』概説
- 『金剛頂経』と曼荼羅
- 金剛界曼荼羅の構造
- 金剛界五仏
- 十六大菩薩①
- 十六大菩薩②
- 四波羅蜜菩薩と八供養菩薩
- 四摂菩薩と賢劫尊
- 外金剛部の神々
- 六種曼荼羅の図像表現
- 「降三世品」「遍調伏品」「一切義成就品」の曼荼羅
- 日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本
- インドの金剛界系遺品とチベットの金剛界曼荼羅
- 後期密教の曼荼羅①
- 後期密教の曼荼羅②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等

田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンドラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) / 田中公明『インド密教史』(春秋社) など

学生に対する評価

試験・レポート(50%)、授業参加の積極性(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 金剛界曼荼羅の構成について説明できる。
- 金剛界曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
- 金剛界曼荼羅を『金剛頂経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。
- 『金剛頂経』と金剛界曼荼羅が密教史の上で果たした役割を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義U						学期	後期	
副題	四国遍路の研究 澄禅の日記を読む				授業方法	講義	担当者	柴谷宗叔	
ナンバリング	M-01-076	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

四国遍路について書かれた江戸時代初期の記録、澄禅の『四国辺路日記』を取り上げる。承応2年（1653）に高野山を出発し、四国一周遍路をした日記である。現存する文献史料としては最古級であり、修験者のものであった遍路が一般化する時代の先駆けとなる貴重な記録である。現在の遍路道と比較しながら、変遷をたどるとともに、江戸時代初期の風俗や宗教についても触れる。

授業の到達目標

現在の四国遍路を考えるうえで、その原点となる、江戸時代の遍路の実態を理解する。現在と比較することで、歴史的、宗教的、社会的、民俗学的側面から遍路を考えることができるようになる。

授業計画

1. 四国遍路の歴史概論
2. 『四国辺路日記』講読 高野山～徳島
3. 『四国辺路日記』講読 徳島中部
4. 『四国辺路日記』講読 徳島南部
5. 『四国辺路日記』講読 徳島南部～高知東部
6. 『四国辺路日記』講読 高知東部～中部
7. 『四国辺路日記』講読 高知中部
8. 『四国辺路日記』講読 高知西部
9. 『四国辺路日記』講読 愛媛南部
10. 『四国辺路日記』講読 愛媛中部
11. 『四国辺路日記』講読 愛媛東部
12. 『四国辺路日記』講読 香川西部
13. 『四国辺路日記』講読 香川中部～東部
14. 『四国辺路日記』講読 香川東部～徳島北部
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前に次の講義で扱う部分を読み、疑問点を整理しておくこと（60分）。講義中に出てきた検討課題をまとめて、次に備える（60分）。

テキスト

澄禅『四国辺路日記』（コピーを配布する）

参考書・参考資料等

柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路』（法蔵館）、同『四国遍路 ころのの旅路』（慶友社）、伊予史談会『四国霊場記集』（愛媛県教育図書）、近藤喜博『四国遍路研究』（三弥井書店）、宮崎忍勝『澄禅四国遍路日記』（大東出版社）、頼富本宏・白木利幸『四国遍路の研究』（日本国際文化センター）など

学生に対する評価

レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路について簡単に説明できる。
- (B) 澄禅の日記の概要について説明できる。
- (A) 澄禅の日記の内容に基づき、江戸時代の四国遍路の状況を具体的に説明できる。
- (S) 江戸時代の資料を基に、当時の遍路の状況と、現在につながる歴史的変遷を学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回講義以降に回答する。疑問点については受講者も交え討議する。

その他

四国遍路とは何かを事前に知っておくこと。できる限り、前期の「巡礼・遍路 T」との通年受講が望ましい。これまで四国遍路をしたことのない人は、夏休み等を利用して、実際に遍路体験してみるといい。できる限り実際に巡拝することを勧める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国遍路120周以上の元老大先達、30年以上の実際の巡拝体験をもとに巡拝方法などを伝授する。この間、遍路道については、澄禅の道と現在の道との比較をはじめ、歴史的な変遷について実地調査した経験を基に講義する。高野山真言宗住職として、性善講を主宰しての巡拝も行っているため、参加することも可能。詳細は講義中に説明する。

科目名	仏教学特殊講義A						学期	前期	
副題	釈尊伝を読む				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M-02-077	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『法華経』を梵・漢対照でその比喻形態に着目して読みこみ、『法華経』の思想的特徴について考察し、理解する。

授業の到達目標

諸経の王と呼ばれて来た初期大乘經典の代表格である『法華経』を講読することによって、サンスクリット語の読解能力を身に付け、仏教（密教）の思想を広く深い視野で考究することができるようになる。

授業計画

1. 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（声聞不成仏の問題）
2. 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（大迦葉への授記）
3. 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（大通地勝仏の出現）
4. 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（化城の喩え）
5. 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（富楼那の出現）
6. 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（無明の酒）
7. 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（ラーフラの登場）
8. 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（迹門の法説）
9. 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（法師による教説）
10. 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（乾土の喩え）
11. 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（宝塔出現）
12. 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（法身・応身の融合）
13. 『法華経』「提婆品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（畜生龍女の成仏）
14. 『法華経』「勸持品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（弘教の誓い）
15. 上記の品以外で、重要な比喻が用いられている品を探す。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として『法華経』の梵文テキストと漢訳とを照合し、梵文和訳の予習をする。（最低週に延べ300分）。事後学修として授業で学んだことを復習する（120分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

梵文テキストは担当者が用意する。その他、詳細については、授業で支持する。

学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
 - (B) 『法華経』の基本的な成立背景に関する知識を持っている。
 - (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 梵・漢対照の基本的な文献学的方法論を身に付けている。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊講義B						学期	後期	
副題	『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読む。				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M-02-078	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読解し、初期仏教思想の要を理解する。

授業の到達目標

ブッダの肉声にせまり、仏教徒はどのような思想家について把握する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「犀の一角の経」を読んで解説
3. 「いやしい人の経」を読んで解説
4. 「コラム1 自灯明」を読んで解説
5. 「なまぐさの経」を読んで解説
6. 「コラム2 慈悲」を読んで解説
7. 「失の経」を読んで解説
8. 「コラム3 中道」を読んで解説
9. 「愛欲の経」を読んで解説
10. 「論争と議論の経」を読んで解説
11. 「武器を手にすることの経」を読んで解説
12. 「コラム4 非我」を読んで解説
13. 「志あるアジタ青年の質問」を読んで解説
14. 「志あるメッター青年の質問」を読んで解説
15. 「コラム5 縁起」を読んで解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習(予習)として、1経を読んで問題点を探しておく。(180分以上) 事後学修(復習)として60分以上。論文指導については、4回生には随時アドヴァイスするが、3回生及に関しては、後期3回分で論文の書き方等の指導を行い、最終講義の際に確認作業としての論文指導を2回行う。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価

学期末のレポート(100%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
 (B) 古文の読解能力を身につけている。
 (A) 歌意に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っている。
 (S) 講義を通して、学術論文の書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

アクティブ・ラーニング(ディスカッション)を取り入れた授業である。

科目名	仏教学特殊講義Ⅴ						学期	前期	
副題	インド大乘仏教における空思想				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	M-02-079	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

仏教の主要な思想である「空」は、いずれの時代・地域においても、重要な課題として盛んに論じられ、多様に解釈されてきた。東アジア仏教の淵源であるインド大乘仏教では、空をどのように理解し、議論し、実践してきたのか。このテーマをとくに精力的に扱ったのが、大乘仏教の二大学派の一であり、龍樹を祖とする中観派である。本講義では、大乘仏教に至るまでの思想的展開、龍樹が構築した空思想、さらに彼に続く論師たちの思想を学ぶことで、仏教学全般を理解するための確固たる支柱を獲得することを目的とする。

授業の到達目標

とくにインド大乘仏教における空思想の特徴と展開を体系的に把握し、仏教思想全体に対する理解を深めることができる。

授業計画

1. 仏教の思想的展開
2. 初期仏教・部派仏教の思想
3. 初期仏教・部派仏教における空
4. 般若經典類と空(1)
5. 般若經典類と空(2)
6. 般若經典類と空(3)
7. ナーガールジュナ（龍樹）の思想と著作
8. 『根本中頌』が説く思想(1) 縁起と中道
9. 『根本中頌』が説く思想(2) 空と空性
10. 『根本中頌』が説く思想(3) 言語表現と「ことばの虚構」
11. 「ことばの否定」と論理学
12. 中観論師たちの思想と著作(1) パーヴィヴェーカ（清弁）
13. 中観論師たちの思想と著作(2) チャンドラキールティ（月称）
14. 空思想の展開（瑜伽行唯識思想・如来蔵思想）
15. チベット・中国仏教における空思想と全体の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する。(60分)

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

立川武蔵『空の思想史』（講談社学術文庫 1600、講談社、2003年）、正木晃『「空」論』（春秋社、2019年）など。他は随時、授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 空思想を把握するために必要な用語を理解している
- (B) 空思想の特徴を理解し、説明できる
- (A) 空思想の特徴と展開を把握できる
- (S) 空思想の特徴と展開を体系的に理解し、説明できる

課題に対するフィードバックの方法

疑問・質問については、毎回の授業内で全体に対してフィードバックを行ない、知識を共有する。

その他

分らない用語や概念があれば自ら辞書や参考文献を用いて学習する等、積極的に理解するよう努めること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。なお、初回授業で全体の内容理解に必要な事項を確認するので、留意して受講すること。

科目名	仏教学特殊講義W						学期	後期	
副題	『唯識三十頌』を読む				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M-02-080	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

仏教を研究するための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必要な概念を確認し、辞書や文法書など、研究に必要な「工具」について学ぶ。その基礎知識を活用して、インド大乘仏教の二大学派の一翼を担う瑜伽行派の基本典籍であるヴァスバンドゥ著『唯識三十頌』を読み進めながら、瑜伽行派の主要な教理としてアーラヤ識説や三性説、唯識説について知識を得るとともに、文献に接する態度、基本的な読み方を身につけてゆく。

授業の到達目標

瑜伽行派における思想を体系的に理解し、自分の言葉で説明できる。文献学に必要な概念を理解し、研究に必要な「工具」を駆使して、漢訳の書き下された、あるいは現代語訳されたインド仏教文献（『唯識三十頌』）を読解できる。

授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 仏教を研究するための基礎知識
3. 唯識思想概観
4. 『瑜伽師地論』「本地分中三摩呬多地」Initial Passage 読解と読解結果の分析
5. 『唯識三十頌』第1偈～第7偈一識の働き―読解
6. 『唯識三十頌』第1偈～第7偈一識の働き―読解結果の分析
7. 『唯識三十頌』第8偈～第16偈一識の働き―読解
8. 『唯識三十頌』第8偈～第16偈一識の働き―読解結果の分析
9. 『唯識三十頌』第17偈～第19偈一識の働き―読解
10. 『唯識三十頌』第17偈～第19偈一識の働き―読解結果の分析
11. 『唯識三十頌』第20偈～第25偈一三性三無自性説―読解
12. 『唯識三十頌』第20偈～第25偈一三性三無自性説―読解結果の分析
13. 『唯識三十頌』第26偈～第30偈一修行論―読解
14. 『唯識三十頌』第26偈～第30偈一修行論―読解結果の分析
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、『唯識三十頌』の読解箇所の漢訳の書き下し文や現代語訳を辞書などを駆使して精読すること（90分）。事後学修として、講義内容の要点をノートに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30分）。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①加藤弘二郎『『唯識三十頌』を読む』仏典を読むシリーズ、角川書店、2006、②廣澤隆之『『唯識三十頌』を読む』TU選書、大正大学出版会、2005、③長尾雅人・梶山雄一・荒牧典俊『世親論集』大乘仏典15、中央公論新社、2005。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 瑜伽行派における基本的な思想・用語を理解している。
- (B) 漢文の書き下された、あるいは現代語訳された文献を辞書などの工具を駆使して精読できる。
- (A) 精読した文献の内容を理解している。
- (S) 瑜伽行派における思想を自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。『唯識三十頌』の輪読を中心に受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	真言密教特殊講義A／密教儀礼の理論と実習(別)1							学期	前期
副題	中院流諸作法1				授業方法	講義	担当者	中西雄泰	
ナンバリング	M-01-081	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標

高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画

1. 授業の概要説明
2. 中院流の成り立ちについて（1）
3. 中院流の成り立ちについて（2）
4. 中院流の成り立ちについて（3）
5. 別行次第（理趣法）伝授説明（1）
6. 別行次第（理趣法）伝授説明（2）
7. 別行次第（理趣法）伝授説明（3）
8. 別行次第（理趣法）伝授説明（4）
9. 別行次第（理趣法）伝授説明（5）
10. 別行次第（理趣法）伝授説明（6）
11. 別行次第（理趣法）伝授説明（7）
12. 別行次第（理趣法）伝授説明（8）
13. 開眼作法等日用小作法伝授説明（1）
14. 開眼作法等日用小作法伝授説明（2）
15. 開眼作法等日用小作法伝授説明（3）

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90分）

テキスト

①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等

必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価

授業態度（100％）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 出席 60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
 (B) 出席 80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
 (A) 出席 90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
 (S) 出席 100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法

質問は受け付けない。

その他

・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作業服は不可。・前期・後期を通して受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	真言密教特殊講義日／密教儀礼の理論と実習(別)2							学期	後期
副題	中院流諸作法 2				授業方法	講義	担当者	中西雄泰	
ナンバリング	M-01-082	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標

高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画

1. 真言宗の葬儀について（1）
2. 真言宗の葬儀について（2）
3. 引導作法伝授説明（1）
4. 引導作法伝授説明（2）
5. 引導作法伝授説明（3）
6. 引導作法伝授説明（4）
7. 引導作法伝授説明（5）
8. 無常導師作法伝授説明（1）
9. 無常導師作法伝授説明（2）
10. 無常導師作法伝授説明（3）
11. 無常導師作法伝授説明（4）
12. 日用作法伝授説明（1）
13. 日用作法伝授説明（2）
14. 日用作法伝授説明（3）
15. 日用作法伝授説明（4）

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90分）

テキスト

①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用經典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等

必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価

授業態度（100％）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 出席 60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
 (B) 出席 80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
 (A) 出席 90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
 (S) 出席 100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法

質問は受け付けない。

その他

・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作業服は不可。・前期・後期を通して受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	真言密教特殊講義D							学期	前期
副題	『中院流三十三尊法聞書』を読む(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	M-01-083	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1. 中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2. 別尊次第について
3. 「金輪」
4. 「佛眼」
5. 「薬師」
6. 「阿弥陀」
7. 「釈迦」
8. 「尊勝」
9. 「聖観音」
10. 「千手」
11. 「十一面」
12. 「馬頭」
13. 「準胝」
14. 「如意輪」
15. 「白衣」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B)『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A)『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S)『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。内容は後期に続くため、「真言密教特殊講義E」を続けて受講することを推薦する。

科目名	真言密教特殊講義C							学期	後期
副題	『中院流三十三尊法聞書』を読む(後半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトイン	
ナンバリング	M-01-084	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1. 「弥勒」
2. 「五字文殊」
3. 「八字文殊」
4. 「延命」
5. 「地藏」
6. 「愛染」
7. 「不動」
8. 「降三世」「軍荼利」
9. 「大威徳」「金剛夜叉」「烏樞沙摩」
10. 「法華」「舍利」
11. 「光明真言」
12. 「毘沙門」
13. 「炎魔天」
14. 「水天」
15. 「聖天」「訶利帝」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B)『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A)『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S)『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「真言密教特殊講義D」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	真言密教特殊講義F						学期	前期	
副題	安祥寺流の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M-01-085	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

安祥寺流は御籙流とも称され真言宗の事相流派の中で最も精緻な体系をもっている。高野山においても南山教学の大成者宥快が最も重視した流派で宝性院の本流とされたものである。安流は後に新安と古安とに分流するが、この度は古安を伝授する。古安の伝授を受けることにより日本密教史を自らの関係性の上で理解し観じることができるようになること、伝統の継承を行うことができるようになることをこの講義の目的とする。事相の専門的な講義なので伝法灌頂に入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

安祥寺流の歴史と特徴を理解するだけでなく、安祥寺流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる

授業計画

1. オリエンテーション
2. 安祥寺流について
3. 四度折紙
4. 四度折紙
5. 十八道次第
6. 十八道次第
7. 十八道次第
8. 十八道次第
9. 十八道次第
10. 十八道次第
11. 不動次第
12. 不動次第
13. 不動次第
14. 不動次第
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

講義は伝授として行うので次第の予習をしておかない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい(20分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理しておくこと(90分)講義のまとめ作成(70分)

テキスト

資料をコピーで配布

参考書・参考資料等

『真言密教事相概説』『四度部』『諸尊法、灌頂部上』『諸尊法、灌頂部下』(同朋舎)

学生に対する評価

レポート(70%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 安祥寺流の特徴を簡単に説明できる
- (B) 安祥寺流の所作を理解実践説明できる。
- (A) 安祥寺流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
- (S) 安祥寺流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめ毎にフィードバックを行う。

その他

本講義は已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事。本講義は、学生以外の聴講は認めない。

科目名	真言密教特殊講義G							学期	後期
副題	子嶋流の研究					授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	M-01-086	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

子嶋流は、傳法灌頂に八印を用いるなど東密の流派の中でも特異な流派である。また、台密との関連や南都に与えた影響などを考えると極めて重要な流派である。子嶋流について伝統的な相伝と流派に伝わる文献の購読を通して専門的な知識を身に付けることを目的とする。

授業の到達目標

子嶋流の歴史と特徴を理解するだけでなく、子嶋流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 胎藏界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
3. 胎藏界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
4. 胎藏界次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
5. 胎藏次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
6. 胎藏次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
7. 胎藏界儀軌解釋の研究
8. 胎藏界儀軌解釋の研究
9. 胎藏界儀軌解釋の研究
10. 胎藏界儀軌解釋の研究
11. 胎藏界儀軌解釋の研究
12. 胎藏界口伝の研究
13. 胎藏界口伝の研究
14. 胎藏界口伝の研究
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい(20分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)講義のまとめ作成(70分)

テキスト

コピーを配布

参考書・参考資料等

『子嶋流の研究』

学生に対する評価

レポート(70%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 子嶋流の胎藏界次第の特徴を簡単に説明できる
- (B) 子嶋流の胎藏界次第の所作を理解実践説明できる。
- (A) 子嶋流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
- (S) 子嶋流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめり毎にフィードバックを行う。

その他

本講義は已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事

科目名	真言密教特殊講義Ⅱ／観法の理論と実習B(別)							学期	後期
副題	密教瞑想法				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M-01-087	実務経験の有無	無	関連DP	2,5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

阿字観は、阿の一字を徹頭徹尾観ずる密教の観法である。通常の密教実践は出家者にだけ許されているが、阿字観は在家の人でも修することができる。密教観法の一つである月輪観と阿字観についてについてその理論と実習を通じ修得する。

授業の到達目標

阿息観を踏まえて、月輪観と阿字観について、理論を修得するとともに説明できるようになる。

授業計画

1. 瞑想の目的と種類
2. 阿息観について
3. 阿息観の実習
4. 月輪観について
5. 月輪観について
6. 月輪観実習
7. 『大日経』と阿字
8. 阿字観について
9. 阿字観について
10. 阿字観実習
11. 自由討論
12. 阿字観の口訣
13. 阿字観の口訣
14. 阿字観実習
15. レポート作成と講評

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、授業で修得したことを整理し、身に付けること。(120分)

テキスト

①山崎泰廣著『真言密教阿字観瞑想入門』(春秋社) その他コピー配布

参考書・参考資料等

『大日経』、『大日経疏』、『定本弘法大師全集』等

学生に対する評価

レポート(80%)、授業参加の積極性(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の基本的文献を調査し読むことができる。
- (B) 月輪の意味について説明できる。
- (A) 実習を通して月輪の意味をより深く説明できる。
- (S) 密教瞑想法の思想的背景について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめり毎、実修毎にフィードバックを行う。

その他

楽に坐れる服装で出席のこと。匂いの強い化粧、ネックレス、イヤリングをしないこと。受講の間に、釈尊の胸中、空海の悠大な悟境の片鱗に触れていただきたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学講読演習A						学期	前期	
副題	密教図像に関する体系的学習				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M-01-088	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマラー』や『ニシュバンナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める。

授業の到達目標

密教尊像の基本的な知識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 漢訳資料の基本的な扱い方
3. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経前半）
4. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経後半）
5. 尊格表現方法の基本知識（仏の種類）
6. 尊格表現方法の基本知識（仏の展開）
7. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅）
8. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅の展開）
9. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
10. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
11. 密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12. 図像資料講読演習（経典の講読）
13. 図像資料講読演習（経典の講読）
14. 図像資料講読演習（経典の講読）
15. レポート試験・講評

準備学習(予習・復習)・時間

準備学習は必要ないが、復習を必ず実施すること。週 60 分。

テキスト

大正新脩大藏経図像部

参考書・参考資料等

松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995 年 頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994 年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962 年

学生に対する評価

レポート (60%)、授業内演習 (30%)、ノート作成 (10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢訳資料を扱える
- (B) 密教尊像に関する知識を得る
- (A) 密教図像に関する資料を扱える
- (S) 密教図像成立を体系的に理解できる

課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学講読演習B						学期	通年	
副題	古文書・聖教調査				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M-12-089	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本演習では、高野山に伝来した古文書・聖教（古典籍）の調査を通して、密教学や歴史学に関係する資料を活用できる学問的素地を得る。個別の文書・聖教に即して、員数・装丁・法量などの形態的情報を記録するとともに、文書様式について判断を下し、識語・奥書・序跋などの成立・書写・伝来情報をも読み取る。以上のプロセスを通して、各史料の性質を把握する見識を養う。

授業の到達目標

①古文書・聖教（古典籍）の原本・写本についての調査経験を習得する。②員数・装丁・法量などの形態的情報を的確に記録できるようにする。③識語・奥書・序跋などの解読能力を習得し、その史料的価値について理解できるようにする。

授業計画

1. 古文書の諸形態と特徴
2. 聖教（古典籍）の諸形態と特徴
3. 調書の取り方①
4. 調書の取り方②
5. 古文書・聖教（古典籍）の調査①
6. 古文書・聖教（古典籍）の調査②
7. 古文書・聖教（古典籍）の調査③
8. 古文書・聖教（古典籍）の調査④
9. 古文書・聖教（古典籍）の調査⑤
10. 古文書・聖教（古典籍）の調査⑥
11. 古文書・聖教（古典籍）の調査⑦
12. 古文書・聖教（古典籍）の調査⑧
13. 調書の集約作業①
14. 調書の集約作業②
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書を毎回読み、古文学書・書誌学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分）【復習】古文書や聖教（古典籍）調査の要点をノートに整理すること（80分）

テキスト

調査プリント（適宜、必要枚数を配布する）

参考書・参考資料等

①橋本不美男『原典をめざして』（笠間書院、1974年）、②田中稔『中世史料論考』（吉川弘文館、1993年）第1部「日本の古文書」、③藤本孝一『日本の美術 古写本の姿』（至文堂、2002年）、④藤本孝一『日本の美術 文書・写本の作り方』（至文堂、2008年）

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古文書・聖教（古典籍）について、基礎的な知識・調査経験を習得している。
 (B) 古文書・聖教（古典籍）の諸形態や奥書の史料的価値について理解し、系統的に説明できる。
 (A) 古文書・聖教（古典籍）について系統的な説明ができるとともに、調査経験を踏まえて専門的な見識を習得している。
 (S) 古文書・聖教（古典籍）について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な経験と見識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の演習内で対応する。

その他

本演習は、古文書・聖教（古典籍）の原本・写本を扱うので、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。それだけに、学問的水準は非常に高い。本講義を履修することが認められるのは、前年度までに「歴史学入門」「歴史学入門演習」「歴史学」「古文書解説」のうち、二科目以上の単位を修得している人のみである。要件を満たさない履修は許可できないので、登録にあたっては注意すること。また、本演習の履修者は、必ず「書誌学」と「古文学書」も履修すること。

科目名	密教学講読演習S						学期	後期	
副題	真言密教の死生観				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M-01-090	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

授業の到達目標

仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

授業計画

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 凡夫の生死 ① 苦としての生死
3. " ② 五蘊と無我
4. " ③ 縁起としての生死
5. " ④ 輪廻の世界
6. 仏陀観の変遷 ① 釈尊の生涯
7. " ② 変容する釈尊
8. " ③ 神変とマンダラ
9. この身のままで仏と成る ① 六大と人間
10. " ② 真理の表現
11. " ③ 心とマンダラ
12. 生死の意味 ① 因不可得
13. " ② 輪廻の生死から本不生へ
14. " ③ 「真に帰す」
15. まとめ — 〈私〉という存在—

準備学習(予習・復習)・時間

・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく(60分) ・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる(60分)

テキスト

・各回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

①土居夏樹『はじめての「生と死から学ぶ」空海思想入門』、セルバ出版 ②竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ③中村元『ブツダ伝』、角川文庫ソフィア ④小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内での積極的な発言(40%)、期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的な仏教用語を習得している。
 (B) 仏陀観の変遷について説明ができる。
 (A) 大乘仏教から密教への展開を説明できる。
 (S) 上記(C)～(A)を踏まえて、弘法大師の死生観の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

各回の内容に関するリアクションペーパーを作成させ、コメントする。

その他

・授業中に基礎的な用語についての質問をするので、必ず予習をして臨むこと。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学講読演習T						学期	前期
副題	密教とスピリチュアルケア				授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	M-10-091	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

この講義では、密教の世界観をベースとしたスピリチュアルケアの援助論について講義をします。スピリチュアルケアが提唱されるようになった背景には、死について真剣に向き合おうとする臨床現場からの要請があったためです。病気だけでなく戦争、災害などで大切な人を喪うといった重大な危機的体験によって、私たちは生きることそのものに意味を見出すことができず、死を考えざるを得ない状況に追い込まれることもあります。この講義では、仏教・密教の教えに触れながら、「ケアすること」について考えたいと思います。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの理解を深める。

授業計画

1. ガイダンス
2. 仏教の世界観
3. 密教の世界観
4. 喪失の悲しみ
5. 悲嘆の過程①
6. 悲嘆の過程②
7. 悲嘆の過程③
8. 悲嘆の過程④
9. 病とスピリチュアルケア①
10. 病とスピリチュアルケア②
11. 病とスピリチュアルケア③
12. 自殺防止とスピリチュアルケア①
13. 自殺防止とスピリチュアルケア②
14. 生死問題（安楽死と生殖医療）とスピリチュアルケア
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと（90分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教・密教の世界観の基本的な知識を身につけている。
- (B) スピリチュアルケアを理解するための基本的な知識を身につけている。
- (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上でスピリチュアルケアの概念を理解している。
- (S) 現代の社会問題について、スピリチュアルケアの視点から捉えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	仏教学講読演習A							学期	前期
副題	『入菩薩行論』を読む1					授業方法	講義	担当者	テジツン・ウセル
ナンバリング	M-02-092	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランバ）である担当者から、ナーランダール僧院の学者シャーンティ・デーヴァが著した『入菩薩行論』を学び、その内容を理解し説明できるようになる。

授業の到達目標

『入菩薩行論』を学ぶことにより、大乘仏教の修行への理解を深める。

授業計画

1. 講義内容の説明
2. 『入菩薩行論』第1章 菩提心の利益①
3. 『入菩薩行論』第1章 菩提心の利益②
4. 『入菩薩行論』第2章 罪を浄化する方法①
5. 『入菩薩行論』第2章 罪を浄化する方法②
6. 『入菩薩行論』第2章 罪を浄化する方法③
7. 『入菩薩行論』第3章 菩提心を受持するための用意①
8. 『入菩薩行論』第3章 菩提心を受持するための用意②
9. 『入菩薩行論』第4章 取捨と有暇具足の意義を考える①
10. 『入菩薩行論』第4章 取捨と有暇具足の意義を考える②
11. 『入菩薩行論』第5章 正知と正念の教え①
12. 『入菩薩行論』第5章 正知と正念の教え②
13. 『入菩薩行論』第5章 正知と正念の教え③
14. 『入菩薩行論』第5章 正知と正念の教え④
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

テキスト

担当者が配布資料を用意する。

参考書・参考資料等

金倉圓照『悟りへの道』平楽寺書店、1958年。ゲシェー・ソナム・ギャルツェン、西村香訳註『精読・シャーンティデーヴァ 入菩薩行論』チベット仏教普及協会、2009年

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた内容を説明できる。
 (B) 『入菩薩行論』の教えの概要を説明できる。
 (A) 『入菩薩行論』の内容を詳しく説明できる。
 (S) 『入菩薩行論』の内容を詳しく説明でき、かつ各章の要点を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せて総合科目（仏教入門）を受講することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習B							学期	後期
副題	『入菩薩行論』を読む2					授業方法	講義	担当者	テジン・ウセル
ナンバリング	M-02-093	実務経験の有無	無	関連DP		1, 2	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランバ）である担当者から、ナーランダール僧院の学者シャーンティ・デーヴァが著した『入菩薩行論』を学び、その内容を理解し説明できるようになる。

授業の到達目標

『入菩薩行論』を学ぶことにより、大乘仏教の修行への理解を深める。

授業計画

- 『入菩薩行論』第6章 怒りの対治 忍辱の教え①
- 『入菩薩行論』第6章 怒りの対治 忍辱の教え②
- 『入菩薩行論』第6章 怒りの対治 忍辱の教え③
- 『入菩薩行論』第6章 怒りの対治 忍辱の教え④
- 『入菩薩行論』第6章 怒りの対治 忍辱の教え⑤
- 『入菩薩行論』第6章 怒りの対治 忍辱の教え⑥
- 『入菩薩行論』第7章 菩提心を相続させるための精進①
- 『入菩薩行論』第7章 菩提心を相続させるための精進②
- 『入菩薩行論』第7章 菩提心を相続させるための精進③
- 『入菩薩行論』第8章 禅定と自他の交換の教え①
- 『入菩薩行論』第8章 禅定と自他の交換の教え②
- 『入菩薩行論』第8章 禅定と自他の交換の教え③
- 『入菩薩行論』第9章 空性と智慧の教え①
- 『入菩薩行論』第9章 空性と智慧の教え②
- 『入菩薩行論』第9章 空性と智慧の教え③ / 後期の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

テキスト

担当者が配布資料を用意する。

参考書・参考資料等

金倉圓照『悟りへの道』平楽寺書店、1958年。ゲシェー・ソナム・ギャルツェン、西村香訳註『精説・シャーンティデーヴァ 入菩薩行論』チベット仏教普及協会、2009年。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた内容を説明できる。
 (B) 『入菩薩行論』の教えの概要を説明できる。
 (A) 『入菩薩行論』の内容を詳しく説明できる。
 (S) 『入菩薩行論』の内容を詳しく説明でき、かつ各章の要点を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せて、仏教学講読演習Aと総合科目（仏教入門）を受講することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習F						学期	後期	
副題	秘密集会タントラ概論を読む				授業方法	講義	担当者	平岡宏一	
ナンバリング	M-01-094	実務経験の有無	無	関連DP	4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

ゲルク派に伝わる秘密集会タントラ聖者流の概論書である、ヤンチェン・ガロ（1740～1827）作の『吉祥秘密集会聖者流と随順する密教の〔十〕地・〔五〕道の構造の妙徳なる善説の棧橋』（略号『密教のサ・ラム』）の解説書である、拙著『秘密集会タントラ概論』（法蔵館 2018）を精読し、ゲルク派における成仏次第を理解する。本講座受講資格としては、伝法灌頂を受けている者、もしくは何らかの無上瑜伽タントラの灌頂を受けていることが望ましい。

授業の到達目標

ゲルク派の生起次第と究竟次第それぞれの次第の特徴を知り、二段階からなる成仏体系を理解し、説明できるようにする。

授業計画

1. 密教を学ぶ上の基礎知識としての顕教について①
2. 密教を学ぶ上の基礎知識としての顕教について②
3. ゲルク派における『秘密集会タントラ』の構成と学び方を知る。
4. 聖者父子の著作とされるものについての、ツォンカバの偽作と真作の判断基準
5. 『密教のサ・ラム』を解説する上で用いた注釈書の概説
6. 有相の瑜伽と無相の瑜伽の違い 密教が稀であることの根拠 五種類の人材
7. 生起次第の定義 ① 輪廻の構造を知る
8. 生起次第の定義 ② 分類 語義 成満したか否かの目安
9. 楽・空性について 楽空無別という意味を考える
10. 究竟次第 ① 心と風(ル)の関係 脈管 二つの意識など
11. 究竟次第 ② 凡庸な認識と凡庸な顕現について
12. 究竟次第 ③ 本尊瑜伽について
13. 究竟次第 ④ 究竟次第の入り口 定寂身について
14. 究竟次第 ⑤ 定寂語 について
15. 究竟次第 ⑥ 定寂心・幻身・光明・双入 について

準備学習(予習・復習)・時間

集中講義開始までに、テキスト『秘密集会タントラ概論』（法蔵館）に目を通し、各単元ごとに疑問点の整理や専門用語の下調べ等を進めておくことが望ましい（90分×15回分）

テキスト

拙著『秘密集会タントラ概論』（法蔵館 2018 年）

参考書・参考資料等

拙著『ゲルク派版チベット死者の書』改訂新版（学研 2023 年）

学生に対する評価

出席 50% レポート課題 50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教と顕教の違いが説明できる。
- (B) 生起次第と究竟次第の違いを説明できる。
- (A) 『秘密集会タントラ概論』における五次第の階梯が説明できる。
- (S) 『秘密集会タントラ概論』の語句、専門用語を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

その他

科目名	仏教学講読演習V／釈尊の生涯(別)							学期	前期
副題	仏伝				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M-02-095	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

仏教の開祖であるゴータマ・ブッダの伝記(仏伝)を扱う書物は、一般向けのものから専門的なものまで枚挙に暇がないが、その典拠となる資料の扱い方によって叙述の仕方は異なってくる。パーリ語・サンスクリット語・チベット語訳・漢訳などのかたちで部派に伝承される様々な仏伝資料について概観した上で、特徴的なエピソードを現代語訳で輪読し、各仏伝資料における基本的な用語やエピソードに関する知識を得るとともに、資料を批判的に検討する姿勢を身につけてゆく。

授業の到達目標

各仏伝資料における基本的な用語を理解し、仏伝資料を読解できる。各仏伝資料の特徴や仏伝資料の各エピソードについて、概括的に自分の言葉で説明できる。

授業計画

1. オリエンテーション(シラバスの説明、授業の進め方等)
2. 仏伝とは何か—伝説と伝記・仏伝の大枠—
3. 初期仏教から部派仏教における聖典の伝承—結集と三蔵—
4. 初期仏教における仏伝①: 単独経典『スッタニパータ』
5. 初期仏教における仏伝②: 単独経典『サンユッタ・ニカーヤ』
6. 初期仏教における仏伝③: 単独経典『アングウッタラ・ニカーヤ』・『聖求経』
7. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」①第1節～第5節
8. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」②第6節
9. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」③第7節～第11節
10. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」④第12節～第13節
11. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」⑤第14節～第15節
12. 仏伝の基本聖典②: 『大般涅槃経』①第1節～第5節
13. 仏伝の基本聖典②: 『大般涅槃経』②第6節～第15節
14. 仏陀の前世物語: 『ジャータカ』
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次に講読する範囲の資料を読み、必要に応じて配布される一次資料や補助資料にも目を通しておくこと(100分)。事後学習として、自分のノートやメモを見返し、専門用語や必要事項を覚えておくこと(80分)。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①谷川泰教『ブッダの伝記—その資料と解釈—(増補版)』高野山大学通信教育室、2008、②③釈尊伝研究会『釈尊および釈尊教団形成史年表』『釈尊の生涯にそって配列した事績別原始仏教聖典総覧』中央学術研究所、2019、④中村元編著『新編ブッダの世界』学習研究社、2000。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性(40%)、期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各仏伝資料における基本的な用語を理解している。
 (B) 現代語訳された仏伝資料を辞書などの工具を駆使して精読できる。
 (A) 精読した仏伝資料の内容を理解している。
 (S) 各仏伝資料の特徴や仏伝資料の各エピソードについて概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。現代語訳された仏伝資料の輪読を中心に受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教学講読演習W							学期	後期
副題	仏伝の展開				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M-02-096	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

部派に伝承される仏伝資料の内容を前提として、サンスクリット語・チベット語訳・漢訳などのかたちで伝承される、大乘や密教における様々な仏伝資料について概観した上で、特徴的なエピソードを現代語訳で輪読し、大乘や密教への仏伝の展開に関する知識を得て、資料を批判的に検討する姿勢を身につけていくとともに、チベット仏教といった他地域やキリスト教といった他宗教、さらには聖地巡礼や文学など他文化への仏伝の展開について広い視野を獲得する。

授業の到達目標

各仏伝資料における基本的な用語を理解し、仏伝資料を読解できる。大乘や密教、他の地域・宗教・文化への仏伝の展開について、概括的に自分の言葉で説明できる。

授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 大乘における仏伝①：仏伝としての大乘経典
3. 大乘における仏伝②：『ラリタヴィスタラ』・『首楞嚴三昧經』
4. 大乘における仏伝③：『法華經』・『華嚴經』「入法界品」
5. 大乘における仏伝④：『世間隨順經』・『大智度論』
6. 密教における仏伝①：纒發心転法輪菩薩
7. 密教における仏伝②：五相成身觀をめぐる展開①—一般涅槃と成道—
8. 密教における仏伝③：五相成身觀をめぐる展開②—十二支縁起と五相成身觀—
9. チベット仏教における仏伝
10. キリスト教における仏伝
11. 聖地巡礼と仏伝：『ディヴィヤ・アヴァダーナ』
12. 文学と仏伝：ヘルマン・ヘッセ『シッタールタ』
13. サブカルと仏伝：手塚治虫『ブッダ』・中村光『聖☆おにいさん』
14. 映画と仏伝：『リトル・ブッダ』
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回に講読する範囲の資料を読み、必要に応じて配布される一次資料や補助資料にも目を通しておくこと（100分）。事後学習として、自分のノートやメモを見返し、専門用語や必要事項を覚えておくこと（80分）。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①谷川泰教『ブッダの伝記—その資料と解釈—（増補版）』高野山大学通信教育室、2008、②平岡聡『大乘経典の誕生—仏伝の再解釈でよみがえるブッダ—』筑摩書房、2015、③田中公明『性と死の密教』春秋社、1997、④小峯和明編『東アジアの仏伝文学』勉誠出版、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各仏伝資料における基本的な用語を理解している。
 (B) 現代語訳された仏伝資料を辞書などの工具を駆使して精読できる。
 (A) 精読した仏伝資料の内容を理解している。
 (S) 大乘や密教、他の地域・宗教・文化への仏伝の展開について概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。現代語訳された仏伝資料の輪読を中心に受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	真言密教講読演習B							学期	前期
副題	南山学道の研究と実践					授業方法	講義	担当者	北川真寛
ナンバリング	M-01-097	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山は伝統的に京都の南に位置することから「南山」と呼ばれ、弘法大師以降の教えを今に伝えている。そのため南山では、現在でも「勸学会」や「月並問講」などの法談論議が行われ、学問と修行の道場として側面を有している。本講義では、それら南山に伝えられた教学を学ぶだけでなく、実際の問講がどのように行われているのかを体験することで、南山学道に対する理解を深めることを目的とする。そのため受講者は、各論題を選択し発表を行う。

授業の到達目標

高野山の教学を学び、問講を体験することを通じて、弘法大師の思想がどのように解釈され、どのように展開されて、現代につながってきたのかについて理解するとともに、南山教学の特徴を説明できる力を身につけ、実践できるようになる。

授業計画

1. ガイダンス・総論—学道とは何か—
2. 弘法大師の著作
3. 弘法大師の教え—即身成仏—
4. 弘法大師の教え—法身説法—
5. 高野山の歴史と地理
6. 壇上伽藍と奥之院
7. 高野山の学道概説
8. 高野山の論義 (1) —線画画像—
9. 高野山の論義 (2) —一門普門—
10. 高野山の論義 (3) —三密双修—
11. 高野山の論義 (4) —一事六度—
12. 高野山の論義 (5) —模擬問講体験—
13. 高野山の論義 (6) —受講者発表—
14. 高野山の論義 (7) —受講者発表—
15. 高野山の論義 (8) —受講者発表—・総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業計画に記されたテーマについて辞書などで調べておくこと (30分)。・自身の発表時には、取り上げる論題を事前に選び、発表資料を作成すること (120分)。・事後学習として、講義内容や各発表内容を見直し、その思想や用語を理解しておくこと (60分)。

テキスト

・北川真寛『はじめての「弘法大師と高野山のおしえ」入門』(セルバ出版、2022年)を講師が一括で用意する。・常用経典

参考書・参考資料等

・『宗義決択集』(『真言宗全書』巻19、統真言主全書刊行会、1935年)・小田慈舟訳『宗義決択集』(『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社、1936年)・『密教大辞典』・『仏教語大辞典』、その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

講義内での発表 (55%)、ディスカッション等の講義への参加の積極性 (45%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 論義に語註を付した上で、本文の書き下し・現代語訳を作成できる。
- (B) 上記(C)を踏まえた上で、論義に引用されている典拠を指摘できる。
- (A) 上記(B)を踏まえた上で、論義の内容を正確に理解している。
- (S) 上記(A)を踏まえ、それぞれの論題が設定された理由を考察することができる。もしくは論題の内容を自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・論義を体験するため、受講者は得度修了者(もしくは前期の内に得度を行う者)に限る。尼僧も可。・特に勸学会に出仕する者、既に出仕した者で、論義について学びたい者の受講を望む。・発表担当者を決めて、該当論義についての個人、またはグループ発表を行い、質疑応答も実施する。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、勸学会などに参画している教員が、学侶の立場から南山教学や論義の内容を解説、ならびに体験を指導し、特に真言宗の学侶を目指す者にとって必須の教学を身につけさせる。

科目名	真言密教講読演習C							学期	後期
副題	安祥寺流の研究					授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	M-01-098	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

安祥寺流は御廩流とも称され真言宗の事相流派の中で最も精緻な体系をもっている。高野山においても南山教学の大成者宥快が最も重視した流派で宝性院の本流とされたものである。安流は後に新安と古安とに分流するが、この度は古安を伝授する。古安の伝授を受けることにより日本密教史を自らの関係性の上で理解し観じることができるようになること、伝統の継承を行うことができるようになることをこの講義の目的とする。事相の専門的な講義なので伝法灌頂に入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

安祥寺流の歴史と特徴を理解するだけでなく、安祥寺流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画

1. 安祥寺流について
2. 安祥寺流について
3. 不動次第伝受
4. 金剛界次第伝授
5. 金剛界次第伝授
6. 金剛界次第伝授
7. 金剛界次第伝授
8. 金剛界次第伝授
9. 胎藏界次第伝受
10. 胎藏界次第伝受
11. 胎藏界次第伝受
12. 胎藏界次第伝受
13. 胎藏界次第伝受
14. 胎藏界次第伝受
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい(20分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理しておくこと(90分)講義のまとめ作成(70分)

テキスト

次第を購入、もしくはコピーすること。

参考書・参考資料等

『真言密教事相概説』『四度部』『諸尊法、灌頂部上』『諸尊法、灌頂部下』(同朋舎)

学生に対する評価

レポート(70%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 安流の歴史的意義を説明できる。
- (B) 安流の所作を理解実践説明できる。
- (A) 安流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
- (S) 安流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめり毎、実修毎にフィードバックを行う。

その他

本講義は已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事。講義は昨年度の続きになるので、原則として昨年度受講者もしくは事相研究Ⅰ受講者に限って受講できる。

科目名	真言密教講読演習D							学期	前期
副題	『理趣釈』を読む(前半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	M-01-099	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

この授業では、不空訳『理趣経』と『理趣釈』を読み、さらに空海の『理趣経』に対する考え方を『理趣経開題』等から学ぶ。『理趣釈』に対する代表的な注釈書としての元広の『理趣経愚解鈔』(5巻)と梶宝の『理趣釈秘要鈔』(12巻)を重要な箇所を読み、事相・教相の両側面から『理趣釈』を考察する。授業は『理趣釈秘要鈔』に沿って進む。日本における伝統的な『理趣経』の理解を通じて、真言密教の僧侶に不可欠な学問を探求する。

授業の到達目標

漢文読解力、密教経典への知識、事相・教相の理解を深める。

授業計画

1. 『理趣経』と『理趣釈』について
2. 弘法大師の『理趣経開題』について
3. 五秘密について
4. 『理趣釈秘要鈔』第1巻①
5. 『理趣釈秘要鈔』第1巻②
6. 『理趣釈秘要鈔』第2巻①
7. 『理趣釈秘要鈔』第2巻②
8. 『理趣釈秘要鈔』第3巻①
9. 『理趣釈秘要鈔』第3巻②
10. 『理趣釈秘要鈔』第4巻①
11. 『理趣釈秘要鈔』第4巻②
12. 『理趣釈秘要鈔』第5巻①
13. 『理趣釈秘要鈔』第5巻②
14. 『理趣釈秘要鈔』第6巻①
15. 『理趣釈秘要鈔』第6巻②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『理趣釈』、『理趣経開題』等、『理趣経愚解鈔』、『理趣釈秘要鈔』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『弘法大師全集』、『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『理趣釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
 (B) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
 (A) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
 (S) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。この講義の内容は後期に続くため、『真言密教講読演習E』を続けて受講することを推薦する。

科目名	真言密教講読演習E							学期	後期
副題	『理趣釈』を読む(前半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	M-01-100	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

この授業では、不空訳『理趣経』と『理趣釈』を読み、さらに空海の『理趣経』に対する考え方を『理趣経開題』等から学ぶ。『理趣釈』に対する代表的な注釈書としての元広の『理趣経愚解鈔』(5巻)と梶宝の『理趣釈秘要鈔』(12巻)を重要な箇所を読み、事相・教相の両側面から『理趣釈』を考察する。授業は『理趣釈秘要鈔』に沿って進む。日本における伝統的な『理趣経』の理解を通じて、真言密教の僧侶に不可欠な学問を探求する。

授業の到達目標

漢文読解力、密教経典への知識、事相・教相の理解を深める。

授業計画

1. 『理趣釈秘要鈔』第6巻①
2. 『理趣釈秘要鈔』第6巻②
3. 『理趣釈秘要鈔』第7巻①
4. 『理趣釈秘要鈔』第7巻②
5. 『理趣釈秘要鈔』第8巻①
6. 『理趣釈秘要鈔』第8巻②
7. 『理趣釈秘要鈔』第9巻①
8. 『理趣釈秘要鈔』第9巻②
9. 『理趣釈秘要鈔』第10巻①
10. 『理趣釈秘要鈔』第10巻②
11. 『理趣釈秘要鈔』第11巻①
12. 『理趣釈秘要鈔』第11巻②
13. 『理趣釈秘要鈔』第12巻①
14. 『理趣釈秘要鈔』第12巻②
15. 『理趣経』と弘法大師

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『理趣釈』、『理趣経開題』等、『理趣経愚解鈔』、『理趣釈秘要鈔』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『弘法大師全集』、『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『理趣釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
 (B) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
 (A) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
 (S) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「真言密教講読演習D」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	真言密教講読演習G						学期	前期	
副題	中院流の歴史				授業方法	講義	担当者	木下智雄	
ナンバリング	M-01-101	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

密教は、印度・中国・日本と伝わり、1200年以上脈々と受け継がれてきた。 釈尊や弘法大師の祖師伝のみならず、それ以後の高僧たちの伝記を学ぶことは、宗教者として欠かせない視座を獲得する。 本講義では、高野山で多くの僧侶が修行し、実際に修法される中院流の歴史について、時系列をたどりながら、現在に到るまでの重要な人物について講義を行う。

授業の到達目標

・旧漢字・訓点付きの漢文を読解できる。 ・中院流の歴史と重要人物について学習し、宗学の立場から密教の流伝を説明できるようになる。 ・訓点付きの漢文が読めるようになる。

授業計画

1. 概論（講義の進め方、参考文献紹介等）と予習方法について
2. 付法・持持の八祖（大日～空海）について
3. 入唐八家について—東密と台密の分流—
4. 野沢根本十二流の概説①—広沢流—
5. 野沢根本十二流の概説②—小野流—
6. 中院流の縁由について①—無空律師の離山と祈親上人の再興—
7. 中院流の縁由について②—明算大徳伝—
8. 中院流の分派について①—中院流四方（引撰院方・心南院方・大楽院方・智莊院方）—
9. 中院流の分派について②—中院流八方（宝性院方・総持院方・東南院方・龍光院方）—
10. 中院流の大成について—宥快法印と宝性院院家相承—
11. 中院流の流布について①—浄厳和尚の分派と真言律—
12. 中院流の流布について②—成運院真源上綱と中院本流—
13. 中院流の流布について③—真別処妙瑞と有部律—
14. 中院流の流布について④—明治以後の相伝—
15. これまでの講義の振り返りと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、指定した参考文献に目を通し、(60分) 専門用語を事前に調べるなどしての意味を理解しておくこと。(30分) ・事後学習として授業で学んだ内容に関して、疑問点をとりまとめ、講義で紹介した論文に目を通すこと。(60分)

テキスト

講師が配布資料を用意する。 梅尾祥雲『真言宗の宗史』、高野山出版社、2008年（書店で購入）も併用する。 ※品切れの場合は、該当箇所をコピーで配布する。

参考書・参考資料等

・大山公淳『中院流の研究』東方出版 ・松長有慶『密教—インドから日本への伝承』中公文庫 ・懐英『檢校明算阿闍梨伝』、維宝『南山中院真言秘密諸祖伝譜』（『続真言宗全書』32巻） ・『紀伊統風土記』（『続真言宗全書』38巻） ・『高野山先哲灌頂記録』（『続真言宗全書』41巻） 他

学生に対する評価

期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中院流の人物伝について、参考書を読み上げることができる。
 (B) 中院流の人物伝について、未知の語彙を調べ、用語の説明ができる。
 (A) 中院流の人物伝について、『続真言宗全書』等の漢文が訓読でき、本文内容の説明ができる。
 (S) 中院流の人物伝について、複数の文献史料を比較検討することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・授課科目ではないが、已灌頂者・加行満了者の受講が望ましい。 ・院との同時開講科目であるので、積極的に院生に学習方法を聞いてもらいたい。 ・用語の意味など、講義中回答してもらうので、必ずテキストは一読してくること。 ・『密教大辞典』が引けるように、旧漢字等は調べる習慣をつけること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶としての気構えについて、高僧の人物伝を通じて、宗教的実践の重要性を認識させる。

科目名	密教学演習A						学期	通年	
副題	書道創作及び主体的漢字学、書法学の研究				授業方法	演習	担当者	野田悟	
ナンバリング	M-25-102	実務経験の有無	無	関連DP	【文学部】 1、【密教学科】4	単位数	4	他	—

授業の目的と概要

三筆の第一と称され、書聖と仰がれる空海は書学の分野においても大きな功績を見ることができる。その中核は、『説文解字』や『玉篇』の漢字思想であり、空海『篆隸万象名義』を学ぶ上でも理解することができる。ここでは漢字やその背景を系統的に分析し、東洋思想を根幹から見つめなおし、漢文を読解しながらレポート発表し且つ研究を進めていくことを目的とする。

授業の到達目標

1、卒業時の書道示範希望者は、高いレベルでの書道作品を作り上げる。2、漢字や書道(美術も可)の視点からのアプローチにより漢文読解しながら、独自の研究課題を明確にし、最終的に論文を作成する道しるべを作る。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス並びに表意文字と表音文字及び漢字の特徴
2. 『説文解字』の背景とその関連書①〔許慎の人物像を探る〕
3. 『説文解字』の背景とその関連書②〔二徐本や『段注』との比較により、家体の変遷を探る〕
4. 540の部首と重文(異体字)及び空海『篆隸万象名義』
5. 「六書」について①(象形・指事・会意)
6. 「六書」について②(形声・転注・仮借)
7. 説文部首第一巻の部目を読む①(一～示)
8. 説文部首第一巻の部目を読む②(三～玉)
9. 説文部首第一巻の部目を読む③(疋～土)
10. 説文部首第一巻の部目を読む④(一～艸)
11. 説文部首第一巻の部目を読む⑤(尊～脚)
12. 説文部首第二巻の部目を読む①(小～半)
13. 説文部首第二巻の部目を読む②(牛～口) *研究報告
14. 説文部首第二巻の部目を読む③(山～走) *研究報告
15. 先行研究の問題点を列挙し、甲骨文・金文と比較する。*研究報告

【後期】

1. 孫過庭『書譜』に見る二王書法と文字に構え 書譜の節筆と折筆
2. 『書譜』の節筆と折筆①
3. 『書譜』の節筆と折筆②
4. 『書譜』または二王に関する論文を読む①
5. 『書譜』または二王に関する論文を読む②
6. 【巻上】大王を典型とする四賢の優劣論
7. 書の本質と段階
8. 六朝以来の書論
9. 【巻下】執使用軀の説及び王書の価値
10. 書表現の基盤と価値
11. 書の妙境と俗眼への批判
12. 書譜述作の趣意
13. 研究発表と質疑応答①
14. 研究発表と質疑応答②
15. 研究発表と質疑応答③

準備学習(予習・復習)・時間

1、各自担当する箇所について調べて纏め、プレゼンテーションの準備をする。その討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。(90～120分) 2、臨書や創作作品を作成する。(90分)

テキスト

・『漢』許慎『説文解字』中華書局、中国書店または江蘇古籍出版社(個々に東方書店にて購入)
http://www.toho-shoten.co.jp/

参考書・参考資料等

・『字通』(平凡社)、『説文新義』(平凡社)、『漢字学』(東海大学出版会)、『訓詁説文解字注』(東海大学出版会)、『王福庵説文部首目』(西泠印社)、『中国法書選38 書譜』(二女社)・その他必要に応じて指事したり、プリントを配ったりする。

学生に対する評価

実技及び理論の研究レポート(50%)、研究テーマの発表(30%)、授業内での質疑応答(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 1、自身で蒐集したテキストを正確に解釈し、その内容を正しく表現できる。
2、半切大の作品に自身が選択した字体で、創作表現できる。
- (B) 1、先行研究を出来るだけ多く蒐集し、それに基づく独自の課題を設定できる。
2、全紙大の作品に自身が選択した字体で、創作表現できる。
- (A) 1、研究において新知見を見出すことができ、それを根拠をもって立証できる。
2、8尺以上の宣紙に自身が選択した字体で、創作創作表現できる。
- (S) 1、研究において、他分野からの客観的価値を見出すことができ、根拠をもって立証できる。
2、8尺以上の宣紙に自身が選択した字体で、長落款の創作表現ができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は、授業の中で個別に指導する。

その他

・書または篆刻に関する研究を希望する受講生が望ましく、書道史を受講していることが相応しい。・随時、書道作品に関する課題を課す。同じく研究の進捗状況を授業の中で確認する。・人数や能力によっては、受講生との相談によりテキストを変更する場合もある。

科目名	密教学演習D					学期	通年	
副題	歴史学・文化遺産学から仏教・密教を研究する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤
ナンバリング	M-25-103	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他 A

授業の目的と概要

密教学科の学生の中で、主として歴史学や文化遺産学を学びたい者を対象に演習を行う。その研究手法を指導しながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文の作成を目指す。3年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、4年次生は卒業論文の作成を行う。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションをはかってほしい。

授業の到達目標

歴史学・文化遺産学の視点からアプローチする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、その手法によって考察し、論文を作成する力を養う。

授業計画

【前期】

1. 演習の内容・方針の説明、自己紹介
2. 研究課題への構想（各自の発表）
3. 研究論文の読み方（講義）
4. 歴史学の研究方法（講義）
5. 文化遺産学の研究方法（講義）
6. 史料読解の方法①（発表）
7. 史料読解の方法②（発表）
8. 史料読解の方法③（発表）
9. 史料読解の方法④（発表）
10. 史料読解の方法⑤（発表）
11. 先行研究の要約①（発表）
12. 先行研究の要約②（発表）
13. 先行研究の要約③（発表）
14. 先行研究の要約④（発表）
15. 参考文献表の作成について（講義）

【後期】

1. 夏休みの成果の確認
2. 卒業論文の構成について（講義）
3. 研究テーマに関する史料の考察①（発表）
4. 研究テーマに関する史料の考察②（発表）
5. 研究テーマに関する史料の考察③（発表）
6. 研究テーマに関する史料の考察④（発表）
7. 研究テーマに関する史料の考察⑤（発表）
8. 各自の研究発表と討議①
9. 各自の研究発表と討議②
10. 各自の研究発表と討議③
11. 各自の研究発表と討議④
12. 各自の研究発表と討議⑤
13. 各自の研究発表と討議⑥
14. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導①
15. 研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：毎回の報告者のテーマに関する文献等を読んでおくこと（60分）、事後学修：報告者の関心テーマが自分の関心テーマとどのように関連し、その視点や手法を取り入れることができるかどうかについて検討すること（90分）。

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①授業への参加度（40%）・発表内容（40%）・レポート（20%）によって評価する。②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史学・文化遺産学の研究手法を理解する。
 (B) 研究論文の内容を批判的に把握することができる。
 (A) 関係する歴史資料の語るところを正確に読み解くことができる。
 (S) 研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、自分なりの見解を論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①受講生によるプレゼンテーションを取り入れ、ディスカッションを行う科目である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。②各自が意欲的に研究課題に向き合い、プレゼンテーションにおいては、発表者はじっくりと時間をかけて下調べを行い、詳しいレジュメを作成すること。③博物館学芸員資格のための関係科目を履修することが望ましい。

科目名	密教学演習F						学期	通年	
副題	密教図像資料の研究				授業方法	演習	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	M-25-104	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

仏教では大乘仏教の拡がりに相応して多種多様な尊格が登場する。大乘仏教の延長線上に位置する密教では、大乘仏教で生み出された尊格のみならず、密教独自の尊格を生み出し、密教の世界観を顕わす曼荼羅に配置した。これらの密教尊格の成立と発展に関して考察を加え検討する。

授業の到達目標

仏教・密教尊格の整理と典拠となる文献について学び理解する。

授業計画

【前期】

1. 授業の進め方
2. 仏教尊格の基礎知識 (仏の基本知識)
3. 仏教尊格の基礎知識 (仏の展開)
4. 密教尊格の基礎知識 (密教仏の基本知識)
5. 密教尊格の基礎知識 (密教仏の展開)
6. 曼荼羅の基礎知識 (曼荼羅の基本知識)
7. 曼荼羅の基礎知識 (曼荼羅の種類)
8. 曼荼羅の基礎知識 (曼荼羅の展開)
9. 図像資料の講読 (明王図像資料)
10. 図像資料の講読 (明王図像資料)
11. 図像資料の講読 (明王図像資料)
12. 図像資料の講読 (明王図像資料)
13. 図像資料の講読 (明王図像資料)
14. 図像資料の講読 (明王図像資料)
15. 研究課題の設定

【後期】

1. 研究内容の中間報告①
2. 研究内容の中間報告②
3. 研究内容の中間報告③
4. 研究内容の中間報告④
5. 研究内容の中間報告⑤
6. 各研究テーマの演習発表①
7. 各研究テーマの演習発表②
8. 各研究テーマの演習発表③
9. 各研究テーマの演習発表④
10. 各研究テーマの演習発表⑤
11. 各研究テーマの演習発表⑥
12. 各研究テーマの演習発表⑦
13. 各研究テーマの演習発表⑧
14. 各研究テーマの演習発表⑨
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

図像資料の講読演習をするので授業に備えて事前に予習が必要となる。週約180分。

テキスト

授業で随時配布する

参考書・参考資料等

①『大正新脩大藏経』「密教部、図像部」、②『The Indian Buddhist Iconography』

学生に対する評価

発表及び提出物(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 原文を自分自身の解釈で発表できる。
 (B) 自分自身の研究課題を提示し、先人研究者のそれぞれの見解の違いを細かく分析することができる。
 (A) 研究において、目新しい独自の観点を見出すことができる。
 (S) 新知見を用いて論理的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

その他

・それぞれの発表及び提出物で評価。・それぞれの発表を10点満点とする。・授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。・上記は前期・後期でそれぞれ計算し、最終的にその平均点の成績となる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習G						学期	通年	
副題	「十八会指帰」所伝の聖典を読む				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M-25-105	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

「十八会指帰」所伝の聖典を読むー『サマーヨーガタントラ』精読。「十八会指帰」に関連するインド密教聖典の精読を通じて文献学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本にもとづき写本・版本をも批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。辞書・コンコードダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学 (DH) についての導入的な知識をも身につける。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 資料概観① インド密教における「十八会指帰」の位置
3. 資料概観② 『理趣広経』と『サマーヨーガタントラ』
4. 論文指導①
5. 『サマーヨーガタントラ』精読①
6. 『サマーヨーガタントラ』精読②
7. 『サマーヨーガタントラ』精読③
8. 論文指導②
9. 『サマーヨーガタントラ』精読④
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑤
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑥
12. 論文指導③
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑦
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑧
15. 論文指導④

【後期】

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 『サマーヨーガタントラ』精読⑨
3. 『サマーヨーガタントラ』精読⑩
4. 論文指導⑤
5. 『サマーヨーガタントラ』精読⑪
6. 『サマーヨーガタントラ』精読⑫
7. 『サマーヨーガタントラ』精読⑬
8. 論文指導⑥
9. 『サマーヨーガタントラ』精読⑭
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑮
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑯
12. 論文指導⑦
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑰
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑱
15. 論文指導⑧

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと (120 分)。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと (60 分)。

テキスト

①サンスクリット語原典・Dih: A Journal of Rare Buddhist Text 58, 2018, pp. 141-201、②チベット語訳・東北 366、北京 8。資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①「梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第1-3章」『大正大学総合佛教研究所紀要』41-2、2019-20年、②“Sarvabuddhasamāyogaḥkinījālasamvara.” In: Brill’s Encyclopedia of Buddhism, vol. 1, 2017.

学生に対する評価

ミニツペーパーならびに論文指導における検討会発表 (30%)、学期末レポート (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (B) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学の手順を踏まえている。
 (C) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができています。
 (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学 (DH) の技術を活用することができています。
 (S) 学術論文の基本的な書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、漢文を用いることができれば履修は可能なので、少しでもインド・チベット密教に興味がある希望者の積極的な参加を求めるアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習H						学期	通年	
副題	思想研究の方法論				授業方法	演習	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M-25-106	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

教理と実践が運動しているのが、密教の特徴である。事相と教相は「鳥の両翼」「車の両輪」と言われるが、これは事相と教相とが表裏一体であることを意味している。それでは、その事相で表現される教相（教義）とは、いったいどのようなものであるのか。当演習では、実践の背後にある密教教理の研究方法を、密教の実践が仏教（特に大乘仏教）とどのような関連性を有するののかについての調査・考察を通して習得することを目的とする。 ※昨年度、密教学演習の単位を取得できなかった4回生のみ受け入れる。

授業の到達目標

密教（特に真言密教）の教相研究の基礎的方法論を習得し、各自の卒業論文作成に結び付ける。

授業計画

【前期】

1. 概要（前期の進め方等）
2. 学術論文とは？
3. 資料－1次資料と2次資料－
4. 先行研究を読む①－先行研究を探す－
5. 先行研究を読む②－研究書を読む－
6. 先行研究を読む③－学術論文を読む－
7. レジュメを作ろう①－テーマの設定－
8. レジュメを作ろう②－資料を探す－
9. レジュメを作ろう③－レジュメをまとめる－
10. レジュメを作ろう④－発表と質疑応答－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

【後期】

1. 概要（後期の進め方）
2. 論文のプロットを作成する①－問題点を整理する－
3. 論文のプロットを作成する②－1次資料を配置する－
4. 論文のプロットを作成する③－結論を導く－
5. 1次資料を読む①－阿含経典－
6. 1次資料を読む②－大乘経典－
7. 1次資料を読む③－密教経典－
8. 1次資料を読む④－論書－
9. 1次資料を読む⑤－注釈書－
10. 1次資料を読む⑥－教義書－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

準備学習(予習・復習)・時間

・自身の関心に応じた資料を、各回準備する（120分） ・演習中に問題となったポイントを整理し、後日発表する（60分）

テキスト

（前期）北尾隆心「真言宗にみる救済」、『密教学研究』（38）、2006年。 梶山雄一「仏陀観の変遷」、『梶山雄一著作集』第3巻、春秋社、2012年。（後期）課題プリント。 ※コピーを配布する。

参考書・参考資料等

・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

担当箇所の発表（50%）、授業内での質疑応答（30%）、期末レポート発表（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 先行研究を集め、内容を要約できる。
 (B) 先行研究に基づく独自課題を設定できる。
 (A) 独自課題の解決に向けた資料収集ができる。
 (S) 独自課題の解決を論理的に論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

その他

・担当者を決めて、該当内容に関する発表をしてもらう。 ・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。 ・受講生の関心に応じて、授業内容・テキスト等を変更する場合がある。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習K						学期	通年	
副題	「史学研究法の習得と史的認識の形成」				授業方法	演習	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M-25-107	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

本演習では、歴史学の研究方法を学ぶとともに、中世史料の精読を通して、史料読解力を高める。また、自己の研究テーマを定めて、先行研究の検討や研究報告を行ない、歴史学的な問題意識と研究方法を体得する。さらに、レポートの執筆を通して、独創的な卒業論文を執筆するための準備に取り組んでいく。

授業の到達目標

①歴史学における史料批判の手法を、具体的な史料読解に即して体得できるようになる。②自己の研究テーマを明確に設定し、鋭敏な史的認識に即して史実を立体的に組み立てる素地を養う。③明晰な文体や周到な史料操作、これらを具備した論文を執筆する前提を整える。

授業計画

【前期】

- ガイダンス(前期演習の方針の打ち合わせ、関係文献の調査方法)
- 史学研究法の習得①
- 史学研究法の習得②
- 史学研究法の習得③
- 史学研究法の習得④
- 史学研究法の習得⑤
- 受講生による研究報告① 先行研究の検討
- 『東大寺円照上人行状』中の精読①
- 『東大寺円照上人行状』中の精読②
- 『東大寺円照上人行状』中の精読③
- 『東大寺円照上人行状』中の精読④
- 『東大寺円照上人行状』中の精読⑤
- 『東大寺円照上人行状』中の精読⑥
- 受講生による研究報告② 研究発表
- 夏期休暇中の研究活動に向けての指導(図書館での調査指導)

【後期】

- ガイダンス(後期演習の方針の打ち合わせ、研究指導)
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読①
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読②
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読③
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読④
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑤
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑥
- 受講生による研究報告③ 研究発表
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑦
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑧
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑨
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑩
- 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑪
- 受講生による研究報告④ 研究発表
- 今後の研究に向けての指導(図書館での調査指導)

準備学習(予習・復習)・時間

①事前学習として、テキスト・参考書・関係論文を毎回読み、研究法・史料に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分)。②読解した文献の要点をノートに整理すること(80分)。③自身の研究テーマについて史料や先行研究を調査し、問題を考察しておくこと(90分)。

テキスト

①受講生が作成する資料、②中塚明『歴史家の仕事 人はなぜ歴史を研究するのか』(高文研、2000) ※入手方法は教員が指示、③東大寺教学部編『円照上人行状』(東大寺図書館、1977) ※コピーを配布、④村田正志校訂『史料纂集 花園天皇宸記』第2(続群書類従完成会、1984) ※入手方法は教員が指示

参考書・参考資料等

①久野修義「中世寺院の僧侶集団」『日本中世の寺院と社会』塙書房、1999。初出1988。②横内裕人「続・中世東大寺律儀復興史小考」(野呂靖ほか編『東アジア仏教思想史の構想』法蔵館、2023)、③岩橋小弥太『花園天皇』(吉川弘文館、1962)、④坂口太郎・芳澤元「花園天皇関係史料・研究文献目録稿」(『花園大学国際禅学研究所論叢』第2号、2007)

学生に対する評価

前期・後期の研究レポート(60%)、演習時の取り組み(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中世史料の基本的な読解能力を会得している。
 (B) 中世史料を読解し、先行研究の内容を適切に把握できる。
 (A) 自己の研究テーマを設定し、関係史料の収集・読解や、先行研究への有効な批判を行なうことができる。
 (S) 強固な実証的基盤の上に独自の見解を打ち立て、明晰な文体や周到な史料操作を具備したレポートを執筆できる。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による研究レポートの執筆にあたっては、担当教員がテーマに即して個別に対応する。

その他

歴史学の基礎的知識や史料読解力を前提とする演習であるため、すでに「歴史学入門演習」の単位を修得した学生を対象とする(未履修者は、本年度に必ず履修すること)。受講生は、担当教員が金剛三昧院・西南院で行なっている古文書調査にも参加すること。本演習は、史料の予復習や研究報告の準備、教員や他の受講生との積極的な討論など、全体的にアクティブ・ラーニングが求められる。水準は高いので、安直な姿勢の学生は履修しないこと。

科目名	密教学演習N						学期	通年	
副題	南山教学の研究				授業方法	演習	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M-25-108	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

高野山は伝統的に京都の南に位置することから「南山」と呼ばれ、弘法大師以降の教えを今に伝えている。その南山教学における宝門・寿門という2大学派の内、特に宝門の論義書である『宗義決撰集』や『釈論決撰集』を中心に考察することで、弘法大師の思想がどのように理解・展開されてきたのか、そしてその教えが現代においてどのような意義を持つのかについて理解を深める。なお受講者は、各論題を選択し発表表を行う。

授業の到達目標

高野山の宗学を学ぶことを通じて、弘法大師の思想がどのように解釈され、どのように展開されたのかについて学ぶとともに、それによって培われた方法論を基礎として論文を作成する。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス・卒業論文作成工程指導
2. 研究課題・題目設定指導
3. 先行研究の収集方法指導
4. 南山学道 (1) 一弘法大師の学習法一
5. 南山学道 (2) 一伝統的学習法一
6. 『宗義決撰集』を読む (1) 一総画形像一
7. 『宗義決撰集』を読む (2) 一五仏心王一
8. 『宗義決撰集』を読む (3) 一受講者発表一
9. 『宗義決撰集』を読む (4) 一受講者発表一
10. 『宗義決撰集』を読む (5) 一受講者発表一
11. 『宗義決撰集』を読む (6) 一受講者発表一
12. 『宗義決撰集』を読む (7) 一受講者発表一
13. 卒業論文課題報告 (1) 一受講者発表一
14. 卒業論文課題報告 (2) 一受講者発表一
15. 卒業論文課題報告 (3) 一受講者発表一

【後期】

1. ガイダンス・目次の設定指導
2. 卒業論文中間指導
3. 卒業論文全体試問
4. 『宗義決撰集』を読む (8) 一受講者発表一
5. 『宗義決撰集』を読む (9) 一受講者発表一
6. 『宗義決撰集』を読む (10) 一受講者発表一
7. 『宗義決撰集』を読む (11) 一受講者発表一
8. 『宗義決撰集』を読む (12) 一受講者発表一
9. 参考文献表作成指導
10. 卒業論文中間報告 (1) 一受講者発表一
11. 卒業論文中間報告 (2) 一受講者発表一
12. 卒業論文中間報告 (3) 一受講者発表一
13. 卒業論文中間報告 (4) 一受講者発表一
14. 卒業論文中間報告 (5) 一受講者発表一
15. 卒業論文指導

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業計画に記されたテーマについて辞書などで調べておくこと (30分)。・自身の発表時には、取り上げる論題を事前に選び、発表資料を作成すること (120分)。・事後学習として、講義内容や各発表内容を見直し、その思想や用語を理解しておくこと (60分)。

テキスト

講師が用意する。

参考書・参考資料等

・『宗義決撰集』(『真言宗全書』巻19、統真言主全書刊行会、1935年)・小田慈舟訳『宗義決撰集』(『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社、1936年)・『密教大辞典』・『仏教語大辞典』、その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

講義内での発表 (45%)、ディスカッション等への参加の積極性 (45%)、期末レポート (10%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 論義本文の書き下し・現代語訳を作成できる。
 (B) 論義に引用されている典故を指摘し、専門用語を補足・説明すること(語註)ができる。
 (A) 論義の内容を理解している。
 (S) 上記(C)～(A)を踏まえ、論義の内容を自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・内容については、受講者と相談して決定するが、特に勧学会出仕者など、真言密教や南山教学について深く学びたい者の受講を望む。・担当者を決めて、該当論義についての発表を行う。・発表時には、質疑応答やディスカッションを行うので、あらかじめ予習しておくこと。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習O						学期	通年	
副題	スピリチュアルケア研究				授業方法	演習	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	M-25-109	実務経験の有無	有	関連DP	1. 2. 5	単位数	4	他	A

授業の目的と概要

現代の社会問題について、自身の興味関心のあるテーマを選択し、スピリチュアルケアの観点から研究を行う。

授業の到達目標

テーマに関する問題点・課題点について新たな視点から検討し、自身の考察を明確に提示することができる

授業計画

【前期】

1. 講義ガイダンス：研究とは何か。
2. 興味関心と研究①
3. 興味関心と研究②
4. 興味関心と研究②
5. 興味関心と研究④
6. 興味関心と研究⑤
7. テーマ設定①
8. テーマ設定②
9. テーマ設定③
10. テーマ設定④
11. テーマ設定⑤
12. テーマに関する研究計画作成①
13. テーマに関する研究計画作成②
14. テーマに関する研究計画作成③
15. まとめ：研究テーマ発表

【後期】

1. テーマに関する研究実施①
2. テーマに関する研究実施②
3. テーマに関する研究実施③
4. テーマに関する研究実施④
5. テーマに関する研究実施⑤
6. 目的に関する文献収集①
7. 目的に関する文献収集②
8. 目的に関する文献収集③
9. 目的に関する文献収集④
10. 目的に関する文献収集⑤
11. 研究成果発表①
12. 研究成果発表②
13. 研究成果発表③
14. 研究成果発表④
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする。(90分) 発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。特に、研究テーマに関係する Keyword について先行研究のデータを収集する。(90分)

テキスト

研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

酒井 聡樹 『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』共立出版、2015年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価

授業中の課題発表 (50%) 最終レポート (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。
- (B) 自身の興味・関心のあるテーマの間に関して、問題点・課題点を列挙できる。
- (A) テーマに関する問題点・課題点について新たな視点から検討できる。
- (S) テーマに関する問題点・課題点について新たな視点から検討し、自身の考察を明確に提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法

課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・指導スピリチュアルケア師として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につける。

科目名	総合科目(仏教入門ⅠA)						学期	前期	
副題	仏教の基礎-戒を中心として-				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G-02-110	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランバ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

チベット語経典を通じて四大学派の禪定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

授業計画

1. 授業の内容について説明
2. 釈尊の十二相について
3. 仏教とは、何のためにあるのか。一般的な仏教について
4. 仏教徒と外道（非仏教徒）との区別と三宝について①
5. 仏教徒と外道（非仏教徒）との区別と三宝について②
6. 前世と来世の有無について
7. 全ての仏教徒が守るべき十善戒について
8. 四つの修行の力による罪を浄める方法について
9. 戒律① 別解脱戒（在家と沙弥と比丘の戒律）について
10. 戒律② 菩薩戒について
11. 戒律③ 三昧耶戒について
12. 瞑想（止の瞑想と観の瞑想）の区別について
13. 止の瞑想について
14. 観の瞑想について
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

テキスト

担当者が作成したものを配布する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつ重要な仏教思想の要点を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ⅡA)						学期	後期	
副題	仏教の基礎-般若心経を中心として-				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G-02-111	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランバ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 『般若心経』「観自在菩薩」～ 慈悲の心と菩提心について①
3. 『般若心経』「観自在菩薩」～ 慈悲の心と菩提心について②
4. 『般若心経』「色不異空 空不異色」～ 中観の空について①
5. 『般若心経』「色不異空 空不異色」～ 中観の空について②
6. 『般若心経』「無色無受想行識」～ 五蘊と六根と十二処について
7. 『般若心経』「無眼界」～ 十八界について
8. 『般若心経』「無無明」～ 十二縁起について
9. 『般若心経』「無苦集滅道」～ 四聖諦について①
10. 『般若心経』「無苦集滅道」～ 四聖諦について②
11. 『般若心経』「三世諸仏」～ 悟りの道（五道）について
12. 「六波羅蜜」について
13. 『三十七偈の菩薩の実践』を読む①
14. 『三十七偈の菩薩の実践』を読む②
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）。事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90分）。

テキスト

担当者が作成したものを配布する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの大意を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつ重要な仏教思想の要点を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(仏画)／仏教芸術(別)						学期	通年	
副題	仏を描く				授業方法	実技	担当者	有松孝雄	
ナンバリング	G-02-112	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

面相筆で仏の姿を描く。制作と併行して、描かれる尊像の儀軌・背景を学ぶ。多様な尊像を知ることで、仏教の宇宙観についての理解を深める。

授業の到達目標

画像を描くという身体による経験を通して、広く美術・宗教への理解を深めることができる。

授業計画

【前期】

1. 授業の概要についての説明（授業の進め方、道具の使い方、資料の読み方等を解説）
2. 基礎1 手の形、顔の線の練習（1）・印相（掌）
3. 基礎2 手の形、顔の線の練習（2）・釈迦如来（顔）
4. 基礎3 手の形、顔の線の練習（3）・地藏菩薩、阿彌陀如来（上半身）
5. 基礎4 手の形、顔の線の練習（4）・不動明王（顔）
6. 基礎5 多様な描線の練習（1）・宝瓶
7. 基礎6 多様な描線の練習（2）・雲龍
8. 基礎7 多様な描線の練習（3）・仏足
9. 基礎8 多様な描線の練習（4）・鳳凰
10. 作品制作 白描の作品を描く（1）・阿彌陀如来
11. 作品制作 白描の作品を描く（2）・阿彌陀如来
12. 作品制作 白描の作品を描く（3）・大日如来
13. 作品制作 白描の作品を描く（4）・大日如来
14. 作品制作 白描の作品を描く（5）・大日如来
15. 総括（仏画・彩色画の実例作品の紹介 ビデオ上映）

【後期】

1. 表現法 淡彩色・ぼかし（1）（蓮）
2. 表現法 淡彩色・ぼかし（2）（蓮）
3. 表現法 淡彩色・ぼかし（3）（蓮）
4. 表現法 淡彩色・ぼかし（4）（天女）
5. 表現法 淡彩色・ぼかし（5）（天女）
6. 表現法 淡彩色・ぼかし（6）（天女）
7. 作品制作 彩色仏画（1）（不動明王）
8. 作品制作 彩色仏画（2）（不動明王）
9. 作品制作 彩色仏画（3）（不動明王）
10. 作品制作 彩色仏画（4）（不動明王）
11. 作品制作 彩色仏画（5）（弘法大師）
12. 作品制作 彩色仏画（6）（弘法大師）
13. 作品制作 彩色仏画（7）（弘法大師）
14. 作品制作 彩色仏画（8）（弘法大師）
15. 総括（国宝仏画・絵画の鑑賞 ビデオ上映）

準備学習(予習・復習)・時間

毎回配布する資料を読み、次の実習に活かすことができるようにする。（30分）

テキスト

書写手本及び関係資料はコピーを配布する。以下の教材は担当者が用意する：用紙、彩色筆、筆洗、雑巾、日本画絵具、絵具皿。

参考書・参考資料等

・有賀祥隆「仏画の鑑賞基礎知識」、至文堂、1991年（抜粋資料を毎回配布する）
・光森正士 岡田健「仏像彫刻の鑑賞基礎知識」、至文堂、1999年（抜粋資料を毎回配布する）

学生に対する評価

授業に臨む姿勢と心構え（70%）、書写作品・毎回の授業時に制作する課題（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏画の基本事項を理解している。
 (B) 仏画の基本事項が理解された上でその描写ができる。
 (A) 仏教や仏画に関することがよく理解され、作品に表現することができる。
 (S) 資料を広く読み解くことができ、尊像の理解と表現が優れている。

課題に対するフィードバックの方法

課題に応じて表具を施し、返却する。

その他

授業で必要な用具・資材は担当者が支給（貸与）する。墨・硯は各自が用意する。受講生は年間を通して使用する面相筆1本を購入、用紙代の一部を負担する。教室、用具、資材の都合により受講者数を制限する場合がある。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

仏画の制作・修復に長年携わっている教員が、その経験を活かして指導する。受講生の経験に応じて個別に指導する。

科目名	企画科目(高野山の歴史と文化S)						学期	後期	
副題	高野山の歴史と文化				授業方法	講義	担当者	木下智雄	
ナンバリング	G-01-113	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

高野山は、西暦 816 年(弘仁 7 年)に嵯峨天皇より賜り、1200 年以上経た今でも、世界文化遺産の聖地として広く知られている。しかし、今でも高野山の街並みは変化しつづけており、その長い歴史に直接触れることは難しい。そこで、現代から歴史を遡りながら、町の変遷や文化・歴史的人物を学ぶことで、時代毎に特質があることを理解する。

授業の到達目標

・高野山の歴史・文化についての参考書を読み上げることができ、用語の説明ができる。・金剛峯寺境内案内人の資格試験に合格できる。・『紀伊統風土記』等の読解ができ、根拠となる資料が確認できる。

授業計画

1. 概論(講義の進め方、参考文献紹介等)と予習方法について
2. 世界遺産としての高野山―「紀伊山地の霊場と参詣道」―
3. 大師信仰の聖地としての高野山―大師信仰の宣揚と四国遍路―
4. 近代国家としての高野山①―学校の設立と文化財の保護―
5. 近代国家としての高野山②―女人禁制の解禁と商業―
6. 幕藩体制中の高野山①―学道の隆盛と宝寿二門―
7. 幕藩体制中の高野山②―元禄聖断と衆行争論―
8. 幕藩体制中の高野山③―蓮華三昧院頼慶と徳川家康―
9. 荘園領主としての高野山①―木食応其と豊臣秀吉―
10. 荘園領主としての高野山②―高野聖と織田信長―
11. 荘園領主としての高野山③―宥快法印と足利義満―
12. 浄土としての高野山①―勧進と町石道―
13. 浄土としての高野山②―血曼荼羅と『平家物語』―
14. 浄土としての高野山③―覚鑿上人と鳥羽上皇―
15. 浄土としての高野山④―小野仁海と藤原道長―

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、指定した参考文献に目を通し(60分)、専門用語を事前に調べるなどしての意味を理解しておくこと。(30分)・事後学習として授業で学んだ内容に関して、疑問点をとりまとめ、講義で紹介した論文に目を通すこと。(90分)

テキスト

講師が配布資料を用意する。松長有慶『高野山』、岩波新書、2014年併用する。

参考書・参考資料等

・木下浩良『高野山の歴史と文化』高野山出版社。・山陰 加春夫『歴史の旅 中世の高野山を歩く』吉川弘文館。・高野山金剛峰寺記念大会事務局『高野山千百年史』・『紀伊統風土記』(『純真言宗全書』36. 37巻) ※その他、適時講義中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート(60%)、講義参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 高野山の歴史・文化について、参考書を読み上げることができる。
 (B) 高野山の歴史・文化について、未知の語彙を調べ、用語の説明ができる。
 (A) 高野山の歴史・文化について、『紀伊統風土記』等から、資料の裏付けがとれる。
 (S) 高野山の歴史・文化について、由来を端的に過不足なくまとめ、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・本講義は金剛峯寺境内案内人資格試験(12月頃)の受験を推奨するが、対策等は別途行う。・用語の意味など、講義中回答してもらうので、必ずテキストは一読してくること。・わからない語彙は、調べる癖をつけること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶としての教養の布教について、高野山の歴史・文化を通じて、周辺分野の見識の重要性を認識させる。

科目名	企画科目(発達心理学)						学期	前期
副題	発達心理学				授業方法	講義	担当者	上野和久
ナンバリング	G-10-114	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

生涯発達の見点より、乳幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達時期における認知、情動、運動、社会性などの特徴を理解する。また、臨床現場における実際についても事例を踏まえて考察する。

授業の到達目標

人間の発達の観点に基づいて総合的に人を理解でき、各発達段階での適切な援助方法を考えることができるようになる。

授業計画

1. 発達心理学とは
2. 遺伝と環境、及び、初期経験
3. 言語の発達について
4. 認知の発達について
5. 発達段階と発達課題（総論）
6. 乳児期の発達について
7. 幼児期の発達について
8. 児童期の発達について
9. 思春期の発達について
10. 青年期の発達について
11. 成人期の発達について
12. 老年期の発達について
13. 発達障害とその支援①
14. 発達障害とその支援②
15. レポート試験の解説と発達心理学の新しい展開について

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、参考文献・資料を紹介し事前学習するように指示する。併せて、関連する重要語句について調べさせる。(90分以上) 各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義・体験学習の振り返りやキーワードの説明を記述し(90分)、次回の授業時に提出する。

テキスト

随時 資料を提示する。

参考書・参考資料等

関一夫・斎藤慈子 『ベーシック発達心理学』 東京大学出版会, 2018年 無藤隆・田島信元・高橋恵子 『発達心理学入門(1)』 東京大学出版社, 2010年 無藤隆・田島信元・高橋恵子 『発達心理学入門(2)』 東京大学出版社, 2010年

学生に対する評価

課題(複数) 小レポート(40%)・授業中・終了後の feedback 用紙からの質問や発表などの授業への参加度(10%)・レポート試験の予定(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 人間の発達過程における重要語句を最低限の説明ができる。
- (B) 人間の発達過程の概ねの理解とそれぞれの発達過程の課題や問題点を説明ができる。
- (A) 人間の発達過程における課題や問題点への基本的な援助方法を説明ができる。
- (S) 発達の観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考え、説明ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。オンデマンドOD参加の人には、feedback用紙を通じて返信する。

その他

この講義はLSOの授業形態であるため、対面授業(IP)ならびに同時に遠隔授業を(LS)で受ける人には、遠隔授業(LS)を受ける人のできる範囲内で、アクティブラーニングを実施する場合がある。また、オンデマンド(OD)で受講される人は質問や発表を feedback 用紙にて記述し、積極的な授業参加をしている姿勢を現わしてほしい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、カウンセリング心理士(スーパーバイザー)、ガイダンスカウンセラー(スーパーバイザー)、NLP プラクティショナー、SEプラクティショナー、ISPTトレーニング、ゲシュタルトセラピー125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験から、ラボラトリトレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。なお、令和元年より和歌山県 SC・スーパーバイザー

科目名	企画科目(カウンセリング論)						学期	後期
副題	カウンセリングの理論と実際				授業方法	講義	担当者	上野和久
ナンバリング	G-10-115	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

授業の到達目標

カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

授業計画

1. オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2. カウンセリングの歴史的背景を知る
3. 心理アセスメントについて
4. 様々なカウンセリングを知る (クライアント中心療法)
5. 様々なカウンセリングを知る (精神分析的心理療法)
6. 様々なカウンセリングを知る (解決志向アプローチ)
7. 様々なカウンセリングを知る (認知行動療法)
8. 様々なカウンセリングを知る (その他)
9. 子どもへのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
10. 保護者へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
11. 発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
12. 被虐待へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
13. 非行を行う人へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
14. 自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習 (ロールプレイ含)
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、参考文献・資料を紹介し事前学習するように指示する。併せて、関連する重要語句について調べる。(90分以上) 各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義・体験学習の振り返りやキーワードの説明を記述し(90分)、次回の授業時に提出する。

テキスト

随時プリント配布

参考書・参考資料等

河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房、1970年。 國分康孝『カウンセリングの理論』誠信書房、1980年 國分康孝『カウンセリングの技法』誠信書房、1979年。 諸富祥彦『カウンセリングの理論』誠信書房、2022年

学生に対する評価

課題(複数)小レポート(40%)・授業中・終了後のfeedback用紙からの質問や発表などの授業への参加度(10%)・レポート試験の予定(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
 (B) カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
 (A) カウンセリングの技法(最低3つ以上)と基礎知識について説明できる。
 (S) カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。(または、演習テキストのワークブック内での文字でのロールプレイ応答ができる)

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。オンデマンドOD参加の人には、feedback用紙を通じて返信する。

その他

この講義はLSOの授業形態であるため、対面授業(IP)ならびに同時に遠隔授業を(LS)で受ける人には、遠隔授業(LS)を受ける人に行える範囲内で、アクティブラーニングを実施する場合がある。また、オンデマンド(OD)で受講される人は質問や発表をfeedback用紙にて記述し、積極的に授業参加している姿勢を現わしてほしい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、カウンセリング心理士(スーパーバイザー)、ガイダンスカウンセラー(スーパーバイザー)、NLPプラクティショナー、SEプラクティショナー、ISPTレーニン、ゲシュタルトセラピー125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、ラボラトリトレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。なお、令和元年より和歌山県SC・スーパーバイザー

科目名	企画科目(学校臨床心理学)						学期	前期
副題	学校における心理教育的支援の理論と実際				授業方法	講義	担当者	上野和久
ナンバリング	G-10-116	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深める。

授業の到達目標

学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

授業計画

1. 学校教育と心理学 歴史的背景を知る
2. 発達心理学的視点と学校教育
3. 学校内チーム支援について
4. 保護者と学校を支援する視点
5. 児童期の発達と学校教育
6. 児童期の学習の問題について
7. 児童期の不登校について
8. 児童期の仲間関係といじめについて
9. 児童期における学校内チーム支援の在り方について
10. 思春期・青年期の発達と学校教育
11. 思春期・青年期の学習の問題について
12. 思春期・青年期の不登校について
13. 思春期・青年期の仲間関係といじめについて
14. 思春期・青年期における学校内チーム支援の在り方について
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、参考文献・資料を紹介し事前学習するように指示する。併せて、関連する重要語句について調べさせる。(90分以上) 各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義・体験学習の振り返りやキーワードの説明を記述し(90分)、次回の授業時に提出する。

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

石隈利紀『学校心理学―教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』、1999年、誠信書房。学校心理士資格認定委員会編『学校心理学ガイドブック第4版』、2020年、風間書房。その他の参考書は、適時紹介する。

学生に対する評価

課題(複数) 小レポート(40%)・授業中・終了後のfeedback用紙からの質問や発表などの授業への参加度(10%)・レポート試験の予定(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学校における心理学的な課題について、基本的な事項を知っている。
 (B) 学校における心理学的な課題について、資料を見ながらその内容や問題点を説明できる。
 (A) 学校における心理学的な課題について、一つの事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。
 (S) 学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。オンデマンドOD参加の人には、feedback用紙を通じて返信する。

その他

この講義はLSOの授業形態であるため、対面授業(IP)ならびに同時に遠隔授業(LS)で受ける人には、遠隔授業(LS)を受ける人に見える範囲内で、アクティブラーニングを実施する場合がある。また、オンデマンド(OD)で受講される人は質問や発表をfeedback用紙にて記述し、積極的に授業参加している姿勢を現わしてほしい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公認心理師、臨床心理士、カウンセリング心理士(スーパーバイザー)、ガイダンスカウンセラー(スーパーバイザー)、NLP プラクティショナー、SEプラクティショナー、ISPTレーニング、ゲシュタルトセラピー125時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と32年間の教育臨床、開業臨床の経験から、ラボラトリトレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。なお、令和元年より和歌山県SC・スーパーバイザー

科目名	企画科目(寺院経営入門)						学期	前期	
副題	寺院の運営に関する基礎知識				授業方法	講義	担当者	藤本善光	
ナンバリング	G-03-117	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

現在の寺院、特に高野山真言宗寺院の運営に関する基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標

寺院の運営の方法等について学び、自ら関係する寺院の護持発展に寄与できるようになる。

授業計画

1. 寺院の現在かかえる問題と課題
2. 寺院の僧侶の役割
3. 檀家と信者について
4. 本山と末寺について
5. 高野山の塔頭寺院について
6. 寺院の施設について(文化財など)
7. 寺院と法律(宗教法人)について
8. 寺院の行事について
9. 寺院の教育と福祉について
10. 寺院の情報発信について
11. 寺院と会計(一般会計)について
12. 葬儀と霊園について
13. 寺院とNPOについて
14. 心の癒しの方法について
15. 人権啓発について (現在の人権問題)

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の講義について大事なところを思い出し、疑問点や自分の意見をまとめる。(90分)

テキスト

各時間ごとに資料コピーを配布。

参考書・参考資料等

授業で適宜指示をする。

学生に対する評価

出席率、授業態度を見る、発言内容を考慮。レポート提出。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ながら説明出来る。
- (B) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ながら自らの寺院経営について内容を表現出来る。
- (A) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ながら具体的計画を作成し説明出来る。
- (S) 寺院経営学(教科書)の重要ポイントを教科書を見ずに自ら寺院経営について具体的計画を作成しPR出来る。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

ゲストスピーカーをお迎えして、実際の寺院運営について学ぶ。各回のゲストスピーカーについては、適宜案内を行う。将来寺院を継承したり、就業したりするためのモチベーションを高め、21世紀寺院に求められる社会的役割を自覚し、積極的に将来ビジョンを考える。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。この科目は金剛峯寺内局の役員の方々による寄付講座である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

真言宗の僧侶である教員が、実績をベースに寺院が抱えている問題点、課題点を明確にし、将来の寺院の使命、役割を具体的に果たせるよう学生に十分問題意識と解決方法を教える。

科目名	企画科目(産業心理学)						学期	後期	
副題	仕事に関わる様々な問題に対する心理学の応用				授業方法	講義	担当者	東正訓	
ナンバリング	G-10-118	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

生活に必要な製品やサービスを生み出す活動あるいは生活の糧や生きがいにつながる仕事に関わる心理学が産業心理学である。近年は産業・組織心理学ともいわれる。この講義では、私たちの生活や人生に関わりの深い内容として、産業に関わる人事・組織・安全と健康・消費者と企業を4つの柱とする。産業心理学全般の基礎概念や理論について具体例を通じて学ぶことで、産業組織の諸問題や労働災害・交通事故及び消費者問題の理解に必要な客観的視点や知識を形成する。そして、それらの問題解決策を提案し、実行するための素地を身につける。

授業の到達目標

産業心理学の基礎概念について、説明できる。産業組織における心理現象の構造や仕組みについて産業心理学的知識に基づき、説明できる。産業心理学の基礎概念や理論及び方法を、個人、組織、社会における様々な問題の理解や解決法の提案に応用できる。

授業計画

1. オリエンテーション・産業心理学とは（領域とテーマ、歴史、社会的意義）
2. 人事の心理学（職業適性・雇用の多様化・キャリア発達）
3. 職場の人間関係（人間関係管理・対人支援・ワークライフバランス）
4. 働くことの意味（労働基準法・働きがいと生きがい）
5. 仕事とモチベーション（欲求階層説・内発的動機づけ・外発的動機づけ）
6. 組織行動の心理1（集団力学・集団の中の個人・組織風土）
7. 組織行動の心理2（リーダーシップ）
8. 組織開発の心理（集団意志決定・組織変革・ダイバーシティ）
9. 仕事の安全（労働災害・ヒューマンエラー・ハインリッヒの法則）
10. 交通心理学（ドライバーの年齢と交通事故・ハザードとリスク・事故原因）
11. 交通心理学（ドライバー以外の交通参加者の安全と理解）
12. ストレスと心身の健康（ストレス・ストレッサー・ストレス反応・ストレスマネジメント）
13. 消費者行動1（消費者行動の分析とモデル・購買意思決定）
14. 消費者行動2（悪徳商法の心理学的理解と防止）
15. まとめと産業心理学の最近の動向

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業のキーワードについて下調べしておくこと（60分）、事後学習として、授業内容を復習したのち、レポートあるいは小テストを提出すること（90分）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

金井篤子（編） 産業・組織心理学を学ぶ 北大路書房 2019年

学生に対する評価

各授業回に課す小テスト（70%）と小レポート（30%）で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 小テスト及び小レポートでの評価点の合計が満点中6割台である。
 (B) 小テスト及び小レポートでの評価点の合計が満点中7割台である。
 (A) 小テスト及び小レポートでの評価点の合計が満点中8割台である。
 (S) 小テスト及び小レポートでの評価点の合計が満点中9割台である。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、WebClassを通じてフィードバックを行う。

その他

この講義はオンデマンドで実施する。WebClassで講義スライドやビデオを配信するので、視聴し、その指示にしたがって課題を行い、復習や下調べを行ったのち、小テスト及び小レポートを提出するという形をとる。

科目名	企画科目(コミュニケーション心理学)					学期	後期		
副題	人と人とのつながりを科学する				授業方法	講義	担当者	東真由美	
ナンバリング	G-10-119	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

人と人との出会いや印象形成、友人関係や組織での円滑な人間関係構築など、身近なコミュニケーション場面に活用できる理論や技法について身につける。社会心理学や臨床心理学の観点からコミュニケーションについて理解を進め、産業・組織心理学の観点も加えながら、日常場面への応用を目指す。この授業は、オンデマンド型の遠隔授業を受講し、毎回所定の課題を期限内に提出する形で実施予定である。授業ではテキストを使用し、講義形式で行うが、理解を深め、コミュニケーション力を身につけるために様々なワークを実施する。

授業の到達目標

①人間関係の基礎となるコミュニケーションの基礎理論を理解し、他者に説明できる。②コミュニケーションには様々な方法があり、場に応じて使い分けることにより円滑な関係が構築されることを理解し、応用できる。③周囲と良好な人間関係を保つコミュニケーション力を身につけて、適切な自己表現ができる。

授業計画

1. 人と人との出会い1：オリエンテーション、第一印象、印象形成
2. 人と人との出会い2：対人認知、対人魅力
3. 非言語的コミュニケーション：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
4. 効果的なコミュニケーションをめざして1：積極的傾聴法
5. 効果的なコミュニケーションをめざして2：アサーショントレーニング
6. われわれは他者からどのように影響を受けるか1：説得的コミュニケーション
7. われわれは他者からどのように影響を受けるか2：マス・コミュニケーション
8. われわれは他者からどのように影響を受けるか3：コンピュータ・コミュニケーション
9. 組織・集団のコミュニケーション：集団の性質、リーダーシップ理論
10. ストレスと人間関係：メンタルヘルス、職場適応、組織における葛藤、ストレスマネジメント
11. 対人関係の諸問題：攻撃行動、フラストレーション、匿名性などが攻撃的になる要因
12. より良い人間関係を保つために1：自分を知る～交流分析のエゴグラム体験から
13. より良い人間関係を保つために2：自分を肯定的にとらえる～リフレーミングを用いて
14. より良い人間関係を保つために3：他者に関心をもち肯定的にみる
15. 対人コミュニケーションに関する心理学についてのまとめ

準備学習(予習・復習)・時間

各回の授業前に事前学習として、テキストの当該ページを読み専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、授業後に事後学習として、宿題レポートに取り組み、提出すること(90分)。

テキスト

藤本忠明・東正訓『ワークショップ人間関係の心理学』ナカニシヤ出版 2004年(小堀南岳書店で購入)

参考書・参考資料等

藤本忠明・東正訓『ワークショップ大学生活の心理学』ナカニシヤ出版 2009年 他、テキストの各章末のブックガイドを参照。

学生に対する評価

授業ごとに毎回行うレポート(評価の84%)に加えて、最終回にて、最終レポート(評価の16%)を課す。レポートの質および課題への積極的な取り組み姿勢(レポートの文章量等)を評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業への積極的参与といくつかの間違いはあるものの最低限の説明ができているレポートの提出
 (B) 授業への積極的参与と大きな間違いがないレポートの提出
 (A) 授業への積極的参与と優れたレポートの提出
 (S) 授業への積極的参与と特に優れたレポートの提出

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でレポート課題を行うが、理解不十分な内容については、後日に再度説明するなどのフィードバックを行う。

その他

オンデマンド型の遠隔授業を視聴し、毎回所定の課題を期限内に提出していただく形で実施予定である。講義形式で行うが、コミュニケーション力を身につけるために種々の気づきを得るための心理テストやワークも取り入れるので、受講生の能動的な学びが必要である。毎回のレポートは、先延ばしにせず、授業を受けたらすぐ課題に取り組み、すぐ提出(締切厳守)すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師として実務経験を持つ担当教員の臨床心理業務経験をもとに、実務家教員として講義を行い、将来、対人支援にかかわる業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

科目名	企画科目(人間関係論)						学期	後期	
副題	対人関係の心理学				授業方法	講義	担当者	東真由美	
ナンバリング	G-10-120	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

友人、家族、地域、職場などさまざまな人や組織のなかでの人間関係の問題について、心理学的な観点から理解を進める。人格心理学、発達心理学、社会心理学及び臨床心理学の観点から自己・他者を理解し、よりよい人間関係を築くことの重要性を認識する。この授業は、オンデマンド型の遠隔授業を受講して毎回所定の課題を期限内に提出する形で、実施予定である。理解を深めるために様々なワークを実施する。

授業の到達目標

①人間関係に関する心理学の概念や理論を理解し、他者に説明できる。②心理学的知識に基づき、自分の対人関係の取り方について自省できる。③心理学の基礎概念や考え方を、自身の対人関係についての理解に応用できる。

授業計画

1. オリエンテーション、対人認知
2. 人間関係における自己1：自分の性格を知る
3. 人間関係における自己2：自己概念と自尊心
4. 対人関係の発達1：他者との出会いの始まりー赤ちゃんと幼児期
5. 対人関係の発達2：社会性と共感性の発達、親子関係
6. 対人関係の発達3：青年期とアイデンティティ
7. 人を好きになる心理学1：友人関係
8. 人を好きになる心理学2：恋愛行動
9. 集団の心理学1：集団の中の個人、地域での人間関係
10. 集団の心理学2：集団内での利害の対立、職場での人間関係
11. 人間関係とストレス1：精神的健康とは
12. 人間関係とストレス2：ストレスを緩和する要因
13. 人間関係とコミュニケーション
14. 人間関係を改善するために1：自己理解
15. 人間関係を改善するために2：まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次の範囲について下調べをし(60分)、事後学修として講義内容を復習し、レポート課題に取り組むこと(90分)

テキスト

なし。随時講師作成のプリントのPDFを配布する。

参考書・参考資料等

藤本忠明・東正訓『ワークショップ大学生活の心理学』ナカニシヤ出版 2009年、藤本忠明・東正訓『ワークショップ人間関係の心理学』ナカニシヤ出版 2004年

学生に対する評価

授業ごとに毎回行うレポート(評価の84%)に加えて、最終回にて、最終レポート(評価の16%)を課す。レポートの質および課題への積極的な取り組み姿勢(レポートの文章量等)を評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業への積極的参与といくつかの間違いはあるものの最低限の説明ができているレポートの提出
 (B) 授業への積極的参与と大きな間違いがないレポートの提出
 (A) 授業への積極的参与と優れたレポートの提出
 (S) 授業への積極的参与と特に優れたレポートの提出

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でレポート課題を行うが、理解不十分な内容については、後日に再度説明するなどのフィードバックを行う。

その他

オンデマンド型の遠隔授業を視聴し、毎回所定の課題を期限内に提出していただく形で実施予定である。講義形式で行うが、種々の気づきを得るための心理テストやワークも取り入れるので、受講生の能動的な学びが必要である。毎回のレポートは先延ばしにせず、授業を受けたらすぐ課題に取り組み、すぐ提出(締切厳守)すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師として実務経験を持つ担当教員の臨床心理学業務経験をもとに、実務家教員として講義を行い、将来、対人支援にかかわる業務に従事したいと考えている人にも役立つ授業としたい。

科目名	企画科目(中国語で学ぶ仏教の歴史)							学期	前期
副題	中国密教史				授業方法	講義	担当者	徐東軍	
ナンバリング	G-01-121	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

インドにおこった密教が古代中国に伝えられた後、中国密教として展開していった過程を学習する。密教僧の布教活動や訳経事業、著名な寺院、密教の遺跡などの面から、中国の時代に沿って形成された密教の特色についての理解を深める。

授業の到達目標

中国歴史年表にしたがって、魏晋南北朝時代から密教隆盛期である唐までの中国密教史の大まかな流れを理解し、概説できる。唐以降の宋・遼・金・西夏・大理などにおける中国密教の歴史的展開を学び、それらの特徴を説明できる。元代以降のチベット密教の伝播とその影響について理解できる。

授業計画

1. 講義内容の説明
2. 魏晋南北朝時代における陀羅尼密教の伝来と流行
3. 隋と初唐における密教經典の翻訳
4. 善無畏・金剛智と両部大經の伝来
5. 善無畏の弟子たち及び北宗禪との交流
6. 不空の布教と密教隆盛
7. 不空の弟子たち及び恵果による両部大法の相承
8. 入唐八家の求法
9. 中晩唐の密教僧と法門寺の仏舍利供養
10. 宋代訳経院の設立と密教經典の翻訳
11. 宋と遼の密教の特徴
12. 西夏・金・大理における密教の展開
13. 元明清三代とチベット密教
14. 二十世紀における密教の復興運動
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60分) 講義内容について、関心をもったテーマや人物を調べる。(60分)

テキスト

担当者が作成した資料を配布する。

参考書・参考資料等

①呂建福『中国密教史』(中国社会科学出版社、2011年、中国語) ②宮坂宥勝・松長有慶・頼富本宏編『密教大系第二巻 中国密教』(法蔵館、1994年、日本語) ③立川武蔵・頼富本宏編『中国密教 シリーズ密教3』(春秋社、1999年、日本語)

学生に対する評価

期末レポート(60%)、講義参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中国への密教の伝来と展開の歴史を理解できる。
- (B) 中国の各時代における密教の展開を概説できる。
- (A) 中国の各時代の密教について、その特徴及び主要な密教僧の役割について理解できる。
- (S) 中国における密教の歩みを理解し、意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、講義内で対応する。

その他

本講義は中国語で行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(中国語で仏典を読む)						学期	後期	
副題	中国語で『般若心経』を読む				授業方法	講義	担当者	徐東軍	
ナンバリング	G-02-122	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

講義の始めに中国語(標準語)の発音で『般若心経』を読誦する。中国語と日本語の文献を併用して『般若心経』を精読することで、中日両方の語学力を高め、本経典の意味をより深く理解する。法相宗の慈恩大師基の『般若波羅蜜多心経幽贊』を参考にし、仏教を研究する上で必要な漢訳仏教用語と、唯識の基礎知識について学ぶ。

授業の到達目標

中国語で漢訳仏典の『般若心経』を正しく読誦できる。『般若心経』に説かれた教理を総合的に把握し、仏教の教義についての理解を深める。

授業計画

1. 講義内容の説明
2. 玄奘三蔵の天竺求法と『般若心経』
3. 初期仏教と部派仏教における空
4. 大乘仏教における空
5. 心経読解(1): 経題の解説および般若経典類の展開の歴史
6. 心経読解(2): 観自在菩薩~度一切苦厄(1)
7. 心経読解(3): 観自在菩薩~度一切苦厄(2)
8. 心経読解(4): 観自在菩薩~度一切苦厄(3)
9. 心経読解(5): 舍利子色不異空~不垢不淨不増不減
10. 心経読解(6): 是故空中無色~無眼界乃至無意識界(1)
11. 心経読解(7): 是故空中無色~無眼界乃至無意識界(2)
12. 心経読解(8): 無無明亦無無明盡~亦無老死盡
13. 心経読解(9): 無苦集滅道~遠離顛倒夢想究竟涅槃
14. 心経読解(10): 三世諸仏依般若波羅蜜多故~菩提娑婆訶
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の講義範囲の資料を読み、難解な用語を調べる。 (60分) 講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。 (60分)

テキスト

担当者が配布資料を用意する。

参考書・参考資料等

①渡辺章悟 高橋尚夫編『般若心経註釈集成 インド・チベット編』(起心書房、2016年) ②渡辺章悟 高橋尚夫編『般若心経註釈集成 中国・日本編』(起心書房、2016年)

学生に対する評価

期末レポート(60%)、講義参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中国語で『般若心経』を読誦し、同経典の仏教用語を理解できる。
 (B) 中国語で『般若心経』を読誦し、同経典の思想を理解できる。
 (A) 中国語で『般若心経』を暗唱し、同経典の思想を説明できる。
 (S) 中国語で『般若心経』を暗唱し、同経典の思想と唯識の基礎知識を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内で対応する。

その他

中国語と日本語の文献を併用し、中日二ヶ国語で講義を行う。履修前提として、基礎的な中国語の「聴く」「読む」力を持っていること。なお、受講生の語学力に合わせて講義内容を調整する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中日両国で行われていた仏教・密教学術大会などにおいて通訳と論文翻訳に従事した経験のある教員が、その経験を活かして、仏教・密教の文献を中国語と日本語で読む方法、注意点などについて講義する。

科目名	企画科目(歴史学入門)						学期	前期	
副題	鎌倉時代の政治過程				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G-12-123	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

一般に、鎌倉時代は、鎌倉幕府を中心とする歴史観に立脚して論ぜられることが多かった。しかし、実際のところ、朝廷の権力も依然として影響力を残しており、公家・武家の双方向から鎌倉時代史を把握することが重要である。そこで、本講義では、最新の研究成果に基づいて、公武政権をめぐる諸問題について考察し、歴史学への関心を培う。なお、「授業計画」に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標

①鎌倉時代の政治過程を、朝廷の存在を視野に入れて理解できるようになる。②歴史学における研究史の展開、歴史観の変遷を考える視座をつちかう。③さまざまな史料に基づいて、史実を立体的に復元する意義を認識できるようになる。

授業計画

1. 鎌倉時代の政治構造
2. 頼朝上洛
3. 建久七年政変
4. 後鳥羽院政の成立
5. 執権政治の成立
6. 承久の乱
7. 『金剛三昧院文書』の見学
8. 九条道家政権と鎌倉幕府
9. 得宗専制政治の成立
10. モンゴル襲来と公武政権
11. 両統の分立と鎌倉幕府
12. 両統迭立への道
13. 後醍醐天皇の登場
14. 後醍醐天皇の討幕計画
15. 鎌倉幕府の滅亡

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、鎌倉時代に関する専門用語の意味を理解しておくこと(100分)、【復習】講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること(80分)

テキスト

①プリント・関係資料のコピー、②野口実・長村祥知・坂口太郎『京都の中世史3 公武政権の競合と協調』(吉川弘文館、2022年)※書店などで購入。必ず講義に持参すること。プリントとあわせて随時参照する。

参考書・参考資料等

①上横手雅敬ほか『日本の中世8 院政と平氏、鎌倉政権』第2部(中央公論新社、2002年)、②村井章介『北条時宗と蒙古襲来』(日本放送出版協会、2001年)、③川添昭二『日蓮と鎌倉文化』(平楽寺書店、2002年)

学生に対する評価

レポート(100%) ※3000字以上

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 鎌倉時代に関する基礎的事項を理解している。
 (B) 鎌倉時代の政治過程について、講義の内容を踏まえて説明できる。
 (A) 鎌倉時代の政治過程について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
 (S) 鎌倉時代の政治構造について学問的に説明できるとともに、古文書の価値や研究史についても理解している。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、課題設定や執筆にむけて適宜助言し、提出後に講評する。

その他

①受講者は、図書館を利用して本講義に関わる書籍を熟読するとともに、関西の史跡などに足を運んで、歴史への関心を育むこと。講義内容に限らず、歴史・歴史学に対する疑問があれば、遠慮無く質問すること。②本講義は、適宜テキストにもとづく議論や山内寺院の見学も行なうなど、アクティブ・ラーニングの側面も持つ。ゆえに、受講生の積極的参加が必要である。

科目名	企画科目(歴史学入門演習)						学期	後期	
副題	『吾妻鏡』を読む				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G-12-124	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

鎌倉幕府によって編纂された歴史書『吾妻鏡』は、北条氏に配慮した曲筆を含むものの、鎌倉時代を考える上で重要な史料である。本演習では、承久3年(1221)の記事を収める巻第25を読み解き、後鳥羽院と北条義時率いる鎌倉幕府が激突した承久の乱について、具体的に読み解いてゆく。毎回、和製漢文の読み下しと適切な現代語訳を行うとともに、中世史研究の調査方法や史料批判についても習得する。また、山内寺院の見学や史跡踏査も行なう。なお、進度によって内容が変更される場合がある。

授業の到達目標

①鎌倉前期における公武権力の激突を、史料に即して理解できるようになる。②『吾妻鏡』の叙述を通して、鎌倉幕府にとっての承久の乱の意義について考える。③和製漢文の読解力を身につけ、歴史学の研究に取り組む上での基礎学力を養う。

授業計画

- 『吾妻鏡』の概要、講義の進め方、文献探索の方法
- 『新訂増補国史大系 吾妻鏡』の凡例を読む①
- 『新訂増補国史大系 吾妻鏡』の凡例を読む②
- 本文校訂の要領を理解する
- 『吾妻鏡』を読む①(承久3年条)
- 『吾妻鏡』を読む②(承久3年条)
- 高野山町石道を歩く
- 『吾妻鏡』を読む③(承久3年条)
- 『吾妻鏡』を読む④(承久3年条)
- 『吾妻鏡』を読む⑤(承久3年条)
- 『吾妻鏡』を読む⑥(承久3年条)
- 『吾妻鏡』を読む⑦(承久3年条)
- 『吾妻鏡』を読む⑧(承久3年条)
- 『金剛三昧院文書』の調査
- 試験と解説

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した予習をできるように努力すること(120分)【復習】報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること(60分)

テキスト

『吾妻鏡』の翻刻(新訂増補国史大系)のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①『日本国語大辞典 第2版』全13巻・別巻1巻(小学館、2000～2002年)、②藤堂明保編『学研 新漢和大辞典』(学習研究社、2005年)、③高橋秀樹『古記録入門 増補改訂版』(吉川弘文館、2023年)、④野口実・長村祥知・坂口太郎『京都の中世史3 公武政権の競合と協調』(吉川弘文館、2022年)

学生に対する評価

試験(60%)、講義中での取り組み(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『吾妻鏡』に関する基礎的事項を理解している。
 (B)『吾妻鏡』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
 (A)『吾妻鏡』の内容について、政治史・史料論の双方の視角から説明することができる。
 (S)『吾妻鏡』について、独自の史料調査に基づいて独創的な解釈を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

試験の解答については、試験後に解説を行なう。

その他

①本演習は、教員と受講者との議論に基づくアクティブ・ラーニングであるので、『吾妻鏡』はもとより、参考書などを読んで参加すること。漢文は難解だが、コツを習得すればこちらのもの。積極的な受講態度と地道な予習・復習が肝心!②受講者は、企画科目の「歴史学入門」も必ず履修しておくこと。

科目名	企画科目(民俗調査A)						学期	前期	
副題	高野山を調査する				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	G-11-125	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山および周辺集落の民俗について調査することによって、論文作成に必要な情報収集の方法を学ぶことを目的とする。まず地域調査の概要について説明するとともに、調査地域を実見し、地域の課題を知る。高野町役場などで既存資料を収集した上で、調査計画を立案する。行政や地域住民に対してインタビュー調査を実施する。受講生の報告をもとに、最終的に調査報告書を作成する。調査の関係から、土日や長期休暇、同一日に連続で授業を実施することがある。なお、本授業では統計を使用することがあり、第1回の授業で数学の試験をおこない、基準に達しない者、あるいは欠席者は受講を認めないので、注意のこと。

授業の到達目標

民俗調査の基礎を習得するとともに、実社会を理解するために、受講生自らが調査計画を立て上で、地域調査を行い、報告書を作成する。

授業計画

1. テーマを設定する (統計能力試験)
2. 調査方法の決定する
3. 調査計画書を作成する
4. 既存情報を収集する
5. 既存資料を整理する
6. 既存資料を分析する
7. 観察調査を実施する
8. インタビュー調査を実施する
9. 中間報告を行う
10. 調査計画を修正する
11. 追加調査を行う
12. データを整理・分析する
13. 調査報告書を作成する
14. 受講生の報告
15. 調査報告書を修正する。

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

上野和男他編『新版民俗調査ハンドブック』吉川弘文館、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

報告書 (50%)、授業中の発言やコミュニケーションカードなど積極的な授業態度 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テーマを選び、調査計画を立てることができる。
 (B) 調査計画に基づいて、調査ができる。
 (A) 調査に基づき、報告書を作成できる。
 (S) 学んだことをもとに、自身で調査ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

①積極的に授業に参加するとともに、授業外における課題の作成、調査が必要であることを了解した上で履修すること。②フィールドワークを実視する受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。③企画科目(民俗調査B)を受講することが望ましい。④統計を使用することがあるために、第1回目の授業において、数学の試験を実施する。基準に達していない者、および受験していない者は受講を認めないので、注意のこと。

科目名	企画科目(民俗調査B)						学期	後期
副題	高野山を調査する				授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	G-11-126	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

高野山および周辺集落の民俗について調査することによって、論文作成に必要な情報収集の方法を学ぶことを目的とする。まず地域調査の概要について説明するとともに、調査地域を実見し、地域の課題を知る。高野町役場などで既存資料を収集した上で、調査計画を立案する。行政や地域住民に対してインタビュー調査を実施する。受講生の報告をもとに、最終的に調査報告書を作成する。調査の関係から、土日や長期休暇、同一日に連続で授業を実施することがある。なお、本授業では統計を使用することがあり、第1回の授業で数学の試験をおこない、基準に達しない者、あるいは欠席者は受講を認めないので、注意のこと。

授業の到達目標

民俗調査の基礎を習得するとともに、実社会を理解するために、受講生自らが調査計画を立て上で、地域調査を行い、報告書を作成する。

授業計画

1. テーマを設定する
2. 調査方法の決定する
3. 調査計画書を作成する
4. 既存情報を収集する
5. 既存資料を整理する
6. 既存資料を分析する
7. 観察調査を実施する
8. インタビュー調査を実施する
9. 中間報告を行う
10. 調査計画を修正する
11. 追加調査を行う
12. データを整理・分析する
13. 調査報告書を作成する
14. 受講生の報告
15. 調査報告書を修正する。

準備学習(予習・復習)・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

上野和男他編『新版民俗調査ハンドブック』吉川弘文館、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

報告書 (50%)、授業中の発言やコミュニケーションカードなど積極的な授業態度 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テーマを選び、調査計画を立てることができる。
 (B) 調査計画に基づいて、調査ができる。
 (A) 調査に基づき、報告書を作成できる。
 (S) 学んだことをもとに、自身で調査ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

①積極的に授業に参加するとともに、授業外における課題の作成、調査が必要であることを了解した上で履修すること。②フィールドワークを実視する受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。③企画科目(民俗調査A)を受講すること。④統計を使用することがあるために、第1回目の授業において、数学の試験を実施する。基準に達していない者、および受験していない者は受講を認めないので、注意のこと。

科目名	企画科目(詠歌上級)						学期	通年	
副題	金剛流御詠歌を学ぶ				授業方法	実技	担当者	辻・西山・岩田	
ナンバリング	G-01-127	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

初級御詠歌の続きとして、学び足りなかった御詠歌の理論や歴史とお唱えの技術の向上を目的とする。①流祖が曼荼羅の成身会に御詠歌の基礎を感じた事を深く考え研鑽を深める。②初級御詠歌で学ぶ事ができなかった歌謡法や技術的な唱え方を学ぶ。

授業の到達目標

多くの曲目を研鑽すると共に、お唱えする技術や楽理理論・指導法等より多くの知識を習得研鑽し、将来の指導者養成者としての知識を深める。

授業計画

【前期】

【後期】

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. オリエンテーション。(使用する書籍、教具等を説明) | 1. 前期履修曲、復習総括 |
| 2. 金剛和讃・相互供養和讃 | 2. 大師と共に |
| 3. 宗教音楽・布教音楽活動と実践 | 3. 宗教音楽、布教活動と実践 |
| 4. 御宝号和讃 | 4. 弘法大師入唐求法和讃 |
| 5. 大聖不動和讃 | 5. 時空を超えて |
| 6. 楽理・宗教音楽 | 6. 楽理・宗教音楽 |
| 7. 光明真言和讃 | 7. 高野山根本大塔和讃 |
| 8. 妙音 | 8. 個人発表 |
| 9. 楽理・宗教音楽 (個人発表予告) | 9. 夢遍路 |
| 10. 個人発表 | 10. 宗教音楽、布教活動と実践 |
| 11. 七福 | 11. 金剛 |
| 12. 万灯万華和讃 | 12. 高野山参拝和讃 |
| 13. 楽理・宗教音楽 | 13. 宗教音楽、布教活動と実践 (テスト予告) |
| 14. 父母感恩和讃 | 14. 後期テスト |
| 15. 前期テスト (前期履修曲より) | 15. 後期履修曲、復習総括 |

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ曲を、声を出して何度もお唱えし練習をすること。(60分)

テキスト

オリエンテーション時に購入する書籍・教具等の説明をする。

参考書・参考資料等

オリエンテーション時参考書を指示する。

学生に対する評価

前期実技発表 (40%)、後期実技発表 (40%)、授業参加の積極性 (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 上級で研鑽した曲を、他の人と一緒にお唱えすることができる。
 (B) 一人で数曲の御詠歌を安定してお唱えすることができる。
 (A) 教具を使って安定してお唱えすることができる。楽理について理解ができています。
 (S) 多くの曲目を教具を使って安定してお唱えができる。楽理について理解ができています。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

大学の「初級御詠歌」を2年間以上研鑽したことがある、または同等の経験者の受講が望ましい。受講合格した年月により詠階を授与する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の住職である教員が、僧侶としての経験と、長年にわたる御詠歌の実務実績、指導実績を踏まえた講師により、御詠歌を通して布教の重要性を認識させる。高野山内寺院の住職である教員が、高等学校、尼僧学園等の指導実績を踏まえ宗教音楽について指導する。

科目名	企画科目(地域連携)／地域福祉B(別)						学期	前期	
副題	高野山と周辺地域を考える				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	G-11-128	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山や周辺地域に関わりのある方をゲストスピーカーとして招き、話題提供をしていただき、その後質疑応答、ディスカッションを行うことによって、地域を理解する。

授業の到達目標

高野山大学が立地する地域に関する理解し、説明できる。

授業計画

1. 地域社会から考える
2. 地方行政－高野町の事例
3. 高野山と産業 (1) ごま豆腐
4. 高野山と産業 (2) 織物
5. 高野山と産業 (3) 橋本と高野山
6. 高野山と産業 (4) 農業
7. 高野山を支える (1) 福祉
8. 高野山を支える (2) 経済
9. 高野山を支える (3) 地域ブランディング
10. 高野山を支える (4) 移住者
11. 参拝と観光
12. 地域と教育
13. 高野町の町並み (建築)
14. 地方自治
15. 地域社会の課題

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと (90分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編高野町 2012年、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

最終レポート (70%)、小レポートと授業参加の積極性 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 地域社会に関する基本用語を説明できる。
- (B) 地域社会がどのような状況にあるかを説明できる。
- (A) 地域社会に対して自分の考えを提案できる。
- (S) 地域社会に対して実際に行動することができる。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

①高野山周辺を中心として就職したいという強い希望を持ち、真面目に受講することが必要である。②インターンシップを希望する者は、必ず受講すること。③授業内容・日程・ゲストスピーカーなど詳細については、第1回目の授業に指示する。④意見を発表してもらうので、授業を聞いて内容を理解する必要がある。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(死生観)						学期	前期	
副題	「どう生き、どう死ぬか」を考える				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	G-03-129	実務経験の有無	有	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

現代日本人の死生観について、現代社会の死に関する諸問題及び海外の情勢を通じて理解を深める。講義及びディスカッションを通して、受講者が自身の死生観を見つめ直し、培う。併せて、ケアの視点を学ぶ。

授業の到達目標

死生観について理解し、説明できる。自身の死生観を振り返り、言語化できる。

授業計画

1. 死生学と死生観①
2. 死生学と死生観②
3. 死生観と宗教的世界観①
4. 死生観と宗教的世界観②
5. 自殺と死生観①
6. 自殺と死生観②
7. 緩和ケア・難病と死生観①
8. 緩和ケア・難病と死生観②
9. 安楽死・尊厳死と死生観①
10. 安楽死・尊厳死と死生観②
11. 脳死・臓器移植と死生観①
12. 脳死・臓器移植と死生観②
13. 生殖医療と死生観①
14. 生殖医療と死生観②
15. まとめ：生命倫理と宗教

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと(90分)

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

清水 哲郎著『医療・ケア従事者のための 哲学・倫理学・死生学』医学書院、2022年

学生に対する評価

レポート評価(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 死生観について基本概念を理解し、自身の死生観をなんとなく説明できる。
 (B) 死生観とその変遷を配布資料に沿って理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
 (A) 日本人の死生観とその変遷を配布資料を含む複数の資料を見ながら他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
 (S) 日本人の死生観とその変遷を資料を見ずに他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、様々な死生観に比較言及しながら自身の死生観を自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗僧侶・臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)として実務経験を持つ専任教員による現場での実践知にふれながら、死生観について学び、現代社会の問題に関わる姿勢・態度を身につけていく。

科目名	企画科目(グリーフケア)						学期	後期	
副題	悲嘆の心理について学ぶ				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	G-10-130	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

グリーフ (grief) とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画

1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論 (PTSD と複雑性悲嘆について)
3. 犯罪被害者支援① (被害者・加害者の声)
4. 犯罪被害者支援② (被害者・加害者の心理的ケア)
5. 虐めと虐待① (虐め体験について)
6. 虐めと虐待② (被虐体験への心理的ケア)
7. 難病支援① (難病とは・我が国の現状)
8. 難病支援② (生きることの苦悩と受容の心理的ケア)
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援① (病と自己)
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援② (死を見つめる心理とそのケア)
11. 自死遺族支援① (遺族の心理)
12. 自死遺族支援② (サポートグループについて)
13. 災害時支援① (災害による喪失体験)
14. 災害時支援② (復興期に求められる支援について)
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと (90 分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂, 2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができています。
 (B) 悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
 (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
 (S) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	企画科目(宗教間対話)							学期	後期
副題	宗教的世界観に触れる					授業方法	実習	担当者	森崎雅好
ナンバリング	G-10-131	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

キリスト教の教義及び世界観並びに神道の教義及び世界観と社会実践活動の実際について、学外実習を通じて学ぶ。遠隔地での学外実習のため現地にて宿泊する。また、各実習終了後、自身の学びや気づきについてキーワードを3つ挙げ、レポート（2,000～3,200字以内）にまとめる。

授業の到達目標

様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の世界観を再確認し、社会実践活動に結び付ける視点を身につける。

授業計画

1. 実習に関するガイダンス1
2. 事前学習①：キリスト教について
3. 事前学習②：教会の活動について
4. 現地実習①：活動現場視察（自殺防止活動・於：和歌山県白浜町三段壁周辺）
5. 現地実習②：NPO法人の活動について（就労支援）
6. 現地実習③：実践講義1（キリスト教の世界観・ケア観）
7. 現地実習④：礼拝出席
8. 実習の振り返り：キリスト教の世界観のまとめ
9. 事前学習：神道について
10. 現地実習①：神道の世界観を学ぶ（皇學館大学）
11. 現地実習②：神道の世界観を学ぶ（皇學館大学）
12. 現地実習②：神道の世界観を観じる（伊勢神宮）
13. 実習の振り返り：神道の世界観のまとめ
14. 全体の振り返り：宗教的ケアの実践について
15. まとめ：宗教とケア

準備学習(予習・復習)・時間

各事前学習の前の個人学習（90分）と各実習の振り返り後の学びのまとめ（90分）

テキスト

講師作成の資料を配付する。

参考書・参考資料等

藤藪庸一『あなたを諦めない 自殺救済の現場から』いのちのこぼ社, 2019年・伊藤 聡『神道とは何か - 神と仏の日本史』中央公論新社, 2012年

学生に対する評価

レポートによる評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 様々な宗教的世界観を理解する。
- (B) 様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の抱く世界観を理解する。
- (A) 自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結びつける視点を身につけている。
- (S) 自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結びつける視点を身につけ、それらを他者に伝えることできる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、宗教者によるケア実践活動の現場（キリスト教・神道）での実習を通じて、各宗教の世界観及び実践方法について学ぶことで自身のケア活動の姿勢や態度を内省し、現場での自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目(高野山国際ガイド体験)						学期	前期	
副題	世界遺産の高野山を英語でガイドする				授業方法	講義	担当者	伊藤佳世子	
ナンバリング	G-07-132	実務経験の有無	無	関連DP	1. 2.	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

英語1またはEnglish Communication1等で学んだ知識や技能を、実際に体験することで深め、より高いレベルの英語活用能力を獲得することを旨とする。高野山を訪れる多くの外国人観光客に、ボランティアの観光ガイドとして関わり、観光客への案内やサポートを英語で行う。高野山の歴史、建造物や精進料理はもちろんのこと、高野山大学ならではの密教に関することを英語で発信できることを目的とする。

授業の到達目標

ガイド体験に高野山に関することを学び、ガイドに必要な英語力を習得し、プレゼンできるようになる。「壇上伽藍」「奥の院」「精進料理」など、高野山大学ならではの密教に関することを英語で発信できることを目的とする。ガイド体験を通して、外国の文化を偏見なく理解する。

授業計画

1. 授業の進め方、予習の範囲、成績評価について説明し、グループ分けをする
2. 英語ガイドをする史跡や逸話について資料をもとに英語表現を学習する。
3. 英語ガイドをする史跡や逸話について資料をもとに英語表現を学習する。
4. 英語ガイドをする場所に訪問し、過去と現在の資料（パンフレットや看板）との差異を検討
5. 英語ガイドをする場所に訪問し、過去と現在の資料（パンフレットや看板）との差異を検討
6. 観光説明の英文作成、各グループで現地でのガイドに使用する資料作りをする
7. 観光説明の英文作成、各グループで現地でのガイドに使用する資料作りをする
8. 精進料理に使用される英語表現を学ぶ
9. 法衣・法会や仏教用語の英語表現を学ぶ
10. ガイド体験に向けてのリハーサル
11. ガイド体験①(壇上伽藍・奥の院で外国人にガイドをする)
12. ガイド体験②(壇上伽藍・奥の院で外国人にガイドをする)
13. ガイド体験③(壇上伽藍・奥の院で外国人にガイドをする)
14. ガイド体験④(壇上伽藍・奥の院で外国人にガイドをする)
15. ガイド体験後にビデオを見てフィードバックとアンケートを行う。

準備学習(予習・復習)・時間

予習範囲と予習内容は、講義のなかで適宜指示を出す。

テキスト

講義の中で適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

参考書は、講義中に適宜紹介し、プリント教材は初回講義（オリエンテーション）で配布する

学生に対する評価

予習状況と授業態度、プレゼンテーションを加味して行う。資料作成（30%）、発表（50%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 観光英語に関する基本的な語彙や英文法が理解できる。
 (B) 外国人参詣者にたいして、メモを見ながら必要な情報を英語で提供できる。
 (A) 外国人参詣者にたいして必要な情報をメモを見ないで英語で提供できる。
 (S) 外国人参詣者にたいして必要な情報をメモを見ないで英語で提供し質問にも答えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポート提出後や発表後におこなう。

その他

担当部分は必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキストとノートを持参すること。欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ5回まで。講義開始30分を超えて入室した場合は欠席とする。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	サンスクリット語上級S						学期	通年	
副題	古典サンスクリット語の文学作品を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	G-07-133	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。この授業は、初等文法を学習し終えた学生を対象として、サンスクリット語の文法事項をさらに一歩踏み込んで学習することにより、インド古典に対する読解力をより高めることを目的とする。

授業の到達目標

・サンスクリット語の文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。・サンスクリット語で記された古典文学作品を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。・Reader における文法事項や注記を参照することで、文献学の基礎を理解できるようになる。

授業計画

【前期】

1. イントロダクション (授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導)
2. 初等文法の確認 (1) : 文字と発音・母音の曲用・子音の曲用
3. 初等文法の確認 (2) : 比較法・代名詞・数詞・不変化詞
4. 初等文法の確認 (3) : 動詞の活用 (現在組織)
5. 初等文法の確認 (4) : 連声法・準動詞・名称詞造語法・合成語法・韻律
6. 初等文法の確認 (5) : 動詞の活用 (現在以外の時制の組織)
7. 読解 (1) : 散文の翻訳 (Hitopadesa 1)
8. 読解 (2) : 散文の翻訳 (Hitopadesa 2)
9. 読解 (3) : 散文の翻訳 (Hitopadesa 3)
10. 読解 (4) : 散文の翻訳 (Hitopadesa 4)
11. 読解 (5) : 散文の翻訳 (Hitopadesa 5)
12. 読解 (6) : 散文の翻訳 (Hitopadesa 6)
13. 読解 (7) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 1)
14. 読解 (8) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 2)
15. 読解 (9) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 3)

【後期】

1. 読解 (10) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 4)
2. 読解 (11) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 5)
3. 読解 (12) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 6)
4. 読解 (13) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 7)
5. 読解 (14) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 8)
6. 読解 (15) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 9)
7. 読解 (16) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 10)
8. 読解 (17) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 11)
9. 読解 (18) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 12)
10. 読解 (19) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 13)
11. 読解 (20) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 14)
12. 読解 (21) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 15)
13. 読解 (22) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 16)
14. 読解 (23) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 17)
15. 読解 (24) : 韻文の翻訳 (Nalopakhyaṇa 18)

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと (150 分)。・事後学習として、授業で学んだ文法事項について復習しておくこと (30 分)。

テキスト

・Charles Rockwell Lanman. A Sanskrit Reader (何度も再版されている為、どの版でも可) ・William Dwight Whitney. Sanskrit Grammar (同上) ・吹田隆道『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015 年 (小堀南岳堂書店で購入)

参考書・参考資料等

・辻直四郎『サンスクリット文法』、岩波書店、1974 年 ・鏗淳 訳『J. ゴンダ：サンスクリット語初等文法』、春秋社、1982 年

学生に対する評価

発表 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な文法事項を理解できている。
 (B) Reader における文法事項や注記を正確に理解できている。
 (A) サンスクリット語の長文を、ある程度の精度で翻訳できる。
 (S) サンスクリット語の長文を、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。・原則的にはサンスクリット語初級の既習者が対象であるが、必要によっては適宜相談に応じる。

科目名	チベット語S/チベット語(別)						学期	通年	
副題	古典チベット語文法				授業方法	講義	担当者	井内真帆	
ナンバリング	G-07-134	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

広くチベット文化圏で用いられるチベット文字を習得し、古典チベット語文法の基礎を学ぶ。初学者も参加できる入門クラス。

授業の到達目標

チベット文字を習得し、読解に必要な古典文法の基礎を学ぶ。辞書を引いて古典チベット語文献の短い文章を読めるようにする。

授業計画

【前期】

1. 授業ガイダンスならびにチベット文字の世界入門
2. 30の基本文字
3. 30の基本文字(続)と文字の書き方
4. 反転文字と母音記号
5. ya 有足字と ra 有足字
6. la 有足字と wa 有足字
7. ra 有頭字, la 有頭字, sa 有頭字
8. 語の成り立ちと発音
9. 基本文形
10. 代名詞と助動詞(過去・現在・未来)
11. 助動詞(義務・欲求・可能・経験・使役)
12. 属格助辞
13. 具格助辞
14. la don 助辞
15. 試験と総括

【後期】

1. 従格助辞
2. 間投助辞と依他助辞
3. 接続助辞と開摂助辞
4. 完結助辞
5. 現在進行形を示す助辞
6. dang 助辞
7. 不定称助辞と否定助辞
8. 所有接尾辞
9. その他の助辞
10. その他の助辞(続)
11. 動詞
12. 動詞(続)
13. 辞書の引き方と文章を読んでみる
14. 文章を読んでみる(続)
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲に目を通しておくこと(30分)、事後学修としてその日に習ったことを復習して身につけること(150分)

テキスト

ツルティム・ケサン、小谷信千代(編)『実践チベット語文法—用例を中心として—』文栄堂、2003(入手方法に関しては授業中に指示する)。

参考書・参考資料等

星泉『古典チベット語文法—『王統明鏡史』(14世紀に基づいて)』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2016(<http://repository.tufs.ac.jp>よりダウンロード可能)。※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

授業参加状況(60%)、習熟度(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) チベット文字を読むことができ、綴りの構造が理解できる。
- (B) チベット文字を読むことができ、基礎的な文法事項を理解できる。
- (A) チベット文字を読むことができ、文法事項を理解した上で簡単な文章を読むことができる。
- (S) チベット文字を読むことができ、文法事項を理解した上で、自分で辞書を引いて簡単な文章を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	パーリ語S/パーリ語(別)						学期	通年	
副題	基礎文法				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	G-07-135	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

パーリ語とは、伝統的には仏教の聖典語、すなわち仏陀の言葉を記録した言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様に、仏教学および密教学の学習・研究を進める上で極めて有益な言語のひとつである。本授業は、パーリ語文法の基礎を習得し、パーリ語仏典の読解力を養うことを目的とする。サンスクリット語の初等文法の未履修者に考慮して、パーリ語の文法事項を丁寧に確認する。サンスクリット語の履修者に向けては、パーリ語の音韻的特徴などを把握することで、サンスクリット語に対する理解を深める。

授業の到達目標

パーリ語の基本的な文法事項を押さえ、パーリ語仏典を自力で読解できる力を身につける。

授業計画

【前期】	【後期】
1. オリエンテーション (シラバスの説明、授業の進め方等)	1. 連続体、条件法
2. 文字と発音	2. 不定体、名詞の格変化⑥
3. 連声法①	3. 受動詞
4. 連声法②	4. 使役動詞
5. 品詞、名詞の格変化①	5. 分詞、現在分詞、名詞の格変化⑦
6. 動詞	6. 過去分詞
7. 現在形、名詞の格変化②	7. 未来分詞
8. 未来形、名詞の格変化③	8. 動詞と名詞の造語法
9. 過去形	9. 合成語①
10. 代名詞、形容詞、同格	10. 合成語②
11. 数詞、不変化辞	11. 合成語③
12. 命令法、名詞の格変化④	12. 格の用法
13. 願望法、名詞の格変化⑤	13. 韻律
14. 文章構成法	14. 仏典を読む
15. 試験と総括	15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、指示された次回のテキストの範囲を読んでおくこと、各課で指定された練習問題を解くこと (90 分) 事後学習として、テキストおよび講義ノートを見直し、必要な文法事項や語彙を覚えておくこと (90 分)

テキスト

シヨバ・ラニ・ダシュ『パーリ語文法—仏典の用例に学ぶ—』法蔵館、2021 (書店で購入) 上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

①水野弘元『パーリ語文法』山喜房佛書林、補訂 1959、②水野弘元『増補改訂パーリ語辞典』春秋社、2005、③Geiger, Wilhelm. A Pali Grammar. Oxford: The Pali Text Society. 1994. 他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性 (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文字と発音を理解し、特定の単語の意味を調べることができる。
- (B) パーリ語の音韻的特徴を理解している。
- (A) 基本的な文法事項を理解している。
- (S) テキストにおける文法事項を押さえ、語彙集を参照して、パーリ語文を翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

20 分以上の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。各課の練習問題の解答を中心に受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。サンスクリット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある者であれば誰でも歓迎する。

科目名	中国語Ⅰ						学期	通年	
副題	使える語学の習得				授業方法	講義	担当者	土生川正賢	
ナンバリング	G-07-136	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

コロナ禍で訪日外国人人数は激減したが中国語の必要性は変わらない。今や中国語は国内でも使う時代となった。コロナ禍ではあるが、近年中国語圏から高野山に密教を学びに来る傾向も強まっている。実学として「使える語学」の修得を目指す。また、一党独裁という異質の価値観を有する隣国と如何に向き合うか、国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても随時考えてゆく。

授業の到達目標

「学問のための学問」ではなく、「聞く」「話す」に重点を置いた実社会で使える語学の習得を目指す。正確な発音を意識し、日常的な挨拶文から自己紹介、更には自分の日常について中国語で話せる程度の語学力の確立を目指す。外国語学習を通して自国の文化をより深く理解し多角的な視野を有する学生を育成したい。

授業計画

【前期】

- 年間授業計画説明。中国に関する一般常識に関するアンケート。中国語の特性について。
- 中国語の声調記号である「四声」と、発音記号「ピンイン」について。母音の発音練習。
- 「四声」と「ピンイン」について。子音の発音練習。
- 中国特有の漢字である「簡体字」の基礎学習。
- 電子辞書を含む中国語辞書の紹介と使い方。
- テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第1～4課）
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 前期試験（筆記）。講評

【後期】

- 前期試験の反省と間違った箇所の復習等。後期の授業計画説明。
- テキストを中心とした授業。（第5～8課）
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- 同上
- テキストを中心とした授業。（第5～8課） テキスト終えれば中国に関するビデオ鑑賞等。
- 後期試験に関する説明。アンケート調査。
- 後期試験（筆記）。講評

準備学習(予習・復習)・時間

教科書に付属するCDを繰り返し聞き、自分でも音読することで、正しい発音を習得して頂きたい。

テキスト

喜多山幸子・鄭幸枝 『はじめまして！中国語』 白水社

参考書・参考資料等

辞書（小学館『中日辞典』等）。電子辞書や参考書籍は授業中随時紹介する。NHK ラジオ中国語講座テレビ中国語講座等の番組視聴を推奨する。

学生に対する評価

①試験（60%） ②受講姿勢（20%） ③既習項目の習熟度（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中国語の四声とピンインを見て正しい発音ができる。簡体字を理解している。
 (B) 挨拶語や基礎的な構文を理解した上で正しい発音ができる。基本的な文法を理解している。
 (A) 基礎的な文法を理解した上で、自己紹介や自分の一日などについて中国語で話せる。教科書程度の内容について、聞いて受け答えできる会話力がある。
 (S) 中国人留学生らとの意思疎通が一定程度できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

その他

聞けぬ話せぬ語学では実社会では役に立たない。簡単な挨拶文から始めるので、中国人を見かけたら積極的に話しかけるくらいに学生諸君には積極的に取り組む姿勢を要求したい。積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

文部省派遣留学生として中国国立中山大学修士課程修了、中国の複数の大学の教壇にも立つ。実務としては、現地政府との折衝や国内外で多くの通訳に従事。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などへの密教の布教。中国はじめ各国駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。中国系留学僧らに対する中国語での加行伝授など。それらをいかし、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	中国語Ⅱ						学期	通年	
副題	中国語で中国語を学ぶ				授業方法	講義	担当者	土生川正賢	
ナンバリング	G-07-137	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

初級クラス同様「聞く」「話す」に重点を置き、受講生の語学力にあわせた個別指導を丁寧に行う。一方で中国語の新聞を読めるような読解力も養いたい。コロナ禍ではあるが、近年中国語圏から高野山に密教を学びに来る傾向も強まっている。現代社会のニーズに応え得る実学としての語学の修得を目指す。同時に、国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題も時事を通して学生と共に考えたい。

授業の到達目標

多角的な視野をもち、中国語を使って仕事のできる人材を育成したい。我が国の歴史・文化・伝統・政治的立場等を中国語で堂々と主張できる国際人を目指す。

授業計画

【前期】

1. 年間授業計画説明。初級クラスで学んだ語学力のチェック。
2. 初級クラスの基礎復習。辞書・参考文献の紹介。
3. 文法の基礎固め（未習のテキスト単元の学習）
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 受講生の語学力に適した教材を配布。
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 前期試験に関する説明。前期の授業に関するアンケート調査。
15. 前期試験（面接）。

【後期】

1. 前期試験の総復習。後期の授業計画説明。
2. 前期既習単元と基礎文法の総復習。
3. 受講生の語学力に適した教材を配布。学生による発表とそれに対する中国語での質疑応答等。
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 後期試験に関する説明。アンケート調査。
15. 後期試験（面接）。

準備学習(予習・復習)・時間

教科書に付属するCDを利用した発音訓練を推奨する。段階的に応用力を磨き、各人がレベルアップを実感できるよう、可能な限り中国語を用いて授業をすすめたい。

テキスト

初級クラスで用いた教科書の未修単元今年度は喜多山幸子・鄭幸枝 『はじめまして！中国語』 白水社

参考書・参考資料等

上記テキスト修了後は、その都度必要な教材・資料を配布。辞書は毎回必携。電子辞書や参考書籍は随時紹介。

学生に対する評価

筆記試験と中国語による個別面接試験（70%）、授業中の発表やレポート等（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的な文法を理解し、自己紹介や簡単な日常会話ができる。
- (B) 基礎的な文法を理解し、正しい発音で教科書程度の内容について会話ができる。
- (A) 新聞講読に必要な最低限の語彙力と日常会話能力、「聴・説・読・写」の総合的な力がある。
- (S) 中国人留学生らとの意思疎通が相当程度できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

その他

諸君の先輩の中には北京大・復旦大・中山大など中国の一流の大学院に国費留学し、学位取得した者も複数いる。文系学科の中では語学の実用性は非常に高く、外国語がひとつ話せるだけで職業の選択肢や世界は大きく広がり、多様な価値観を身につけることもできよう。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

文部省派遣留学生として中国国立中山大学修士課程修了、中国の複数の大学の教壇にも立つ。実務としては、現地政府との折衝や国内外で多くの通訳に従事。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などへの密教の布教。中国はじめ各国駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。中国系留学僧らに対する中国語での加行伝授など。それらをいかに、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	法式上級／法式上級(別)						学期	通年	
副題	理趣三昧法会の実践				授業方法	実技	担当者	北川真寛	
ナンバリング	G-01-138	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

理趣三昧などの各法会について、その作法や声明を解説し実践することによって、真言宗の法会や儀式に対する理解を深めると同時に、それらに関わることができる能力を身につける。

授業の到達目標

・理趣三昧の諸役を務めることができる。 ・導師の作法を身につける。 ・実際に法会や儀式などに出仕できる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスと高野山の修学概説 (1)
2. 高野山の年中行事
3. 高野山の学道解説
4. 高野山の振舞料理解説
5. 高野山の給仕作法
6. 理趣三昧法会の諸役作法解説—承仕—
7. 理趣三昧法会の諸役作法解説—会奉行—
8. 理趣三昧法会の諸役作法解説—唄師—
9. 理趣三昧法会の諸役作法解説—散華師—
10. 理趣三昧法会の諸役作法解説—讃頭—
11. 理趣三昧法会の諸役作法解説—経頭—
12. 諸役作法解説—伽陀士—
13. 諸役作法解説—祭文士—
14. 諸役作法解説—導師—
15. 理趣三昧法会実修 (1) —総合—

【後期】

1. ガイダンスと高野山の修学概説 (2)
2. 理趣三昧法会実修 (2) —職衆作法—
3. 理趣三昧法会実修 (3) —職衆作法—
4. 理趣三昧法会実修 (4) —職衆作法—
5. 理趣三昧法会実修 (5) —職衆作法—
6. 理趣三昧法会実修 (6) —職衆作法—
7. 理趣三昧法会実修 (7) —導師作法—
8. 理趣三昧法会実修 (8) —導師作法—
9. 理趣三昧法会実修 (9) —導師作法—
10. 理趣三昧法会実修 (10) —導師作法—
11. 理趣三昧法会解説 (11) —導師作法—
12. 得度式の概説
13. 授戒式の概説
14. 灌頂の概説
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・講義開始前に、香華・香盛をしておくこと (30分)。 ・事後学習として、習った作法や声明を練習しておくこと (60分)。

テキスト

経本や各種次第を購入、もしくはコピーを配布する。テキストの入手方法については要相談。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

講義参加の積極性 (60%)、各作法・配役の習熟度 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義に参加し実践できる。
 (B) 講義に積極的に参加し実践できる
 (A) 講義に積極的に参加し完遂できる。
 (S) 講義に積極的に参加し完遂できるだけでなく、さらにその意義を理解して実際の法会や儀式に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・豫め法式の単位を取得済の伝法灌頂修了者 (もしくは本年度に伝法灌頂に入壇見込の者) に限る。 ・空衣 (尼僧は褌衫でも可) と白袈裟 (または如法衣) を着しての受講となる。頭髪も加行に準じる。 ・配役が当たれば、無断で欠席しないこと。 ・受講者には追悼法会、また報恩日の法会に職衆としての積極的な出仕を求めるなど、実習を中心に行う。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、加行指導などの経験を持つ教員が、僧侶として真言密教の法会や儀式について解説し、実修を指導する。

科目名	声明上級/声明上級(別)						学期	通年	
副題	表白・神分・祭文と四座講式の唱え方を研鑽				授業方法	実技	担当者	辻秀道	
ナンバリング	G-01-139	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

1. 初級の続きとして、初級で学べなかった種々の南山進流声明及び法要を研鑽して声明の視野を広める。
2. 導師作法に必要な、「理趣法」の表白・神分を研鑽する。
3. 四座講式の基本的な読み方を研鑽する。
4. 種々の表白・神文の基礎となる御影供と大般若の表白・神文を研鑽する。

授業の到達目標

基本となる各法会の表白・神分を修得する。伽陀の譜の作りを学ぶ。各法会の祭文を研鑽する。常楽会の講式の読み方を学ぶ。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション 使用テキスト解説(南山進流声明類聚の他使用するテキストについて説明する)
2. 総礼(伽陀)(1)
3. 総礼(伽陀)(2)
4. 誕生会祭文Ⅰ
5. 誕生会祭文Ⅱ
6. 云何唄(1)
7. 云何唄(2)
8. 出家唄
9. 常楽会祭文(1)
10. 常楽会祭文(2)
11. 御影供表白・神分(1)
12. 御影供表白・神分(2)
13. 御影供表白・神分(3)
14. 前期個人発表と講評
15. 四座講式の唱え方(初重)(1)

【後期】

1. 四座講式の唱え方(初重)(2)
2. 四座講式の唱え方(二重)(1)
3. 四座講式の唱え方(二重)(2)
4. 四座講式の唱え方(三重)(1)
5. 四座講式の唱え方(三重)(2)
6. 大般若表白・神分(1)
7. 大般若表白・神分(2)
8. 大般若表白・神分(3)
9. 理趣法表白・神分(1)
10. 理趣法表白・神分(2)
11. 理趣法表白・神分(3)
12. 理趣経中曲
13. 理趣経中曲
14. 後期個人発表と講評
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として授業で学んだ唱え方に関して復習をしておくこと(90分)

テキスト

・「祭文集」一高野山出版社発行＝各自高野山出版社で購入すること。(オリエンテーションで説明)・「理趣法」講義中に伝達する・御影供/大般若表白・神分(オリエンテーションで説明)・講式テキスト(オリエンテーションで説明)

参考書・参考資料等

宮野宥智編「南山進流声明類聚」

学生に対する評価

前期末テスト(40%)後期末テスト(40%)授業参加の積極性(20%)。試験は実技試験。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 南山進流声明上級として、理解は十分ではないが、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
 (B) 南山進流各種声明を概ね理解し、複数の人と合わせて唱える事が出来る。
 (A) 南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、一人で唱える事が出来る。
 (S) 南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、声明上級としての学力を有する。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講資格を下記の通り設ける。 1. 本学「声明」初級を修得した者 2. 高野山専修学院及び尼僧学院を修了した者 3. 高野山高等学校宗教科を卒業した者 4. その他同等以上の研鑽を修了した者 受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校・尼僧学院・大学に於ける声明授業の授業経験。音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	体育実技						学期	通年	
副題	運動・スポーツを楽しもう				授業方法	実技	担当者	本山司	
ナンバリング	G-17-140	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。活動の中で、体力強化、身体づくりとともに、運動やスポーツの楽しさを体感し、技能面を高めたり、楽しさを味わったりできるような個人スポーツ・団体スポーツの練習やゲームを実施していく。

授業の到達目標

個人的・集団的スポーツを通して基本技能を学習すると同時に仲間とのコミュニケーション能力を高め、スポーツのすばらしさを体感し生涯スポーツに活かしていく。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション (授業の進め方、成績評価の説明、今後の予定、アイスブレイク①)
2. アイスブレイク② (軽運動)
3. ウォーキング (大学周辺)
4. 新体力テスト① (室内測定種目を中心に)
5. 新体力テスト② (屋外測定種目を中心に)
6. バトミントン① (ルールの理解、基礎練習)
7. バトミントン② (ゲームの理解、ルール・審判法、ダブルス基礎練習)
8. バトミントン③ (ゲームの実践、ルール・審判方の確認、ドリルゲーム)
9. バトミントン④ (ダブルス戦)
10. バトミントン⑤ (シングルス戦)
11. アダプトドスポーツ・ボッチャ① (基礎技能の習得、簡易なゲーム)
12. アダプトドスポーツ・ボッチャ② (団体戦)
13. アダプトドスポーツ・ボッチャ③ (個人戦)
14. アダプトドスポーツ・風船バレー① (基礎技能の習得、ミニゲーム)
15. アダプトドスポーツ・風船バレー② (ゲームの実践・戦術理解、授業のまとめ)

【後期】

1. オリエンテーション (授業の進め方、成績評価の説明、今後の予定)、バレーボール① (基礎練習)
2. バレーボール② (ルールの理解、基礎練習)
3. バレーボール③ (ゲームの理解、ルール・審判法、基礎練習、ミニゲーム)
4. バレーボール④ (ゲームの実践・戦術理解、ルール・審判方の確認)
5. バレーボール⑤ (実践と観戦の楽しみ方)
6. フットサル① (ルールの理解、基礎練習)
7. フットサル② (ゲームの理解、ルール・審判法、基礎練習、簡易ゲーム)
8. フットサル③ (ゲームの実践・戦術理解、ルール・審判方の確認)
9. フットサル④ (実践と観戦の楽しみ方)
10. バスケボール① (ルールの理解、基礎練習)
11. バスケボール② (ゲームの理解、ルール・審判法、基礎練習、ミニゲーム)
12. バスケボール③ (ゲームの実践、ルール・審判方の確認、タスクゲーム)
13. バスケボール④ (ゲームの実践・戦術理解)
14. バスケボール⑤ (実践と観戦の楽しみ方)
15. 授業のまとめ、振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として実施する内容を調べて理解しておく。(60分) 学習した内容や運動技能等を踏まえて、ポイントを各自で整理しておく。(60分)

テキスト

なし

参考書・参考資料等

適宜資料を配布する。

学生に対する評価

受講意欲 (40%) 受講態度 (20%) コミュニケーション・協調性 (20%) レポート (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ルールを理解し、関心・意欲をもって参加できている。
 (B) ルールを理解し、基本的な技術を身に付けることができている。
 (A) ルールを理解し、仲間と協力しながら活動することができている。
 (S) ルールを理解し、仲間と協力しながら技術の習得やリーダーシップを発揮してゲームの雰囲気・質を高められている。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でフィードバックを行う。レポートはコメント書いて返却する。

その他

運動実施可能な服装、及び室内用シューズを必ず持参する。私服また作業衣それ以外にも運動に適さない服装での参加は、安全上の理由により受講不可とする。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	ボランティア						学期	通年	
副題	ボランティアを体験する				授業方法	実習	担当者	森本一彦	
ナンバリング	G-16-141	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

大学から指定された実習先において、11月末までに合計40時間以上のボランティア実習を行うことによって、共生社会の必要性を理解する。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業の到達目標

ボランティア活動を通じて倫理観や社会貢献の精神、公共性や社会性の意識を身につける。実社会において行動できるようになる。

授業計画

1. ボランティアの意義
2. ボランティア実習①
3. ボランティア実習②
4. ボランティア実習③
5. ボランティア実習④
6. ボランティア実習⑤
7. ボランティア実習⑥
8. ボランティア実習⑦
9. ボランティア実習⑧
10. ボランティア実習⑨
11. ボランティア実習⑩
12. ボランティア実習⑪
13. ボランティア実習⑫
14. 事後指導①意見発表
15. 事後指導②ディスカッション

準備学習(予習・復習)・時間

ボランティア実習の体験を整理し、文章化する (30分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

守本友美・河内昌彦・立石宏昭・岡本栄一『ボランティアのすすめ—基礎から実践まで (実践のすすめ)』ミネルヴァ書房、2005年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート (30%)、発表 (10%)、授業参加の積極性 (60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ボランティアについて理解している。
- (B) ボランティア実習に積極的に参加できる。
- (A) ボランティア実習の体験からその意義を客観的に説明できる。
- (S) 授業外でもボランティアに積極的に参加できる。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他

①実習先、実習期間等については、4月に告知する。②11月末までに40時間の実習を行う。③体験を中心とするアクティブラーニングである。

科目名	巡礼・遍路S						学期	通年	
副題	聖地巡礼の自主企画と実施				授業方法	講義	担当者	密教学科主任	
ナンバリング	G-26-142	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

一定期間、日常を離れ、四国八十八ヶ所や西国三十三観音などの巡礼（一部でも可）することで、座学では得られない、体験を通じた身心の覚醒を図ることを目的としている。実習時間は40時間とし、事前に実習計画書を作成して提出する。実習期間中は実習日誌を作成し、40時間分の実習を完了したら実習レポートと作成して提出する。

授業の到達目標

巡礼や遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養するとともに、計画を立てて実行し、報告する能力を身につける。

授業計画

1. 実習計画書の作成① : 実習の具体的なプランを考える。
2. 実習計画書の作成② : 実習計画書&実習日誌書式を学務課窓口で受け取る。
3. 実習計画書の作成③ : 実習計画書を作成する。
4. 実習計画書の作成④ : 実習時間は1日4時間～8時間、最大40時間で作成すること。
5. 実習計画書の提出② : 作成した実習計画書を学務課窓口に提出する（原則、実習予定1週間前まで）
6. 実習許可通知 : 実習計画書に許可が下りたら学務課から連絡がある。
7. 実習開始
8. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
9. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
10. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
11. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
12. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
13. 実習終了
14. 実習レポートの作成 : 40時間分の実習日誌に基づいてレポート（800字以上）を作成
15. 実習日誌・レポートの提出 : 学務課窓口に提出。この時点で履修登録。

準備学習(予習・復習)・時間

・実習計画書作成のための学習（60分） ・実習日誌作成（60分） ・実習レポート作成による振り返り（60分）

テキスト

・特に無し

参考書・参考資料等

・実習計画書にあわせて指導する。

学生に対する評価

実習計画書（30%）、実習日誌（30%）、実習レポート（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 巡礼・遍路を自分で立てた計画に従って実施し、報告できる。
 (B) 巡礼・遍路の体験以前と以後の違いを説明できる。
 (A) 巡礼・遍路の意味を説明できる。
 (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえて、巡礼・遍路の意義を学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

実習レポートの講評を個別に実施する。

その他

・実習は複数年度にわたってもよい。ただし実習を行う都度の実習計画書を提出すること。 ・1日の実習は、4時間以上8時間以内とする（移動時間は適宜含めてよい）。 ・移動手段は自由に設定してよい。健康状態や事情に応じた現実的な実習計画を立てること。 ・大学主催の研修や旅行等への参加も巡礼・遍路の一環として認める。 ・課外授業用の保険に加入すること。

科目名	巡礼・遍路T							学期	前期
副題	四国遍路と各地の巡礼					授業方法	講義	担当者	柴谷宗叔
ナンバリング	G-01-143	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

弘法大師によって開かれたとされる四国八十八ヶ所遍路や、西国三十三所など各地の巡礼について、歴史と現状、巡拝の仕方などについて学ぶ。スライド等を使ったバーチャル体験もできるようにする。座学だけでなく、実際に巡拝をする場合のノウハウも身につける。実際に遍路に出る場合に戸惑わないよう実習も行う。

授業の到達目標

四国遍路や各地の巡礼について、仏教的な立場から説明できるようになる。用語、歴史等、基礎的な知識を学び、実際の巡拝に活用できるようになる。巡拝作法や巡拝計画の立て方を身につける。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 巡礼・遍路の定義
3. 遍路習俗と巡拝作法
4. 四国遍路の歴史
5. 阿波の霊場
6. 土佐の霊場
7. 伊予の霊場
8. 讃岐の霊場
9. 江戸時代の四国遍路
10. 現代の四国遍路
11. 西国三十三所概要
12. 番外札所と写し霊場
13. 実践方法の伝授
14. 高野山奥の院での実習
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前に、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問点などを整理しておくこと (60 分)。講義内容と、講義中に配布された資料を整理し、レポートにまとめられるようにする (60 分)。

テキスト

柴谷宗叔『四国遍路 ころの旅路』(慶友社、2017) (書店で購入)

参考書・参考資料等

柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路』(法蔵館)、同『公認先達が綴った遍路と巡礼の実践学』(高野山出版)、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』(ちくま新書)、『四国遍路ひとり歩き同行二人』(へんろみち保存協力会) など

学生に対する評価

レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路について簡単に説明できる
- (B) 四国遍路と各地の巡礼について用語や歴史を説明できる
- (A) 四国遍路と各地の巡礼について、各霊場の特徴や違いについて説明できる
- (S) 四国遍路と各地の巡礼について、成立や歴史を踏まえ、宗教的意義を説明できる

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回以降に回答する

その他

できる限り実際に巡拝することを勧める。休日などに実際に札所巡拝を行うことが望ましい。方法は講義中に指示する。時間が取れない場合はテキストや講義中に適宜紹介する文献をできるだけ多く読んでおくこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国遍路 120 周以上の元老大先達、西国巡拝 50 周以上の特任大先達、日本各地の巡礼 50 か所以上の、実際の巡拝体験をもとに巡拝方法などを伝授する。高野山真言宗住持職として、性善講を主宰しての巡拝も行っているため、参加することも可能。詳細は講義中に説明する。

科目名	書誌学						学期	前期	
副題	「古典籍と書誌学・文献学」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G-12-144	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義では、古典籍の伝来過程、卷子装・折本装などの諸形態を学ぶとともに、著名な蒐書家とその蔵書、古典籍の収蔵機関とその調査方法についての専門的知識を習得する。また、文献学に必要な本文批判の技法についても学ぶ。なお、「授業計画」に示す内容は、受講者の実力や受講人数によって変わると考えられる。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標

①古典籍の原本・写本を調査する上での基礎的能力を習得できるようになる。②古典籍の解読能力を習得し、その史料的价值について理解できるようになる。③近世・近現代の蒐書家とそのコレクションについて理解できるようになる。

授業計画

1. 書誌学と古典籍
2. 古典籍の諸形態
3. 古典籍の保存と伝来の原因
4. 近世の蒐書家たち①禁裏文庫
5. 近世の蒐書家たち②幕府
6. 近世の蒐書家たち③学者
7. 近現代における古典籍の流伝
8. 近現代における古典籍コレクター
9. 卷子装と冊子装
10. 古典籍の書き方と種類
11. 古典籍の取り扱い方
12. 古典籍の調査
13. 文献学と本文批判①
14. 文献学と本文批判②
15. 山内寺院の調査

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書を毎回読み、書誌学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分)
【復習】古典籍や蒐書家の要点をノートに整理すること(80分)

テキスト

適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①橋本不美男『原典をめざして』(笠間書院、1974年)、②川瀬一馬『日本における書籍蒐蔵の歴史』(ベリカン社、1999年)、③藤本孝一『日本の美術 古写本の姿』(至文堂、2002年)、④藤本孝一『日本の美術 文書・写本の作り方』(至文堂、2008年)

学生に対する評価

レポート(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典籍について基礎的な知識を習得している。
 (B) 古典籍の諸形態や奥書の史料的价值について理解し、系統的に説明できる。
 (A) 古典籍について系統的な説明ができるとともに、専門的な知識を習得している。
 (S) 古典籍について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の講義内で対応する。

その他

本講義は、古典籍の原本・写本を扱うこともあるように、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。それだけに、学問的水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。原本を調査するさいは、筆記用具は鉛筆のみ(シャープペンシル不可)。

科目名	古文書学						学期	後期	
副題	「古代・中世文書の様式と機能」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	G-12-145	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

古代・中世の古文書を学問的に扱う上では、文書様式や形態的情報、さらには文書の作成・伝達過程に関わる機能的情報を理解しておかねばならない。本講義では、昨年度に引き続き、近年の研究成果に目を配りつつ、古文書学を理解する基礎を養う。さらに、古文書の原本などを熟覧し、これを扱う経験を身につける。なお、「授業計画」に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標

- ①日本古文書学に関して、様式論・形態論・機能論・伝来論等から理解する能力を身につける。②古代・中世文書について、朝廷・公家・武家・寺社などの諸権力の実態を踏まえた上で、解説できるようになる。③古文書をめぐる慣習や作法について、解説できるようになる。

授業計画

1. 古文書の基本的要素
2. 文書が残るといこと①紙背文書
3. 文書が残るといこと②公外交渉文書
4. 文書が残るといこと③軍勢催促状と軍忠状
5. 文書が残るといこと④軍忠状
6. 文書が残るといこと⑤室町幕府奉行人連署奉書
7. 『金剛三昧院文書』の調査
8. さまざまな契約書①古代の解
9. さまざまな契約書②土地売券
10. さまざまな契約書③寄進状
11. さまざまな契約書④一揆契状
12. さまざまな契約書⑤起請文
13. 組織と儀礼①開書
14. 組織と儀礼②返抄
15. 『金剛三昧院文書』の調査

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書を毎回読み、古文書学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分)【復習】関係する古文書・古文書学の要点をノートに整理すること(80分)

テキスト

小島道裕『中世の古文書入門』(河出書房新社、2016年)(書店などで購入。必ず講義に持参すること) また、適宜、プリントや関係資料のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①佐藤進一『[新版]古文書学入門』(法政大学出版局、1997年)、②田中稔『中世史料論考』(吉川弘文館、1993年)第1部「日本の古文書」、③日本歴史学会編『概説古文書学 古代・中世編』(吉川弘文館、1983年)、④青木和夫ほか編『文献史料を読むー古代から近代ー』(朝日新聞社、2000年)

学生に対する評価

レポート(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古文書の様式や学史について基礎的な知識を習得している。
 (B) 古文書の様式や、授受をめぐる当事者主義などの中世的原理について説明できる。
 (A) 古文書について、様式のみならず、形態と機能の面を含めて説明できる。
 (S) 古代・中世の古文書をめぐる、公家・武家・寺社などの政治的・社会的関係について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の訓読や解釈について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

本講義は、一定程度のくずし字の読解能力を備えていることを前提とし、古代・中世文書の様式・機能に重きを置く歴史学的内容である。また、原本を調査するアクティブ・ラーニングの要素も含まれる。履修にあたっては注意すること。本講義を履修することが認められるのは、前年度までに「古文書解説」「歴史学」「歴史学入門」「歴史学入門演習」のうち二科目以上の単位を修得した人のみである。要件を満たさない履修は許可できないので、登録にあたっては注意すること。

科目名	古文書解読A						学期	後期
副題	訴訟文書を読む				授業方法	講義	担当者	西川哲矢
ナンバリング	G-12-146	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

この講義では、近世の法・訴訟に関わる史料を読む。本年度は、昨年に引き続き享保6年(1721)～慶応4(1868)に大和川筋の村々(現大阪府)に生じた水論(水争い)に関する史料「待井・榎木両種論用書」読み進める。古文書の解読能力を高めるとともに、近世の紛争解決の特徴や訴訟制度の発達の知見を深めることも目的とする。なお、授業計画に示す内容は、あくまで目安に過ぎず、進度や受講生の理解度を勘案して変更する場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

①近世の古文書に関する読解能力を身につける。 ②地域史料についての知見を深める。 ③歴史に関する知見、史料批判、史料調査について、基礎的な認識を得られるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション(古文書とは何か、辞典の使い方、史料の調査方法など)
2. 振り仮名つきのくずし字を読む① くずし字表現に慣れる
3. 振り仮名つきのくずし字を読む② くずし字表現に慣れる
4. 「待井・榎木本両種論用書」を読む①(安永6年の訴訟文書) 近世特有の言葉遣いを把握する
5. 「待井・榎木本両種論用書」を読む②(安永6年の訴訟文書) 翻刻資料を頼りに解説
6. 「待井・榎木本両種論用書」を読む③(安永6年の訴訟文書) 現代語訳された資料を頼りに解説
7. 「待井・榎木本両種論用書」を読む④(安永6年の訴訟文書) 続・現代語訳された資料を頼りに解説
8. 「待井・榎木本両種論用書」を読む⑤(安永6年の訴訟文書) 訴訟文書様式を学ぶ
9. 「待井・榎木本両種論用書」を読む⑥(安永7年の訴訟文書) 続・訴訟文書様式を学ぶ
10. 「待井・榎木本両種論用書」を読む⑦(安永7年の訴訟文書) 契約文書を学ぶ
11. 「待井・榎木本両種論用書」を読む⑧(安永7年の訴訟文書) 続・契約文書を学ぶ
12. 「待井・榎木本両種論用書」を読む⑨(安永7年の訴訟文書) 近世の紛争解決の作法を学ぶ
13. 「待井・榎木本両種論用書」を読む⑩(安永7年の訴訟文書) 続・近世の紛争解決の作法を学ぶ
14. 山内寺院の調査①
15. 山内寺院の調査②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(90分) 講義内容の要点をメモし、図書館で関連図書を読むこと(90分)

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993年) ※書店で購入。また、授業中適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

①林英夫監修/若尾俊平・浅見恵・西口雅子編『近世古文書解読辞典』(柏書房増訂版、1986年) ②佐藤進一『[新版]古文書学入門』(法政大学出版局、1997年) ③佐藤孝之監修/宮原一郎・天野清文編『近世史を学ぶための古文書』「候文」入門(吉川弘文館、2023年) その他、適宜授業中に示す。

学生に対する評価

授業中の参加態度(予習および発言、30%)、期末試験(70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的なくずし字を解説できる。
- (B) くずし字で書かれた古文書の文面を解説できる。
- (A) くずし字で書かれた古文書の文面を解説できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
- (S) 古文書の読解能力を習得するとともに、近世史学の歴史的意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

講義は、古文書の読解について随時試問して進める。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、課題を出すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること(より安価な『くずし字解説辞典』ではないので、購入の際には要注意)。なお、本演習では、2回分の時間を史料調査にあてる予定。この講義を受講しなれば「古文書学」の受講は認められないので注意すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	社会学／社会保障A(別)							学期	前期
副題	現代社会の諸問題				授業方法	講義	担当者	森本一彦	
ナンバリング	G-11-147	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

現代の社会問題を取り上げ、社会学的説明を学ぶことによって、社会学的な視点を理解する。

授業の到達目標

現代の社会問題を社会学的な視点から検討することを通して、大学教育で必要とされる基礎的な考え方を修得する。

授業計画

1. 現代社会の課題
2. 人口問題①人口減少社会の課題
3. 人口問題②家族の変化
4. 経済と労働問題（1）日本の経済の現状
5. 経済と労働問題（2）労働力不足
6. 貧困と社会保障（1）格差社会
7. 貧困と社会保障（2）社会保障
8. 情報化社会（1）情報化社会の現状
9. 情報化社会（2）情報化社会の課題
10. 環境問題（1）多様な環境問題
11. 環境問題（2）環境問題の解決策
12. 国際問題とグローバル化（1）国際問題の現状
13. 国際問題とグローバル化（2）グローバル化の課題
14. 包摂と排除
15. 現代社会をどう生きるか。

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90分）。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

西野理子・米村千代『よくわかる家族社会学』（ミネルヴァ書房、2019年）、森本一彦『先祖祭祀と家の確立』（ミネルヴァ書房、2006年）、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で説明した基礎用語を知っている。
- (B) 授業で説明した家族事象を説明できる。
- (A) 授業で説明した家族事象を社会学的に相対化して説明できる。
- (S) 授業で説明した家族事象をもとに自分の意見を言うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・社会福祉主任任用資格の科目である。・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題に興味を持ち、今何が起きているのかを確認しておくこと。

科目名	現代の人権／教養講義(人権論)／人権と福祉(別)						学期	後期	
副題	人権を守る仕組みと基本的人権について				授業方法	講義	担当者	竹村和也	
ナンバリング	G-09-148	実務経験の有無	無	関連DP	1,3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

現代社会においては憲法に規定された従来の伝統的な人権の枠組みでは捉えきれない新たな人権が重要となってきた。本講義は、まず憲法の定める基本的な統治の仕組みを、特に立法のプロセスを中心に概観し、その後、憲法上の権利及びその権利の現代的展開に焦点を当て、法的な側面から現代社会を理解する。

授業の到達目標

統治の基本的な仕組みを学び、現代において特に論争の焦点となっている法的権利について、その法的背景なども視野に入れた上で、修得する。また、及び現在の法のあり方について批判的思考ができるようになる。

授業計画

1. イントロダクション
2. 人権を守る仕組み①(国会と内閣の仕組み)
3. 人権を守る仕組み②(立法過程)
4. 人権を守る仕組み③(裁判所と裁判過程)
5. 憲法の制定過程①(憲法の成り立ち)
6. 憲法の基本原理②(憲法押付け論)
7. 国際的人権保障①(国家主権体制と国際人権)
8. 国際的人権保障②(国際的な人権保障の枠組み)
9. 憲法における人権総論規定
10. 医療における自己決定権(治療選択の権利・死ぬ権利)
11. 新たな医療技術とそれを用いる権利
12. 子どもを産む権利・生まない権利
13. 平等権①(概説と最近の最高裁判所判決)
14. 平等権②(家族における平等)
15. その他の権利(表現の自由とヘイトスピーチなど)

準備学習(予習・復習)・時間

授業時に配布する授業内容の確認のための印刷物を十分に理解しておくこと・授業時に配布する印刷物(テキスト)を熟読すること(所要予定時間は60分)、また授業で指示するテーマについて資料を読み、レポートにまとめること(所要予定時間は180分)。

テキスト

特に定めない。授業ではパワーポイントを用いるが、そのスライドを配布する。また、授業で参考となる印刷物を配布することもある。

参考書・参考資料等

竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』(晃洋書房、第5版、2018年)、青井未帆『憲法を守るのは誰か』(幻冬舎ルネッサンス新書、2013年)、ディヴィッド・S・ロー、西川伸一訳『日本の最高裁を解剖する』(現代人文社、2013年)

学生に対する評価

定期試験(最終レポートを課した場合にはこのレポート)(80%)授業中のミニッツ・ペーパーや持ち帰りの課題提出、授業への積極的な参加(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) それなりの努力が読み取れる場合
- (B) 内容を概ね理解したと思われる場合
- (A) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている場合
- (S) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されていると共に批判的な検討が行われている場合

課題に対するフィードバックの方法

授業終了時に小テストについて解説を行う。また、提出されたレポートについて、講評を行う。質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

授業はパワーポイントを利用し講義形式とするが、授業の中で議論を試みるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業である。社会において現代の人権と関わる新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱うとともに、学生諸君の関心により変更の可能性がある。期末筆記試験の形式やレポート課題は人により若干異なる。受講者は(あるいは大学生はそもそも)新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要。授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではない。授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合がある。

科目名	宗教学方法論S						学期	後期
副題	戦後日本のコスモロジー				授業方法	講義	担当者	小田龍哉
ナンバリング	G-03-149	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

戦後日本の娯楽映画作品を中心に取り上げ、それらの作中で描かれる「日本」のさまざまな象徴化や排除の構造分析をつうじて、宗教学の方法論を理解する。

授業の到達目標

戦後日本文化の分析をつうじて、宗教学の方法論を理解する。

授業計画

1. ガイダンスの後、宗教学の方法論について概説
2. 戦後日本の成立と忘却・否認——『君の名は』『ジャコ萬と鉄』
3. 娼婦から母へ——『カルメン故郷に帰る』『二十四の瞳』
4. 兵士からアウトローへ——「渡り鳥」シリーズ、「網走番外地」シリーズ
5. 列島を血肉化する——『憎いあんちくしょう』『家族』
6. 南島はどう描かれたか——『潮騒』『神々の深き欲望』『夏の妹』
7. 再発見される「ジャパン」——「男はつらいよ」シリーズ①
8. 結ばれない男と女の戦後——「男はつらいよ」シリーズ②
9. アウトローから少女へ——『野性の証明』『セーラー服と機関銃』
10. 聖化される少女——『ルパン三世 カリオストロの城』『尾道三部作』
11. まなごしをめぐる少女と少年——『ヘルター・スケルター』『AKIRA』
12. 無縁社会の到来——『ソナチネ』『もののけ姫』
13. 少女だけの世界で——『下妻物語』『フラガール』
14. 名を取り戻す——『君の名は。』『ゴールデンカムイ』
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、次回とりあげる作品についての基本情報を調べておくこと (90分)。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること (90分)。

テキスト

授業中に適宜配布する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

期末レポート (70%)、授業中の発言、発表 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 映画作品の内容を正確に読み解くことができる。
 (B) 宗教学の方法論をポストコロニアル批判に応用して日本文化を読解できる。
 (A) 宗教学の方法論をジェンダー批判に応用して日本文化を読解できる。
 (S) 宗教学の方法論を応用し、自分なりの言葉で現代社会の問題点を指摘できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国語学 I						学期	前期	
副題	日本語研究の基礎的な方法を解説する				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G-05-150	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらう。

授業の到達目標

言語としての日本語について基本的な理解を深める。

授業計画

1. 言語と人間二重分節性、言語の機能（1）
2. 言語と人間二重分節性、言語の機能（2）
3. 日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（1）
4. 日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（2）
5. 日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（1）
6. 日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（2）
7. 日本語の音声・音韻清濁、拗音（1）
8. 日本語の音声・音韻清濁、拗音（2）
9. 日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（1）
10. 日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（2）
11. 日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（1）
12. 日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（2）
13. 日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（1）
14. 日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（2）
15. 日本語の文字表記平仮名・片仮名、ローマ字

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で行った日本語学における要点の整理を行い、キーワードを覚える（30分）。

テキスト

藤田保幸『緑の日本語学教本』、和泉書店、2010年（書店で購入）

参考書・参考資料等

ジョージ・ユール『現代言語学 2 0 章－言葉の科学』、大修館書店、2000

学生に対する評価

都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
 (B) 言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
 (A) 言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
 (S) 課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の終わりに質問と意見を提出、次回の授業のはじめにコメントとともにフィードバック。都度の課題に対して解を提示、不明点を説明。

その他

授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国語学Ⅱ						学期	後期	
副題	日本語の特徴を具体例から考察する				授業方法	講義	担当者	鈴木靖久	
ナンバリング	G-05-151	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらうようにする。

授業の到達目標

言語としての日本語について基本的な理解を深める。

授業計画

1. 日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（1）
2. 日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（2）
3. 日本語の語彙語種（和語・漢語・外来語）（1）
4. 日本語の語彙語種（和語・漢語・外来語）（2）
5. 日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（1）
6. 日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（2）
7. 日本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（1）
8. 日本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（2）
9. 日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（1）
10. 日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（2）
11. 日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言周圍論（1）
12. 日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言周圍論（2）
13. 日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（1）
14. 日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（2）
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業での日本語学の要点を整理し、キーワードを覚える（30分）。

テキスト

藤田保幸『緑の日本語学教本』、和泉書店、2010年（書店で購入）

参考書・参考資料等

ジョージ・ユール『現代言語学20章－言葉の科学』、大修館書店、2000

学生に対する評価

都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
- (B) 言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
- (A) 言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
- (S) 課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

課題に対するフィードバックの方法

都度の課題に対して解を提示、コメントとともにフィードバック。期末の試験に対して、解とコメントをフィードバック。

その他

授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国文法 I						学期	前期	
副題	古典文法の習得 I—用言・助詞—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G-04-152	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

古文（および漢文）を正しく理解するためには、古典文法（文語文法）の知識は必須である。本講義では、古典文法の正しい知識を習得し、古典作品を読解できるようになることを目指す。前期は主に、用言（述語になる品詞—動詞・形容詞・形容動詞）の活用とその種類、および助詞を中心に講義する。

授業の到達目標

古文（および漢文）を正しく解釈できるように、古典文法の正しい知識を得る。

授業計画

1. ガイダンス—なぜ古典文法を学ぶのか—
2. 文語文法と口語文法
3. 品詞の分類
4. 動詞の活用① 四段活用・上二段活用・下二段活用
5. 動詞の活用② 上一段活用・下一段活用
6. 動詞の活用③ 変格活用
7. 形容詞・形容動詞の活用・語幹用法
8. 用言の総合問題
9. 助詞① 格助詞
10. 助詞② 接続助詞
11. 助詞③ 副助詞
12. 助詞④ 係助詞・係り結び
13. 助詞⑤ 終助詞・間投助詞
14. 学習到達度の確認（筆記試験）
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考書を読み（予習 60 分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テスト・定期試験に向けて準備しておくこと（復習 90 分）。

テキスト

教員が作成した教材（プリント）を使用する。

参考書・参考資料等

高校で使用した「古典文法」の教科書・副読本（どこの出版社のものでも可）、古語辞典（電子辞書でも可）

学生に対する評価

定期試験（50%）、小テスト（30%）、講義への取り組み（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文法を学ぶ意義について理解し、基本的な文法事項の意味を理解している。
 (B) 用言の活用の種類についての基本的知識を習得している。
 (A) 用言の活用の種類・助詞についての基本的知識を習得している。
 (S) 用言の活用の種類・助詞についての基本的知識を習得し、読解に際して的確に運用することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義後に質問を受け付け、複数回の小テストでは解説を施す。

その他

受講者については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。問題演習など、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国文法Ⅱ						学期	後期	
副題	古典文法の習得Ⅱ―助動詞・敬語―				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G-04-153	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

古文（および漢文）を正しく解釈するためには、古典文法（文語文法）の知識は必須である。特に日本語は細かなニュアンスが助詞・助動詞に集中するため、助動詞の知識は大切である。本講義では、主に助動詞についての正しい理解を習得し、古典作品が読解できるようになることを目指す。また、古典では身分制が厳格なため、敬語についても基本的な事項の理解が必要となる。敬語を通して人物関係を理解し、より深く作品が読み取れるようになることを目指す。

授業の到達目標

古文（および漢文）を正確に読解するために、助動詞の正しい知識と敬語の基本的な事項を理解する。

授業計画

1. ガイダンス―助動詞への招待―
2. 助動詞① 「ず」「き」「けり」
3. 助動詞② 「つ」「ぬ」「たり」「り」
4. 助動詞③ 「る」「らる」「す」「さす」「しむ」
5. 助動詞④ 「む」「むず」「らむ」「けむ」「じ」
6. 助動詞⑤ 「べし」「まじ」
7. 助動詞⑥ 「たし」「まほし」「らし」「めり」「まし」
8. 助動詞⑦ 「なり」「たり」「なり」「ごとし」
9. まぎらわしい語の識別
10. 敬語① 敬語の基本（構造・種類）
11. 敬語② 注意すべき敬語表現
12. 敬語③ 敬語の練習問題
13. 文章読解の実際
14. 学習到達度の確認（筆記試験）
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考書を読み（予習 60 分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テスト・定期試験に向けて準備しておくこと（復習 90 分）。

テキスト

教員が作成した教材（プリント）を配布する。

参考書・参考資料等

高校で使用した「古典文法」の教科書・副読本（どこの出版社のものでも可）、古語辞典（電子辞書でも可）

学生に対する評価

定期試験（50%）、小テスト（30%）、講義への取り組み（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 助動詞についての基本的知識を習得している。
 (B) 助動詞と敬語についての基本的知識を習得している。
 (A) 助動詞と敬語についての基本的知識を習得し、まぎらわしい語の識別ができています。
 (S) 文語文法の基本的知識を習得し、読解に際して的確に運用することができています。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の後に質問を受け付け、複数回的小テストでは解説を施す。

その他

受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。問題演習など、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文学史概説Ⅰ						学期	前期	
副題	日本文学の流れ—上代～中世前期—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G-04-154	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

上代（奈良時代）から中古（平安時代）、さらに中世（鎌倉～室町時代）までの日本文学史を概説する。文学史の知識を学ぶだけでなく、できるだけ作品の一部を取り上げ、実際に読むことを通して、作品の成立した時代背景などを関わらせながら、広い視野で文学を考える態度を養う。

授業の到達目標

上代から中世までの文学の歴史を理解するとともに、時代背景などを踏まえて文学を考える態度を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／上代① 文学の発生・文字の伝来
2. 上代② 祭祀・神話・地誌・説話（古事記・日本書紀・風土記・祝詞・日本霊異記ほか）
3. 上代③ 古代歌謡・万葉集1（第Ⅰ・Ⅱ期）
4. 上代④ 万葉集2（第Ⅲ・Ⅳ期）
5. 中古① 漢詩文・仮名の誕生
6. 中古② 和歌（三代集ほか）
7. 中古③ 日記・随筆（土佐日記・蜻蛉日記・和泉式部日記・枕草子ほか）
8. 中古④ 物語1（前期物語）
9. 中古⑤ 物語2（源氏物語）
10. 中古⑥ 院政期一和歌（後拾遺集・金葉集・詞花集・歌学と歌合）
11. 中古⑦ 院政期一説話（今昔物語集ほか）・歌謡（梁塵秘抄ほか）
12. 中古⑧ 院政期一物語（後期物語・歴史物語）
13. 中世① 和歌1（千載集・新古今集）
14. 中世② 和歌2（十三代集・連歌・歌謡）
15. 中世③ 日記・紀行（十六夜日記・うたたね・海道記ほか）／前期まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書で調べ（予習 60分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テストやレポートに向けて準備しておくこと（復習 90分）。

テキスト

教員が作成した教材（プリント）を配布する。

参考書・参考資料等

①秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史』（文英堂、2000年） ②村尾誠一『教養としての日本古典文学史』（笠間書院、2022年） その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード（20%）、小テスト（30%）、レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学史の基礎的な知識を理解している。
 (B) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解している。
 (A) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解し、読解に活用することができている。
 (S) 日本文学史の基礎的な知識と作品の内容を、その作品が成立した時代背景との関わりから考えることができている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。また小テストについては解説を施す。

その他

受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説Ⅱ						学期	後期	
副題	日本文学の流れ—中世後期～近現代—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G-04-155	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

中世（鎌倉～室町時代）から近世（江戸時代）、さらに近現代（明治～戦後）までの日本文学史を概説する。文学史の知識を学ぶだけでなく、できるだけ作品の一部を取り上げ、実際に読むことを通して、作品の成立した時代背景などを関わらせながら、広い視野で文学を考える態度を養う。

授業の到達目標

中世から近現代までの文学の歴史を理解するとともに、時代背景などを踏まえて文学を考える態度を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／中世④ 随筆（方丈記・徒然草）
2. 中世⑤ 軍記・史論（平家物語・太平記・愚管抄・神皇正統記ほか）
3. 中世⑥ 物語（中世王朝物語・御伽草子）・御伽草子・説話（沙石集・宇治拾遺物語ほか）
4. 中世⑦ 芸能（能・狂言ほか）・宗教学（仮名法語・五山文学・キリシタン文学ほか）
5. 近世① 概説（時代区分・出版文化）・仮名草子（浅井了意ほか）
6. 近世② 浮世草子（井原西鶴・八文字屋本）
7. 近世③ 和歌（後水尾院・奥門・江戸派・桂園派ほか）・国学
8. 近世④ 俳諧（貞門・談林・蕉風ほか）・川柳・狂歌
9. 近世⑤ 芸能（浄瑠璃・歌舞伎）
10. 近世⑥ 読本（前期—上田秋成ほか・後期—一曲亭馬琴ほか）
11. 近世⑦ 戯作（洒落本・滑稽本・黄表紙・合巻・人情本ほか）
12. 近代① 幕末～明治中期（開化文学・写実主義・浪漫主義・自然主義ほか）
13. 近代② 明治後期～大正（反自然主義・耽美派・白樺派・新潮派ほか）
14. 近代③ 昭和前期（プロレタリア文学・新感覚派・戦時下文学ほか）
15. 近代④ 戦後（無頼派・第三の新人・内向の世代ほか）／後期まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲を参考書で調べ（予習 60 分）、事後学修として学習内容をまとめ、小テストやレポートに向けて準備しておくこと（復習 90 分）。

テキスト

教員が作成した教材（プリント）を配布する。

参考書・参考資料等

①秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史』（文英堂、2000年） ②村尾誠一『教養としての日本古典文学史』（笠間書院、2022年） ③安藤宏『日本近代小説史』（中公選書、2020年新装版） その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード（20%）、小テスト（30%）、レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学史の基礎的な知識を理解している。
 (B) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解している。
 (A) 日本文学史の基本的な知識と作品の内容を理解し、読解に活用することができている。
 (S) 日本文学史の基礎的な知識と作品の内容を、その作品が成立した時代背景との関わりから考えることができている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。また小テストについては解説を施す。

その他

受講生については特に制限しないが、国語の教員免許取得を目指す学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学 I S						学期	前期	
副題	「日本文学」を読む一上代・中古一				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G-04-156	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。前期は主に上代・中古の文学を取り上げる。

授業の到達目標

日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／「日本 - 文学」とは何か
2. 日本文学を学ぶために一時代区分・ジャンルー
3. 文学を伝える「かたち」
4. 神話の世界
5. 古代歌謡と『万葉集』
6. 王朝和歌と平安貴族の生活
7. 「日記」と文学
8. レポートの書き方
9. 「物語」の誕生
10. 女房文学の時代
11. 『源氏物語』の世界①
12. 『源氏物語』の世界②
13. 説話の世界
14. 院政期の文学
15. レポート講評／「中世」の始発

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み(予習 60分)、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと(復習 90分)。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

①高校で使用した「国語便覧」(どの出版社のものでも可) ②秋山虔ほか編『日本古典読本』(筑摩書房、1988年) その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード(50%)、レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の作品を覚えている。
- (B) 他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べることができている。
- (A) 日本文学の特徴を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- (S) 日本文学について、問題意識を持って論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他

講義に関する疑問などは、コメントカードを活用してほしい。3分の1(6回)以上欠席した場合、評価しない。古語や古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書を持ち込んでよい。

科目名	日本文学ⅡS							学期	後期
副題	「日本文学」を読む―中世・近世―				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G-04-157	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。後期は主に中世・近世の文学を取り上げる。

授業の到達目標

日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／「文学研究」とは何か
2. 中世和歌の世界
3. 戦乱の時代と軍記物語
4. 『方丈記』と『徒然草』
5. 中世の芸能
6. 文学と宗教
7. 出版・町人文化と文学
8. レポートの書き方
9. 芭蕉の世界
10. 国学者たちの活動
11. 上田秋成と曲亭馬琴
12. 近代化する社会と文学
13. 古典文学と近現代文学①
14. 古典文学と近現代文学②
15. レポート講評／まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み(予習 60分)、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと(復習 90分)。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

①高校で使用した「国語便覧」(どの出版社のものでも可) ②秋山虔ほか編『日本古典読本』(筑摩書房、1988年) その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回のコメントカード(50%)、レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の作品を覚えている。
 (B) 他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べる事ができている。
 (A) 日本文学の特徴を、自分の言葉で表現できている。
 (S) 日本文学について、問題意識を持って論じることができている。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

その他

講義に関する疑問などはコメントカードを活用してほしい。3分の1(6回)以上欠席した場合、評価しない。古語や古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書を持ち込んでいかまわらない。

科目名	漢文学概論Ⅰ						学期	前期	
副題	漢文の散文を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G-04-158	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

志怪・伝奇小説の流れを汲む『聊齋志異』を読む。和訳を参照しながら、句読点の付いた漢文を訓読する。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。登場人物の行動・心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

授業の到達目標

漢文で書かれた散文作品を読み、漢文読解の能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢文の文体・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用法・説明する力など。国語教員に必要な技術を修得する。

授業計画

1. 李伯言 (1) 「李生伯言……」を読む。
2. 李伯言 (2) 「死勿埋我……」を読む。
3. 李伯言 (3) 「求胥祗候甚肅……」を読む。
4. 李伯言 (4) 「鞠之……」を読む。
5. 李伯言 (5) 「空其中而熾炭焉……」を読む。
6. 李伯言 (6) 「三墮……」を読む。
7. 李伯言 (7) 「又一起……」を読む。
8. 黄九郎 (1) 「何師參……」を読む。
9. 黄九郎 (2) 「何生素有断袖之癖……」を読む。
10. 黄九郎 (3) 「生曲意承迎……」を読む。
11. 黄九郎 (4) 「少年唯唯而去……」を読む。
12. 黄九郎 (5) 「問其姓字……」を読む。
13. 黄九郎 (6) 「家慈在外祖家……」を読む。
14. 到達度の確認
15. 前期の総復習

準備学習(予習・復習)・時間

テキストの該当箇所を訓読できるように予習する(60分)。文章の背景にある歴史や文化について調べる(30分)。

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』(角川書店)、あるいは『漢語林』(大修館書店)を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価

小テスト(100%)、または期末筆記試験(100%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文法に基づいて、文章の分析ができる。
- (B) 漢文法に基づいて、返り点を付けることができる。
- (A) 漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
- (S) 漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文学概論Ⅱ						学期	後期	
副題	『唐詩選』を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G-04-159	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『唐詩選』を読み、近体詩の特徴を知る。注釈を読むことにより、訓読・読解・鑑賞の訓練をする。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。作者の行動や心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

授業の到達目標

漢詩を読解する能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢詩の特徴・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用法・説明する力など。国語教員に必要な技術を修得する。

授業計画

1. 漢詩の基本①形式
2. 漢詩の基本②押韻・対句
3. 「送李少府貶峡中王少府貶長沙」(1)「嗟君此別意何如」を読む
4. 「送李少府貶峡中王少府貶長沙」(2)「駐馬銜杯問謫居」を読む
5. 「送李少府貶峡中王少府貶長沙」(3)「巫峽啼猿數行淚」を読む
6. 「送李少府貶峡中王少府貶長沙」(4)「衡陽歸雁幾封書」を読む
7. 「送李少府貶峡中王少府貶長沙」(5)「青楓江上秋天遠」を読む
8. 「送李少府貶峡中王少府貶長沙」(6)「白帝城邊古木疎」を読む
9. 「送李少府貶峡中王少府貶長沙」(7)「聖代即今多雨露」を読む
10. 「送李少府貶峡中王少府貶長沙」(8)「暫時分手莫躊躇」を読む
11. 「夜別韋司士」(1)「高館張燈酒復清」を読む
12. 「夜別韋司士」(2)「夜鐘殘月鴈歸聲」を読む
13. 「夜別韋司士」(3)「只言啼鳥堪求侶」を読む
14. 到達度の確認
15. 後期の復習

準備学習(予習・復習)・時間

テキストの該当箇所を訓読できるように予習する(60分)。文章の背景にある歴史や文化について調べる(30分)。

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』(角川書店)、あるいは『漢語林』(大修館書店)を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価

小テスト(100%)、または期末筆記試験(100%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢詩の規範を理解し、漢文法に基づいて、文章を分析することができる。
- (B) 漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
- (A) 漢文を逐語訳することができる。
- (S) 漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	中国文化特殊講義S						学期	前期	
副題	空海『性靈集』の注釈を読む				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G-26-160	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

運敬『性靈集便蒙』は、弘法大師空海の文章に注釈を加えたものである。注釈は概ね中国の古典であることが多い。空海の文章を読解するためには、豊富な中国古典の教養が必要であることを知るのが目的の一つである。注釈については、できる限り原文を確認し、その特徴を知る。漢文読解に必要な文法、難読字の読み方、特別な用語や知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを身に付けることも目的とする。学問分野は、密教・仏教・哲学・歴史学・文学など多岐にわたる。受講生は、テキストの書き下し・音読を必須とする。

授業の到達目標

○漢文訓読の基礎を修得する。 ○難読字や専門用語を調べることができる。 ○漢文を自学自習するための技法を修得する。 ○「典故を踏む」という技法を理解する。 ○漢文を読解し、内容を理解することができる。

授業計画

1. 右將軍良納言設大祥齋願文 (1) 題目を読む。
2. 右將軍良納言設大祥齋願文 (2) 「奇哉逸嫻之徳……」を読む。
3. 右將軍良納言設大祥齋願文 (3) 「闢千問乎津梁……」を読む。
4. 右將軍良納言設大祥齋願文 (4) 「挹其派者各奢……」を読む。
5. 右將軍良納言設大祥齋願文 (5) 「逮于赫曦頓照……」を読む。
6. 右將軍良納言設大祥齋願文 (6) 「白瞿風疾……」を読む。
7. 右將軍良納言設大祥齋願文 (7) 「八遮蕩穢……」を読む。
8. 右將軍良納言設大祥齋願文 (8) 「一真簡淨……」を読む。
9. 右將軍良納言設大祥齋願文 (9) 「防非莫作……」を読む。
10. 右將軍良納言設大祥齋願文 (10) 「声非声……」を読む。
11. 右將軍良納言設大祥齋願文 (11) 「其祖唯……」を読む。
12. 右將軍良納言設大祥齋願文 (12) 「譬如一天衆星……」を読む。
13. 右將軍良納言設大祥齋願文 (13) 「伏惟故左僕射……」を読む。
14. 右將軍良納言設大祥齋願文 (14) 「謙恭守雌……」を読む。
15. 右將軍良納言設大祥齋願文 (15) 「温良生徒……」を読む。

準備学習(予習・復習)・時間

○予習として、未習テキストの書き下し文を提出すること (30分)。 ○難解な語彙について理解しておくこと (30分)。 ○復習として、既習テキストの書き下し文を提出すること (30分)。

テキスト

コピーを配布する。(受講生の希望があれば、テキストの変更も可)

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店 1994年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店 2000年修訂増補 湯浅邦弘『中国思想基本用語集』ミネルヴァ書房 2020年 他は授業で紹介する。

学生に対する評価

平常レポート (50%)。最終レポート (50%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを書き下しできる。
- (B) C段階に加え、正確に発音できる。
- (A) B段階に加え、専門的な語彙・語法を理解している。
- (S) A段階に加え、テキストの内容を十分に理解している。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内あるいはオフィスアワーで対応する。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本国憲法						学期	後期	
副題	社会生活における基礎的教養としての諸ルール				授業方法	講義	担当者	竹村和也	
ナンバリング	G-09-161	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

憲法は国の基本的なあり方を定めた法であり、また守るべき理念や価値を定めた法である。憲法を具体的に実現するものが法律であり、法律は大きく私法と公法に分かれる。本講義では憲法を念頭に置きながら、この私法と公法の概略について学ぶ。具体的には、財産権との関連において、私法の中的一般法である民法の財産法、平等権との関連において家族法をまず取り上げ、その後、刑事人権との関連において、公法の中の刑事法を扱う予定。

授業の到達目標

民法と刑法についての基本的な知識を修得し、対象となる諸制度について批判的な思考ができるようになる。

授業計画

1. イントロダクション（法の体系と憲法の特徴及び紛争処理）
2. 財産権と私法①（物権①：用益物権）
3. 財産権と私法②（物権②：担保物件）
4. 財産権と私法③（契約①：様々な契約と契約の成立）
5. 財産権と私法④（契約②：契約の履行・不履行）
6. 財産権と私法⑤（不法行為）
7. 平等権と家族①（家族法：婚姻）
8. 平等権と家族②（家族法：離婚・子ども）
9. 刑事司法の過程と身体的自由権①（捜査の手続き）
10. 刑事司法の過程と身体的自由権②（憲法における被疑者の権利）
11. 刑事司法の過程と身体的自由権③（裁判の手続き）
12. 刑事司法の過程と身体的自由権④（憲法における被告人の権利）
13. 国民の司法参加①（陪審制度・参審制度）
14. 国民の司法参加②（裁判員制度）
15. 犯罪被害者の権利と立憲主義

準備学習(予習・復習)・時間

授業時に配布する授業内容の確認のための印刷物を十分に理解しておくこと（所要予定時間は60分）、また授業で指示するテーマについて資料を読み、レポートにまとめること（所要予定時間は180分）

テキスト

特に定めない。授業ではパワーポイントを用いるが、そのスライドを配布する。また、授業で参考となる印刷物を配布する。

参考書・参考資料等

竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（晃洋書房、第5版、2018年）、青井未帆『憲法を守るのは誰か』（幻冬舎ルネッサンス新書、2013年）、鎌野邦樹『不動産の法律知識 第2版』（日本経済新聞出版社、2017年）、今村核『冤罪と裁判』（講談社現代新書、2012年）

学生に対する評価

定期試験により（80％）授業中のミニッツ・ペーパーや小テスト、授業への積極的な参加により（20％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) それなりの努力が読み取れる答案
 (B) 内容を概ね理解したと思われる答案
 (A) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている答案
 (S) 授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されているとともに、批判的な検討が行われている場合

課題に対するフィードバックの方法

授業終了時に小テストについて解説を行う。また、提出されたレポートについて、講評を行う。質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

社会的に注目される新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱い、進度により適宜変更の可能性はあるため、あくまで目安。受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要。授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件では無い。授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合がある。調査学習を取り入れた、受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢字Ⅱ					学期	通年		
副題	漢字Ⅰからのステップアップ				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G-06-162	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

臨書中心とした実技の授業であり、受講生自身が学びたい書体の表現方法を修得する。法帖を客観的に見る目を養い、臨書しながら線と空間等の奥深さを探求する。学生によっては参考に指導者が示範する場合もある。授業中だけ筆を執って書くだけでは絶対に上達はしない。自宅でも日課として、筆を持つような心掛けて欲しい。個人指導を中心に据えて授業を進める。

授業の到達目標

【前期】前期は書体を楷、行、草に限定し、その中から比較する2つ以上の法帖を自分で選択し、全臨を目指す。その法帖の結構や線質の特徴をつかみ、尚古思想を根幹に据え、創作できるように努める。【後期】前期で学んだ以外の法帖を選び、その結構や線質などの特徴を細かく分析し、自身で表現できるように努める。＊漢字かな交じり文を学びたい場合は、相談の上決定したい。

授業計画

【前期】

1. 授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2. 法帖の臨書①
3. 法帖の臨書②
4. 法帖の臨書③
5. 法帖の臨書④ 実習してきた分を提出①
6. 比較法帖の法帖の臨書①
7. 比較対象の法帖の臨書②
8. 比較対象の法帖の臨書③
9. 比較法帖の臨書④ 実習してきた分を提出②
10. 学んできた2つの法帖の比較臨書①
11. 学んできた2つの法帖の比較臨書②
12. 自身が選んだ法帖を基に創作①
13. 自身が選んだ法帖を基に創作②
14. 自身が選んだ法帖を基に創作③
15. 前半実習してきた分（臨書と創作）を提出③。合評。

【後期】

1. 夏休み課題の提出、法帖の選択、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2. 法帖の臨書①
3. 法帖の臨書②
4. 法帖の臨書③
5. 法帖の臨書④ 実習してきた分を提出①
6. 比較対象の法帖の臨書①
7. 比較対象の法帖の臨書②
8. 比較対象の法帖の臨書③
9. 火瑠璃対象の法帖の臨書④ 実習してきた分を提出②
10. 学んできた2つの法帖の比較臨書①
11. 学んできた2つの法帖の比較臨書②
12. 自身が選んだ法帖を基に創作①
13. 自身が選んだ法帖を基に創作②
14. 自身が選んだ法帖を基に創作③
15. 後半実習してきた分（臨書と創作）を提出③。合評。

準備学習(予習・復習)・時間

自分が選んだ法帖の特徴や筆者について基礎的な知識を予習すること。制作の構想をしっかりと考え、書体形式を決めて臨書を繰り返し練習し、どこをどう工夫すれば良いかを考えること。(計120分以上)。

テキスト

各自が二玄社あるいは別の法帖の中から相談の上選択する。

参考書・参考資料等

二玄社等の法帖類。字書や二玄社の法帖類、各展覧会の作品集など。

学生に対する評価

各学期数回のレポート提出、前後期の平均点にて算出する(素点)。各学期欠席3点、遅刻1点の回数を素点より引く。各学期1/3の欠席を超えた場合その時点で失格になる。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 臨書している法帖の字形と基本的な筆使いが一応できているか
- (B) 線がしっかり書けていて臨書を通して、宣紙にうまく表現できているか
- (A) 臨書で学んだ事を創作で高いレベルで表現できているか。
- (S) 非常に高いレベルでの創作能力があり、且つ自身で調べた長落款を上手く調和させているか。

課題に対するフィードバックの方法

毎時、各学生による作品批評を行う。個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。

その他

基本漢字Ⅰと基本同じであり、そちらも熟読の事。受講生は漢字Ⅰの単位取得者に限る。毎回の課題は、反切～全紙サイズの作品提出を課す。授業以外での努力が評価を大きく左右する。また出来るだけ多く下山し、自発的に沢山の展覧会に足を運び多くを見て学んでほしい。全出席を心得る事。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。年度末に開催される学外書道展に出品する。その際表具代等は、個人持ちとする。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が客観的指導により上達させることを目的とする。

科目名	かなⅡ					学期	通年		
副題	三色紙の臨書から創作へ				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	G-06-163	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】かなⅠおよびそれと同程度のかな経験者を対象に、かなの技術・知識のより上達をめざす。ちらし書きの名品としての古筆(三色紙)を鑑賞し臨書する。【後期】「三色紙」の中から選択した古筆を繰り返し臨書し、ちらし法を研究し理解する。さらに古筆をもとに臨書から做書へと発展させ、作品に仕上げる。かなⅠで取り上げた「高野切第一種」「高野切第三種」かなⅡでの「三色紙」以外にもさまざまな古筆があることを理解し臨書できるようになる。

授業の到達目標

【前期】かなⅠの基本の上に「寸松庵色紙」の書風を理解し用筆や運筆の技術を身につける。【後期】「継色紙」の書風について理解し用筆や運筆の技術を深める。各自古筆を選び、連綿の特徴を読み取りながら、全体としての散らし書きも理解し表現していく。運筆法・紙面へのおさめ方、空間処理を理解し、自己表現の作品制作力を身につける。

授業計画

【前期】

1. 講義目標、概要の解説、用具用材などの説明を聞く。
2. 「寸松庵色紙」の運筆・連綿、構成の解説を学ぶ。
3. 「寸松庵色紙(わがせこ)」1 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
4. 「寸松庵色紙(めめのかむ)」2 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
5. 「寸松庵色紙(あきはさの)」3 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
6. 「寸松庵色紙(値しはゆ)」4 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
7. 「寸松庵色紙(あめふらひ)」5 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
8. 「寸松庵色紙(秋のつき)」6 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
9. 「寸松庵色紙(初冬のゆき)」7 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
10. 「寸松庵色紙(あかおぼろ)」8 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
11. 「寸松庵色紙(あまやぶる)」9 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
12. 課題を提出する。自己評価及び相互評価を行い、書法上の課題を明らかにする。
13. 「寸松庵色紙」をもとに、創作の手法を学ぶ。1
14. 「寸松庵色紙」をもとに、創作の手法を学ぶ。2
15. 「寸松庵色紙」をもとに、創作の手法を学ぶ。3 課題を提出する。

【後期】

1. 「継色紙」の運筆・連綿、構成の特徴を学ぶ。
2. 「継色紙」1 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
3. 「継色紙」2 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
4. 「継色紙」3 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
5. 「継色紙」4 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
6. 「継色紙」5 課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
7. 選んだ古筆を臨書する。1・2枚目
8. 選んだ古筆を臨書する。3・4枚目
9. 選んだ古筆を臨書する。5・6枚目
10. 選んだ古筆を臨書する。7・8枚目
11. 課題を提出する。講評する。
12. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。1枚目
13. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。2枚目
14. 選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。3枚目
15. 1年間のまとめと総括を理解し、自分の意見を述べる。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる(120分)事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。(60分)

テキスト

「日本名筆選 12 寸松庵色紙」二玄社・「日本名筆選 13 継色紙」二玄社 小堀南岳堂書店で購入

参考書・参考資料等

「かな古典の学び方 2 寸松庵色紙・継色紙」二玄社 編者 日比野実 「墨ニュークラシック・シロズブ日比野五鳳」芸術新聞社 2010年発行

学生に対する評価

授業提出課題(70%) 授業への主体的な取り組み姿勢(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な筆使いと形が表現できる。
 (B) 「ちらし書き」の行の流れがうまく表現できる。
 (A) 基本的な筆法で、墨の扱いを忠実に表現するとともに、「ちらし書き」行の流れも確実に臨書できる。
 (S) 古筆をもとに自分で高いレベルの「ちらし書き」の制作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他

・かなⅠを履修済であること。変体仮名が理解できていること。・書道具一式、古筆臨書用紙は各自で購入のこと。(最初の授業で説明する。)・20分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻2回で欠席1回とする。・前期欠席が5回になった時点で成績は出ない。・授業中のスマホ使用禁止。・優秀な提出作品は2月の高野山大学学外書道展に出品する可能性がある。その場合、表装代は各自の負担とする。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	篆刻						学期	通年	
副題	伝統的中国篆刻を学ぶ				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G-06-164	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

・「印從書出」、「印外出印」の篆刻理論を出発点に東洋史における印章の重要性を認識する。・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。前半は書の線條の追及として漢字Ⅰで学んだ小篆を復習する。・国内の他大学にはない中国伝統的書学教育を前提とした篆刻指導を行う。・篆刻を学ぶ上で碑学の基本を理解し、体現する。

授業の到達目標

1、古代文字(小篆および篆印篆等)の基本的認識及び古代文献に捺印されている印文の解説に興味を持つ。2、東洋文化における印章の歴史的重要性及び毛筆との関連性の理解。3、各時代に沿った印章の違いの理解をもつての刻印技術の修得。世の中で唯一の独自の篆刻作品を作ってほしい。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス印材・工具等の説明、紹介並びに古代印章史の概論
2. 古代印章の起源と歴代印印の変遷
3. 毛筆にて篆書の練習①(鄧石如「白石草堂記」の前半部分)
4. 毛筆にて篆書の練習②(鄧石如「白石草堂記」の続きの部分〜終わりまで)
5. 毛筆にて篆書の練習③(韓幹安の鐵線篆と摹印篆)
6. 刀法と側款の練習①(横・堅・鈎・撇)
7. 刀法と側款の練習②(短撇・捺・側・長鈎)
8. 刀法と側款の練習③(自身の名前と漢詩を刻す)
9. 奏刀の練習①(沖刀・切刀・舞刀の使い分け)
10. 奏刀の練習②(各轉折と起筆、收筆)
11. 雙鈎填墨による陰陽、理論:印章の誕生から時代別の印文の流れ並びに印式の各名称(殷代から漢代まで)
12. 漢印摹刻①(自身で選択したもの)
13. 漢印摹刻②(①以外で自身で選択したもの)
14. 漢印創作における印稿練習
15. 漢印創作

【後期】

1. 前期の復習並びに覆印から篆刻への変遷理論
2. 秦印摹刻①(自分で選択したものを刻す)
3. 秦印摹刻②(①以外で自分で選択したものを刻す)
4. 秦印創作の為の印稿の練習(自分で印文を考える)
5. 秦印創作
6. 将軍印①(自分で選択したものを刻す)
7. 将軍印②(①以外で自分で選択したものを刻す)
8. 将軍印創作の為の印稿練習(自分で印文を考える)
9. 将軍印創作
10. 肖形印摹刻①(自分で選択したものを刻す)
11. 肖形印摹刻②(①以外で自分で選択したものを刻す)
12. 仏像印摹刻①(來楚生作品の中から自分で選択したものを刻す)
13. 仏像印摹刻②(來楚生作品の中から①以外で自分で選択したものを刻す)
14. 仏像印創作
15. 作品合評、予備

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、それまで学んだことを踏まえて課題作品を作ってくる(120分以上)・夏休みの課題として漢印の創作作品を補刀まで済ませ、後期の最初の授業で提出する。

テキスト

・書道講座第6巻篆刻(二玄社刊)*書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『説文解字』(中華書局)・『印学史』(西泠印社)・『故宫博物院藏古璽印選』(文物出版社)・『上海博物館藏印選』(上海書画出版社)・袁毛政雄編『必携篆書印譜字典』(柏美術出版)・『図解篆刻入門』(木耳社)・その他必要に応じて個々に指示したり、プリントを配布したりする。

学生に対する評価

・各学期、基本的に提出作品による評価し、その平均点を算出する(素点)。その為、各学期1/3を超えた場合不合格とする。素点より欠席3点、遅刻1点を引く。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各奏刀法を理解し、自分で摸刻ができる。
- (B) 陰陽思想を根底に印稿が書け、自身でそれを創作できる。
- (A) 尚古思想を基盤とした高いレベルでの創作ができる。
- (S) 尚古思想を基盤とした非常に高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、長邊款が刻せる。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

その他

・漢字Ⅰ履修終了者に限る。・用具、用材は、書道用品店にて各自で購入のこと。(最初の授業で説明する。)・実技の授業なので、毎日課題が課される。・2度目の受講者は、明清以降の流印もしくは秦代以前の古璽印等を相談に応じて個別に指導する。・理解度・達成度により、授業内容を変更する場合あり。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。年度末に開催される学外書道展に陳列される。(表具代その他は、個人負担とする)

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

篆刻家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が作成した作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的に指導を加える。

科目名	条幅制作A(漢字)						学期	通年	
副題	中国書道の基礎を基に大作に挑戦しよう				授業方法	実技	担当者	野田悟	
ナンバリング	G-06-165	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】・半切に漢字作品を自身が選択した書体で創作する。(做書も可)・2尺×8尺かそれに相当するサイズの宣紙に漢詩、漢語を篆書体、隸書体、又は行草体で創作する。(做書も可) 【後期】2尺×8尺(約52cm×約228cm)以上の画仙紙に自選の漢文や漢詩若しくは漢字かな交じり文を選ぶ。創作する上で、まず字書ですべての文字を調べ草稿を作成する。それを参考にして字の構成を理解する。漢字仮名まじり文を書こうとする人は、全体の構成や空間のとり方など工夫し、漢字と仮名の調和も考えて製作をすすめる。

授業の到達目標

・これまで臨書で培った基礎の上に立って、「尚古思想」を原点にした想像力豊かな大作を作り上げる。
・年度末の高野山大学学外書道展に出品する。その際、表具代等は各自で負担する。

授業計画

【前期】

1. この授業の内容、授業の進め方、必要な書道用材の説明(ガイドランス)
2. 半切の大きさと、課題を楷、行、草体で創作に至る臨書①
3. 半切の大きさと、課題を楷、行、草体で創作に至る臨書②
4. 半切の大きさと、課題を楷、行、草体で創作に至る臨書③
5. 半切の大きさと、課題を楷、行、草体で創作に至る臨書④
6. 半切の大きさと、課題を楷、行、草体で創作に至る臨書⑤
7. 半切の大きさと、課題を楷、行、草体で創作に至る臨書⑥
8. 提出後、全体で互評会を実施する
9. ①篆書体、隸書体、行書体で課題を半切(正方形)で創作
10. ②漢字仮名まじり文の創作
11. 上記①、②のどちらかひとつを選び実習する。
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 同上

【後期】

1. 2尺×8尺(たて228cm×よこ52cm)の紙面に、作品を制作
2. 同上 ※書体、題材も自由
3. 同上 ※個性と創作意欲にあふれた作品を制作する。
4. 同上 ※題材、書体は途中変更も可能
5. 同上 ※捺行錯誤をくりかえしながら少しずつ作品が向上させる。
6. 同上 ※早く仕上がった人は、小品を制作する。(書体・題材を変えたり)(漢字仮名まじり文でも可)
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上
15. 押印して提出後、互評会を実施する。

準備学習(予習・復習)・時間

制作の構想をしっかりと考え、書体形式を決めて繰り返し練習し、どこをどう工夫すれば良いかを考えること。また積極的に下山し、出来るだけ多くの展示会場で学んで来る。(計120分以上)。

テキスト

相談の上、書道史を踏まえて個々に法帖を決定する。

参考書・参考資料等

字書や二玄社等の法帖類、各展覧会の作品集など。

学生に対する評価

各学期、数回のレポート(作品)提出、前後期の平均点にて算出し、総合的に評価する(素点)。各学期欠席ー3点、遅刻ー1点。各学期1/3の欠席を超えた場合その時点で失格になる。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 規定の大きさにそれぞれの書体で誤字なく書けている。
- (B) 線に力強さがあり、文字の大小や墨の潤滑に工夫している。
- (A) 作品に一貫性があり筆力が充実している。落款も内容に相応した書き方である。
- (S) 自分なりに工夫を加え、また自身で調べた長落款を使用し、練度の高い作品に仕上がっている。

課題に対するフィードバックの方法

1. 個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。2. 拝見した展覧会の批評を発表してもらい、それについての議論も行う予定。

その他

出来上がった各作品は評価の後、大学書道展に出品して頂くことを考えている。その場合、表装代は自己負担とする。各自で事前に『字書』を購入しておくこと。画仙紙は事前に大阪の書道用品店で買っておくこと。この授業は高野山書道師範を取得を希望する者、書道で卒業論文を書こうとする学生は必修である為、かなり習熟した技能を持っていることが要求される。授業時間外の取り組みにより大きく評価が分かれる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

書道家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が書いた作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的にわかりやすく指導を加える。

科目名	条幅制作B(かな)					学期	通年		
副題	大字かな作品制作				授業方法	実技	担当者	塩野三恵子	
ナンバリング	G-06-166	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

【前期】かなⅠ・Ⅱで学習した項目を発展させ、かな条幅にあった用具・用材について理解し、運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となって書き込み、半切作品に仕上げる。【後期】2×6尺以上のかな画仙紙に自分で歌や文章を選び制作する。運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となるまで書き込む。また全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆を実践し、作品に仕上げる。

授業の到達目標

【前期】古来より机上作品であった「かな」を条幅作品として表現できるようになる。
 【後期】かな条幅の運筆を理解し画仙紙に全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆で書くことができるようになる。

授業計画

【前期】

- 1.条幅かなの内容解説・授業の進め方・必要な用具用材等の説明を聞く。
- 2.条幅の基本用筆1(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を書く。)
- 3.条幅の基本用筆2(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体自然に書く。)
- 4.条幅の基本用筆3(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体確実に書く。)
- 5.条幅の基本用筆4(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、2字連続を書く。)
- 6.条幅の基本用筆5(かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、2字・3字連続を自然に書く。)
- 7.集字(資料を参照)半切1/2の画仙紙に俳句を書く。
- 8.半切1/2の画仙紙に俳句の構成に留意し自然に書く。
- 9.半切1/2に俳句を書き仕上げる。
- 10.半切以上に制作1(題材を決定し、集字資料を作成する。)
- 11.半切以上に制作2(資料によって、書く。)
- 12.半切以上に制作3(資料に沿って自然に書く。)
- 13.半切以上に制作4(資料に沿って書き込み、構成も考えていく。)
- 14.半切以上に制作5(資料を基に、構成に留意し、作品を仕上げ提出する。)
- 15.提出作品の講評をする。

【後期】

- 1.2×6尺(55×175cm)の練習用紙に制作1(テーマ・内容を決定、集字する。)
- 2.2×6尺の練習用紙に制作2(題材・デザインを考える。)
- 3.2×6尺の練習用紙に制作3(土台とする古典を臨書しつつ、構成も考えていく。)
- 4.2×6尺の練習用紙に制作4(自然に運筆ができるようになるまで書き込む。)
- 5.2×6尺の練習用紙に制作5(確実に運筆し、墨色、墨量の変化を整えていく。)
- 6.2×6尺の練習用紙に制作6(各自のテーマを設け書く。)
- 7.2×6尺の練習用紙に制作7(各自のテーマに沿って書き込む。)
- 8.2×6尺の清書用紙に制作1(清書用紙の扱いに慣れる。)
- 9.2×6尺の清書用紙に制作1、互評会をする。
- 10.2×6尺の清書用紙に制作2(互評会を受けて修正し、各自のテーマに沿った作品を制作する。)
- 11.2×6尺の清書用紙に制作3(より一層の内容のある作品になるように書き込む。)
- 12.2×6尺の清書用紙に制作4(作品提出をする。)
- 13.2×6尺の清書用紙に制作5(提出作品の講評をする。)
- 14.形式を変えて条幅作品を書く。
- 15.1年間のまとめと総括を理解し、自分の意見を述べる。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる(120分) 事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。(60分)

テキスト

高木厚人著 「大字かな入門」芸術新聞社 2014年発行 編者 日比野実 「墨ニュークラシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社 2010年発行

参考書・参考資料等

土橋靖子著 「条幅作品手本10 万葉集を書く かな書篇」 「生誕100年記念かな書の巨匠 日比野五鳳展図録」2001年朝日新聞社発行
 字書や二玄社の法帖類、芸術新聞社の書道関連本、各展覧会の作品集など

学生に対する評価

授業提出課題(70%) 授業への主体的な取り組み姿勢(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) かな条幅の基本的用筆ができる。
- (B) 規定の大きさに効果的に表現することができる。
- (A) 全体構成、空間のとり方、文字の大小・墨の扱いに留意し制作することができる。
- (S) 自分で高いレベルでのかな条幅作品を制作することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他

・かなⅠ、かなⅡを履修済みであること。変体仮名が理解できていること。・後期2×6尺以上の作品は評価の後、2月の高野山大学学外書道展に出品していただきます。表装代は各自の負担とする。・条幅筆・画仙紙は事前に書道用品店で買っておくこと。・普段から展覧会などに行き、様々な、かな条幅作品を鑑賞すること。・20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とする。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな条幅作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	書道史(中国)						学期	通年	
副題	各東洋学との関連性を考慮する。				授業方法	講義	担当者	野田悟	
ナンバリング	G-12-167	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

東アジア文化の根幹は漢字であることを念頭に、BC2000年前の刻符を文字の起源とし、それがどのような経緯を経て発展して行ったかを中国の書道史を時代的に学びながら解明する。ビデオ・資料も積極的に活用し、単なる知識として理解するだけではなく、視覚的又実用的にも書道史をとらえるように促したい。また書は、文学、哲学、史学や仏教及び密教、そしてその他の芸術をはじめ諸々の文化的事柄とも絡めて眺めていく。その他、日中の中国書道史のとらえ方の違いなども考察する。秋頃、課外授業を行う予定。

授業の到達目標

【前期】中国文化に興味を持ち、文字の起源から芸術としての書の確立までの歴史の流れを理解し、説明できることを到達目標とする。【後期】中国文化に興味を持ち、時代別書風の変化をはじめとする書道理論の形成・発展を理解し、説明できる。また問題点を積極的に列挙できることを到達目標とする。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスと漢字の歴史
2. 漢字の起源漢字の創生六義
3. 先秦甲骨文・金文・石鼓文
4. 秦代書道概観篆書の制定
5. 秦の刻石権量詔版瓦当碑
6. 漢代書道概観隸書の盛期古隸と八分
7. 代表的漢碑と章草紙の発明と発展『説文解字』
8. 三国時代書道概観
9. 六朝六朝時代書道概観南朝の刻帖と能書家
10. 王羲之と王献之
11. 北朝の書道概観六朝楷書北朝能書家と代表碑刻
12. 隋代書道概観と代表的碑刻
13. 唐初唐の書道概観
14. 初唐の四大家とその代表的作品
15. 前期試験

【後期】

1. 太宗皇帝と初唐の四大家
2. 中唐の書道
3. 顔真卿の書並びに孫過庭『書譜』と張懷瓘『書義』、『書断』の書論比較
4. 晚唐晩唐の書道
5. 五代五代の書道概観
6. 宋の書道概観
7. 北宋の四大家
8. 金石学の芽生え淳化閣帖と集帖
9. 南宋の能書家
10. 元代の書道概観（趙孟頫と吾丘衍）
11. 明代の書道概観
12. 明代古典派
13. 明末清初のロマン派長条幅のはじまり
14. 清代の書道概観
15. 後期試験

準備学習(予習・復習)・時間

講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。(60分)

テキスト

『決定版』中国書道史 角井博監修芸術新聞社定価 3080 円 *書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『中国美術全集』（書法篆刻編）中国美術全集編輯委員会・『書道全集』平凡社・『中国書法史』江蘇教育出版社・『墨スペシャル9 図説中国書道史』芸術新聞社その他、必要に応じてプリント配布。

学生に対する評価

・基本的な各学期末の試験による評価及びその平均点を算出。・欠席各一3点、遅刻・早退一1点として計算する。・素点から欠席及び遅刻・早退の点数を引いて成績を出す。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 書道用語を理解できる。
- (B) 書道史に関する時代変遷を自分で発言できる。
- (A) 自分で調査した書道史に関する研究を発表できる。
- (S) 自分で調査した書道史に関する研究を先人研究者との比較をしてその違いを発表できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業の導入部分で前回の復習として、個々に指名し問題を答えてもらう。各学期末に試験が行われる。

その他

出来るだけ積極的に下山し、博物館、美術館等に足を運ぶことを心掛け、本物を見る喜びとその空気感を味わう。※受講生の努力度、理解度により、予定を変更の場合有り。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

芸術系大学院教員及び研究者として経験を持つ教員が、漢字や中国書道の歴史と他分野への関連性について知識を提供し、指導する。

科目名	社会福祉論／社会保障B(別)						学期	前期
副題	現代社会の「生きづらさ」に向き合う				授業方法	講義	担当者	溝淵淳
ナンバリング	G-11-168	実務経験の有無	無	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

人が生活する中で抱えるさまざまな「生きづらさ」について、これを社会的に解決する意味と、具体的な方法等について学ぶ。社会的に解決することを模索する以上、これらの「生きづらさ」は社会的に生じたものであることが想定される。そこでまず、ごくごく個人的な要因によって生じていると考えられがちな現代の「生きづらさ」が、実際には社会的に生じているものであるとする考え方の修得を目指す。その上で、社会的に解決する際に活用する具体的なリソース（資源）についての知見を深めていく。適宜グループワークを活用する。

授業の到達目標

現代社会の「生きづらさ」について、広く、かつ、多面的な視野で把握する視野を身につける。また、その解決に向けた手段や活用すべき資源についての知見を得る。さらに、解決に際し、支援する側がどのような立ち位置で、どのような動きをすべきかについて理解する。

授業計画

1. ガイダンス 事例を通し、社会福祉の射程を知る
2. 事例を通し、社会福祉の国際比較を行う①
3. 事例を通し、社会福祉の国際比較を行う②
4. 事例を通し、社会福祉の国際比較を行う③
5. 現代社会における「生きづらさ」①貧困・自己責任・格差の拡大等
6. 現代社会における「生きづらさ」②差別・人間関係の希薄化等
7. 社会福祉を支える基本的な考え方
8. 「生きづらさ」を理解する視点
9. 「生きづらさ」を解消するための社会資源について知る① フォーマル
10. 「生きづらさ」を解消するための社会資源について知る② インフォーマル
11. 「生きづらさ」を解消するための具体的な方法について知る① 関わり技法
12. 「生きづらさ」を解消するための具体的な方法について知る② 組織や地域への働きかけ
13. 支援者の立ち位置① ミクロレベル 事例を通した学び
14. 支援者の立ち位置② メゾ・マクロレベル 事例を通した学び
15. まとめ 事例を通した学び 学修を自らの将来に活かす

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（いずれも90分目安）。

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

松沢裕作『生きづらい明治社会』（岩波ジュニア新書、2018）

学生に対する評価

レポート・筆記試験（50%）、毎回の小レポート（30%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 現代社会の「生きづらさ」とそれに対応する仕組みについて理解している。
 (B) 現代社会の「生きづらさ」とそれに対応する仕組みについて多面的に把握することができる。
 (A) 現代社会の「生きづらさ」とそれに対応する仕組みについて多面的に把握したうえで、支援方法について模索することができる。
 (S) 現代社会の「生きづらさ」とそれに対応する仕組みについて多面的に把握したうえで、具体的な支援方法を提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートまたは毎回の小レポートの内容について、次回の授業で適宜解説を加える。

その他

①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉の課題に関する事例検討とPBLなど、アクティブ・ラーニングの手法を用いる。②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながら映像教材を視聴することがある。③状況に応じて、ICTを活用した遠隔授業を実施することがある。

科目名	社会保障論／地域福祉A(別)						学期	後期	
副題	生活を支える「あたりまえ」に気づく				授業方法	講義	担当者	溝淵淳	
ナンバリング	G-11-169	実務経験の有無	無	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

生活上の困難を抱えた人たちが置かれている状況と、その困難の背景となる諸事象について学ぶ。その上で、生活上の困難を解消・解決するために、日本にはどのような制度が存在しているのかについて学ぶ。その際、ヨーロッパやアメリカなど各国の社会保障制度を参照し、比較する。私たちは、生活上の困難と隣り合わせで生きているのが「あたりまえ」である。逆に考えれば、私たちは常に意識できないところで多くのもの（制度や人など）に守られていることが「あたりまえ」なのだといえる。そのことを実感する学びの機会としたい。

授業の到達目標

日本の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷等について理解する。また、社会保障を形成する諸制度（年金制度、公的扶助（生活保護、生活困窮）、医療保険、介護保険等）の仕組みと今後の見通しについて理解する。

授業計画

1. ガイダンス 社会保障の仕組みとは
2. 事例を用いた学び① 自らの生活から社会保障への理解を深める
3. 事例を用いた学び② 自らの生活から社会保障への理解を深める
4. 事例を用いた学び③ 自らの生活から社会保障への理解を深める
5. 事例を通し、日本における社会福祉の歴史と課題を知る① 成り立ちについて
6. 事例を通し、日本における社会福祉の歴史と課題を知る② 「通俗道徳」について
7. 社会保障制度の国際比較①アメリカ
8. 社会保障制度の国際比較②ヨーロッパ（北欧含む）
9. 日本における社会保障制度の課題
10. 子どもに関わる諸制度
11. 障がいのある人に関わる諸制度
12. 高齢者に関わる諸制度
13. 貧困に関わる諸制度
14. 近年の諸課題に関わる諸制度
15. まとめ 制度の学びを日常に活かす

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、配布した資料を毎回通読するとともに、初めて目にする言葉等について調べ、その意味を理解しておくこと。事後学修として、授業の内容に関連する社会問題を新聞等から検索し、収集・通読しておくこと（いずれも90分目安）。

テキスト

適宜講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

- ①『社会福祉小六法 2023』、中央法規

学生に対する評価

レポート・筆記試験（50%）、毎回の小レポート（30%）、授業への参加の度合い（20%）で評価する

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会保障に関する基礎的な概念と仕組みを理解している。
- (B) 社会保障に関する基礎的な概念と仕組みを理解し、自らの日常と関連付けることができる。
- (A) 社会保障に関する基礎的な概念と仕組みを理解し、自らの日常と関連付けて説明することができる。
- (S) 社会保障に関する基礎的な概念と仕組みを理解し、自らの日常や他者の生活に関連付けるとともに、説明・紹介することができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートまたは毎回の小レポートの内容について、次回の授業で適宜解説を加える。

その他

①授業内容に関するグループディスカッションや、福祉的課題に関する事例検討とPBLなど、アクティブラーニングの手法を用いる。②授業内容の理解を深めるため、担当者が適宜解説を加えながら映像教材を視聴することがある。③状況に応じて、ICTを活用した遠隔授業を実施することがある。

科目名	インターンシップ						学期	後期
副題	職場体験				授業方法	実習	担当者	森本一彦
ナンバリング	G-16-170	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

大学が指定する高野町役場やわかやまインターンシップ、堺・南大阪インターンシップなどに参加して職業体験を行うことで、「仕事」を理解する。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業の到達目標

インターンシップを体験することによって、職業意識を涵養し、各自のキャリア設計を具体化する。

授業計画

1. 事前指導
2. 職業体験①
3. 職業体験②
4. 職業体験③
5. 職業体験④
6. 職業体験⑤
7. 職業体験⑥
8. 職業体験⑦
9. 職業体験⑧
10. 職業体験⑨
11. 職業体験⑩
12. 職業体験⑪
13. 職業体験⑫
14. 職業体験⑬
15. 事後指導

準備学習(予習・復習)・時間

インターンシップの体験を整理し、文章化する (60分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

村山昇・若田紗希『働き方の哲学 360度の視点で仕事を考える』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート (30%)、授業参加の積極性 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) キャリア形成について理解している。
- (B) キャリア研修に積極的に参加できる。
- (A) キャリア研修の体験からその意義を客観的に説明できる。
- (S) 授業外でもキャリア形成に積極的に取り組むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他

①インターンシップについては、5月、6月頃に募集があり、それぞれのプログラムごとに審査がある。採択者のみ履修可能。②インターンシップは企業に受入れを依頼するので、最低限のビジネスマナーを心得ておく必要がある。③関連授業として、キャリアデザインⅠ～Ⅳを受講しておくことが望ましい。④体験を中心としたアクティブラーニングである。

科目名	生涯学習概論						学期	前期	
副題	地域をつくる生涯学習				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G-18-171	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

生涯学習とはなにかを理解し、その理論と社会におけるしくみや方法、生涯学習社会におけるネットワーク構築の必要性をさまざまな実践例を紹介することを通じて、生涯学習の指導者としての役割や、今後の課題について探求する。

授業の到達目標

生涯学習や社会教育の意義を理解し、その制度やしくみ、内容や方法を学ぶことを通じて、今後さらに進展する「生涯学習の時代」に対応できるための基礎的な能力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／生涯学習とはなにか？
2. 生涯学習論の導入と展開
3. 生涯学習と日本の行政
4. 生涯各期の学習課題
5. 生涯学習と家庭・学校・地域社会
6. 社会教育制度と生涯学習
7. 学校教育と生涯学習
8. 博物館と生涯学習
9. 図書館と生涯学習
10. 生涯学習の形態と方法
11. 生涯学習を支援する指導者の役割
12. 地域づくりと生涯学習
13. グローバル化する社会と生涯学習
14. これからの生涯学習の動向と課題
15. 「生涯学習の時代」を生きる

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習: 次回の授業内容についてテキストを熟読し、自治体HPなどで各地の取り組みについて調べる(90分) 事後学習: 授業内容についてノートに整理する(60分)。

テキスト

田中雅文・坂口緑・柴田彩千子・宮地孝宜『テキスト生涯学習一学びがつむぐ新しい社会ー [新訂2版]』(学文社、2020年)。その他、授業テーマによってプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①大堀哲編著『司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論』(樹村房、2010年) ②関口礼子・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫・神部純一・柳田雅明『新しい時代の生涯学習 [第3版]』(有斐閣、2018年) その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート(40%)、毎回の授業時に行う課題(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生涯学習の理論と実践について、基礎的な知識を身につける。
 (B) 生涯学習の理論と実践についての基礎的な知識を身につけ、問題点を指摘することができる。
 (A) 生涯学習の理論と実践についての知識を身につけ、これからの取り組みを提案することができる。
 (S) これからの生涯学習のあり方について提案することができ、実際に生涯学習活動に参加している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。授業で紹介する実践例以外にも、新聞などを通じて生涯学習に関する各地の取り組みについて関心を持つことを心がけること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	博物館概論						学期	前期	
副題	博物館とは何か				授業方法	講義	担当者	山口文章	
ナンバリング	G-18-172	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

本講義では、博物館学や関係法規の意義について学習するとともに、学芸員の担う職務と博物館の社会的責務について理解を深める。また、明治以降の博物館の果たした社会的機能について学ぶとともに、博物館とナショナリズムとの関係についても考える。なお、授業計画に示す内容は、進捗その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①国内外の博物館の歴史を振り返りつつ、博物館に関する基礎的知識を習得する。②博物館を取り巻く厳しい社会状況について理解を深める。③博物館学芸員を目指す上での学問的見識を養う。

授業計画

1. 博物館学の目的とそのあゆみ
2. 博物館の種類と機能—分類・施設・設備とあわせて—
3. 学芸員の職務
4. 世界の博物館とその歴史①
5. 世界の博物館とその歴史②
6. 日本の博物館とその歴史①—博物館の諸制度—
7. 日本の博物館とその歴史②—博物館と学芸員を取り巻く現況—
8. 日本の博物館とその歴史③—博物館と学芸員の未来—
9. 明治期の博物館論—博物館・文化財と政治①—
10. 大正・昭和前期の博物館論—博物館・文化財と政治②—
11. 博物館とナショナリズム—戦前期の「国史館」構想—
12. 博物館法とその意義
13. 文化財保護制度の歴史
14. 博物館をめぐる現状と矛盾
15. レポートもしくは試験の講評

準備学習(予習・復習)・時間

参考書や配布プリントを参照し、博物館学に関する専門用語をあらかじめ理解しておく。(90分)配布プリントを活用し、毎回の講義内容を定着させることを心がけること。(30分)

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012年）

学生に対する評価

レポートもしくは試験（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館の歴史について、基礎的な説明ができる。
 (B) 博物館の歴史と社会的責務について具体的に説明できる。
 (A) 博物館の歴史と社会的責務をふまえ、現在の博物館を取り巻く環境と問題点について説明できる。
 (S) 講義内容と自己の調査に基づいて、博物館の存在意義と今後の在り方について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義の提出課題については、後日に講評する。

その他

博物館の社会的変遷を理解し、学芸員としての資質を高めることがこの講義の目的である。学芸員は高度な学識だけでなく、時流に即した博識が要求される。講義を通して学芸員としての理想と信念を養って欲しい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

担当教員は公益財団法人高野山文化財保存会課長として、博物館の事務、学芸業務に従事した後、高野山霊宝館館長として博物館経営の責任者として勤務した。博物館事務、学芸業務、博物館経営の経験を通して博物館学を広く深く講義する。

科目名	博物館経営論						学期	後期	
副題	ミュージアムマネージメントの意義と方法				授業方法	講義	担当者	山口文章	
ナンバリング	G-18-173	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

①ミュージアムマネージメントについて、②博物館の財政をとりまく経営環境、③博物館の使命と組織・職員の役割、④コレクション形成の方法、⑤博物館活動の目標設定と評価、⑥普及と情報、⑦日本の博物館の特異性 等を事例に基づいて理解し、学芸員の基礎知識とすることを目的とする。学芸員に必要な基礎知識は文化財の管理方法や評価、研究だけでなく、設備管理や教育、広報など、博物館の経営全体に必要なものである。博物館に勤務することを指さない者も、学芸員資格を修得することを勧める。

授業の到達目標

博物館経営（ミュージアムマネージメント）について学ぶ。博物館経営が他業種の企業体の経営よりも、広い分野に及ぶ総合的なものであり、博物館に携わる者すべてが問題意識を持つ性格であることを学ぶ。

授業計画

1. 博物館の経営概説(ミュージアムマネジメントとは)
2. 博物館の種類と組織的構造の特徴(海外・日本)
3. 博物館における現状と問題点
4. 博物館の財政形態
5. 博物館の設備と管理
6. 博物館の文化財管理
7. 博物館の危機管理
8. 博物館のコレクションの形成(購入・寄贈・寄託について)
9. 博物館の使命と組織・職員の役割
10. 現代社会に求められている博物館の対応と現状
11. 博物館の広報、マーケティング、文化財教育普及活動
12. 博物館活動の目標設定と評価
13. これからの博物館に必要なこと
14. 博物館見学(展示方法、入館者対応、地域社会との連携を現場で学ぶ)
15. 博物館見学(博物館事務、文化財管理の現場を実際に体得する)

準備学習(予習・復習)・時間

授業で学んだ内容に関して専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)見学実習後は見学内容を整理し、ノートにまとめておくこと。(30分)

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業内で紹介する。

学生に対する評価

レポートもしくは試験(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館の種類別に、組織的構造の特徴を説明できる。
 (B) 博物館の現状と問題点を説明できる。
 (A) 博物館の使命と博物館職員の役割を説明できる。
 (S) 現代社会に求められる博物館の使命を論じ、これからの博物館に必要なことを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

博物館の見学を通して、展示や利用者対応などの業務だけでなく、設備や文化財の管理業務などの実務を理解する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

担当教員は公益財団法人高野山文化財保存会課長として、博物館の事務、学芸業務に従事した後、高野山霊宝館館長として博物館経営の責任者として勤務した。博物館事務、学芸業務、博物館経営の経験を通して博物館経営論を講義する。

科目名	博物館資料論						学期	後期	
副題	博物館資料をめぐる現状				授業方法	講義	担当者	西川哲矢	
ナンバリング	G-12-174	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

博物館が所蔵する資料は、博物館の根幹をなす存在である。本講義では、博物館資料の収集、整理方法および適切に維持保管されるための知識や技術の修得をめざすものである。あわせて、調査研究の意義と内容についての理解を深めることも目的とする。なお、「授業計画」に示す内容は、進捗その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

①多様な博物館資料について知識を得、「二次資料（レプリカ）」などの意義について理解する。②博物館におけるコレクションの形成とその利用、発信方法について学ぶ。③学芸員による博物館資料の調査研究の重要性、古文書・古典籍などの資料的価値について考える。

授業計画

1. 博物館資料とは何か(意義と内容)
2. 「一次資料」と「二次資料」—博物館資料の種類—
3. 博物館資料の収集
4. 博物館資料の整理と活用—資料化のプロセス—
5. 博物館資料の収集と整理—デジタル・アーカイブとからめて—
6. 博物館資料の保存・劣化防止対策—大阪大学適塾記念センターの取りくみ—
7. 博物館資料の修復・複製について
8. 博物館資料としての古文書—大津市歴史博物館の取り組み—
9. 博物館資料としての古典籍—大阪大学適塾記念センターの取り組み—
10. 博物館資料としての写真・録音資料・映像資料—大阪大学適塾記念センターの取りくみ—
11. 諸外国の博物館資料に対する考え方について
12. 学芸員の調査・研究とその発信方法(収集理念と方法)
13. 博物館資料の取り扱い方①(分類・整理)—山内寺院における調査を通して—
14. 博物館資料の取り扱い方②(資料公開の方法等)—山内寺院における調査を通して—
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

受講にあたっては、以下を实践することを強く望む。参考書の該当ページやプリントを毎回読み、博物館学に関係する専門用語の意味を把握しておくこと(100分) 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をメモし、ノートに整理すること(80分)

テキスト

授業中適宜資料を配布し、講義を進める。

参考書・参考資料等

①大堀哲・水嶋英治『博物館学Ⅰ 博物館概論・博物館資料論』(学文社、2012年) ②全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年) ③高橋大樹「地域博物館における古文書展示」(『大津市歴史博物館研究紀要』20、2014年) ④大阪大学適塾記念センターホームページ

学生に対する評価

レポート(70%、字数3000字以上)、毎回の講義での小レポート(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館資料について、基本的な説明ができる。
- (B) 博物館資料について、事例に即した具体的な説明ができる。
- (A) 博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について説明できる。
- (S) 博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について、講義内容のみならず自己の調査に基づいて、論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義の提出課題については、後日に講評する。

その他

博物館学芸員には深い学識が求められる。くれぐれも、取り敢えず資格が欲しいからという理由で受講するのではなく、博物館資料についての知見を深めることを意識して受講して欲しい。

科目名	博物館資料保存論						学期	後期	
副題	博物館資料を安全に保つ方法を学び、考える				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	G-18-175	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

博物館において適切で安全な資料保存・活用を行うために必要な基本的知識を、歴史的・科学的・技術的な側面から、講義を通じて多角的に学習する。資料保存の重要性を確認し、環境や材質、構造上の問題などの資料を取り巻く状況を客観的に把握することで、資料を観察する目と現状判断する能力を養う。

授業の到達目標

博物館資料について保存の意義と基本理念を理解し、各種資料の材質や構造上の特性、劣化要因などをふまえて、適切な展示・保存環境を実現・維持するための基本的な知識を身につけ、活用することができる。

授業計画

1. 「保存」とは何か
2. [事例研究] 文化財保護の歴史
3. 博物館資料の材質と取り扱い(1) 立体物の構造・素材・特性
4. 博物館資料の材質と取り扱い(2) 平面物の構造・素材・特性
5. 博物館におけるリスクマネジメント・危機管理
6. 資料の劣化と保存(1) 温湿度
7. 資料の劣化と保存(2) 光・空気汚染
8. 資料の劣化と保存(3) 生物被害とIPM
9. [事例研究] 博物館資料の被害事例
10. 資料の劣化と保存(4) 自然災害と人為災害
11. 博物館資料の科学的調査と技術
12. [事例研究] 各種の修復事例
13. 修復保存の基本と実際(1) 彫刻作例
14. 修復保存の基本と実際(2) 装潢作例・古文書
15. 海外の博物館における資料保存と全体の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する。(60分)

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学Ⅳ 博物館資料保存論・博物館実習論』(学文社、2013年) 青木豊編『人文系博物館資料保存論』(雄山閣、2013年) 他は随時、授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート(60%)、授業への取り組み・課題(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館資料保存の意義を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける
- (B) 博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
- (A) 博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
- (S) これからの博物館資料保存のあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう。

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。近年は、保存・修復をテーマにした特別展や書籍、SNSを含む情報発信などから現場・現況を見聞きする機会が格段に増えた。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	博物館展示論						学期	後期
副題	博物館展示の果たす役割とその意義を理解する				授業方法	講義	担当者	山口隆介
ナンバリング	G-18-176	実務経験の有無	有	関連DP	2	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

博物館展示の理念と歴史、展示の諸形態を学び、展示の理論と方法に関する基本的な知識や技術を習得し、博物館における展示の果たす役割とその意義を理解する。

授業の到達目標

博物館における展示の歴史と意義を理解するとともに、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 博物館展示の目的と役割
3. 博物館展示の歴史
4. 見学演習 近畿一円的美術館・博物館に出かけ、広く美術作品を見て学ぶ
5. 見学演習
6. 展示のプロセス企画書・出陳交渉・梱包と輸送・会場造作・展示作業
7. 展示空間の構成Ⅰ 章立て・動線・サイン
8. 展示空間の構成Ⅱ 照明・音響・展示環境・温湿度
9. 見学演習
10. 見学演習
11. 展示の技法Ⅰ 展示ケース・展示台・演示具
12. 展示の技法Ⅱ パネル・題箋・カタログと各種印刷物の作成
13. 展示の技法Ⅲ 音声ガイド・多言語表記・ボランティア
14. 見学演習
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

普段から美術館や博物館に関心を持ち、図書やホームページを通して予備知識を持つこと(計90分以上)。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

必要に応じて資料を配布する。

学生に対する評価

レポート55%、授業への取り組み45%。この授業では近隣の美術館・博物館を見学する演習を実施し、見学への参加とレポートの提出を課する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 展示に関する基本的な知識や技術の習得が不十分である
 (B) 展示に関する基本的な知識や技術を習得する
 (A) 展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができる
 (S) 展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができ、その意図を他者に伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については授業後にワークシートに記入してもらい、次の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

奈良国立博物館で研究員として勤務している教員が、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

科目名	博物館情報・メディア論						学期	前期
副題	博物館における情報の活かし方を考える				授業方法	講義	担当者	那須真裕美
ナンバリング	G-18-177	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

博物館で扱う情報・メディアの意義と理論、およびその運用の現状や課題について確認し、現代の ICT 社会における情報の取り扱いに必要な基礎的知識を講義を通じて習得した上で、博物館情報・メディアがもたらす可能性について考察する。

授業の到達目標

博物館における情報の意義と活用方法や課題についての理解を深めることで、情報資源の有効な利用に関する能力を身に付け、活用することができる。

授業計画

1. [事例研究] 博物館によるオンラインでの情報発信
2. 「データ」「情報」「メディア」の定義
3. 博物館における情報資源の意義と活用(1) 博物館資料のドキュメンテーション
4. 博物館における情報資源の意義と活用(2) コレクション情報の組織化
5. 博物館における情報資源の意義と活用(3) 情報のデジタル化
6. [事例研究] 各種のデジタルアーカイブスとデータベース
7. 博物館における情報資源の意義と活用(4) デジタルアーカイブス・データベースの構築と技術
8. 博物館における情報資源の意義と活用(5) デジタル資料の運用と課題
9. 博物館と知的財産(1) 知的財産権の基礎
10. 博物館と知的財産(2) 著作権・著作支分権と権利処理
11. 博物館と知的財産(3) 個人情報・肖像権・パブリシティ権の管理・運用と情報倫理
12. 情報・メディアを活用した博物館活動(1) 展示
13. 情報・メディアを活用した博物館活動(2) 教育
14. 情報・メディアを活用した博物館活動(3) 広報・発信
15. 博物館情報・メディア論への期待と展望 (全体の総括)

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、授業で紹介した事例や類似事例についての関連情報を、書籍やインターネットで調べてまとめる。(60分)

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学 III 博物館情報・メディア論・博物館経営論』(学文社、2012年) 日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』(ぎょうせい、2013年)など。他は授業中に随時紹介する。

学生に対する評価

期末レポート(60%)、授業への取り組み・課題(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館情報・メディアの意義を理解し、基礎的知識を身につける
- (B) 博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
- (A) 博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
- (S) これからの博物館情報・メディアのあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。各種報道やインターネット記事(SNS やブログを含む)にも考察する素材があふれている。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	博物館教育論						学期	後期	
副題	地域の魅力を発信するために				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G-18-178	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

博物館における学びとその特性を理解し、そのための理論と実践についてさまざまな実践例を紹介することを通じて、地域の結節点としてこれからの博物館が担う教育的な役割とその発信方法について探求する。

授業の到達目標

学びの場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論や方法、特性を学ぶことを通じて、地域の結節点としての役割を担うための博物館教育とその発信の方法についての基礎的な能力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス／博物館教育とはなにか？
2. 博物館における学び
3. 博物館教育のあゆみ
4. 博物館教育を実践するための理論
5. 生涯学習と博物館教育
6. 博物館教育の方法①～見ること・聞くことからの学び～
7. 博物館教育の方法②～体験することからの学び～
8. 学校教育と博物館
9. 地域社会と博物館教育
10. 博物館教育の実践①～展示解説をしてみよう～
11. 博物館教育の実践②～展示解説をしてみよう～
12. 博物館教育の実践③～展示解説をしてみよう～
13. 地域の人材を育てる場としての博物館
14. グローバル化する社会と博物館教育
15. これからの博物館教育とは？

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：次回の授業内容についてテキストを熟読し、各地の博物館 HP など実際の取り組みについて調べ(90分) 事後学修：授業内容についてノートに整理する(60分)。

テキスト

黒沢浩編著『博物館教育論』（講談社、2020年第4刷版）その他、授業テーマによってプリントを配布する。

参考書・参考資料等

柿崎博孝・宇野慶『博物館教育論』（玉川大学出版部、2016年）。その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（40%）、毎回の授業時に行う課題（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育の場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける。
- (B) 博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その問題点を指摘することができる。
- (A) 博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる。
- (S) これからの博物館教育のあり方について、自身の体験から実例をもとに論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。各地の博物館や美術館などを実際に訪れ、それぞれの博物館が行っている取り組みについて体験することを心がけること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	博物館実習						学期	通年	
副題	学芸員としての知識・技術の習得とその実践				授業方法	実習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	G-18-179	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	3	他	A

授業の目的と概要

博物館学芸員の資格を取得するための必要不可欠な科目である。博物館学芸員の実務を理解し、博物館が行う事業を習得するために、講義だけでなく、実技実習や見学実習など、学内外において多様な授業を実施する。実技や実習をとまなう授業であり、将来、学芸員として勤務することを想定し、出席を重視する。

授業の到達目標

①博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について、実践的に学ぶことができる。②調査研究・展示する資料について、それらを調査や評価をし、展示や解説によって、観覧者にその意義を伝える方法を学ぶことができる。③さまざまな博物館を見学し、各館の特徴を捉え、学芸員として現場で活かせる視野を養うことができる。

授業計画

【前期】

1. 博物館実習に関する事前指導【講義・1時限】
2. 館園実習の具体的指導 (1) 資料の取り扱いと整理・分類・保存【講義・1時限】
3. 美術分野資料の取り扱い【実習・3時限】
4. 歴史分野資料の取り扱い【実習・3時限】
5. 文化史分野資料の取り扱い【実習・3時限】
6. 資料の整理と分類【実習・3時限】
7. 資料の保存【実習・3時限】
8. 博物館施設の構造・管理【実習・1時限】
9. 博物館運営の実務【実習・1時限】
10. 事後指導【講義・1時限】
11. 館園実習の具体的指導 (2) 実習先での実習の概要【講義・1時限】
12. 展示テーマを作る【実習・2時限】
13. 展示計画を作る【実習・2時限】
14. 展示表現の構築【実習・2時限】
15. 展示解説 (キャプション) を作る【実習・2時限】

【後期】

1. ポスター・パンフレット (目録・図録) の作成【実習・2時限】
2. 展示案内と接遇【実習・2時限】
3. 展示作業【実習・3時限】
4. 地域連携とコミュニケーション【実習・2時限】
5. 見学実習【実習・3時限】
6. 事後指導と総括【講義・1時限】

準備学習(予習・復習)・時間

予習：次回の実習内容等についてテキストを読んで理解しておく (90 分) 復習：実習内容等について整理をしておく (60 分)

テキスト

全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版、2002年)

参考書・参考資料等

木下史青『博物館へ行こう』(岩波ジュニア新書、2007年) 四国ミュージアム研究会編『もっと博物館が好きっ！ーみんなと歩む学芸員ー』(教育出版センター、2016年) その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業への取り組みの姿勢 (60%)、小テスト・レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について理解している。
 (B) 博物館の特徴を捉え、学芸員として現場で活かせる視野を有している。
 (A) 博物館学芸員が備えるべき基礎的な知識・技術について理解し、実践することができる。
 (S) 博物館学芸員としての基礎的な知識・技術を活用し、展示や解説によって、観覧者にその意義を伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業でフィードバックを行う。

その他

①履修に際しては、博物館学芸員として、また社会人としての基本的な姿勢を求めます。第10回までに3分の2以上出席していない場合は、館園実習の実施を認めません。なお、理由のない遅刻は欠席とみなします。②実習は、グループワークやディスカッション、フィールドワークによって行われます。③授業以外でも、各地の博物館を訪れ、積極的に学芸員としての視野を広げる姿勢をもつこと。

科目名	教育原論						学期	後期
副題	教育とは何かを多面的に考察する				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久
ナンバリング	G-17-180	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

1、教育の基本的概念、2、教育思想の歴史、3、教育の営みの歴史を学び、教育の本質に関する理解を深める。

授業の到達目標

教員として教育にかかわっていくための基礎となる知識を身につける。

授業計画

1. 教育の基本的意味
2. 人間特有の現象としての教育
3. 学ぶことと教えること
4. ころとからだを育てる
5. 道徳性の発達
6. 教育思想の原点1 (ソクラテス)
7. 教育思想の原点2 (プラトン)
8. 近代の教育思想1 (ロック)
9. 近代の教育思想2 (ルソー)
10. 現代の教育思想 (デューイ)
11. 家庭・地域・学校
12. 近代学校の性格
13. 日本における学校の歴史
14. 子どもの権利と教育への権利
15. 現代教育の課題定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

シラバスに予告されている講義内容に該当する教科書部分を研究しておく(予習)。講義内容を振り返る(復習)(計90分以上)。

テキスト

田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容を理解している
- (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる
- (A) 講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
- (S) 講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

I C T機器を活用するとともに、アクティブラーニング型の授業形式を取り入れる。

科目名	教職入門					学期	前期		
副題	教職の意義および具体的な内容を解説する				授業方法	講義	担当者	鈴木清久	
ナンバリング	G-17-181	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

今日の学校教育の現状と課題、学校教育に係る法令と教職の意義、様々な教職観と教員の役割、答申等に示される教員像、学校組織と教員の職階、教員の職務内容と校務分掌、学習・生徒指導と学級担任の役割、服務・身分上の義務と身分保証、教育改革と教員研修、いじめ・問題行動への対応と保護者対応、リスクマネジメントと危機管理、学校組織の課題とチーム学校力の向上、進路決定と自己変容等について、事例研究を取り入れて解説する。

授業の到達目標

・学校教育の目的と教職の意義、教員の役割、必要な資質・能力を理解する。・教員の職務内容、服務と身分保証、職責の遂行と研修について理解する。・複雑・多様化する教育課題に、チーム学校で対応する重要性を理解する。・より良い自己実現に向けて、自己の適性と教職の職業的特性を理解する。学校力の向上、進路決定と自己変容等について、事例研究を取り入れて解説する。

授業計画

1. 児童・生徒の実態と学校教育の現状及び課題について説明する。
2. 学校教育及び教職に係る法令、教員免許の取得と採用試験・任用について説明する。
3. 教職の意義と自己のキャリア形成、求められる資質・能力と自己変容について説明する。
4. 様々な教職観の変遷と教員の存在意義、期待される教員像について説明する。
5. 学校組織と教員の種類及び職階、社会的使命について説明する。
6. 教員の全ての職務内容と校務分掌、校務分掌の改善・充実について説明する。
7. 「確かな学力」の形成に向けて教員の職務と学校の取り組みについて説明する。
8. 生徒指導の推進に向けて教員組織の現状と課題、課題解決に向けた実践について説明する。
9. いじめ問題等の現状と課題、課題克服に向けたPDCAサイクルについて説明する。
10. キャリア教育の推進に向けた教育課程の改善、教員と保護者・地域の連携について説明する。
11. 教員の職務・課題別研修、専門・教養研修と教員への役割期待・役割達成について説明する。
12. 教員の職務と根本規準、服務上及び身分上の義務について説明する。
13. 学校の危機管理とリスクマネジメント、学校評価について説明する。
14. 学校評議員・学校運営協議会制度、学校組織の課題、チーム学校づくりについて説明する。
15. 生涯学び続ける教員であるための進路選択・自己決定・自己責任について説明する。定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

①毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。(60分) ②教職関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60分) ③授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60分)

テキスト

『新しい教職基礎論』2019.3 (伊藤一雄他著サンライズ出版) 書店で購入

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験 (80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート (20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
 (B) 教員の職務や服務内容、期待される教員の在り方について、テキストを見ながら説明できる。
 (A) 複雑・多様化する学校教育の課題や子どもの指導・支援に、教員が「教職実践力」を身に着けることが大切であることを、テキストや参考書を見ながら自分の言葉で説明
 (S) 子どもに「生きる力」を育む視点から、学校教育の改善・充実に向けた「チーム学校」づくりの必要性と教職員が努力すべき事項について、テキストや参考書を見ずに自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は次の授業で解説を行う。

その他

・公教育に携わる教職員には法令順守が求められているので、学校教育並びに教職員の人事に係る法令について十分な学習に努めて欲しい。・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等は、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。・ICTを活用するとともに、アクティブラーニングの授業を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ちどのような授業内容か)

公立学校教員及び管理職、教育行政での勤務経験のある教員が、管理職の職務(学校経営・運営)、(教職員、児童・生徒、学校保健、学校財務運営等)の校務、教育行政(学校、人事、研修、教員採用試験等)の業務、また、長年担当した教育相談のスキルやノウハウ等の経験を活かして、実践的な立場からの講義や情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	教育心理学						学期	前期	
副題	児童生徒の心身の発達及び学習の過程				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	G-17-182	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校現場における生徒の課題や問題解決に必要な知識を習得すると共に、より有効な教授・学習方法について理解を深めていく。学習をより効果的に習得できるように、言語の発達、記憶のメカニズム、学習のプロセスについて学ぶ。さらに学習の評価についても学ぶ。生徒の成長・発達を理解することで、より効果的な学習ができるように、人間の発達段階について学ぶ。特別な配慮や支援を必要とする生徒についての理解を深める。

授業の到達目標

・学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的に指導し、良い結果を得るための心理学的知見を知る。・人間の発達を理解し、生徒の心身の発達と認知機能や言語の発達とを関連づけて理解する。・学習と評価の問題について理解を深める。・発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育心理学とは何かについて概観する。
2. 発達過程と教育の関連について。現代の子どもの心理学的特性を理解する。
3. 様々なライフサイクル論の紹介。エリクソンのライフサイクル論・乳児期から遊戯期について学ぶ。
4. エリクソンのライフサイクル論・児童期・青年期の課題と特徴および学習との関連性を知る。
5. エリクソンのライフサイクル論・人生の後半と若い世代への関わりあいについて学習する。
6. 学習のメカニズムについて学ぶ。動機づけ、記憶のメカニズム等。
7. 学習効果と自尊感情の関連性について理解する。「無気力」について学習する。
8. 知的能力の発達について学ぶ（表象的思考の発達と創造性の発達。）
9. 学習指導の心理学的理論を紹介する。プログラム学習と協同学習について学ぶ。
10. 学習意欲と教育評価について学ぶ。
11. 発達障害（LD、ADHG など）について理解する。発達障害（LD、ADHG など）について理解する。
12. 生徒の問題行動とその対応法について考察する（いじめ、不登校、引きこもり等）。
13. 生徒の不適応とストレス対処法について学ぶ。スクールカウンセラーの役割について考える。
14. 特別な支援を必要とする生徒について理解を深める（事例を通して学習する）。定期試験。
15. 自己指導能力を発達させる方法を学ぶ。これまでの学習の総括を行う。

準備学習(予習・復習)・時間

授業の前に必ず教科書の該当箇所を読んでおくこと。配布している問題集形式のプリントを解答しておくこと。(90分) 授業後は、専門用語を中心として自分で学習内容をノートにまとめ、問題集形式のプリントを再確認しておくこと。(90分)

テキスト

桜井茂男編『たのしく学べる最新教育心理学—教職に関わるすべての人に（改訂版）』、図書文化社、2017年（書店で購入）

参考書・参考資料等

伊藤良高・永野典詞・大津尚・中谷彪編『子ども・若者政策のフロンティア』、晃洋書房、2012年

学生に対する評価

小レポートの提出（20％）・出席状況およびディベート等の状況（25％）・学期末試験（55％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習のメカニズムを理解している。
- (B) 様々な学習方法を説明できる。
- (A) 自尊感情と学習の成果の関連を説明できる。
- (S) 様々な学習評価を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや授業の指導案を添削して返却する。

その他

テーマを決めてプレゼンテーションをしてもらおう。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間の中学校・高等学校国語科教諭としての経験やスクールカウンセラーとしての経験を活かし、生徒がやる気を持てるような指導や学級の雰囲気作りを、理論を学ぶと同時に実践的な事例を伝える授業にする。

科目名	教育社会学						学期	後期
副題	教育の実態を考える				授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	G-17-183	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

学校をめぐる諸問題について説明し、どのような問題があるのかを検討する。授業を通して、社会的な視点を養う。

授業の到達目標

教育の中心に置かれてきた学校を社会的な視点から理解し、どのような課題があるのかを説明できるようになる。

授業計画

1. 教育社会学とはどのような学問かについて説明する。
2. 学校をめぐる状況の変化（1）子どもの生活の変化について説明する。
3. 学校をめぐる状況の変化（2）少年犯罪・児童虐待について説明する。
4. 学校をめぐる状況の変化（3）いじめ、校内暴力について説明する。
5. 学校をめぐる状況の変化（4）不登校について説明する。
6. 学校をめぐる状況の変化（5）学歴社会、格差社会、子供の貧困について説明する。
7. 学校をめぐる状況の変化（6）少子化・未婚化・晩婚化について説明する。
8. 社会の変化と学習指導要領の改訂について説明する。
9. 教育基本法改正問題について説明する。
10. 諸外国の教育事情・教育改革の動向を説明する。
11. 地域と学校の連携と協働について説明する。
12. 開かれた学校づくりについて説明する。
13. 学校安全の必要性について説明する。
14. 生活安全、交通安全、災害安全における課題について説明する。
15. 持続可能な社会における教育について説明する。

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90分）。

テキスト

特に定めない。

参考書・参考資料等

酒井朗・多賀太・中村高康編著『よくわかる教育社会学』（ミネルヴァ書房、2012年）、吉田武男監修、飯田浩之・岡本智周編著『MINERVA はじめて学ぶ教職 教育社会学』（ミネルヴァ書房、2018年）、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育社会学の基本用語が説明できる。
- (B) 教育の問題について説明できる。
- (A) 講義内容を理解し、社会的に説明できる。
- (S) 現在の学校教育の問題について自分の意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

真剣に教師を目指す者のみ受講すること。・教育問題についてテーマを設定し、ディスカッションする。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教師として指導した経験をもとに、学校や生徒の実態を講義する。

科目名	特別支援教育					学期	前期		
副題	特別な教育的ニーズのある生徒の理解と支援				授業方法	講義	担当者	宮本直美	
ナンバリング	G-17-184	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	1	他	A・I

授業の目的と概要

1. 特別支援教育に関するこれまでの歴史や日本社会の法的支援の現状を理解する。2. 特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒（障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童、生徒も含む）の現状を理解し、その教育の在り方について修得する。

授業の到達目標

1. 特別支援教育の在り方を理解し、幼児、児童、生徒（以下、生徒等）への援助や支援ができるようになるための基礎力を身に付ける。2. 特別の支援を必要とする生徒等、及び障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒等の教育課程や支援体制の構築、援助や支援の方法について理解し、説明できるようになる。

授業計画

1. 特殊教育から特別支援教育への変遷と特別支援教育の理念
2. 特別支援教育の概要と特別教育を推進するための仕組み
3. 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱の理解とそれらの状態にある生徒等の学習上又は生活上の困難について
4. 知的障害、発達障害のある生徒等の理解と指導方法、及び支援方法について
5. 特別支援学校と特別支援学級、及び通級による指導の教育課程上の違いと自立活動について
6. 障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等の支援の在り方について
7. 特別支援教育コーディネーターの職務と職員も含めた「チームとしての学校」の役割について
8. 多様な教育的ニーズのある生徒等の学びを保障するための先進的取組を行っている事例の紹介

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：講義時に配布する資料や紹介した文献、教示したテキストの当該箇所を読み、疑問点等を含めて内容について整理しておくこと。事後学習：毎回当日の講義内容に関する課題を出すので、次回講義時に提出すること（計90分以上）。

テキスト

よくわかる！教職エクササイズ5 特別支援教育 石橋裕子・林幸範 ミネルヴァ書房（書店で購入）

参考書・参考資料等

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 著『特別支援教育の基礎・基本 2020』 ジアース教育新社、2020年 本田秀夫著 『マンガでわかる発達障害の子どもたち』SBクリエイティブ株式会社、2023年

学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出するレポート（30%）、授業中の発言や発表、グループワークやプレゼンへの取り組み等授業への参加状況（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができる。
- (B) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができ関心が深まる。
- (A) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）に関心をもち、積極的に理解を深めようとする意欲がある。
- (S) 特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等）の支援に関心もち理解を深め、積極的に支援に参加しようとする意欲が深まる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題は添削し次回の講義時に返却し、理解力を高める。質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークや学生によるプレゼンテーションを行う科目である。ICTを活用し、Webclass等によって動画視聴や課題提出を求める授業である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

授業4～7において、発達障害のある生徒等や障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等への指導と支援について、通級や特別支援コーディネーター担当者として従事した教員の体験を踏まえ、具体的な事例を通して講義、演習を行う。

科目名	教育課程論						学期	後期	
副題	カリキュラムの意義・内容について解説する				授業方法	講義	担当者	鈴木清久	
ナンバリング	G-17-185	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

教育課程の意義と今日的課題、カリキュラムの変遷と教育課程の類型・特徴、学習指導要領の改訂の歴史と内容及び社会的背景、教育課程改革と新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の役割と機能、カリキュラム・マネジメントとアクティブラーニング、教科等横断的なカリキュラム編成と方法及び指導計画の作成、キャリア教育と学校改善、教育課程の評価と改善等について、学校現場での事例を紹介しながら解説する。

授業の到達目標

・教育課程の意義、カリキュラムの類型と特徴、学習指導要領の変遷及び性格と位置付け、教育課程の社会的役割や機能について理解する。・「主体的・対話的で深い学び」を育む教育課程編成の原理と方法、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性、アクティブラーニングについて理解する。・教科等横断的な教育内容の選択と配列、カリキュラム・マネジメントの視点に立つ長期的指導計画の作成、カリキュラム評価と改善について理解する。

授業計画

1. 学校における今日的課題と教育課程の意義と役割・機能について説明する。
2. カリキュラムの歴史的変遷と教育課程の類型・特徴について説明する。
3. 我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。(明治～昭和)
4. 我が国の教育課程改訂の歴史とその内容及び社会的背景について説明する。(平成～現在)
5. 学習指導要領の性格及び位置付け、関連する法令について説明する。
6. 中央教育審議会答申が示す教育課程改革の構造及び特徴について説明する。
7. 学習指導要領改訂の特徴と改善の方向性について説明する。
8. 学習指導要領の枠組みと『総則』に示す改訂のポイントについて説明する。
9. カリキュラム・マネジメントの意義と重要性及び3つの側面、方法について説明する。
10. カリキュラム・マネジメントと教育課程のPDCAサイクルについて説明する。
11. 「主体的・対話的で深い学び」のアクティブラーニングについて説明する。
12. 育成を目指す資質・能力から教科等横断的な教育内容の選択・配列について説明する。
13. 教科等横断的な視点からのカリキュラム編成と指導計画の作成について説明する。
14. 保護者及び地域と協働したキャリア教育の推進と学校改善について説明する。
15. チェックリストを活用した教育課程の評価と改善について説明する。定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

①毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。(60分) ②教育課程関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60分) ③授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60分)

テキスト

『教育課程論のフロンティア』2019.3改訂版(大津実他著晃陽書房)

参考書・参考資料等

・『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(文部科学省)・授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
 (B) 教育課程の意義や編成原理、学習指導要領の内容について、テキストを見ながら説明できる。
 (A) カリキュラム・マネジメントの視点からの教育課程のPDCAサイクル、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について、テキスト等を見ながら自分の言葉で説明できる。
 (S) 教科等横断的な視点に立ったキャリア教育推進の年間計画の策定やカリキュラムづくりの留意点について説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。・振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は、次の授業で解説を行う。

その他

・教育基本法等の学校教育関連法令については、十分な学習に努めて欲しい。・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等については、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立学校教員及び管理職、教育行政等の勤務経験のある教員が、学校現場での学習指導・生徒指導等の教育実践や学校経営、教育行政の所管する教育課程等に係る資料の編成や教職員研修、教員採用試験担当等の経験を活かして、実践的な立場からの講義と情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	道徳教育指導論						学期	後期	
副題	道徳の理論及び指導法				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	G-17-186	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

1、道徳の意義と本質、2、学校教育における道徳教育、3、道徳科指導法を学ぶ。

授業の到達目標

道徳教育における実践的指導力を身につけることを目標とする。そのために、道徳の意義や原理を理解する。また、学校教育全体における道徳教育の意義と、その中核となる道徳科目標、内容を理解する。

授業計画

1. 道徳とは何か 1、その本質について学ぶ。
2. 道徳とは何か 2、主要な道徳理論を学ぶ。
3. 道徳教育の歴史を解説する（西洋）。
4. 道徳教育の歴史を解説する（東洋）。
5. 現代社会における道徳とは何か理解する。
6. 学習指導要領における道徳教育の目標を知る 1
7. 学習指導要領における道徳教育の目標を知る 2
8. 子どもの道徳性の発達について学ぶ。
9. 道徳科指導法について説明する。
10. 道徳科の教材と授業計画について解説する。
11. 道徳科指導案作成を行う。
12. 学生による模擬授業を行う。
13. 学生による模擬授業を行う。
14. 模擬授業の振り返りと授業改善の方法を検討する。定期試験。
15. 道徳科の学習評価を解説する。

準備学習(予習・復習)・時間

予習として、授業で用いる資料を読む。道徳教育の読み物資料等について、生徒に伝えたいこと、自分の考えをまとめておく。(90分) 復習として、配布資料を読み直し、ノートに整理してまとめる。指定した参考文献を読んでおく。(90分)

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』、2017年 文部科学省『中学校学習指導要領』、2017年

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』、2017年 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』、2017年 走井洋一（編著）『道徳教育の理論と方法』ミネルヴァ書房、2020年 田沼茂紀（編著）『道徳科重要用語辞典』明治図書、2021年

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 道徳的徳目を六つ以上言える。
 (B) 集団や社会生活において重視される道徳的価値を説明できる。
 (A) 生命や自然、崇高なものを敬う気持ちの大切さを理解している。
 (S) 国際理解と道徳の関連性を理解し、生徒に指導する方法を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや授業の指導案を添削して返却する。

その他

授業中のディスカッションや、指導案作成・模擬授業などを実施する。主体的な姿勢で臨むことが期待される。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間中学校・高等学校国語科教諭として勤務し、道徳教育に携わった経験を活かし、実際に使われている道徳教材を積極的に活用して、アクティブラーニングの授業を展開する。

科目名	総合的な学習の時間・特別活動						学期	前期
副題	総学・特活の特徴・内容・方法を解説する				授業方法	講義	担当者	鈴木清久
ナンバリング	G-17-187	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

学習指導要領において特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。授業では、学校生活(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)において学習指導要領の内容について具体的に事例を挙げながら学ぶ。総合的な学習の時間についても、探求的な見方考え方を働かせることを、横断的・総合的な学習の課題を通して学ぶ。指導案作成や教材研究、模擬授業を通して、教師になった時の実践力を身につける。さらに、教育活動の基礎にある人間の成長発達理論や教育学の理論も学ぶ。指導案作成や教材研究、模擬授業を通して、教師になった時の実践力を身につける。さらに、教育活動の基礎にある人間の成長発達理論や教育学の理論も学ぶ。

授業の到達目標

・特別活動の意義、目標について理解する。・学習指導要領の内容を理解し、特別活動を構成している教育活動の指導方法を学ぶ。・総合的な学習の時間の意義を理解し、指導案を作成し模擬授業を行う。・人間の成長・発達の理論や教育学の代表的な基礎理論を理解する。

授業計画

1. オリエンテーション。授業計画の説明。特別活動の意義と役割について学ぶ。
2. 学習指導要領から「特別活動」の意義や内容について学ぶ。「隠れたカリキュラム」について学ぶ。
3. ホームルーム活動について学ぶ。役割の取得と人間関係構築について考える。
4. ホームルーム活動の指導案の作成。(公共の精神や生き方・在り方を考える。)
5. ホームルーム活動の模擬授業。
6. 学校行事の意義や内容について学ぶ。
7. 学校行事の具体的な実践研究とプレゼンテーション。
8. 生徒会活動とクラブ活動の意義を学ぶ。具体的実践例とプレゼンテーション。
9. 総合的な学習の時間について学ぶ。(目的・経緯、課題など)
10. 総合的な学習の時間の指導案作成と教材研究。(食育・国際理解・ボランティア等)
11. 総合的な学習の時間の模擬授業。
12. J. デューイの教育についての理論を学習する。
13. 人間の成長・発達の理論と青年期の課題について学ぶ。
14. 特別活動から見た学校の現状と課題を考える。特別活動の評価についてディスカッションを行う。
15. これまでの学習を振り返り、特別活動のまとめと今後の課題を整理する。定期試験は実施しない。

準備学習(予習・復習)・時間

配布する授業の資料を読む。(40分) 学習指導案や授業計画、模擬授業の準備を進めていく。(50分) 授業後は、配布プリントや資料から、要点をノートに整理してまとめる。(60分) 授業で行われた指導案作成などを見直す。(30分)

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』の特別活動編。(配布する。)

参考書・参考資料等

田中耕治編著、『よくわかる授業論』、ミネルヴァ書房

学生に対する評価

小レポートの提出(10%)、指導案の提出(15%)、模擬授業・プレゼンテーション(20%)、学期末レポート(55%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 特別活動の目標と意義が言える。
 (B) 総合的な学習の目的と経緯を説明できる。
 (A) ホームルーム活動や学校行事の意義を説明できる。
 (S) デューイの教育理論に沿って体験学習の教育的意義を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートや学習指導案等は添削して返却する。

その他

毎回出席を取る。ICT機器を活用しながら、同時にアクティブラーニングの授業形式を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

18年間の高等学校国語科教諭の経験を活かして、具体的な学級運営の事例などを紹介しながら、学校生活で特別活動の果たす役割を実践的に伝え、学生に考えてもらう授業を行う。

科目名	教育方法論・ICT活用論						学期	前期
副題	教育の方法及び技術(ICTの活用含む)				授業方法	講義	担当者	佐々木聡
ナンバリング	G-17-188	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

・これからの社会を生きる生徒の資質・能力を育成するために必要な教育の方法と技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。・情報通信技術を活用した学習指導や校務運営、ならびに生徒の情報活用能力の育成に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の到達目標

教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する基礎的な知見について学んだ上で、教材作成や指導案作成の演習を通じて実践的な技能を身に付ける。

授業計画

1. 導入（教育方法の理論、情報通信技術活用の意義、教師に求められる指導力）
2. 学習をめぐる理論（学習理論とその応用、学習における他者の役割）
3. 授業を構成する要件（学級、生徒、教員、教室、ICT機器を含む教具、デジタルコンテンツを含む教材）
4. 授業の基礎技術（話し法、板書、ICTを用いた情報提示）
5. デジタルコンテンツの特長
6. 評価の理論と方法（ICTによる教育データ（スタディ・ログなど）の活用を含む）
7. 主体的・対話的で深い学びを実現する授業（授業デザインとICT活用）
8. 個別最適化された学びとICT
9. 各教科等と情報活用能力（教科横断的な指導と各教科等の特性に応じた指導）
10. 学習指導案の作成方法
11. 情報モラルを中心とした情報活用能力の内容とその指導法
12. 特別支援教育におけるICT活用
13. ICTによる学びの保障（遠隔・オンライン教育）
14. 校務の情報化と教育データの活用
15. ICT活用のための校内体制と外部連携

準備学習(予習・復習)・時間

予習としては、事前に指示された資料を読み込み、質問ができるように準備すること（90分）。また、取得予定免許の教科の指導法における指導案を確認しておくこと。復習としては、配布資料を読み直し、ノートに整理してまとめること。また、指定した参考文献を読んでおくこと（90分）。

テキスト

・田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之（2019）『改訂版 新しい時代の教育方法』有斐閣・稲垣忠・佐藤和紀（2021）『ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして』北大路書房

参考書・参考資料等

・文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成29年告示）」・文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」・石井英真・鈴木秀幸（2021）『ヤマ場をおさえる学習評価 中学校』図書文化・杉江修治（2011）『協同学習入門 基本の理解と51の工夫』ナカニシヤ出版

学生に対する評価

授業中の課題への取組（20%）、教材・指導案（40%）、レポート試験（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義の内容の概要を理解している。
 (B) 講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
 (A) 講義の内容を、思想的歴史的背景から理解できる。
 (S) 講義の内容を、自分なりに批判的に検討出来る。

課題に対するフィードバックの方法

課題（授業内でのディスカッション等）へのコメント、指導案の添削、模擬授業へのコメント

その他

授業中のディスカッションや、指導案作成・模擬授業などを実施する。主体的な姿勢で臨むことが期待される。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験を活かし、理論を実際にどのような形で生かすのかを伝える授業にする。

科目名	生徒指導・進路指導						学期	後期	
副題	生徒指導・キャリア教育の理論及び方法				授業方法	講義	担当者	佐々木聡	
ナンバリング	G-17-189	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われるものである。進路指導とキャリア教育は共に、生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的な展望からの人間形成を目指す教育活動である。生徒指導および進路指導・キャリア教育の指導の原理を学び、指導の実際の在り方を考えていく。

授業の到達目標

・学校教育における生徒指導の目的と原則(ガイダンス)を理解する。・教育課程における生徒指導および進路指導・キャリア教育の役割を理解する。・問題行動の社会的背景と集団指導・個別指導の原理を理解する。・ガイダンスの特性を生かした進路指導・キャリア教育を考える。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画。生徒指導・進路指導を学ぶにあたっての留意点を説明する。
2. 日本の生徒指導の歴史的系譜。世界の生徒指導を比較して学ぶ。
3. 現代の生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義と課題を考える。
4. 問題行動と生徒指導の在り方について学習する(不登校の問題をディスカッションする。)
5. いじめ問題を考える。(文科省によるいじめの定義と類型化の紹介。いじめ防止対策。)
6. 生徒指導で直面する現代の問題(ブラックバイト、若者の貧困等)を理解する。DVD鑑賞。
7. 非行の問題を考える。—新しい荒れと言われる少年非行の問題—(ディスカッションを行う。)
8. カウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。(事例研究から。)
9. 進路指導におけるガイダンスの役割について理解する。
10. 進路指導・キャリア教育の視点から体験活動や授業の改善を考える。
11. キャリア教育についての理解。キャリア教育の本質を考える。
12. キャリア教育の基本原理を学ぶ。(ブルデュー、スーパー、パーソンズの理論から。)
13. 「キャリアの時間軸」、ライフキャリアを考える。キャリアイベント、キャリアリスク等について学習する。
14. 生徒指導および進路指導・キャリア教育に関して、地域との連携について学ぶ。定期試験。
15. これからの生徒指導・キャリア教育に求められることを考える。これまでの学習のまとめを行う。

準備学習(予習・復習)・時間

事前に配布する資料を読んで、分からないところや疑問点をリストアップしておく。(60分) 事前に配布する問題集のプリントに目を通しておく。(30分) 授業後は専門用語を中心に学習した内容をノートにまとめ、問題集のプリントの見直しをする。(90分)

テキスト

文部科学省「生徒指導提要(改訂版)」、2022年 伊藤一雄(編著)『新・教育指導の理論と実践』、サンライズ出版、2007年

参考書・参考資料等

伊藤一雄『キャリア開発と職業指導』、法律文化社、2011年 全米キャリア発達学会(著)、仙崎武・下村英雄編(訳)『D.E. スーパーの生涯と理論』、図書文化社、2013年

学生に対する評価

小レポートの提出(20%)、出席状況とディスカッション等の参加状況(25%)、学期末試験(55%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 生徒指導の目的と理念を言える。
- (B) キャリアエデュケーションの目的を説明できる。
- (A) 問題行動の対処に関しての地域の連携を説明できる。
- (S) 文部科学書と厚生労働省のキャリアエデュケーションの取り組みを理解している。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートや試験は必ず添削して返却する。

その他

授業中にディスカッションを実施する。主体的な参加を期待する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間の中学校・高等学校国語科教諭の経験、特に学級担任や進路指導部長を務めた経験を活かし、生徒指導や進路指導の実際の在り方や難しさを伝えることを含めて、理論と実践を学ぶ授業とする。

科目名	教育相談							学期	後期
副題	教育相談の理論及び方法					授業方法	講義	担当者	上野和久
ナンバリング	G-17-190	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

生徒が直面する様々な問題、とりわけ、いじめ、不登校、非行、発達障害などを中心に、生徒の「こころ」の問題と行動を理解し、支援する方法について学んでいく。また、思春期に発症しやすい神経症的な問題や精神疾患について、さらには教師のメンタルヘルスの問題についても学ぶ。その上で、生徒の相談に応じ、援助していくためのスキルとしてカウンセリングマインドを身につける。加えて、教育相談の経過の作成、校内体制の整備など組織的な取り組みの必要性と、地域の医療・福祉・心理の専門機関との連携の意義と必要性を理解する。

授業の到達目標

・学校教育相談の意義と課題を理解する。・教育相談の背景にある問題を理解する。・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論や概念を理解する。・発達障害を理解する。

授業計画

1. オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育相談を学ぶにあたっての留意点などを説明する。
2. 教育相談とは何か。学校教育相談および生徒指導との関連について学ぶ。
3. 児童・生徒の抱える問題の理解と対応の基本姿勢について概説する。
4. 学校におけるカウンセリングマインドについて学ぶ。
5. カウンセリングの基礎的知識を学ぶ（カウンセリングマインドを身につける）
6. 学校における不適応と問題行動について。不登校を考える。
7. 学校でのいじめを検討する。
8. 非行(反社会的問題と非社会的問題)への対処方法を学ぶ。模擬教育相談の実施。
9. 発達障害について理解する。
10. 摂食障害や不安神経症、境界性人格障害などの精神・神経疾患の基礎知識を学ぶ。
11. 同一性の問題について学習する。(自己同一性の問題、並びに性同一性の問題など)
12. 国際化に伴う教育相談の紹介。(外国人未就学児童の問題など)
13. 教育相談の学校内体制の整備について学ぶ。(事例の紹介)
14. 学校教育相談と地域での連携について学習する。定期試験。
15. 教師のメンタルヘルスについて現状と対策を学ぶ。

準備学習(予習・復習)・時間

授業の前に、教科書や配布したプリントを読んで、分からないところをチェックしておくこと。(90分) 授業後は、専門用語を中心に教科書やプリントから重要なところを自分でノートにまとめておく。(90分)

テキスト

金子邦秀(監修)、伊藤一雄・児玉祥一・奥野浩之(編著)『新しい教職基礎論』、サンライズ出版、2018年

参考書・参考資料等

河村茂雄(編著)『教育相談の理論と実際—改訂版—』、図書文化社、2019年 滝口俊子『スクールカウンセリング』、放送大学、2010年 春日井敏之・伊藤美奈子(編)『よくわかる教育相談』、ミネルヴァ書房、2011年

学生に対する評価

小レポートの提出(20%)、模擬教育相談(20%)、学期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教育相談の目標と意義を説明できる。
- (B) 教師の教育相談としてのカウンセリングと一般的なカウンセリングの違いを理解している。
- (A) 発達障害にはどのようなものがあるのかを説明できる。
- (S) 教育相談の地域連携について理解している。

課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや試験などは添削して次回の授業時に返却する。

その他

テーマを選んでのプレゼンテーションを各自、1回ずつ行う。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

16年間中学校・高等学校国語科教諭として勤め、学級担任や進路指導部長として生徒や保護者からの相談に応じてきた経験や、スクールカウンセラーとしての勤務経験等を活かして、専門的な知識を、個々の生徒の個性や家庭の事情などに配慮しながら活用していけるように、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的授業にする。

科目名	宗教科教育法 I						学期	前期	
副題	宗教教育の基本を学ぶ				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G-20-191	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

学校教育における宗教教育に必要な理論と実際について学習する。宗教教育の意義について学ぶとともに、宗教科教育法を通して戦前と戦後における宗教教育の実態を探り、宗教教育のあり方について考える。そのうえで、実際の宗教教育の進め方について学習する。

授業の到達目標

宗教教育の意義を学び、宗教教育のあり方について考えを深める。

授業計画

1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（釈尊の生涯に関するもの）
2. 宗教教育とは：①宗教と宗教教育
3. 宗教教育とは：②宗教の定義
4. 宗教教育とは：③道德教育と宗教教育
5. 宗教科教育法について：①戦前の教育と信教の自由
6. 宗教科教育法について：②戦後の教育と信教の自由
7. 宗教科教育法について：③憲法、教育基本法と宗教教育
8. 宗教教育の歴史：①日本における宗教教育
9. 宗教教育の歴史：②宗教と教育の関連
10. 宗教教育の歴史：③現代青少年の宗教意識の諸相
11. カリキュラム構成の実際と計画
12. 学習指導案の作成：①祖師の生涯を確認する（釈尊と弘法大師）
13. 学習指導案の作成：②釈尊伝の授業構成を検討する
14. 学習指導案の作成：③弘法大師伝の授業構成を検討する
15. 試験およびレポート提出

準備学習(予習・復習)・時間

授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成、授業資料の収集等の準備が必要になる（計 90 分以上）。

テキスト

斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会（コピー配布）

参考書・参考資料等

①教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林②日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』鈴木出版③藤原聖子『教科書の中の宗教』（岩波新書）岩波書店④小口偉一編『宗教学辞典』東京大学出版社、他

学生に対する評価

定期試験（60％）、レポート（釈尊伝の感想文）（40％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教教育の意義を認識している。
 (B) 宗教教育の問題点と課題に通じている。
 (A) 宗教教育および仏教に関する基本知識を備えている。
 (S) 宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

各自の学習指導案に対する個別の評価を実施する。

その他

宗教科教育法は他の一般教科とは少し性格が異なる。その点を受講者は十分に留意し、主体的に学習してほしい。そのためには宗教科の教師になるという意味をよく考えることが必要である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅱ						学期	後期	
副題	宗教授業の展開を学ぶ				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	G-20-192	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

受講者全員に回数ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、高校生を対象とした宗教教育の授業内容や方法などについて学習する。

授業の到達目標

宗教教育科の授業方法や実際について体験して経験値を上げる。模擬授業を通してみた宗教教育の実際を学ぶ。

授業計画

1. シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（弘法大師の生涯に関するもの）
2. 授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（一心院谷と女人堂）
3. 教材研究と学習指導案の作成方法について解説する。
4. 学習指導案の点検、宗教科の授業方法、授業記録の作成方法を解説する。
5. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
6. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
7. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」③成道
8. 模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」④初転法輪
9. 提出された授業記録の評価を行う。次回以降の留意点を解説する。
10. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」①誕生
11. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」②青年時代
12. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」③入唐求法
13. 模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」④高野山開創
14. 授業記録の提出と反省会
15. 模擬授業全体の反省と提出された授業記録の評価を行う。レポート提出

準備学習(予習・復習)・時間

授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成、授業資料の収集等の準備が必要になる（計90分以上）。

テキスト

①中村元・田辺和子共著『ブッダ物語』（岩波ジュニア新書）岩波書店②松長有慶『空海・心の眼をひらくー弘法大師の生涯と密教ー』大法輪閣③富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所

参考書・参考資料等

①斎藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会②教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林

学生に対する評価

模擬授業（学習指導案と教材研究を含む）（80%）、レポート（弘法大師伝の感想文）（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学習指導案をまとめる授業構成力が確認できる。
- (B) 授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力をもっている。
- (A) 仏教・密教に関する基礎知識を十分にもち、教材研究においても能力が確認できる。
- (S) 宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

各自の学習指導案に対する個別の評価を実施する。

その他

宗教科の教師になるということの意味をよく考え、仏教・密教に関する基礎知識を普段からしっかり養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。模擬授業における生徒側からの観察力・批判力も重視する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅲ						学期	前期	
副題	中学生を対象とした授業方法				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	G-20-193	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

受講者全員に教回すつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、中学生を対象とした教科「宗教」の授業内容・方法について学習する。

授業の到達目標

中学生を対象とした教科「宗教」の授業方法について理解し実践方法を学んで、実際に模擬授業ができるようになる。

授業計画

1. シラバスの説明、授業の進め方等、ビデオ鑑賞（世界の宗教に関するもの）
2. 授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（奥之院「大秦景教流行中国碑」等）
3. 新聞等の記事を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
4. 映像や音声を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
5. 教材研究と学習指導案作成の方法（系統型と経験型授業）について学習する。
6. 模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（系統型授業）
7. 授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
8. 模擬授業「イスラームの歴史と教え」（経験型授業）
9. 授業の振り返り、指導記録の方法を学習する。
10. 教材研究と学習指導案作成の方法（融合型授業）について学習する。
11. 模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（融合型授業）
12. 授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
13. 模擬授業「イスラームの歴史と教え」（融合型授業）
14. 授業の振り返り、評価の種類と活用について学習する。
15. 授業全体の反省とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、普段は、模擬授業に必要な宗教に関する情報を調べてまとめておく（180分）。事前学修として、模擬授業前は、模擬授業の学習指導案を作成し（120分）、模擬授業の練習をしておく（60分）。

テキスト

村上重良『世界の宗教—世界史・日本史の理解に—』岩波ジュニア新書、岩波書店、改版：2009（絶版、図書館で借りるか古書を購入）

参考書・参考資料等

①斉藤昭俊『宗教科教育法』国書刊行会、1984、②教育実習を考える会（編）『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林、1995、③岸本英夫（編）『世界の宗教』大明堂、1965／原書房、2004。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

模擬授業（学習指導案と教材研究等を含む）（60%）、レポート（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力を有している。
- (B) 学習指導案を作成する授業構成力が確認できる。
- (A) 宗教に関する基礎知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。
- (S) 現代の宗教文化に関する知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。いかなる理由であれ模擬授業を行わなかった場合は失格とする。学生によるプレゼンテーション（模擬授業）を取り入れた科目で、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。新聞等の記事にも普段から目を向け、宗教に関する知識を養うことが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高校教員（教科「宗教」）として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、教科「宗教」の授業内容・方法について具体的に指導する。

科目名	宗教科教育法Ⅳ						学期	後期	
副題	教育免許「宗教」を目指す人の実践法を学ぶ				授業方法	講義	担当者	富田向真	
ナンバリング	G-20-194	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

・教科「宗教」の指導方法を学び、授業が円滑にできるようになることを目的とする。・教育実習Ⅰ（見学実習）を修了していることを前提として、教育実習Ⅱ（教壇実習）に向けた教授法、そして指導案作成の実際を学ぶ。また年間教育計画、期間教育計画、学習指導案の作成方法を学ぶ。

授業の到達目標

宗教科の授業内容やその教授方法を学び、さらに学習指導案や単元計画、年間授業計画の作成方法を理解することで年間を通じた授業が実践できるようになる。また、模擬授業を実践し、指導案に即した授業展開ができることを目指す。

授業計画

1. 教科「宗教」の授業計画（目的、目標、方法、評価）について学ぶ。
2. 学習指導要領に教科「宗教」がなぜないのか。その意味について理解する。
3. 年間授業計画の作成方法を学び、作成する。
4. 期間授業計画の作成方法を学び作成する。
5. 教科「宗教」の指導法について学ぶ。系統型、経験型、問答型、討論型、その他の方法
6. 系統型と経験型の学習指導案作成の方法について学び作成する。
7. 系統型授業による学習指導案の点検及び修正を行う。
8. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。
9. 授業評価の種類と方法について理解する。
10. 経験型授業による学習指導案の点検及び修正を行う。
11. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。（1）
12. 学生による模擬授業と授業記録の作成及び授業評価を互いに行う。（2）
13. 多面的に授業の評価を行うことの重要性について理解する。
14. 宗教教育の意義（1） 宗教教育の効果を考える
15. 宗教教育の意義（2） 宗教教育に求められる姿を共に考える

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習としてテキスト『青少年のための仏教読本』を熟読し、教壇に立つことをイメージした授業計画を作成しておく（60分）。また、事後学習として授業で学んだ内容を振り返り、作成した授業計画を修正しながら次の時間に備える（60分）

テキスト

富田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所発行（大師教会で販売 1200円）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（40%）、毎回の授業の取り組み（30%）、模擬授業の取り組み（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教科の授業内容やその教授方法について理解でき、指導案などが適切に作成できると認められる最低限の成績である
- (B) 宗教科の授業内容やその教授方法についての理解でき、指導案作成の内容に即した授業展開が見込めると認められる成績である
- (A) 宗教科の授業内容やその教授方法についての理解した上で指導案作成も適切であり、授業展開が実際に可能と思われる優れた成績である
- (S) 宗教科の授業内容やその教授方法についての理解した上で指導案作成も適切であり、授業展開が実際に可能と思われる、特に優れた成績である

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

宗教科授業の指導案作成の提出、また作成した指導案に基づいた模擬授業を実施する。遅刻は原則認めない（教育実習先に迷惑をかけない観点から、本学授業でも遅刻を認めないとする）。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

現在高野山高校の教諭（宗教科主任）である教員が、その経験を活かして実際の授業（宗教）について解説し、机上でなく実際の指導案作成法を教授すると共に、実際の授業展開を教育実習に向けて指導する。

科目名	国語科教育法 I							学期	前期
副題	国語科の教育方法を具体例を使って解説				授業方法	講義	担当者	鈴木清久	
ナンバリング	G-20-195	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

教材研究の方法を各単元ごとに具体的に指導する。学習指導案の作成の意義・手順などを具体的に指導する。また、指導案の書き方を学ぶ。

授業の到達目標

国語への関心を高め、表現力を伸長し、日本文化と伝統についての理解を深める。学習指導要領を通して、国語科教育の目的・目標を理解させる。

授業計画

1. 国語科教育の目的・目標（中学校と高等学校）について解説する。
2. 中学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
3. 高等学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
4. 高等学校における古典の授業の方法を具体的に考える。
5. 学習指導案とは何か。その意義と目的について解説する。
6. 教材研究の方法と指導案の作成方法（1）外山滋比古『知的創造のヒント（1）』
7. 教材研究の方法と指導案の作成方法（2）外山滋比古『知的創造のヒント（2）』
8. 教材研究の方法と指導案の作成方法（3）古文『十訓抄』一顯宗といふ笛吹き一
9. 教材研究の方法と指導案の作成方法（4）古文『竹取物語』かぐや姫のおひたち
10. 教材研究の方法と指導案の作成方法漢文「返り点のつけかた」
11. 国文法の授業の問題点と課題（口語の場合）
12. 国文法の授業の問題点と課題（文語の場合）
13. 教員による実践授業（1）現代文
14. 教員による実践授業（2）古文
15. 総括講義国語科の授業の必要性など定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく（45～60分）

テキスト

①現代の国語（第一学習社）②新編言語文化（第一学習社）③『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

参考書・参考資料等

国語科教育研究（学芸図書）

学生に対する評価

発表（50%）、レポート（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) (B) にやや劣るもの。
 (B) (S) ①②③の一部でも欠けているもの。
 (A) (S) にやや不十分な点があるもの。
 (S) 国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

その他

・単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。・ICT機器を活用しながら、アクティブラーニング形式の授業を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立高等学校で18年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法について各単元ごとに学習指導案の作成手順や授業方法など具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅱ						学期	後期	
副題	国語科の教育方法を模擬授業等を通して解説				授業方法	講義	担当者	鈴木清久	
ナンバリング	G-20-196	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

毎時間1名による模擬授業(50分)とそれに対する他の受講生の意見・批評。また教員の意見・指導(40分)。忌めない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容・教材研究・指導案の書き方などを学ぶ。

授業の到達目標

実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また、引き続き教育法Ⅰにおける各単元における指導案の書き方も研究する。

授業計画

1. ガイダンス(模擬授業の意義、指導案の目的と意義)
2. 現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の教材研究と指導案作成を解説する。
3. 現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の模擬授業を行う。
4. 古文〈物語〉「伊勢物語」の教材研究と指導案作成を解説する。
5. 古文〈物語〉「伊勢物語」の模擬授業を行う。
6. 古典文法「動詞の活用」の教材研究と指導案作成を解説する。
7. 古典文法「動詞の活用」の模擬授業を行う。
8. 高校現場で国語の授業を見学し授業記録の作成と指導法を学ぶ。
9. 高校現場で国語担当教員及び教育実習生の体験談を聞く。
10. 高校現場での体験交流を行い、円滑な模擬授業の参考にする。
11. 漢文「漁夫の利」の模擬授業と相互評価を行う。
12. 古文〈物語〉「竹取物語」の模擬授業と相互評価を行う。
13. 国語表現「報告文と手紙を書く」の模擬授業と相互評価を行う。
14. 現代文〈詩歌〉「一つのメルヘン」の模擬授業と相互評価を行う。
15. 古文〈詩歌〉「新古今集」の模擬授業と相互評価を行う。

準備学習(予習・復習)・時間

国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく(45~60分)

テキスト

国語総合(第一学習社)

参考書・参考資料等

①現代の国語(第一学習社)②新編言語文化(第一学習社)③『高等学校学習指導要領解説国語編』(文部科学省・教育出版)

学生に対する評価

定期試験(50%)とレポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)(B)にやや劣るもの。
 (B)(S)①②③の一部でも欠けているもの。
 (A)(S)にやや不十分な点があるもの。
 (S)国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

その他

・単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。・ICT機器を活用しながら、アクティブラーニング形式の授業を取り入れる。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

公立高等学校教諭として18年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法や各単元ごとの学習指導案の作成手順など具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅲ						学期	前期	
副題	国語の授業デザイン				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G-20-197	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

教壇に立って授業を展開するためには、授業者に明確な授業計画とそれを支える知識がなければならない。また、学習指導要領が改訂され、今後の国語教育は大きく変わっていく。本講義では、まず学習指導要領改訂のポイントを理解し、理想的な国語科教員のイメージと、今後求められる国語教育のあり方を考える。次に、「現代の国語」（現代文）、「言語文化」（古文）からそれぞれ題材を選び、教材研究と指導案の作成、模擬授業を通して、国語科教員としての実践力を養っていく。また、不定期に小テストを行い、基礎学力の向上を目指す。

授業の到達目標

現代文と古文の教材の指導法を習得し、実践できるようになる。

授業計画

1. ガイダンス
2. 『中学校学習指導要領 国語』の研究①—国語を学ぶ意味—
3. 『中学校学習指導要領 国語』の研究②—現代文と古文から何を学ぶのか—
4. 『高等学校学習指導要領 国語』の研究①—中学校「国語」との共通点—
5. 『高等学校学習指導要領 国語』の研究②—中学校「国語」との違い—
6. 高等学校「現代の国語」における教材研究の方法
7. 高等学校「現代の国語」における学習指導案の作成方法
8. 高等学校「現代の国語」の模擬授業—教材研究の観点から—
9. 高等学校「現代の国語」の模擬授業—学習指導案作成の視点から—
10. 高等学校「言語文化」における教材研究の方法
11. 高等学校「言語文化」における学習指導案の作成方法
12. 高等学校「言語文化」の模擬授業—教材研究の視点から—
13. 高等学校「言語文化」の模擬授業—学習指導案作成の視点から—
14. 文学史の知識とその活用法
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲について自身で調べ(60分)、事後学修として講義内容をまとめておくこと(90分)。模擬授業の準備を含む。

テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

参考書・参考資料等

①糸井通浩・植山俊宏編『国語教育を学ぶ人のために』(世界思想社、1995年) ②古田尚行『国語の授業の作り方 はじめての授業マニュアル』(文学通信、2018年) その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

模擬授業(60%)、不定期に実施する小テストならびに小レポート(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 国語を学ぶことについて、その意義を理解している。
 (B) 理想的な国語科教員像を提示できている。
 (A) 基礎学力があり、学習指導案に沿って授業ができています。
 (S) 基礎学力があり、学習指導案に沿ってわかりやすい授業ができています。

課題に対するフィードバックの方法

毎回討議を重ね、講義後、個別に質問を受け付ける。

その他

受講は国語の教員免許取得を目指す学生に限る。5分の1(3回)以上の欠席があった場合、成績は評価しない。模擬授業およびディスカッションなど、受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国語科教育法Ⅳ						学期	後期	
副題	国語の授業デザイン				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	G-20-198	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

基礎的な国語力を養成するため、評論・小説・古文・漢文の読解を通じて、その教材を学ぶ意味、教員としての知識と思考力などを養う。教材研究・指導案作成・模擬授業などを体験する。

授業の到達目標

基礎学力の向上、指導法の練成、情報機器を活用する能力の上達。教壇に立つための基盤をつくる。

授業計画

1. ガイダンス（講義の進め方、成績評価の基準）
2. 評論文の教材研究の方法について解説する。
3. 評論文の指導案作成の方法について講義する。
4. 評論文の模擬授業と授業評価を行う。
5. 小説を教材研究の視点から考察する。
6. 小説を学習指導案作成の視点から考察する。
7. 小説の模擬授業と授業評価を行う。
8. 古文を教材研究の視点から考察する。
9. 古文を学習指導案作成の視点から考察する。
10. 古文の模擬授業と授業評価を行う。
11. 漢文を教材研究の視点から考察する。
12. 漢文を学習指導案作成の視点から考察する。
13. 漢文の模擬授業と授業評価を行う。
14. 現代文を学ぶ意味について考える。
15. 古典を学ぶ意味について考える。定期試験

準備学習(予習・復習)・時間

教材研究 (60分) 指導案作成 (30分)

テキスト

使用しない。中学・高校の国語科教科書が採用している作品を用意して配布する。

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・東洋館出版）『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

学生に対する評価

教材研究（25％）、指導案作成（25％）、模擬授業（25％）、定期試験（25％）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 指導案作成・発話・板書・情報機器活用の基本ができています。
- (B) 上記について、臨機応変な対応ができる。
- (A) 上記について、教え方に分かりやすさが認められる。
- (S) 上記について、豊かな教養や教育への情熱が感じられる。

課題に対するフィードバックの方法

意見・質問などについては、授業内で対応する。 オフィス・アワーでも対応する。

その他

受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高等学校・高等専門学校における国語科の実務経験がある担当教員が、教室における生徒の反応など、想定される事態について、具体的な事例を挙げて紹介する。

科目名	教育実習の研究							学期	前期
副題	教育実習を通して必要な知識・技能等を修得				授業方法	講義	担当者	鈴木晴久	
ナンバリング	G-17-199	実務経験の有無	無	関連DP	—	単位数	1	他	A

授業の目的と概要

①教育実習の事前に、実習の構造、実習の意義、実習における学びのポイントを確認し、実習に臨む心構えを整える。②教育実習の事後、実習内容のまとめと発表を通じて、実習を振り返り、他の実習生の体験を共有化することで、実習での学びを定着させる。

授業の到達目標

教育実習を通して、学校教育の全体を体験的・総合的に理解する問い目標を達成するため、事前学習並びに事後振り返りを行う。教員としての能力や適性を確認するとともに、将来教員として行う教育実践と教育実践研究に必要な知識・技能が何かを理解する。

授業計画

1. 教育実習の構造と意義
2. 実習生の心得
3. 授業観察のポイント
4. 実習日誌の作成のポイント
5. 実習日誌作成演習
6. 教育実習
7. 教育実習
8. 教育実習
9. 教育実習
10. 教育実習
11. 実習内容の振り返り（実習生発表） 1
12. 実習内容の振り返り（実習生発表） 2
13. 実習生ディスカッション
14. 教員免許取得までに必要な知識・技能
15. 教育実習での学びを踏まえた教員像

準備学習(予習・復習)・時間

『教育実習の常識』の該当箇所を事前に研究しておく（予習）。講義内容を自ら振り返り、教育実習への準備においては実習での学習目標を明確化し、事後楽手においては、体験の深化・共有を図る（復習）（計90分以上）。

テキスト

教育実習を考える会編『教育実習の常識』蒼丘書林

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（40%）、授業における発表（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業参加において、授業技術を観察できる。
- (B) 授業参観において、授業技術をポイントごとに整理して観察できる。
- (A) 授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解できる。
- (S) 授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解し、それを授業実践に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

テストにコメントを付し、返却する。

その他

今年度の教育実習Ⅰに行く学生は、必ず「教育実習の研究」を受講すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	教職実践演習(中・高)						学期	後期	
副題	教職課程を具体的に・実践的に総括する				授業方法	講義	担当者	鈴木清久	
ナンバリング	G-17-200	実務経験の有無	有	関連DP	—	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

4年間の教職科目の学習及び教育実習を通じて、教育指導の技術の一層の進化と定着を図ることを目標とする。

授業の到達目標

4年間の教職科目の学習及び教育実習の経験などを通じて、教職に対する理解がどれだけ深まったか。教職に対する意欲がどれだけ高揚したかを確認し、具体的な指導方法の向上を図る。

授業計画

1. 本演習の目指す目標・内容について解説する。各自の教職実践演習カルテの記入。
2. 各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。
3. 教職および教師に対する見方の変化を発表する。
4. 生徒指導（反社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
5. 生徒指導（非社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
6. 教育実習で体験した生徒指導上の問題について意見交換。
7. 自分自身の学校生活を振り返っての生徒指導についての意見交換。
8. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅰ－進学希望生徒の場合－
9. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅱ－就職希望生徒の場合－
10. キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅲ－進路未決定生徒の場合－
11. ミニ模擬授業Ⅰ－授業方法と技術－
12. ミニ模擬授業Ⅰ－授業構成と評価－
13. 授業方法、授業順序、内容構成、生徒指導のかかわりについて考察する。
14. 教職実践演習カルテの記入事項の再点検と個人的課題の整理。
15. 教職実践演習カルテを記入した個々の学生に対してカウンセリングを行う。まとめ。

準備学習(予習・復習)・時間

配布資料を読んでおく。事前に配布したディスカッションや課題の発表の準備をする。(100分) 授業で用いた資料やディスカッションの内容などをノートに整理しておく。(80分)

テキスト

プリント等、資料を配布する。

参考書・参考資料等

①原田恵理子、森山賢一編著、『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版②伊藤一雄他著『新・教育指導の理論と実践』サンライズ出版 2006, 4

学生に対する評価

レポート(30%)、発表(40%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 教員として必要な最低の実務能力が身につけているか。
- (B) 教員として必要な最低の実務能力を身につけ、教職に対する理解と意欲が深まったか。
- (A) 生徒指導の基本を身につけ、教職に対する理解が深まったか。
- (S) 進路指導や職業指導の基本知識を習得しているか。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートや指導案等は添削して返却する。

その他

積極的な発言を求める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ちどのような授業内容か)

18年間の公立高等学校教諭の経験から、学校生活（教科の授業・特別活動の指導・生徒指導・進路指導など）、教師として働くということをより具体的に理解する授業にするために、ICT機器を活用しながら、アクティブ・ラーニングを基本に授業を展開していく。

科目名	空海の思想入門S						学期	前期	
副題	弘法大師空海の生涯と教え				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M-01-201	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海の教えを建学の精神にしている。そのため、大師の生涯や思想、大師への信仰を知ることが本学での学びの基本となる。本講義では、専門課程を理解する上で必要となる、基本的な弘法大師の事跡を学ぶことを目的とし、大師の生涯や思想、大師が開創した高野山などについて講義する。

授業の到達目標

・弘法大師の思想を学ぶことを通じて、密教学の基礎を涵養する。・弘法大師の思想や生涯を理解し、説明できるようにになる。・弘法大師が開創した高野山とはいかなる場所かを理解し、説明できるようにになる。

授業計画

1. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (1) 一 生誕～入唐一
2. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (2) 一 入唐～帰国一
3. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (3) 一 帰国後の活動～入定一
4. 弘法大師空海の著作
5. 弘法大師空海の教え (1) 一 即身成仏思想解説一
6. 弘法大師空海の教え (2) 一 十住心思想解説一
7. 弘法大師空海の教え (3) 一 法身説法解説一
8. 真言密教の教え一 曼荼羅解説一
9. 弘法大師信仰 (1) 一 入定信仰一
10. 弘法大師信仰 (2) 一 全国に残る大師信仰一
11. 高野山の歴史と地理
12. 高野山の諸堂解説
13. 高野山の年中行事と学道
14. 真言密教の教学一 三密行の解説一
15. 高野山の町石道

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、テキストを読んでおくこと (30分)。・事後学習として、講義内容とテキスト・配付資料を見直し、解説した思想や用語を理解すること (60分)。

テキスト

・北川真寛『はじめての「弘法大師信仰・高野山信仰」入門』(セルバ出版、2018年) 上記テキストを講師が一括で用意、もしくはコピーを配布する。・その他は、講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

・松長有慶『高野山』(岩波書店、2014年) ・川崎一洋『弘法大師空海と出会う』(岩波書店、2016年) ・その他は、講義中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート (70%)、リアクションペーパー (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な弘法大師の生涯と思想の内容を理解できる。
 (B) 基本的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
 (A) 専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
 (S) 専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

ICTを活用した講義である。密教文化コース用の講義である。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、弘法大師の生涯や思想、その信仰などを、僧侶としての立場から解説する。

科目名	漢文S					学期	通年	
副題	仏教漢文入門				授業方法	講義	担当者	木下智雄
ナンバリング	M-07-202	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

弘法大師空海の文章を読むためには、まず仏教漢文を読解する基礎を修得する必要がある。そのために必要な漢文法、難読字の読み方、特殊な用語、仏典・中国古典に関する知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを身に付ける。その仏教漢文の読解の実践として、明治期に教科書等に使用されていた訓点付き漢文をテキストに用い、読解することで、日本密教を学修・研究するための基礎的な能力を修得する。受講生は、テキストの音読を必須とする。

授業の到達目標

漢文訓読の基礎を修得する。仏教漢文の特徴を知る。難読字や専門用語を調べることができる。参考文献を見つけ、利用することができる。漢文を読解し、内容を理解することができる。

授業計画

【前期】

1. 概論（講義の進め方、参考文献紹介等）について
2. 日本漢文学史概説―漢文の受容と訓読法の確立―
3. 中国王朝史概説―訳経との関連―
4. 漢文訓読法①―漢語の字体と音韻―
5. 漢文訓読法②―漢文の文法・返り点と句法―
6. 漢文訓読法③―漢文の書き下し・文語と口語―
7. 仏教漢語解説 ①―音写語と偽梵語―
8. 仏教漢語解説 ②―字解釈・多義語と新字―
9. 仏教漢語解説 ③―熟語解釈・六合釈―
10. 仏典訓読①―『般若心経』を読む①―旧訳と新訳―
11. 仏典訓読②―『般若心経』を読む②―語義解釈―
12. 仏典訓読③―『般若心経』を読む③―意識対照―
13. 仏典訓読④―『妙法蓮華経』譬喩品を読む―構造の分析―
14. 仏典訓読⑤―『妙法蓮華経』普門品を読む―偈文を読む―
15. 仏典訓読⑥―『梵網経』を読む―偽経の成立―

【後期】

1. テキスト概説と実践演習の予習について
2. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む①―序文―
3. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む②―天竺仏法伝通―
4. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む③―農旦仏法伝通・毘曇宗・成実宗―
5. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む④―農旦仏法伝通・戒律宗・三論宗―
6. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む⑤―農旦仏法伝通・涅槃宗・地論宗―
7. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む⑥―農旦仏法伝通・浄土宗・禪宗―
8. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む⑦―農旦仏法伝通・俱舍宗・天台宗―
9. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む⑧―農旦仏法伝通・華嚴宗・法相宗・真言宗―
10. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む⑨―大日本国諸宗伝通・三論宗・法相宗―
11. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む⑩―大日本国諸宗伝通・華嚴宗・俱舍宗―
12. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む⑪―大日本国諸宗伝通・成実宗・律宗―
13. 凝然『冠導三國仏法伝通縁起』を読む⑫―大日本国諸宗伝通・天台宗・真言宗―
14. 頼宣『冠導真言名目』を読む①
15. 頼宣『冠導真言名目』を読む②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として今回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30分）。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（30分）。辞典を探し、原典を確認しておくこと（30分）。

テキスト

前期：前野直彬『精講 漢文』（ちくま学芸文庫）。後期：凝然『冠導三國仏法伝通縁起』永田文昌堂、頼宣『冠導真言名目』藤井文政堂など。※後期の演習テキストは、国立国会図書館のデジタルアーカイブで参照可能なものを利用する。

参考書・参考資料等

佐藤雅一『発展 30日完成 漢文高校初級用』（日栄社）。水野弘元『仏教要語の基礎知識』2006年 船山徹『仏教漢語語義解釈』2022年・同『仏典はどう漢訳されたのか』2013年。伊藤文『仏教漢文入門』など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文を書き下し文に出来る。
 (B) C段階に加え、難読漢字を読める。
 (A) B段階に加え、内容を精確に理解できる。
 (S) A段階に加え、専門的な疑問点を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

後期の実践演習テキストは、受講者の要望によって一部に変更することがある。授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。前期は、講義を中心とするが、後期は受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングを必要とする。

科目名	サンスクリット語S						学期	通年	
副題	サンスクリット語初級				授業方法	演習	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M-07-203	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。この授業は、学生がサンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、インド古典に対する読解力を高めることを目的とする。

授業の到達目標

・学術書におけるサンスクリット語の単語の意味を、辞書を使って調べることができるようになる。・サンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。・サンスクリット語で記された古典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

授業計画

【前期】

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 文法（1）：文字と発音
3. 文法（2）：母音の曲用
4. 文法（3）：子音の曲用
5. 文法（4）：比較法・代名詞
6. 文法（5）：数詞・不変化詞
7. 文法（6）：動詞の活用（現在組織 1）
8. 文法（7）：動詞の活用（現在組織 2）
9. 文法（8）：連声法
10. 文法（9）：準動詞
11. 文法（10）：名称詞造語法
12. 文法（11）：合成語法
13. 文法（12）：韻律
14. 文法（13）：動詞の活用（現在以外の時制の組織）
15. 文法（14）：動詞の活用（第2次活用法）

【後期】

1. 前期の講義内容の再確認
2. 読解（1）：散文の翻訳（Pañcatantra 1）
3. 読解（2）：散文の翻訳（Pañcatantra 2）
4. 読解（3）：韻文の翻訳（Bhagavadgītā 1）
5. 読解（4）：韻文の翻訳（Bhagavadgītā 2）
6. 読解（5）：韻文の翻訳（Buddhacarita 1）
7. 読解（6）：韻文の翻訳（Buddhacarita 2）
8. 読解（7）：韻文の翻訳（Buddhacarita 3）
9. 読解（8）：韻文の翻訳（Buddhacarita 4）
10. 読解（9）：韻文の翻訳（Buddhacarita 5）
11. 読解（10）：韻文の翻訳（Buddhacarita 6）
12. 読解（11）：韻文の翻訳（Buddhacarita 7）
13. 読解（12）：韻文の翻訳（Buddhacarita 8）
14. 読解（13）：韻文の翻訳（Buddhacarita 9）
15. 読解（14）：韻文の翻訳（Buddhacarita 10）

準備学習(予習・復習)・時間

・【前期】事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（90分）。・【前期】事後学習として、授業で学んだ文法事項について復習しておくこと（90分）。・【後期】事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（180分）。

テキスト

吹田隆道『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015年（小堀南岳堂書店で購入）

参考書・参考資料等

辻直四郎『サンスクリット文法』、岩波書店、1974年

学生に対する評価

発表（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文字の配列を理解し、辞書を引いて特定の単語の意味を調べることができる。
- (B) 基本的な文法事項を理解できている。
- (A) サンスクリット語の長文を、ある程度の精度で翻訳できる。
- (S) サンスクリット語の長文を、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻3回で欠席1回とみなす。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	梵字悉曇S						学期	通年	
副題	梵字悉曇(書道)				授業方法	実技	担当者	添野了	
ナンバリング	M-01-204	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

悉曇とはインド古代文字の一つであるが、日本においては弘法大師空海によって密教と共に請来され、梵語(真言・陀羅尼や種子)を読み書きするための学問(声明業)あるいは書道として相承されて来た。慈雲尊者欽光は江戸期にあって従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあらゆる梵字資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文(貝葉)を研究して、独自の書風(慈雲流)を確立した。本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

梵字悉曇の基礎知識の修得

授業計画

【前期】

1. 年間授業計画の説明
2. 梵字・悉曇の伝来と歴史
3. テキストを読みながら説明
4. テキストを読みながら説明
5. 筆を使って実習通摩多 12 文字
6. 筆を使って実習通摩多 12 文字
7. 筆を使って実習通摩多 12 文字
8. 別摩多 4 文字他
9. 別摩多 5 文字他
10. (ka) (kha) (ga) の 3 文字
11. (gha) (ña) の 2 文字
12. (ca) (cha) の 2 文字
13. (ja) (jha) (ña) の 3 文字
14. (ta) (tha) (ḍa) の 3 文字
15. (dha) (ṇa) の 2 文字

【後期】

1. 筆を使って実習 (ta) (tha) の 2 文字
2. " (da) (dha) の 2 文字
3. " (na) (pa) の 2 文字
4. " (pha) (ba) の 2 文字
5. " (bha) (ma) の 2 文字
6. " (ya) (ra) (la) の 3 文字
7. " (va) (sa) (ṣa) の 3 文字
8. " (sa) (ha) の 2 文字
9. " 重字の 2 文字
10. 塔婆の書き方
11. 刷毛書体について
12. 三尊仏について
13. 光明真言①
14. 光明真言②
15. 諸真言について

準備学習(予習・復習)・時間

配布プリントに目を通し、専門用語の意味を理解しておくこと (90 分) 授業で学んだ文字を練習しておくこと (90 分)

テキスト

松本俊彰 『慈雲流悉曇梵字入門〔基礎編〕(応用編)』、高野山出版社、2003 年 テキストについては授業にて指示する。適宜、プリント配布。

参考書・参考資料等

静慈園『梵字悉曇慈雲流の意義と実習』、朱鷺書房、1997 年 児玉義隆『梵字必携書写と解説』、朱鷺書房、1991 年

学生に対する評価

授業参加の積極性 (20%)、作品提出 (80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 習った「梵字」を正しく書くことが出来る。
 (B) 「梵字」に慣れて、上達が見られる。
 (A) きれいな梵字を書くことが出来る。
 (S) 「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法

質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

その他

書道用具を準備すること。半紙も必要である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、書道を通して、その上達を指導する。

科目名	歴史学S						学期	前期
副題	「鎌倉時代の政治過程」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎
ナンバリング	M-12-205	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

一般に、鎌倉時代は、鎌倉幕府を中心とする歴史観に立脚して論ぜられることが多かった。しかし、実際のところ、朝廷の権力も依然として影響力を残しており、公家・武家の双方向から鎌倉時代史を把握することが重要である。そこで、本講義では、最新の研究成果に基づいて、公武政権をめぐる諸問題について考察し、歴史学への関心を培う。なお、「授業計画」に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標

①鎌倉時代の政治過程を、朝廷の存在を視野に入れて理解できるようになる。②歴史学における研究史の展開、歴史観の変遷を考える視座をつちかう。③さまざまな史料に基づいて、史実を立体的に復元する意義を認識できるようになる。

授業計画

1. 鎌倉時代の政治構造①
2. 鎌倉時代の政治構造②
3. 頼朝上洛
4. 建久七年政変
5. 後鳥羽院政の成立
6. 執権政治の成立
7. 承久の乱
8. 九条道家政権と鎌倉幕府
9. 得宗専制政治の成立
10. モンゴル襲来と公武政権
11. 両統の分立と鎌倉幕府
12. 両統迭立への道
13. 後醍醐天皇の登場
14. 後醍醐天皇の討幕計画
15. 鎌倉幕府の滅亡

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、鎌倉時代に関する専門用語の意味を理解しておくこと (100分) 【復習】講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること (80分)

テキスト

①プリント・関係資料のコピー、②野口実・長村祥知・坂口太郎『京都の中世史3 公武政権の競合と協調』(吉川弘文館、2022年) ※書店などで購入。必ず講義に持参すること。プリントとあわせて随時参照する。

参考書・参考資料等

①上横手雅敬ほか『日本の中世8 院政と平氏、鎌倉政権』第2部(中央公論新社、2002年)、②村井章介『北条時宗と蒙古襲来』(日本放送出版協会、2001年)、③川添昭二『日蓮と鎌倉文化』(平楽寺書店、2002年)

学生に対する評価

レポート(100%) ※3000字以上

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 鎌倉時代に関する基礎的事項を理解している。
 (B) 鎌倉時代の政治過程について、講義の内容を踏まえて説明できる。
 (A) 鎌倉時代の政治過程について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
 (S) 鎌倉時代の政治構造について学問的に説明できるとともに、古文書の価値や研究史についても理解している。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、課題設定や執筆にむけて適宜助言し、提出後に講評する。

その他

熱意のある学生の受講や、積極的な質問を歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読み、歴史学の研究方法を自覚的に学ぶ意欲を持ってほしい。基本的に講義形式を取るが、適宜議論も行なうアクティブ・ラーニングでもあるので、受講生の積極的参加が必要である。受講者は、図書館を利用して本講義に関わる書籍を熟読するとともに、史跡などに足を運んで、歴史への関心を育むこと。

科目名	祖典講読ⅡT/真言宗典講読2(別)						学期	通年	
副題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M-01-206	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	I

授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想（特に『大日経』が説く言語論）について理解を深める。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

【前期】

- 『吽字義』とは何か（書誌的解説）
- 梵字の基礎知識を学ぶ
- 吽字の字相
- 吽字の字義
- 阿字の字義（略説）
- 阿字の実義（本初不生の実義）
- 阿字の実義（迷悟の所見、経説）
- 汗字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
- 汗字の実義（小乗・大乘よりの実践）
- 汗字の実義（六義よりの実践①）
- 汗字の実義（六義よりの実践②）
- 汗字の実義（字門道よりの実践①）
- 汗字の実義（字門道よりの実践②）
- 汗字の実義（字門道よりの実践③）
- 総括

【後期】

- 偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
- 偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
- 摩字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
- 摩字の実義（自語表徳の実義、妙用難思の実義、平等撰持の実義）
- 摩字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
- 吽字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
- 吽字の合説（字相による統括、実義による統括）
- 吽字の合説（諸乗の因果果の統括、諸経論の教理の統括）
- 吽字合説の余義（大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能満希願の義趣、堅固大力の義趣）
- 吽字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等観歡喜の義趣）
- 『大日経』の言語論① 「具縁品」を読む
- 『大日経』の言語論② 『大日経疏』を読む1
- 『大日経』の言語論③ 『大日経疏』を読む2
- 『大日経』の言語論④ 『大日経疏』を読む3
- 総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(90分)

テキスト

『十卷章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』 / 松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社） ※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等

弘法大師著作研究会『高野山大学密教文化研究所紀要別冊・『吽字義』の研究』（高野山大学密教文化研究所） / 竹村牧男『空海の言語哲学』（春秋社） など

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	宗典講読S						学期	通年	
副題	両部の大経を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M-01-207	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要

真言宗では、『大日経』と『金剛頂経』という経典が、「両部の大経」として重要視されている。両経典は、インドにおいて成立したものであり、『大日経』には漢訳・チベット語訳が、『金剛頂経』にはサンスクリット写本・漢訳・チベット語訳が、それぞれ現存している。真言密教を深く理解するためには、これらの経典の原語による読解が不可欠である。この授業は、学生が密教経典を原語で読解することにより、密教の思想に対する認識を深めることを目的とする。

授業の到達目標

・経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができるようになる。・経典の単語の意味を、インドや中国で成立した注釈書を用いて調べることができるようになる。・サンスクリット語やチベット語で記された密教経典を、品詞を理解しながら翻訳できるようにになる。

授業計画

【前期】

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 『大日経』の概要
3. 『大日経』の読解（1）：思想に関する記述の翻訳（住心品 1）
4. 『大日経』の読解（2）：思想に関する記述の翻訳（住心品 2）
5. 『大日経』の読解（3）：思想に関する記述の翻訳（住心品 3）
6. 『大日経』の読解（4）：思想に関する記述の翻訳（住心品 4）
7. 『大日経』の読解（5）：思想に関する記述の翻訳（住心品 5）
8. 『大日経』の読解（6）：思想に関する記述の翻訳（住心品 6）
9. 『大日経』の読解（7）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 1）
10. 『大日経』の読解（8）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 2）
11. 『大日経』の読解（9）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 3）
12. 『大日経』の読解（10）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 4）
13. 『大日経』の読解（11）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 5）
14. 『大日経』の読解（12）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 6）
15. 総括（授業の全体像の再確認）

【後期】

1. 『金剛頂経』の概要
2. 『金剛頂経』系の密教経典について
3. 『金剛頂経』の読解（1）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 1）
4. 『金剛頂経』の読解（2）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 2）
5. 『金剛頂経』の読解（3）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 3）
6. 『金剛頂経』の読解（4）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 4）
7. 『金剛頂経』の読解（5）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 5）
8. 『金剛頂経』の読解（6）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 6）
9. 『金剛頂経』の読解（7）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 1）
10. 『金剛頂経』の読解（8）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 2）
11. 『金剛頂経』の読解（9）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 3）
12. 『金剛頂経』の読解（10）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 4）
13. 『金剛頂経』の読解（11）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 5）
14. 『金剛頂経』の読解（12）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 6）
15. 総括（授業の全体像の再確認）

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（180分）。・事後学習として、授業で学んだ内容について復習しておくこと（90分）。

テキスト

・『大日経』（漢訳・チベット語訳） ※担当者がコピーを配布する。・『金剛頂経』（サンスクリット語・漢訳・チベット語訳） ※担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・頼富本宏、『『大日経』入門 一慈悲のマンドラ世界一』、大法輪閣、2000年・頼富本宏、『『金剛頂経』入門 一即身成仏への道一』、大法輪閣、2005年

学生に対する評価

発表（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができる。
 (B) 『大日経』・『金剛頂経』の原書を、ある程度の精度で翻訳できる。
 (A) 『大日経』・『金剛頂経』の内容を、注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
 (S) 『大日経』・『金剛頂経』の原書を、注釈書や先行研究を用いた上で、正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻3回で欠席1回とみなす。・調査学習を取り入れた科目である。

科目名	密教学特殊講義Ⅴ						学期	前期
副題	弘法大師伝				授業方法	講義	担当者	櫻木潤
ナンバリング	M-01-208	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

弘法大師空海の生涯を歴史学の視点から概観する。歴史学においては、史料をもとに考察するが、弘法大師空海の生涯については、空海の著述そのものが第一級の史料となる。本講義では、できる限り、空海の著述をもとにして生涯の軌跡をたどる。また、平安時代初期の基礎史料となる『日本後紀』は大部分が欠失しているため、空海の著述は平安時代初期の研究において貴重な一次資料となる。空海の生涯をたどるとともに、その著述を通して平安時代初期の社会について考察することを目指す。

授業の到達目標

弘法大師空海の著述を読み解きながら、その生涯を理解するとともに、空海が活躍した平安時代初期の社会のあり様をふまえて、日本の歴史上におけるその生涯の位置づけを考察することができる。

授業計画

1. 弘法大師空海のイメージ史実と伝承ー
2. 弘法大師空海が活躍した時代ー律令体制成熟期の社会ー
3. 誕生と青年時代ー『三教指帰』序文を読むー
4. 虚空蔵求聞持法の実修から『聾聵指帰』の撰述ー『聾聵指帰』序文を読むー
5. 唐代密教の隆盛ー『大日経』『金剛頂経』の流伝と不空・惠果ー
6. 長安での日々ー『御請来目録』からたどるー
7. 嵯峨天皇と空海ー『性靈集』にみる交流ー
8. 伝教大師最澄との交流ー『高野雄筆集』からみた交流ー
9. 真言密教の流布ー「勸縁疏」を読むー
10. 高野山の開創ー「高野山開創の上表文」を読むー
11. 真言密教による護国ー東寺・神護寺・御七日御修法ー
12. 真言密教による衆生救済ー満濟池と綜芸種智院ー
13. 真言宗の開宗ー真言宗年分度者の勅許ー
14. 弘法大師信仰の成立ー空海以後の真言宗ー
15. 平安時代初期の社会と弘法大師空海の生涯ー歴史学からみた弘法大師空海ー

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：事前に配信するレジュメ（配布資料）を読み、辞書等で用語・語句を調べる（60分） 事後学習：授業で取り上げた空海の著述を熟読し、その内容を理解する（90分）

テキスト

テキストは使用せず、事前に配信するレジュメや史料にもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂宥勝『沙門空海』（ちくま学芸文庫、1993年）／高木神元『空海の座標』（慶応義塾大学出版会、2016年）／松長有慶『空海』（岩波新書、2022年）／吉川真司『聖武天皇と仏都平安京』（講談社学術文庫、2018年）／佐々木恵介『平安京の時代』（吉川弘文館、2014年）

学生に対する評価

毎回の授業コメント（60%）と期末レポート（40%）によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 弘法大師空海の生涯について理解する。
 (B) 弘法大師空海の著述をもとに、その生涯を理解する。
 (A) 平安時代初期の社会のあり様から弘法大師空海の歴史的な位置を説明することができる。
 (S) 弘法大師空海の著述や他の歴史資料から弘法大師空海の歴史的な位置づけを考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

歴史学は文献を読むことだけではなく、フィールドワークによる現地調査も不可欠である。授業に関連する現地を実際に訪れ、多角的に歴史事象を検討することを心がけてほしい。受講生の希望があれば、現地見学の手配を設ける予定である。

科目名	仏教学特殊講義S						学期	前期	
副題	古代インド思想から見た仏教				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M-02-209	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

バラモン教の思想と仏教のそのの徹底的な相違点を解明する。

授業の到達目標

バラモン教の思想と仏教のそのの徹底的な相違点を理解すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. バラモン教の誕生
3. バラモン教思想の特徴①
4. バラモン教思想の特徴②
5. ユパニシャッド哲学の特徴①
6. ユパニシャッド哲学の特徴②
7. 初期仏教思想①
8. 初期仏教思想②
9. 大乘思想の特徴①
10. 大乘思想の特徴②
11. 宗教の誕生
12. 密教とは何か？①
13. 密教とは何か？②
14. まとめ
15. 試験もしくはレポート

準備学習(予習・復習)・時間

予習として、次回のテーマについて調べておくこと。(60分)、復習として、講義で行った内容を見直し、理解を深めること。(90分)

テキスト

担当者作製『仏教とバラモン教』の資料を配布する。

参考書・参考資料等

参考書、参考資料は、授業内で必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

学期末に行う試験もしくはレポートで評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) バラモン教思想の特徴を理解している。
- (B) 初期仏教における要の思想を理解している。
- (A) 初期仏教と大乘の違いを説明することができる。
- (S) 密教とは何かについて答えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は、授業の中で指示する

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊講義T						学期	前期	
副題	心とは何か I				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M-03-225	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乘仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 心について－ことばの多義性－
3. 心について－各宗教の思想－
4. 心について－現代の場合－
5. 心について－仏教の思想－
6. 仏教について－歴史的多様性－
7. 仏教について－地域的多様性－
8. ゴータマ・ブッダ－苦の自覚－
9. ゴータマ・ブッダ－苦からの解放－
10. ゴータマ・ブッダ－直弟子たち－
11. 初期仏教経典－釈迦の直説は現存するか－
12. 最古層の仏典－心への配慮－
13. 最古層の仏典－執着と煩惱－
14. 初期仏教－五蘊、心・意・識－
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

講義内容の要点をノートに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30分）

紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

テキスト

竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）
上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

①相良亨『一語の辞典こころ』三省堂、1995、②竹村牧男『入門 哲学としての仏教』講談社現代新書、講談社、2009、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編 [改訂版]』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教についての基礎的な事項を理解している。
 (B) 仏教における心についての各思想を理解している。
 (A) 仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
 (S) 仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	真言密教特殊講義T						学期	前期	
副題	梵字悉曇(慈雲流)の意義と実習				授業方法	講義	担当者	五十嵐啓道	
ナンバリング	M-01-210	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

悉曇は弘法大師空海によって密教と共に日本に傳來され、梵語(真言陀羅尼や種子)を読み書きするための学問あるいは書道として相承されて来た。慈雲尊者飲光は江戸期にあって従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあらゆる梵文資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文(貝葉)を研究して中国風な変化の影響を離れた独自の書風(慈雲流)を確立した。本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を学ぶものとする。

授業の到達目標

・梵字がインドより日本に伝わった概略を理解する。
 ・いわゆる慈雲流悉曇の意義と内容を理解する。
 ・基本的な悉曇文字が書けるようになる。

授業計画

1. 配信 梵字の伝来と歴史(インド・中国・日本)
2. 配信 梵字の伝来と歴史(我が国に於ける相承)
3. 配信 慈雲尊者飲光について
4. 配信 梵字の基本字母(摩多体文)について
5. 配信 基本字母 摩多体文の書き方
6. 対面 授受作法 基本字母 摩多の書き方(通摩多)
7. 対面 基本字母 摩多の書き方(通摩多・別摩多)
8. 対面 基本字母 体文の書き方(五類声)
9. 対面 基本字母 体文の書き方(五類声)
10. 対面 基本字母 体文の書き方(五類声)
11. 対面 基本字母 体文の書き方(五類声)
12. 対面 基本字母 体文の書き方(五類声)
13. 対面 基本字母 体文の書き方(遍口声)
14. 対面 基本字母 体文の書き方(遍口声)
15. 対面 応用 十二点と切継について

準備学習(予習・復習)・時間

テキストを通読して悉曇字母表の概要を理解しておくこと。対面授業は梵字書法の実習指導になるので書道道具を用意し、配信による「摩多体文の書き方」を視聴して夫々の文字が書けるように練習しておくこと。

テキスト

①松本俊彰『慈雲流悉曇梵字入門(基礎編)』高野山出版社刊 部分(標題紙・目次・本文全270頁中(5~35頁、75~138頁)・奥付)の電子複写 ②『悉曇摩多体文手本』半紙大11枚(伝授〈講義〉時にお渡しします)

参考書・参考資料等

松本俊彰『慈雲流悉曇梵字入門(応用編)』高野山出版社 静慈門『梵字悉曇(慈雲流の意義と実践)』朱鷺書房 田久保周啓著、金山正好補筆『梵字悉曇』平川出版社

学生に対する評価

授業参加の積極性(20%) 作品提出(80%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 習った梵字を書くことができる。
- (B) 梵字に慣れ基本的な書法を理解している。
- (A) 正確で美しい梵字を書くことができる。
- (S) 文字もきれいで、しかも梵字に対する深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法

対面授業により直接実技添削指導を行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。伝統的な師資相承による伝授形式をとるので身心を整え袈裟念珠を持参されたい。(略袈裟可) 実習については習字のしやすい格好で書道道具と半紙を用意のこと。(筆は太筆。半紙に六文字程度書ける太さのものが望ましい。)

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

真言宗僧侶であり慈雲流悉曇の継承者である教員が、伝統的に相承されてきた悉曇の概要と書法を実技指導する。

科目名	密教学講読演習U						学期	後期	
副題	歴史資料からたどる真言宗の歴史				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M-01-211	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

弘法大師空海によって開宗された真言宗は、密教を教理とした日本独自の宗派である。空海は、高雄山寺（現在の神護寺）を皮切りに、高野山、東寺、東大寺、宮中真言院などを拠点として、真言宗を広める活動を展開し、それらは弟子たちに受け継がれた。本授業では、空海による開宗から初期の真言教団のあゆみについて、活動の拠点となった寺院を中心に、歴史資料を講読することを通じて、その背景を視野に入れながら考察する。

授業の到達目標

空海の著作や真言宗寺院に関する歴史資料を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、平安時代初期における真言宗のあゆみを理解することができる。

授業計画

1. 歴史学からみた空海の生涯①（講義）
2. 歴史学からみた空海の生涯②（講義）
3. 歴史学からみた空海の生涯③（講義）
4. 高野山の開創①（講読）
5. 高野山の開創②（講読）
6. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ①（講読）
7. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ②（講読）
8. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ③（講読）
9. 高雄山寺から神護寺へ①（講読）
10. 高雄山寺から神護寺へ②（講読）
11. 高雄山寺から神護寺へ③（講読）
12. 後七日御修法と宮中真言院①（講読）
13. 後七日御修法と宮中真言院②（講読）
14. 平安京周辺での真言宗寺院の展開（講義）
15. 寺院から考える真言宗の歴史（講義）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：授業で取り上げる歴史資料について辞書等で用語・語句を調べる（90分） 事後学習：授業で取り上げた寺院や事項について調べる（60分）。

テキスト

テキストは使用せず、歴史資料やレジュメをテーマごとに配布する。

参考書・参考資料等

平岡定海『日本寺院史の研究』（吉川弘文館、1981年）。吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018年）。その他、テーマごとの参考書や参考資料等は、授業中に紹介する。

学生に対する評価

予習・復習などを含めた授業への参加度（60%）と期末レポート（40%）によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史資料を読むスキルを身につける。
- (B) 歴史資料を読み、その内容を理解する。
- (A) 真言宗寺院に関する歴史資料を読み解き、平安時代初期の真言宗のあゆみを説明できる。
- (S) 平安時代初期の真言宗のあゆみについて、社会的背景をふまえて考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。①漢文の歴史資料を取り上げることがある。②受講生の関心によって、授業で取り上げた寺院や関連する場所を実際に訪れ、「歴史を体感する」機会を設けてもらいたい。

科目名	仏教学講読演習S						学期	後期
副題	釈尊伝を読む				授業方法	講義	担当者	前谷彰
ナンバリング	M-02-212	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

『法華経』を梵・漢対照でその比喻形態に着目して読みこみ、『法華経』の思想的特徴について考察し、理解する。

授業の到達目標

諸経の王と呼ばれて来た初期大乘經典の代表格である『法華経』を講読することによって、 Sanskrit 語の読解能力を身に付け、仏教（密教）の思想を広く深い視野で考究することができるようになる。

授業計画

1. 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（声聞不成仏の問題）
2. 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（大迦葉への授記）
3. 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（大通地勝仏の出現）
4. 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（化城の喻え）
5. 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（富楼那の出現）
6. 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（無明の酒）
7. 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（ラーフラの登場）
8. 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（迹門の法説）
9. 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（法師による教説）
10. 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（乾土の喻え）
11. 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（宝塔出現）
12. 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（法身・応身の融合）
13. 『法華経』「提婆品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（畜生龍女の成仏）
14. 『法華経』「勸持品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（弘教の誓い）
15. 上記の品以外で、重要な比喻が用いられている品を探す。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として『法華経』の梵文テキストと漢訳とを照合し、梵文和訳の予習をする。（最低週に延べ300分）。事後学修として授業で学んだことを復習する（120分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

梵文テキストは担当者が用意する。その他、詳細については、授業で支持する。

学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
 - (B) 『法華経』の基本的な成立背景に関する知識を持っている。
 - (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 梵・漢対照の基本的な文献学的方法論を身に付けている。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習T						学期	後期	
副題	心とは何かⅡ				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M-02-232	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乘仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方等）とビデオ鑑賞（仏教に関するもの）
2. アビダルマ仏教－南方上座部ならびに説一切有部の範疇論－
3. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（1）大地法－
4. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（2）大善地法－
5. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（3）大煩惱地法・大不善地法－
6. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（4）小煩惱地法・不定地法－
7. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（5）心心所の働き方－
8. 大乘仏教－大乘経典と大乘論師－
9. 大乘仏教－瑜伽行派の範疇論と心の分析（1）六識－
10. 大乘仏教－瑜伽行派の心の分析（2）マナ識・アーラヤ識－
11. 大乘仏教－転識得智－
12. 大乘仏教－仏性・如来蔵－
13. 大乘仏教－中観派の範疇論と心の分析－
14. 密教－『大日経』『住心品』－
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

講義内容の要点をノートに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30分）

紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

テキスト

竹村牧男『心とはなにかー仏教の探究に学ぶー』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ①佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか』化学同人、2013、②師茂樹『『大乘五蘊論』を読む』春秋社、2015、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編 [改訂版]』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教についての基礎的な事項を理解している。
 (B) 仏教における心についての各思想を理解している。
 (A) 仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
 (S) 仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
 最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	仏教学講読演習U					学期	後期		
副題	『感身学正記』と叡尊関係史料を読む				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M-12-213	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本演習では、鎌倉後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』とその関係史料を読解する（史料見学も実施）。とくに、本年度は、弘安7年（1284）に叡尊が畿内で展開した宗教活動や、叡尊と貴族・武士との関係について理解を深める。受講者は、担当箇所について関係史料・論文を調査し、資料を作成することで、研究能力を練磨することが課題となる。なお、演習の性格上、「授業計画」はあくまでも目安に過ぎず、演習中の解釈・討論の進捗や受講生の理解度によって変わることがありうる。あらかじめ了承されたい。

授業の到達目標

①鎌倉後期における叡尊の宗教活動を、史料に即して理解できるようになる。②鎌倉後期における公武両政権の宗教政策を通して、同時期の時代相を考える視座をつちかう。③仏教史料の持つ歴史的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画

- 『感身学正記』の概要、講義の進め方、文献探索の方法
- 『感身学正記』を読む①（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む②（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む③（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む④（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む⑤（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む⑥（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む⑦（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む⑧（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む⑨（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む⑩（弘安7年条）
- 『感身学正記』を読む⑪（弘安7年条）
- 叡尊関係の史料見学①
- 叡尊関係の史料見学②
- 叡尊関係の史料見学③

準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した予習をできるように努力すること（120分）【復習】報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること（60分）

テキスト

①『感身学正記』本文のプリント（第1回の講義で配布する）。②細川涼一『感身学正記』第2巻（平凡社東洋文庫、2020年）（書店などで購入。必ず講義に持参すること）③受講生が作成する報告資料（成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること）

参考書・参考資料等

①和島芳男『叡尊・忍性』（吉川弘文館、1959年）②長谷川誠注解・訳『興正菩薩御教誠願集・金剛仏子叡尊感身学正記』全4冊（西大寺、1990年）③奈良国立博物館編『興正菩薩叡尊』（奈良国立博物館、2001年）④松尾剛次編『戒戒の聖者 叡尊・忍性』（吉川弘文館、2004年）

学生に対する評価

レポート（70%）、講義中での報告（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。
 (B)『感身学正記』の史的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
 (A)『感身学正記』と叡尊について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。
 (S)『感身学正記』および叡尊について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

演習において学生が作成した資料の内容については、講義中もしくは講義後にアドバイスをを行なう。レポートについては、課題設定や執筆にむけて適宜助言し、提出後に講評する。

その他

①本演習は、受講生に適宜報告を課すアクティブ・ラーニングであるので、参考書や講義で紹介する論著を読んで、資料を作成すること。②受講者は、「歴史学」も履修しておくこと。③本演習では、3回分の時間を史料見学にあてる予定である（土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する）。

科目名	密教学演習L					学期	通年		
副題	思想研究の方法論				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M-25-214	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要

教理と実践が運動しているのが、密教の特徴である。事相と教相は「鳥の両翼」「車の両輪」と言われるが、これは事相と教相とが表裏一体であることを意味している。それでは、その事相で表現される教相（教義）とは、いったいどのようなものであるのか。当演習では、実践の背後にある密教教理の研究方法を、密教の実践が仏教（特に大乘仏教）とどのような関連性を有するののかについての調査・考察を通して習得することを目的とする。

授業の到達目標

密教（特に真言密教）の教相研究の基礎的方法論を習得し、各自の卒業論文作成に結び付ける。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 学術論文とは？
3. 資料－1次資料と2次資料－
4. 先行研究を読む①－先行研究を探す－
5. 先行研究を読む②－研究書を読む－
6. 先行研究を読む③－学術論文を読む－
7. レジュメを作ろう①－テーマの設定－
8. レジュメを作ろう②－資料を探す－
9. レジュメを作ろう③－レジュメをまとめる－
10. レジュメを作ろう④－発表と質疑応答－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

【後期】

1. 概要（後期の進め方）
2. 論文のプロットを作成する①－問題点を整理する－
3. 論文のプロットを作成する②－1次資料を配置する－
4. 論文のプロットを作成する③－結論を導く－
5. 1次資料を読む①－阿含經典－
6. 1次資料を読む②－大乘經典－
7. 1次資料を読む③－密教經典－
8. 1次資料を読む④－論書－
9. 1次資料を読む⑤－注釈書－
10. 1次資料を読む⑥－教義書－
11. 研究発表①
12. 研究発表②
13. 研究発表③
14. 研究発表④
15. 研究発表⑤

準備学習(予習・復習)・時間

・自身の関心に応じた資料を、各回準備する（60分） ・演習中に問題となったポイントを整理し、後日発表する（60分）

テキスト

（前期）北尾隆心「真言宗にみる救済」、『密教学研究』（38）、2006年。 梶山雄一「仏陀観の変遷」、『梶山雄一著作集』第3巻、春秋社、2012年。（後期）課題プリント。※コピーを配布する。

参考書・参考資料等

・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。 ※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

担当箇所での発表（50%）、授業内での質疑応答（30%）、期末レポート発表（20%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 先行研究を集め、内容を要約できる。
- (B) 先行研究に基づく独自課題を設定できる。
- (A) 独自課題の解決に向けた資料収集ができる。
- (S) 独自課題の解決を論理的に論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

その他

・担当者を決めて、該当内容に関する発表をしてもらう。 ・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。 ・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。 ・受講生の関心に応じて、授業内容・テキスト等を変更する場合がある。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習S					学期	通年		
副題	卒業研究指導				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M-25-215	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要

密教文化コースの学生を対象に、学問することの楽しさと、学問するためのスキルを身につけるための演習を行う。学問のおもしろさは、インプット（疑問→調べる）とアウトプット（発見→書く）、すなわち「学び問う」のループの中で、「多様なもの見方」を身につけて「自分とは何か」を思索することにある。前期は学問するための基礎的なルールを主に講義形式によって解説し、後期はアウトプットするためのスキルを演習（発表とディスカッション）形式で実施することを通じて卒業研究への模索を行う。

授業の到達目標

学問の楽しさとそのスキルを身につけ、各自の研究課題を見出して、卒業研究を作成する力を養う。

授業計画

【前期】

1. 演習の進め方・担当者の自己紹介（講義）
2. 「学問を楽しむ」とは？（講義）
3. アウトプットするために論文とレポート（講義）
4. アウトプットするためのルールを身につける①（研究テーマの設定）（講義）
5. アウトプットするためのルールを身につける②（学術的文章の構成）（講義）
6. アウトプットするためのルールを身につける③（「序論」の内容と書き方）（講義）
7. アウトプットするためのルールを身につける④（「本論」の内容と書き方）（講義）
8. アウトプットするためのルールを身につける⑤（「結論」の内容と書き方）（講義）
9. アウトプットするためのルールを身につける⑥（「注」・「引用」の書き方）（講義）
10. 調べる技術を身につける①（調べるとは？）（講義）
11. 調べる技術を身につける②（文献・資料の調べ方）（講義）
12. 調べる技術を身につける③（雑誌記事・論文の調べ方）（講義）
13. 調べる技術を身につける④（フィールドワークの方法）（講義）
14. 調べる技術を身につける⑤（アンケート調査の方法）（講義）
15. 前期のまとめ（講義）

【後期】

1. 夏休みの成果の発表①（演習）
2. 夏休みの成果の発表②（演習）
3. クリティカルリーディングとその方法①（講義）
4. クリティカルリーディングとその方法②（講義）
5. クリティカルリーディングとその方法③（講義）
6. 文献を要約し、批判的に検討する①（演習）
7. 文献を要約し、批判的に検討する②（演習）
8. 文献を要約し、批判的に検討する③（演習）
9. 文献を要約し、批判的に検討する④（演習）
10. 文献を要約し、批判的に検討する⑤（演習）
11. 文献を要約し、批判的に検討する⑥（演習）
12. 文献を要約し、批判的に検討する⑦（演習）
13. 文献を要約し、批判的に検討する⑧（演習）
14. 卒業研究に向けた模索①（演習）
15. 卒業研究に向けた模索②（演習）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：事前に配信されたレジュメなどを熟読する（90分）、事後学修：授業内容についてふりかえりながら整理し、質問や感想をコメントとして提出する（60分）。

テキスト

前期は、河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第4版』（慶應義塾大学出版会、2018年）と宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』（岩波新書【新赤版1853】、2020年）をテキストとする（大型書店やネット書店で購入）。後期は、受講者と相談してテキストを定める。

参考書・参考資料等

授業テーマや受講生の関心にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①授業など演習に関連する行事などへの参加度（60%）・期末レポート（40%）によって評価する。②授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学問を楽しむ、学問するためのインプットの技法を身につける。
 (B) 学問するためのインプットの技法を身につけ、アウトプットのルールを理解する。
 (A) 学問するためのアウトプットのルールを理解し、実践することができる。
 (S) 卒業研究のテーマを見出し、その取り組みについて模索する。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。受講生の希望があれば、授業以外にも現地見学会など受講生相互の交流を図る機会を設けたい。

科目名	密教学演習Ⅰ						学期	通年	
副題	卒業研究指導・不空三蔵と弘法大師とを読む				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M-25-216	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要

弘法大師空海による『御请来目録』は単なるカタログにとどまらず平安初期における一種の知的ネットワークの形成基盤とも目されている。また不空三蔵撰の『金剛頂経瑜伽十八会指帰』はインド・中国・日本における「金剛頂経」系の密教の流伝と受容に大きな役割を果たし、我が国における仏教思想にも近代に至るまで大きな影響を与えた。この講座ではこれら二つの漢文テキストの精読を通じて、仏教文献を読むうえでの基本的な文献学的知識を押さえるとともに学習ツールとしての人文情報学（DH）の基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標

1、仏教文献講読に不可欠な文献学的手法を学ぶ。 2、仏教学と人文情報学のアプローチを駆使して理解する。 3、問題点と解決の方向性を思考し論述することができる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 資料概観① インド密教における「十八会指帰」の位置
3. 資料概観② 知的基盤としての『御请来目録』
4. 論文指導①
5. 『御请来目録』精読①
6. 『御请来目録』精読②
7. 『御请来目録』精読③
8. 論文指導②
9. 『御请来目録』精読④
10. 『御请来目録』精読⑤
11. 『御请来目録』精読⑥
12. 論文指導③
13. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読①
14. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読②
15. 論文指導④

【後期】

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読③
3. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読④
4. 論文指導⑤
5. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑤
6. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑥
7. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑦
8. 論文指導⑥
9. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑧
10. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑨
11. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑩
12. 論文指導⑦
13. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑪
14. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑫
15. 論文指導⑧

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のテキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと（120分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（60分）。

テキスト

一次資料・関連文献については担当者がPDFを配布する。

参考書・参考資料等

①高木純元「御请来目録」『日本名僧論集』3、東京・吉川弘文館 1982、②甲田宥伸「御请来目録」の書誌学的研究『高野山大学密教文化研究所紀要』4、1991年、③奥山直司「十八会指帰」校註『新国訳大藏経 密教部 4』東京・大蔵出版、2004年。

学生に対する評価

ミニツペーパーならびに論文指導における検討会発表（30%）、学期末レポート（70%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学の手順を踏まえている。
 (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができている。
 (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用することができる。
 (S) 学術論文の基本的な書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。基本的な漢文読解の知識をもつことが望ましい。サンスクリット語・チベット語の履修を必ずしも必要とするものではないが、インド密教に興味がある受講生の積極的参加を求めるアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習U						学期	通年	
副題	卒業研究指導				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M-25-217	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A・I

授業の目的と概要

卒業研究を希望する学生のための演習である。現代社会における諸問題に、仏教や密教、そして空海の実想はどのように向き合うことができるのか？その可能性を、関連する先行研究や原典資料を通して探り、現代における諸問題において密教の思想がどのように活用し得るのかについて考察する。

授業の到達目標

1) 現代社会の諸問題について、仏教・密教の思想を資料に基づいて考え、表現することができるようになる。 2) 自分の考えをまとめて発表し、議論することができるようになる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンスと前期のイントロダクション
2. 卒業研究指導①—テーマを設定する—
3. 卒業研究指導②—資料を探す—
4. 卒業研究指導③—資料を読む（前編）—
5. 卒業研究指導④—資料を読む（後編）—
6. 卒業研究指導⑤—構成を考える—
7. 密教と生命倫理①—レクチャー（前編）
8. 密教と生命倫理②—レクチャー（後編）
9. 密教と生命倫理③—ディスカッション—
10. 密教と生命倫理④—議論をまとめる—
11. 密教と経営①—レクチャー（前編）—
12. 密教と経営②—レクチャー（後編）—
13. 密教と経営③—ディスカッション—
14. 密教と経営④—議論をまとめる—
15. 前期の振り返りと課題の講評

【後期】

1. ガイダンスと後期のイントロダクション
2. 密教文化の諸相①—レクチャー（前編）—
3. 密教文化の諸相②—レクチャー（後編）—
4. 密教文化の諸相③—ディスカッション—
5. 密教文化の諸相④—議論をまとめる—
6. 密教と現代スピリチュアリズム①—レクチャー（前編）—
7. 密教と現代スピリチュアリズム②—レクチャー（後編）—
8. 密教と現代スピリチュアリズム③—ディスカッション—
9. 密教と現代スピリチュアリズム④—議論をまとめる—
10. 研究発表①
11. 研究発表②
12. 研究発表③
13. 研究発表④
14. 研究発表⑤
15. 後期の振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

各回のテーマに関する予習（60分）

テキスト

授業中にプリントを配布する

参考書・参考資料等

・竹村牧男『インド仏教の歴史—覚りと空—』（講談社学術文庫） ・立川武蔵『空の思想史』（講談社学術文庫） ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

各回の課題学習（25%）、長期休暇中の課題（25%）、年度末の研究発表（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料を踏まえた課題を設定できる。
 (B) 上記 (C) に関する2次資料の見解を要約し、さらなる独自の課題を設定できる。
 (A) 上記 (B) を踏まえ、1次資料を使って自分の考えを説明できる。
 (S) 上記 (A) ~ (C) を踏まえ、論理的な主張を学術論文として展開できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出時に評価点・問題点を講評する。

その他

・受講生の関心に応じて、授業内容・テーマ等を変更する場合がある。 ・担当者を決めて、該当内容に関する発表をしてもらう。 ・受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ⅠS)						学期	前期	
副題	仏教の基礎-戒を中心として-				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G-02-218	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランバ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

チベット語経典を通じて四大学派の禪定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

授業計画

1. 授業の内容について説明
2. 積尊の十二相について
3. 仏教とは、何のためにあるのか。一般的な仏教について
4. 仏教徒と外道（非仏教徒）との区別と三宝について①
5. 仏教徒と外道（非仏教徒）との区別と三宝について②
6. 前世と来世の有無について
7. 全ての仏教徒が守るべき十善戒について
8. 四つの修行の力による罪を浄める方法について
9. 戒律① 別解脱戒（在家と沙弥と比丘の戒律）について
10. 戒律② 菩薩戒について
11. 戒律③ 三昧耶戒について
12. 瞑想（止の瞑想と観の瞑想）の区別について
13. 止の瞑想について
14. 観の瞑想について
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

テキスト

担当者が作成したものを配布する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつ重要な仏教思想の要点を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ⅡS)						学期	後期	
副題	仏教の基礎—般若心経を中心として—				授業方法	講義	担当者	テンジン・ウセル	
ナンバリング	G-02-219	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A・I

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランバ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 『般若心経』「観自在菩薩」～ 慈悲の心と菩提心について①
3. 『般若心経』「観自在菩薩」～ 慈悲の心と菩提心について②
4. 『般若心経』「色不異空 空不異色」～ 中観の空について①
5. 『般若心経』「色不異空 空不異色」～ 中観の空について②
6. 『般若心経』「無色無受想行識」～ 五蘊と六根と十二処について
7. 『般若心経』「無眼界」～ 十八界について
8. 『般若心経』「無無明」～ 十二縁起について
9. 『般若心経』「無苦集滅道」～ 四聖諦について①
10. 『般若心経』「無苦集滅道」～ 四聖諦について②
11. 『般若心経』「三世諸仏」～ 悟りの道（五道）について
12. 『六波羅蜜』について
13. 『三十七偈の菩薩の実践』を読む①
14. 『三十七偈の菩薩の実践』を読む②
15. 講義内容の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）。事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90分）。

テキスト

担当者が作成したものを配布する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの大意を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつ重要な仏教思想の要点を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(仏教美術入門S)						学期	前期	
副題	仏教美術史入門				授業方法	講義	担当者	内藤栄	
ナンバリング	G-02-220	実務経験の有無	有	関連DP	3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏教美術の成立と特徴について考察する。インドにおける仏教美術の成立過程から始め、中国、朝鮮半島を経て日本に伝播した仏教美術の諸相を概観し、飛鳥時代から鎌倉時代にいたる日本仏教美術史を考える。一般的に知られている仏像、仏画のほか、仏教工芸、仏教考古、建築にも興味の範囲を広げる。そのうえで仏教美術を理解する上で必要な基礎知識、仏像の図像、素材と制作技法、時代性、国ごとの特徴、様式、文献資料や経典・儀軌などを学び、自主的に鑑賞する興味と能力を身に付ける。

授業の到達目標

仏教美術に興味を持ち、自主的に鑑賞する習慣を身に付ける。そのうえで、仏教美術の基礎を習得し、仏像や仏画を見た時に尊像名や時代性を判断できることを目指す。

授業計画

1. 仏教美術の成立（インド文化圏のストゥーパと舎利容器）
2. 仏像の誕生（インドとパキスタンの仏像）
3. 仏教の伝播と仏教美術の広がり（北伝仏教と南伝仏教の美術）
4. 飛鳥時代前期の美術（仏教公伝から7世紀半ばまで。法隆寺の美術を中心に学ぶ）
5. 飛鳥時代後期（白鳳期）の仏教美術（7世紀半ばから710年まで。白鳳美術の復権を考える）
6. 奈良時代の仏教美術 1（興福寺と東大寺三月堂の美術）
7. 奈良時代の仏教美術 2（唐招提寺、西大寺を中心に）
8. 正倉院宝物概説（正倉院宝物を仏教美術なのか、生活の美なのかを考える）
9. 奈良時代の密教美術（空海が学んだ古密教の世界の美術を考える）
10. 後七日御修法と仏歯供養（空海の舍利信仰の国際性を考え、スリランカの仏歯供養との親近性を考える）
11. 浄土教の美術（平安時代以降の日本人の心をとらえた浄土信仰について、美術作品を通して考える）
12. 神仏習合の美術（神道と習合したことで生み出された仏教美術について考える）
13. 平安時代から鎌倉時代（1180年の南都焼討が変えた仏教美術の諸相について考える）
14. 密教美術 彫刻（東寺、高野山、醍醐寺などに伝わる密教彫刻の特徴を考える）
15. 密教美術 絵画（曼荼羅をはじめとする密教絵画の特徴を考える）

準備学習(予習・復習)・時間

事前に授業範囲の美術作品について、美術全集や展覧会図録で主要な作品を把握しておくこと。また、授業後に寺院や博物館を訪問し、実際の作品を鑑賞することも重要である。高野山、関西という恵まれた場所で学ぶことを最大限活用してほしい。

テキスト

・『寧楽遺文 中巻 宗教編・経済編上』（東京堂出版、昭和37年） ・『校刊美術史料 寺院編 上中下』（中央公論美術出版、昭和47年）

参考書・参考資料等

・ベック『仏教(上)』（岩波文庫）・高田修『仏像の誕生』（岩波新書、昭和62年） ・佐和隆研編『仏像図典』（吉川弘文館、昭和37年）・『古密教—日本密教の胎動』（奈良国立博物館展覧会図録、平成17年） ・内藤栄『舍利莊嚴美術の研究』（青史出版、平成22年）

学生に対する評価

出席50% レポート50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) ・仏教美術における基本的な作品に対する知識を習得している。
 (B) ・仏教美術に興味を持ち、自ら進んで鑑賞の機会を持つようになる。
 (A) ・仏教美術の作品に関する知識に加え、文献資料や経典に関する知識を持っている。
 (S) ・仏教美術に関して独自の見解を持ち、文献資料や経典を用いて自説を展開することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・寺院や博物館において作品を目の前にして学生同士で語り合う。それにより学生の理解度を知り、教員よりコメントをする。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・美術館と博物館で30年以上勤務しており、そのうち仏教美術を専門とする奈良国立博物館において26年、大阪市立美術館で2年勤務している。実際に美術品を扱ってきた経験と知識、さらに近年急速に進化した科学的調査などの最新情報を授業に盛り込む。

科目名	企画科目(仏画S)						学期	通年	
副題	仏画				授業方法	実技	担当者	徐東軍	
ナンバリング	G-02-221	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

紙本の仏画制作の技法を基礎から勉強し、白描画と顔料による彩色画の手法で仏・菩薩・明王・天部などの姿を描く。密教の曼荼羅を構成する多様な尊像に関する知識を学び、仏教の世界観についての理解を深める。

授業の到達目標

仏画の描き方を身につけ、仏教の諸尊や仏教美術についての理解を深める。

授業計画

【前期】

1. 講義内容の説明 (授業の進め方、道具と実例作品の紹介など)
2. 基礎1 基本用語の説明、手足・衣紋線の描き方
3. 基礎2 面相・頭部の描き方
4. 基礎3 瓔珞・持ち物・円・直線の描き方
5. 基礎4 蓮華座・岩座・雲の描き方
6. 基礎5 墨の濃淡と線の強弱を使い分ける練習 (1)
7. 基礎6 墨の濃淡と線の強弱を使い分ける練習 (2)
8. 作品制作 白描の作品を描く (1)
9. 作品制作 白描の作品を描く (2)
10. 作品制作 白描の作品を描く (3)
11. 作品制作 紺紙金泥の作品を描く (1)
12. 作品制作 紺紙金泥の作品を描く (2)
13. 作品制作 紺紙金泥の作品を描く (3)
14. 作品制作 紺紙金泥の作品を描く (4)
15. 作品の講評

【後期】

1. 基礎1 絵具の作り方、平塗りの技法 (厚塗り・薄塗り)
2. 基礎2 手足・蓮華の描き方、ぼかしの技法
3. 基礎3 混色と縹彩色 (1)
4. 基礎4 混色と縹彩色 (2)
5. 高野山霊宝館と大学図書館への現地見学
6. 基礎5 仏・菩薩の面相の描き方 (照り隈)
7. 基礎6 仏・菩薩の面相の描き方 (唇・ひげ・眉)
8. 基礎7 仏・菩薩の面相の描き方 (目)
9. 基礎8 仏・菩薩の面相の描き方 (髪・頭光)
10. 作品制作 彩色仏画 (1)
11. 作品制作 彩色仏画 (2)
12. 作品制作 彩色仏画 (3)
13. 作品制作 彩色仏画 (4)
14. 作品制作 彩色仏画 (5)
15. 作品の講評

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、講義で学んだ技法に関して練習をしておくこと。(60分)

テキスト

書写手本及び関係資料はコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①楽詩舎藤野正観『仏画 淡彩色集』(株式会社 TOLOT、2013年) ②楽詩舎藤野正観『悠久の時をこえてよみがえる祈りの絵画①』(大津紙写実印刷株式会社、2020年) ③中村幸真・中村涼應『模写で描く仏画入門』(日本放送出版協会、1991年) ④中村涼應・中村幸真『模写で描く彩色仏画入門』(日本放送出版協会、2000年) ⑤東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室編『図解日本画用語事典』(株式会社東京美術、2007年)

学生に対する評価

毎回の授業の書写作品 (70%) 授業参加への積極性 (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏画の基本事項を理解できる。
 (B) 仏画の基本事項を理解し、それを描写することができる。
 (A) 仏教や仏画に関することを理解し、完成度の高い作品を描ける。
 (S) 仏教や仏画に関することを理解し、尊像への理解とその表現が優れている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内で対応する。

その他

受講生は年間を通して使用する面相筆・彩色筆・紙を購入する (用具の発注は担当者が行う)。墨・硯・筆洗・雑巾・日本画絵具は受講生が各自で用意すること。梅皿・念紙・金泥などの用具・資材は担当者が貸与する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。なお、過去に本講義の単位を取得したことがある受講生に対しては、和紙のほかに、木板と絵絹の上で描く仏画の技法を紹介する。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

仏画工房で国宝の曼荼羅の復元制作に携わった経験のある担当者が、その経験を活かし、仏像の基本知識に基づいた仏画制作の技術について講義する。

科目名	企画科目(マインドフルネス)						学期	前期	
副題	マインドフルネス				授業方法	講義	担当者	山本和美	
ナンバリング	M-02-222	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

伝統的なブッダの説いた瞑想法としてのマインドフルネスと、カバットジンによって現代化された実践的プログラムである MBSR に代表されるマインドフルネスの相関関係を理解する。仏教の基本的な教義が、マインドフルネス実践の中でどのようにつながり合ってゆくものなのかを体験的に理解する。マインドフルネスのプラクティスの体験を通して、生きることの苦および心身の反応を認識し、自己理解を深めて自他のケアのあり方を探索する。そのため講義と瞑想的エクササイズを含む実践を組み合わせる授業を進める。

授業の到達目標

マインドフルネスの語源的意味、実践の意味を理解して、実際の日常生活の中で応用できるようにする。仏教の教義を含めて、マインドフルネスについて自分の言葉で説明できるようになる。医療・福祉領域などでの対人援助活動における自身の在り様としてマインドフルネスを体現し実践できるようにする。

授業計画

1. ブッダの説いたマインドフルネスの教えがカバット・ジンの MBSR によって現代化された流れについて
2. 東洋の仏教、西洋の仏教、社会参画仏教
3. 学びのステップ：戒定慧
4. 出息入息念経（アーナーパーナサティ・スッタ）について
5. 念処経（サティパッターナ・スッタ）について
6. 縁起について
7. 四聖諦について
8. 身心一如のメカニズム
9. マインドフルネスの科学的知見
10. マインドフルネスの応用の実際
11. 四無量心について
12. マインドフルネスとケア
13. 対人援助関係における援助者の在り様
14. マインドフルネスとコンパッションによる燃えつき防止プログラム G. R. A. C. E. について
15. マインドフルネスと倫理について

準備学習(予習・復習)・時間

予習は必要ないが、授業で学んだことを復習して日常生活の中で 180 分以上実践してみる。

テキスト

テキストは用いず、講師がパワーポイントの資料を用意する。

参考書・参考資料等

井上ウィマラ・杉浦義典『私たちはまだマインドフルネスに出会っていない』日本評論社 2022 井上ウィマラ編著『仏教心理学キーワード事典』春秋社 2012 井上ウィマラ『呼吸による気づきの教え』佼成出版社 2005

学生に対する評価

「授業で学んだことをまとめ、今後の生活にどのように活かしていきたいか」というテーマで 1,600 字〜2,000 字程度 (A42 枚まで) でレポート (100%) をまとめる。提出期限と提出先は最終授業で伝える。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 目標を達成することができる。
- (B) 自分なりの言葉で表現することができる。
- (A) コンパクトかつ説得力のある文章で表現することができる。
- (S) 極めて深いレベルで理解し、そのことが文章表現を通して伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問やコメントは授業内で対応する。また毎回の授業終了時に提出されるレポートの内容についてのコメント等は次回の授業内で対応する。

その他

スクーリングではさまざまなエクササイズを行うので動きやすい服装で参加すること。定員 20 名

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

心身医学領域での臨床心理士・公認心理師として 20 年以上の実務経験、研究歴および瞑想歴に加え、大学教員、米国のブラウン大学認定マインドフルネスストレス低減法 (MBSR) 講師としての実務・指導経験に基づいて教授する。

科目名	企画科目(スーパーヴィジョン I)						学期	前期
副題	スーパーヴィジョン I				授業方法	演習	担当者	山添 正
ナンバリング	G-10-223	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

まず面接のプロセスが、来談者と面接者との出会いから始まり、治療の関係が形成され、面接作業がどのように進むかについての理論学習と平行して、各ステップごとに教科書と関連するDVDを視聴して、具体的にどのように面接が進められているか実践的に理解する。その後、受講生同士で面接（ピア面接）を行い、記録に残してスーパーヴィジョンを受け、実践的に面接技術の学習をする。

授業の到達目標

テキストは面接過程を13段階にわけており、段階ごとの基本的概念とテクニックを学ぶ。

授業計画

1. 面接のはじめ
2. 治療的關係
3. 治療目標の確立
4. 多様性の理解と対応
5. 抵抗の理解と対処
6. 面接における認知的焦点化
7. 面接における感情的焦点化
8. 面接における行動的焦点化
9. 面接における発達の焦点化
10. 統合的視点
11. 転移
12. 逆転移
13. 過去が現在に与える影響の理解
14. 決断と行動変化への作業
15. 評価と終結

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分) 事後学習として、授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと(90分)

テキスト

ジェラルド・コーレイ 『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践』金子書房, 2011年

参考書・参考資料等

『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践DVD版』金子書房

学生に対する評価

レポート(30%)・発表(30%)・授業参加の積極性(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的概念の理解はできている。
- (B) 概念だけでなく技能の理解も出来ている。
- (A) 概念、技能、ロールプレイのパフォーマンスが優れている。
- (S) 臨床現場でここの学びを応用実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

トロント大学大学院留学で、カウンセリング過程の各ステップごとの教材の内容を研究し、その教材を利用しながら、臨床心理士としての実務経験をもとに、具体的に、また実践的に面接の過程の基礎概念を指導し、また日本の事例を紹介しながら、文化差の問題に触れながら説明し、学生のケースにかかわることのできる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(スーパーヴィジョンⅡ)						学期	後期	
副題	スーパーヴィジョンⅡ				授業方法	講義	担当者	山添 正	
ナンバリング	G-10-224	実務経験の有無	有	関連DP	2, 3, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

事例に対して、12のアプローチ方法は、どのようなアセスメントと治療テクニックであるかをスーパーヴィジョンを通して学び、自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解ができるようになる。

授業の到達目標

事例に対して、12のアプローチ方法は、どのようなアセスメントと治療テクニックであるかをスーパーヴィジョンを通して学び、自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解ができるようになる。

授業計画

1. スーパーヴィジョンについてのガイダンス
2. 精神分析的視点からのケース・アプローチ
3. アドラー派の視点からのケース・アプローチ
4. 実存分析的視点からのケース・アプローチ
5. 来談者中心療法の視点からのケース・アプローチ
6. ゲシュタルト療法的視点からのケース・アプローチ
7. 行動療法的視点からのケース・アプローチ
8. 認知行動療法的視点からのケース・アプローチ
9. 現実療法的視点からのケース・アプローチ
10. フェミニスト療法的視点からのケース・アプローチ
11. ポストモダンの視点からのケース・アプローチ
12. 家族療法的視点からのケース・アプローチ
13. 統合的視点からのルースへのケース・アプローチ
14. 受講者自身の面接スタイルの探求
15. 日本人との面接の留意点

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと (90 分)

テキスト

松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター、2001年

参考書・参考資料等

Gerald Corey (2012) 『Case approach to Counseling and Psychotherapy 8 edition』

学生に対する評価

レポート (30%)・発表 (30%)・授業参加の積極性 (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 臨床場面でかかわったケースの記録をまとめている。
- (B) ケース・アプローチ方法の基礎知識を理解している。
- (A) ケース・アプローチ方法の知識のみならず、技能も理解している。
- (S) 自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解が出来ている。

課題に対するフィードバックの方法

- ・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

トロント大学大学院留学で、統合的カウンセリングの方法を学び、そこでの教材を活用しつつ、臨床心理士としての実務経験をもとに、学生が自分の事例報告書を作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかスーパーヴィジョンを通して、それぞれの理論と事例を理解できる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(スピリチュアルケア論A)						学期	前期
副題	スピリチュアルケア論A				授業方法	講義	担当者	大河内大博
ナンバリング	G-10-225	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論、並びにスピリチュアルケア理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

授業計画

1. 講義ガイダンス：スピリチュアルケアにおけるグループワーク
2. グループワークの基礎①（対人援助概論）
3. グループワークの基礎②（傾聴手法）
4. グループワークの基礎③（スピリチュアルケア援助訓練法）
5. グループワークの基礎④（ケアの哲学的構造）
6. 生育歴セッション1-①（自己開示の訓練基礎）
7. 生育歴セッション1-②（自己開示の訓練基礎）
8. 生育歴セッション1-③（家族関係論）
9. 生育歴セッション1-④（家族関係論）
10. 生育歴セッション1-⑤（家族関係論）
11. 生育歴セッション2-①（アイデンティティの形成過程）
12. 生育歴セッション2-②（アイデンティティの形成過程）
13. 生育歴セッション2-③（死者との共生）
14. 生育歴セッション2-④（死者との共生）
15. 生育歴セッション2-⑤：まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前に課された課題作成に取り組み（60分）、授業内で発表する。

テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010年）

参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（振り返りシート）（25%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 自己課題への気づきがあり、今後取り組む姿勢ができています。
- (B) 自己課題が明確であり、グループダイナミクスを理解できています。
- (A) 自己課題への取り組みが出来ており、他者のケアができています。
- (S) 自己課題への取り組みをグループダイナミクスを通して行い、他者のケアができています。

課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に秋学期の「スピリチュアルケア演習Ⅱ」と両方の受講を求める。各回、欠席のないようにすること。

科目名	企画科目(スピリチュアルケア論B)						学期	後期
副題	スピリチュアルケア論B				授業方法	講義	担当者	大河内大博
ナンバリング	G-10-226	実務経験の有無	無	関連DP	2	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論、並びにスピリチュアルケア理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

授業計画

1. スピーチセッション1-① (患者とのラポール形成)
2. スピーチセッション1-② (患者とのラポール形成)
3. スピーチセッション1-③ (対人援助パターンの分析)
4. スピーチセッション1-④ (対人援助パターンの分析)
5. スピーチセッション1-⑤ (フィードバックの訓練)
6. スピーチセッション2-① (自己課題の開示)
7. スピーチセッション2-② (自己課題の開示)
8. スピーチセッション2-③ (他職種連携)
9. スピーチセッション2-④ (他職種連携)
10. スピリチュアルケア理論1 (窪寺理論)
11. スピリチュアルケア理論2 (大下理論)
12. スピリチュアルケア理論3 (村田理論)
13. スピリチュアルケア理論4 (谷山理論)
14. スピリチュアルケア理論5 (伊藤・小西・中井理論)
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前に課された課題作成に取り組み (60分)、授業内で発表する。

テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』(関西学院大学出版会、2010年)

参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』(ワニブックス、2014年)

学生に対する評価

レポート (50%)、発表 (25%)、授業参加の積極性 (振り返りシート) (25%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま迎えず自分の言葉で編集する。
- (B) 15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に迎ろうとする姿勢が身についた。
- (A) 15分間話者の言葉を正確に迎り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
- (S) 非構成グループ(現場)の中で錯綜する言葉を正確に迎り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に春学期の「スピリチュアルケア演習Ⅰ」の受講者を対象とする。各回、欠席のないようにすること。

科目名	企画科目(心理統計学)						学期	前期
副題	基礎的な心理統計の理解と実践				授業方法	講義	担当者	五明優介
ナンバリング	G-10-227	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解することを目的とする。心理学の研究では、データにもとづいて判断を下すために統計的な方法が不可欠です。統計学は、本を読むことや授業を聞いただけでは身につけません。課題を自分で解き、また各種のデータを使って自ら演習を行うといった主体的な学習が必要のため、講義形式の授業であるが、授業内でパソコンを用いた計算等の演習を行う。

授業の到達目標

・統計の基本用語について理解できる。・心理統計を用いた学術論文を理解できるようになる。・基本的な心理統計の具体的な算出方法を理解し、実際に答えを導き出すことができる。・計算結果から、統計的な解釈を行い、自身の考えを述べることができる。

授業計画

1. 授業の目的と方針：①なぜ心理学研究に統計が必要か
2. 授業の目的と方針：②日常生活の中でのデータにもとづく判断
3. さまざまな心理学データ：①変数のタイプ(質的・量的)分類
4. さまざまな心理学データ：②量的変数と質的変数の集計。度数分布・代表値・散布度等
5. 2つの質的変数の分析：①クロス表を用いた場合
6. 2つの質的変数の分析：②関連と独立性の判断
7. 量的変数の分析：①記述統計指標。度数分布・平均・散布度
8. 量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布(1)
9. 量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布(2)
10. 量的変数の条件間比較：①条件間比較のポイント・散布度の重要性・データ数の重要性
11. 量的変数の条件間比較：②1要因分散分析・③平均による比較が適切でない場合
12. 量的変数の条件間比較：④対応のあるデータの性質と分析方法
13. 2つの量的変数間分析：①相関図の作成方法
14. 2つの量的変数間分析：②相関係数の算出方法
15. 2つの量的変数間分析：③相関の解釈の問題点・相関関係と因果関係

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ(45分)、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめて覚えなおす(45分)。・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い(45分)、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する(45分)。

テキスト

・向後千春 富永敦子 『統計学がわかる—ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』 技術評論社 2007年・向後千春 富永敦子 『統計学がわかる—アイスクリームで味わう』 関係の統計学』 技術評論社 2008年

参考書・参考資料等

・下山晴彦ほか 『心理学研究法入門』 東京大学出版会、2004年・他は授業中で紹介する

学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する(60%)・レポート(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 統計の基本用語を覚えている。
 (B) 統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
 (A) 統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
 (S) 統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

・パソコンを取り入れた科目である。・心理測定法も併せて履修することが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。・統計ソフトによっては起動しないことがある。パソコンはOSがWindowsで、Microsoft社のExcelがインストールされているものを準備することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助していた教員(臨床心理士・公認心理師)の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親しみを持つことを目指す。・身近に使われている統計資料を提示し、そこに含まれる課題などを講義の内容に照らし合わせて考えていく。

科目名	企画科目(心理測定法)						学期	後期
副題	発展的な心理統計の理解と実践				授業方法	講義	担当者	五明優介
ナンバリング	G-10-228	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解することを目的とする。心理学で扱うテーマは、たとえば、感覚のように人によって異なるものを扱うことが多い。統計学を用いることにより、抽象的な物ごとを科学的エビデンスに基づいて表すことの重要性を知る。講義形式の授業であるが、授業内でパソコンを用いた計算等の演習を行い、機器を扱える技術を修得する。

授業の到達目標

統計の基本用語について理解でき、説明できる。・様々な統計手法の特徴を理解して、適切な方法で計算を行うことができる。統計ソフトの操作を習得して、統計処理を素早く行うことができるようになる。統計結果の記載方法を理解して、学術論文などの内容を理解できるようになる。

授業計画

1. データ縮約記述
2. 推測統計
3. 独立変数と従属変数
4. 質的変数と量的変数
5. 被験者内要因と被験者間要因
6. t 検定と分散分析
7. 1 要因の分散分析
8. 2 要因分析主効果と交互作用・被験者内要因を含む分散分析
9. ノンパラメトリック法
10. 相関
11. 回帰分析①
12. 回帰分析②
13. 連関
14. x 2 検定①
15. x 2 検定②

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ (45 分)、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめ覚えなおす (45 分) 。・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い (45 分)、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する (45 分) 。

テキスト

・小宮 あすか、布井 雅人 『Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける』 講談社 2018 年

参考書・参考資料等

・下山晴彦ほか 『心理学研究法入門』 東京大学出版会, 2004 年・他は授業中で紹介する

学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する (60%)、レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 統計の基本用語を覚えていく。
- (B) 統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
- (A) 統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
- (S) 統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

・本講義は前期の「心理統計学」の内容を発展していく科目になる。そのため、「心理統計学」を受講してからの履修が好ましい。・実際に統計ソフトで計算を行う科目であるため、初歩的な Excel 操作などのパソコン操作が必須となる。・統計ソフトが起動しない場合があるため、パソコンは OS が Windows で、Microsoft 社の Excel がインストールされているものを準備するのが望ましい。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助していた教員 (臨床心理士・公認心理師) の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親しみを持つことを目指す。・身近に使われている統計資料を提示し、そこに含まれる課題などを講義の内容に照らし合わせて考えていく。

科目名	企画科目(社会心理学)						学期	後期
副題	対人心理学				授業方法	講義	担当者	松下歩睦
ナンバリング	G-10-229	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他 A・I

授業の目的と概要

自己と他者・集団・社会の社会心理学の基礎的テーマを講義し、様々な社会心理現象をより細かく知ることによって理解を深める。自己と他者の分野では、社会における個人の自己のありかたや他者に対する認知や感情が研究され、集団・社会の分野では、より応用的な研究が行われている。たとえば、対人関係を円滑にするための社会的スキル・説得的コミュニケーションなどがあげられる。この講義では、映画を通してワールドカフェ法などを行いながら、それらの研究を支える様々な理論的枠組みについて話し合いながら学んでいくことで理解を深める。

授業の到達目標

・社会心理学の基本用語について自分の言葉で説明が出来るようになる ・更に動画学習(映画鑑賞)を通してより現実的に理解し、意見交換をしながらより多くの意見を取り入れる ・社会心理学の理論がどのように活用されているのかを理解し、現実社会でも利用できるように習得する

授業計画

1. 社会心理学概論
2. 社会的認知の基礎：脳と認知
3. 対人認知：第一印象形成
4. 対人感情
5. 自己概念
6. 自己開示
7. 向社会的行動
8. 反社会的行動
9. 対人コミュニケーション（言語的）
10. 対人コミュニケーション（非言語的）
11. 説得的コミュニケーション
12. 集団の中の人間 リーダー
13. 集団の中の人間 葛藤
14. ネットワーク
15. まとめと振り返り

準備学習(予習・復習)・時間

・【予習】 事前学修として、講義内容と講義で配布される資料の要点を整理しておく(45分) ・【復習】 事後学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味をより深く理解する(45分) ・【発表】 課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表後内容について各自で整理する(45分)

テキスト

山岸俊男（編集）『社会心理学キーワード』有斐閣、2001年

参考書・参考資料等

堀洋道（監修）『新編社会心理学[改訂版]』福村出版、2009年

学生に対する評価

授業参加の積極性と小レポート（70%）・各テーマ発表（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 社会心理学の基本用語を覚えている。
 (B) 社会心理学の基本用語について、参考書やノートの言語を用いて、説明できる。
 (A) 社会心理学の基本用語について、参考書やノートを見て、自分の言葉で説明できる。
 (S) 社会心理学の基本用語について、自分の言葉で説明が出来、深く理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う ・レポート発表のフィードバック方法は授業の中で指示する

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士としての臨床経験から、社会心理学理論に基づく実際について具体的に知識を提供している。特に、スクールカウンセラーとして、教育現場や相談機関での実務経験を生かし、集団や社会について体験的に学習可能な教材を選択し、机上の勉強だけでなくとどまらずより現実的に理解しやすい形で学習することで、具体的に実生活に活かすことが出来る能力を身につけさせる。

科目目次
(大学院)

文学研究科修士課程 密教学専攻 (修了要件：30単位)

[博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
後期	火	1	92151	密教学講義(大)	北川真寛	2	8単位を超えて修了要件に 参加できない。	院-1
前期	月	3	91302	仏教学講義(大)	菊谷竜太	2		院-2
前期	月	2	91201	インド学講義(大)	徳重弘志	2		院-3
前期	水	5	93501	祖典演習A(大)【LS】	米田弘仁	2		院-4
後期	水	5	93551	祖典演習B(大)【LS】	米田弘仁	2		院-5

2) 主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁	
前期	木	3	94301	密教学特殊研究A(大)	川崎一洋	2	主要科目12単位必修	院-6	
後期	木	3	94351	密教学特殊研究B(大)	川崎一洋	2		院-7	
前期	金	1	95101	密教学特殊研究C(大)【LS】	Tドライブライン	2		院-8	
後期	金	1	95151	密教学特殊研究D(大)【LS】	Tドライブライン	2		院-9	
前期	火	3	92301	密教史特殊研究A(大)	北川真寛	2		院-10	
後期	集中	集中	97052	密教史特殊研究B(大)	岩崎日出男	2		院-11	
前期	月	2	91202	密教学演習A(大)	大柴清圓	2		院-12	
後期	月	2	91251	密教学演習B(大)	大柴清圓	2		院-13	
前期	水	2	93202	密教史演習A(大)	坂口太郎	2		院-14	
後期	水	2	93252	密教史演習B(大)	坂口太郎	2		院-15	
前期	月	3	91301	密教学講読A(大)	大柴清圓	2		院-16	
後期	月	3	91351	密教学講読B(大)	大柴清圓	2		院-17	
前期	火	2	92201	密教史講読(大)	木下智雄	2		院-18	
前期	木	1	94101	現代社会と宗教(大)	森崎雅好	2		社会人コースは4単位必修	院-19
前期	金	2	95201	密教と文化(大)	奥山直司	2		僧侶コースは4単位必修 ※事相研究I及びIIでそれぞれ 2単位以上修得すること	院-20
前期	月	4	91401	事相研究I-1(大)	佐藤隆彦	2			院-21
後期	月	4	91451	事相研究I-2(大)	佐藤隆彦	2			院-22
前期	木	2	94201	事相研究II-1(大)【LS】	Tドライブライン	2			院-23
後期	木	2	94251	事相研究II-2(大)【LS】	Tドライブライン	2	院-24		

3) 関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	2	92202	仏教学特殊研究A(大)	前谷彰	2		院-25
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究B(大)	前谷彰	2		院-26
前期	木	5	94502	仏教史特殊研究A(大)	岡田英作	2		院-27
後期	木	5	94552	仏教史特殊研究B(大)	岡田英作	2		院-28
前期	水	2	93201	仏教学演習A(大)	菊谷竜太	2		院-29
後期	水	2	93251	仏教学演習B(大)	菊谷竜太	2		院-30
前期	木	4	94402	仏教学講読A(大)	那須真裕美	2		院-31
後期	木	4	94452	仏教学講読B(大)	岡田英作	2		院-32
後期	集中	集中	97051	仏教学講読C(大)	平岡宏一	2		院-33
前期	火	3	92302	仏教史講読A(大)【LSO】	櫻木潤	2		院-34
後期	火	3	92351	仏教史講読B(大)【LSO】	櫻木潤	2		院-35

4) 共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	備考	頁
前期	金	2	95203	密教実践法の研究A(大)【LS】	Tドライブライン	2		院-36
後期	金	2	95251	密教実践法の研究B(大)【LS】	Tドライブライン	4		院-37
前期	月	1	91101	仏教芸術の研究(大)	松長潤慶	2		院-38
前期	集中	集中	97001	宗教学宗教学史の研究(大)	山脇雅夫	3		院-39
前期	金	3	95301	アジア地域の宗教文化の研究(大)	南昌宏	2		院-40
後期	月	2	91252	比較宗教の研究(大)	森本一彦	2		院-41
後期	金	2	95252	現代社会と仏教の研究(大)	奥山直司	2		院-42

5) 修士論文

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	頁
通年	—	—	99001	修士論文(密教学)	大学院委員長	0		—
前期	—	—	99003	修士論文(密教学)(前期)	大学院委員長	0	7月提出許可者	—

文学研究科修士課程 仏教学専攻（修了要件：30単位）

[博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1) 基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
後期	火	1	92151	密教学講義 (大)	北 川 真 寛	2	8 単位を超えて修了要件に 参加できない。	院-1
前期	月	3	91302	仏教学講義 (大)	菊 谷 竜 太	2		院-2
前期	月	2	91201	インド学講義 (大)	徳 重 弘 志	2		院-3
前期	水	5	93501	祖典演習 A (大) 【LS】	米 田 弘 仁	2		院-4
後期	水	5	93551	祖典演習 B (大) 【LS】	米 田 弘 仁	2		院-5

2) 主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
前期	火	2	92202	仏教学特殊研究 A (大)	前 谷 彰	2	主要科目12単位必修	院-25
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究 B (大)	前 谷 彰	2		院-26
前期	木	5	94502	仏教史特殊研究 A (大)	岡 田 英 作	2		院-27
後期	木	5	94552	仏教史特殊研究 B (大)	岡 田 英 作	2		院-28
前期	水	2	93201	仏教学演習 A (大)	菊 谷 竜 太	2		院-29
後期	水	2	93251	仏教学演習 B (大)	菊 谷 竜 太	2		院-30
前期	木	4	94402	仏教学講読 A (大)	那 須 真 裕 美	2		院-31
後期	木	4	94452	仏教学講読 B (大)	岡 田 英 作	2		院-32
後期	集中	集中	97051	仏教学講読 C (大)	平 岡 宏 一	2		院-33
前期	火	3	92302	仏教史講読 A (大) 【LSO】	櫻 木 潤	2		院-34
後期	火	3	92351	仏教史講読 B (大) 【LSO】	櫻 木 潤	2	院-35	
前期	木	1	94101	現代社会と宗教 (大)	森 崎 雅 好	2	社会人コースは 4 単位必修	院-19
前期	金	2	95202	仏教と文化 (大)	奥 山 直 司	2		院-20
前期	月	4	91401	事相研究 I-1 (大)	佐 藤 隆 彦	2	僧侶コースは 4 単位必修 ※事相研究 I 及び II でそれぞれ 2 単位以上修得すること	院-21
後期	月	4	91451	事相研究 I-2 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-22
前期	木	2	94201	事相研究 II-1 (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-23
後期	木	2	94251	事相研究 II-2 (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-24

3) 関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
前期	木	3	94301	密教学特殊研究 A (大)	川 崎 一 洋	2		院-6
後期	木	3	94351	密教学特殊研究 B (大)	川 崎 一 洋	2		院-7
前期	金	1	95101	密教学特殊研究 C (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-8
後期	金	1	95151	密教学特殊研究 D (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-9
前期	火	3	92301	密教史特殊研究 A (大)	北 川 真 寛	2		院-10
後期	集中	集中	97052	密教史特殊研究 B (大)	岩 崎 日 出 男	2		院-11
前期	月	2	91202	密教学演習 A (大)	大 柴 清 圓	2		院-12
後期	月	2	91251	密教学演習 B (大)	大 柴 清 圓	2		院-13
前期	水	2	93202	密教史演習 A (大)	坂 口 太 郎	2		院-14
後期	水	2	93252	密教史演習 B (大)	坂 口 太 郎	2		院-15
前期	月	3	91301	密教学講読 A (大)	大 柴 清 圓	2		院-16
後期	月	3	91351	密教学講読 B (大)	大 柴 清 圓	2		院-17
前期	火	2	92201	密教史講読 (大)	木 下 智 雄	2		院-18

4) 共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	備 考	頁
前期	金	2	95203	密教実践法の研究 A (大) 【LS】	Tドライブライン	2		院-36
後期	金	2	95251	密教実践法の研究 B (大) 【LS】	Tドライブライン	4		院-37
前期	月	1	91101	仏教芸術の研究 (大)	松 長 潤 慶	2		院-38
前期	集中	集中	97001	宗教学宗教学史の研究 (大)	山 脇 雅 夫	3		院-39
前期	金	3	95301	アジア地域の宗教文化の研究 (大)	南 昌 宏	2		院-40
後期	月	2	91252	比較宗教の研究 (大)	森 本 一 彦	2		院-41
後期	金	2	95252	現代社会と仏教の研究 (大)	奥 山 直 司	2		院-42

5) 修士論文

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	頁
通年	—	—	99002	修士論文 (仏教学)	大学院委員長	0		-
前期	—	—	99004	修士論文 (仏教学) (前期)	大学院委員長	0	7月提出許可者	-

文学研究科博士後期課程（修了要件：12単位）

[密教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
前期	木	3	94351	密教学特殊研究 A (大)	川 崎 一 洋	2	※密教特殊演習4単位を含 め、12単位以上を履修しな ければならない。(複数回 履修可)	院-6
後期	木	3	94351	密教学特殊研究 B (大)	川 崎 一 洋	2		院-7
前期	金	1	95101	密教学特殊研究 C (大) 【LS】	T.ドライトライン	2		院-8
後期	金	1	95151	密教学特殊研究 D (大) 【LS】	T.ドライトライン	2		院-9
前期	火	3	92301	密教史特殊研究 A (大)	北 川 真 寛	2		院-10
後期	集中	集中	97052	密教史特殊研究 B (大)	岩 崎 日 出 男	2		院-11
前期	月	2	91202	密教学演習 A (大)	大 柴 清 圓	2		院-12
後期	月	2	91251	密教学演習 B (大)	大 柴 清 圓	2		院-13
前期	水	2	93202	密教史演習 A (大)	坂 口 太 郎	2		院-14
後期	水	2	93252	密教史演習 B (大)	坂 口 太 郎	2		院-15
前期	月	3	91301	密教学講読 A (大)	大 柴 清 圓	2		院-16
後期	月	3	91351	密教学講読 B (大)	大 柴 清 圓	2		院-17
前期	火	2	92201	密教史講読 (大)	木 下 智 雄	2		院-18
前期	木	2	94202	密教特殊演習 A-1 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-43
後期	木	2	94252	密教特殊演習 A-2 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-44
前期	火	2	92203	密教特殊演習 C-1 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-45
後期	火	2	92252	密教特殊演習 C-2 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-46
前期	月	5	91501	密教特殊演習 D-1 (大)	松 長 潤 慶	2		院-47
後期	月	5	91551	密教特殊演習 D-2 (大)	松 長 潤 慶	2		院-48
前期	月	1	91102	密教特殊演習 E-1 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-49
後期	月	1	91151	密教特殊演習 E-2 (大)	佐 藤 隆 彦	2		院-50
前期	木	5	94501	密教特殊演習 F-1 (大)	土 居 夏 樹	2		院-51
後期	木	5	94551	密教特殊演習 F-2 (大)	土 居 夏 樹	2		院-52
前期	火	4	92401	密教特殊演習 G-1 (大)	櫻 木 潤	2		院-53
後期	火	4	92451	密教特殊演習 G-2 (大)	櫻 木 潤	2		院-54

[仏教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担 当 者	単位	備 考	頁
前期	火	2	92202	仏教学特殊研究 A (大)	前 谷 彰	2	※仏教特殊演習4単位を含 め、12単位以上を履修しな ければならない。(複数回 履修可)	院-25
後期	火	2	92251	仏教学特殊研究 B (大)	前 谷 彰	2		院-26
前期	木	5	94502	仏教史特殊研究 A (大)	岡 田 英 作	2		院-27
後期	木	5	94552	仏教史特殊研究 B (大)	岡 田 英 作	2		院-28
前期	水	2	93201	仏教学演習 A (大)	菊 谷 竜 太	2		院-29
後期	水	2	93251	仏教学演習 B (大)	菊 谷 竜 太	2		院-30
前期	木	4	94402	仏教学講読 A (大)	那 須 真 裕 美	2		院-31
後期	木	4	94452	仏教学講読 B (大)	岡 田 英 作	2		院-32
後期	集中	集中	97051	仏教学講読 C (大)	平 岡 宏 一	2		院-33
前期	火	3	92302	仏教史講読 A (大)	櫻 木 潤	2		院-34
後期	火	3	92351	仏教史講読 B (大)	櫻 木 潤	2		院-35
前期	木	4	94401	仏教特殊演習 A-1 (大)	大学院委員長	2		院-55
後期	木	4	94451	仏教特殊演習 A-2 (大)	大学院委員長	2		院-56
前期	水	1	93101	仏教特殊演習 B-1 (大)	菊 谷 竜 太	2		院-57
後期	水	1	93151	仏教特殊演習 B-2 (大)	菊 谷 竜 太	2		院-58

講 義 概 要
授 業 計 画

科目名	密教学講義(大)						学期	後期
副題	密教学の思想				授業方法	講義	担当者	北川真寛
ナンバリング	D-01-230	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 I

授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

授業の到達目標

密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

授業計画

1. ガイダンス・密教総論
2. インド・チベット密教
3. アジアの密教
4. 日本密教
5. 神仏習合（・修験道）
6. 密教の聖典（1）—『大日経』—
7. 密教の聖典（2）—『金剛頂経』（・『理趣経』）—
8. 密教の聖典（3）—『菩提心論』・『釈摩訶衍論』—
9. 密教の曼荼羅（1）—胎藏曼荼羅—
10. 密教の曼荼羅（2）—金剛界曼荼羅—
11. 密教の成仏論
12. 密教の仏身論
13. 密教の灌頂
14. 期末試験と解説
15. まとめと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと（30分）。・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと（60分）。

テキスト

講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

①高神覚昇『密教概論』（大法輪閣、1989年）、②金岡秀友『密教の哲学』（講談社学術文庫、1989年）、③勝又俊教『密教入門』（春秋社、1991年）、④松長有慶『密教』（岩波新書、1991年）など。

学生に対する評価

試験（55%）、講義参加の積極性（45%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な密教の思想・用語を理解できる。
- (B) 専門的な密教の思想・用語を理解できる。
- (A) 専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。
- (S) 上記(A)を踏まえて密教の思想を体系的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

ICTを活用した講義である。

科目名	仏教学講義(大)							学期	前期
副題	仏教学の思想				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-02-231	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 仏教の伝達と受容① 南アジア
3. 仏教の伝達と受容② 西・中央アジア
4. 仏教の伝達と受容③ 東南アジア
5. 仏教の伝達と受容④ 東アジア
6. 仏教における聖典分類法と言語文化
7. 初期仏教① ブッダの生涯
8. 初期仏教② ブッダの思想
9. 初期仏教③ 仏典結集と阿含聖典
10. 部派仏教① アショーカ王と根本分裂
11. 部派仏教② 部派における律の違い
12. 部派仏教③ 部派における思想的違い
13. 大乘思想の起源① 僧院生活と大乘思想
14. 大乘思想の起源② 聖典と仏像
15. 試験と総括

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90 分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90 分)。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

①馬場紀寿『初期仏教—ブッダの思想をたどる』(岩波新書)、2018 年、②「仏教の思想」2・3・4(角川文庫ソフィア)、1996-1997 年、③グレゴリー・シヨベン・小谷信千代訳『大乘仏教興起時代 インドの僧院生活(新装版)』、春秋社、2018 年

学生に対する評価

ミニッツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
 (B) 仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
 (A) 部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
 (S) アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニッツペーパーの提出を求める。

科目名	インド学講義(大)						学期	前期	
副題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	D-01-232	実務経験の有無	無	関連DP	密1, 仏1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

真言密教は、弘法大師による独自の思想も盛り込まれているが、その思想や儀礼の多くはインドの伝統を受け継いでいる。そのため、真言宗について深く理解するためには、インドにおける密教の歴史を把握する必要がある。さらに、日本密教の独自性を理解するためには、比較対象としてチベット密教を知ることが重要である。この授業は、学生がインドやチベットにおける密教の歴史を学ぶことによって、密教史全体における日本密教の位置づけを理解することを目的とする。

授業の到達目標

・初期仏教や大乘仏教に対する密教の特色を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解し、他者に説明できるようになる。 ・インドやチベットにおける密教史の大まかな流れを理解し、他者に説明できるようになる。

授業計画

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. インドにおける仏教の歴史（1）：初期仏教
3. インドにおける仏教の歴史（2）：部派仏教・大乘仏教
4. インド初期密教（1）：密教の萌芽
5. インド初期密教（2）：密教の形成期
6. インド初期密教（3）：『大日経』の先行経典
7. インド中期密教（1）：『大日経』
8. インド中期密教（2）：『理趣経』・『理趣広経』
9. インド中期密教（3）：『初会金剛頂経』
10. インド後期密教（1）：父タントラ
11. インド後期密教（2）：母タントラ・不二タントラ
12. チベットの密教（1）：前伝仏教期
13. チベットの密教（2）：後伝仏教期
14. チベットの密教（3）：宗派の概説
15. チベットの密教（4）：近代の仏教

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（60分）。 ・授業後に毎回宿題を課すので、次回までに小レポートとして提出すること（120分）。

テキスト

・田中公明『インド密教史』、春秋社、2022年（小堀南岳書店で購入） ・杉木恒彦、On the Chronology of the Buddhist Tantras, 2022年（論文のため、コピーを配布する）

参考書・参考資料等

・高橋尚夫 他編『初期密教 一思想・信仰・文化一』、春秋社、2013年 ・高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』、春秋社、2016年 ・松長有慶 編『インド後期密教』(上・下)、春秋社、2005・2006年

学生に対する評価

レポート（70%）、毎回の授業で課す小レポート（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教、大乘仏教、密教の関係を正確に理解できている。
 (B) インドやチベットにおける密教経典の分類法を正確に理解できている。
 (A) 主要な密教経典の特徴を正確に理解できている。
 (S) インド・チベット密教史の流れを正確に理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。 ・提出された小レポートに関しては、次の授業において解説を行う。

その他

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・遅刻3回で欠席1回とみなす。 ・調査学習を取り入れた科目である。

科目名	祖典演習A(大)							学期	前期
副題	『声字実相義』を読む					授業方法	講義	担当者	米田弘仁
ナンバリング	D-01-233	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師空海の著作である『声字実相義』全編を読了することを第一の目的とする。あわせて真言宗伝統の訓詁を批判的に読むことによって深く内容を理解すること、大乘仏教の思想との比較を通じて空海の思想の特異性を理解すること、言語哲学というジャンルの中でこの書を見たばあいにかなる位置を占めるものであるのか理解することを目的とする。

授業の到達目標

『声字実相義』の本文をスラスラと読めるようになること。表層的な理解に終わることなく、一文一句、出典を確認しながら空海がいかなる経緯を経てその理解に至ることができたのかを確認しつつ正しく内容が理解できるようになること。

授業計画

1. 空海の諸著作の紹介。
2. 『十卷章』の編纂過程、四声点・声訓みの解説。
3. 日本における仏教学・漢文学の歴史。
4. 真言宗における伝統教学の歴史についての解説。
5. 仏教における言語観の概説①（三科百法における声・字の位置づけ）。
6. 仏教における言語観の概説②（『成唯識論』の説）。
7. 仏教における言語観の概説③（『大日経疏』の説）。
8. 序分講読（叙意①、テキスト p. 33）
9. 序分講読（叙意②、テキスト pp. 33-34）
10. 正宗分講読（釈名、「声字実相義」各別釈、テキスト p. 34）
11. 正宗分講読（釈名、六離合釈①、テキスト p. 34）
12. 正宗分講読（釈名、六離合釈②、テキスト p. 35）
13. 正宗分講読（釈体義、引証①、テキスト pp. 35-37）
14. 正宗分講読（釈体義、引証②、テキスト p. 37）
15. 正宗分講読（釈体義、五大皆有響、テキスト p. 38）

準備学習(予習・復習)・時間

予習は講義当日の範囲の素読を練習しておくこと（60分）。復習は当日の講義範囲のノートを作成すること（60分）。

テキスト

高野山大学編『十卷章』（有限高野で購入）

参考書・参考資料等

小田慈舟『十卷章講読』（高野山出版社）。図書館にて内容を確認しておくこと。

学生に対する評価

素読ができるかどうか（30%）、内容が理解できているかどうか（30%）、講義において提示した出典の文献を原文で確認できるかどうか（40%）。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 本文の素読ができること。
- (B) 参考書を用いて事前に本文の内容のあらすじをつかめていること。
- (A) 本文の内容を批判的に読む（なぜそのように訳せるのかその意識を探る）姿勢ができていること。
- (S) 自身で出典を検索して、実際に他の資料との比較を通じて原文を深く読みこむ技術が習得されていること。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問・意見を受ける時間を設ける。次の授業の中においてその質問・意見を取りあげてそのことについて考察する。

その他

授業のはじめに受講者全員に一人ずつ割り当てて本文を読んでもらうため、必ず事前に読みの練習をしておくこと。

科目名	祖典演習B(大)						学期	後期	
副題	『声字実相義』を読む				授業方法	講義	担当者	米田弘仁	
ナンバリング	D-01-234	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師空海の著作である『声字実相義』全編を読了することを第一の目的とする。あわせて真言宗伝統の訓詁を批判的に読むことによって深く内容を理解すること、大乘仏教の思想との比較を通じて空海 of 思想の特異性を理解すること、言語哲学というジャンルの中でこの書を見たばあいにかなる位置を占めるものであるのか理解することを目的とする。

授業の到達目標

『声字実相義』の本文をスラスラと読めるようになること。表層的な理解に終わることなく、一文一句、出典を確認しながら空海がいかなる経緯を経てその理解に至ることができたのかを確認しつつ正しく内容が理解できるようになること。

授業計画

1. 正宗分講読 (釈体義、十界具言語、テキスト pp. 38-40)
2. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色①、テキスト pp. 41-43)
3. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色②、テキスト pp. 41-43)
4. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色③、テキスト pp. 44-47)
5. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色④、テキスト pp. 44-47)
6. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色⑤、テキスト pp. 44-47)
7. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色⑥、テキスト pp. 44-47)
8. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、顕形表等色⑦、テキスト pp. 44-47)
9. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、能迷亦能悟、テキスト p. 47)
10. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、内外依正具①、テキスト pp. 47-48)
11. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、内外依正具②、テキスト pp. 47-48)
12. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、法然随縁有①、テキスト pp. 48-51)
13. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、法然随縁有②、テキスト pp. 48-51)
14. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、法然随縁有③、テキスト pp. 48-51)
15. 正宗分講読 (釈体義、六塵悉文字、法然随縁有④、テキスト pp. 48-51)

準備学習(予習・復習)・時間

予習は講義当日の範囲の素読を練習しておくこと (60 分)。復習は当日の講義範囲のノートを作成すること (60 分)。

テキスト

高野山大学編『十卷章』(有限高野で購入)

参考書・参考資料等

小田慈舟『十卷章講読』(高野山出版社)。図書館にて内容を確認しておくこと。

学生に対する評価

素読ができるかどうか (30%)、内容が理解できているかどうか (30%)、講義において提示した出典の文献を原文で確認できるかどうか (40%)。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 本文の素読ができること。
- (B) 参考書を用いて事前に本文の内容のあらすじをつかめていること。
- (A) 本文の内容を批判的に読む (なぜそのように訳せるのかその意識を探る) 姿勢ができていないこと。
- (S) 自身で出典を検索して、実際に他の資料との比較を通じて原文を深く読みこむ技術が習得されていること。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に質問・意見を受ける時間を設ける。次の授業の中においてその質問・意見を取りあげてそのことについて考察する。

その他

授業のはじめに受講者全員に一人ずつ割り当てて本文を読んでもらうため、必ず事前に読みの練習をしておくこと。

科目名	密教学特殊研究A(大)							学期	前期
副題	胎蔵曼荼羅の構造と理論					授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	D-01-235	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

はじめに「曼荼羅とは何か？」をインド密教の歴史とともに解説し、弘法大師・空海が日本に伝えた胎蔵曼荼羅・金剛界曼荼羅の両部曼荼羅のうち、『大日経』に説かれる胎蔵曼荼羅を取り上げ、その図像の解析をおこないながら、そこに象徴される思想を読み解く。

授業の到達目標

密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画

1. いろいろな曼荼羅を見てみよう
2. 密教の歴史と曼荼羅
3. 曼荼羅とは何か？①
4. 曼荼羅とは何か？②
5. 『大日経』概説
6. 『大日経』が説く胎蔵曼荼羅
7. 胎蔵曼荼羅の図像の発展
8. 中台八葉院
9. 蓮華部院
10. 金剛手院
11. 遍知院と持明院
12. 釈迦院と文殊院
13. 虚空蔵院、地藏院、除蓋障院
14. 外金剛部院の神々①
15. 外金剛部院の神々②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等

田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンドラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) / 田中公明『インド密教史』(春秋社) など

学生に対する評価

試験・レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 曼荼羅とは何かを、インドの密教史の流れとともに説明できる。
- (B) 胎蔵曼荼羅の全体構造を把握し、胎蔵曼荼羅を構成する諸尊について図像学の立場から説明できる。
- (A) 胎蔵曼荼羅を『大日経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。
- (S) 胎蔵曼荼羅について、新たな視点から問題点を指摘し、それに対して適切な資料を用いて独自の解釈を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊研究B(大)						学期	後期	
副題	金剛界曼荼羅の構造と理論				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	D-01-236	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

両部曼荼羅のうち、『金剛頂経』に説かれる金剛界曼荼羅について、その図像を解析しながら、そこに象徴される思想を読み解く。日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本のほか、インドやチベットの金剛界曼荼羅についても紹介し、さらに、金剛界曼荼羅から発展した後期密教の曼荼羅にも触れてみたい。

授業の到達目標

密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

授業計画

1. 『金剛頂経』概説
2. 『金剛頂経』と曼荼羅
3. 金剛界曼荼羅の構造
4. 金剛界五仏
5. 十六大菩薩①
6. 十六大菩薩②
7. 四波羅蜜菩薩と八供養菩薩
8. 四摂菩薩と賢劫尊
9. 外金剛部の神々
10. 六種曼荼羅の図像表現の方法
11. 「降三世品」「遍調伏品」「一切義成就品」の曼荼羅の特徴
12. 日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本
13. インドの金剛界系遺品とチベットの金剛界曼荼羅
14. 後期密教の曼荼羅①
15. 後期密教の曼荼羅②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

参考書・参考資料等

田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンドラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) / 田中公明『インド密教史』(春秋社) など

学生に対する評価

試験・レポート(50%)、授業参加の積極性(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 金剛界曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
- (B) 金剛界曼荼羅を『金剛頂経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。
- (A) 『金剛頂経』と金剛界曼荼羅が密教史の上で果たした役割を説明できる。
- (S) 金剛界曼荼羅について、新たな視点から問題点を指摘し、それに対して適切な資料を用いて独自の解釈を示すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊研究C(大)							学期	前期
副題	『理趣釈』を読む(前半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	D-01-237	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

この授業では、不空訳『理趣経』と『理趣釈』を読み、さらに空海の『理趣経』に対する考え方を『理趣経開題』等から学ぶ。『理趣釈』に対する代表的な注釈書としての元広の『理趣経愚解鈔』(5巻)と果宝の『理趣釈秘要鈔』(12巻)を重要な箇所を読み、事相・教相の両側面から『理趣釈』を考察する。授業は『理趣釈秘要鈔』に沿って進む。日本における伝統的な『理趣経』の理解を通じて、真言密教の僧侶に不可欠な学問を探求する。

授業の到達目標

漢文読解力、密教経典への知識、事相・教相の理解を深める。

授業計画

1. 『理趣経』と『理趣釈』について
2. 弘法大師の『理趣経開題』について
3. 五秘密について
4. 『理趣釈秘要鈔』第1巻①
5. 『理趣釈秘要鈔』第1巻②
6. 『理趣釈秘要鈔』第2巻①
7. 『理趣釈秘要鈔』第2巻②
8. 『理趣釈秘要鈔』第3巻①
9. 『理趣釈秘要鈔』第3巻②
10. 『理趣釈秘要鈔』第4巻①
11. 『理趣釈秘要鈔』第4巻②
12. 『理趣釈秘要鈔』第5巻①
13. 『理趣釈秘要鈔』第5巻②
14. 『理趣釈秘要鈔』第6巻①
15. 『理趣釈秘要鈔』第6巻②

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『理趣釈』、『理趣経開題』等、『理趣経愚解鈔』、『理趣釈秘要鈔』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『弘法大師全集』、『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『理趣釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
 (B) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
 (A) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
 (S) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。この講義の内容は後期に続くため、「密教学特殊研究D(大)」を続けて受講することを推薦する。

科目名	密教学特殊研究D(大)							学期	後期
副題	『理趣釈』を読む(前半)					授業方法	講義	担当者	T.ドライトライン
ナンバリング	D-01-238	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

この授業では、不空訳『理趣経』と『理趣釈』を読み、さらに空海の『理趣経』に対する考え方を『理趣経開題』等から学ぶ。『理趣釈』に対する代表的な注釈書としての元広の『理趣経愚解鈔』(5巻)と梶宝の『理趣釈秘要鈔』(12巻)を重要な箇所を読み、事相・教相の両側面から『理趣釈』を考察する。授業は『理趣釈秘要鈔』に沿って進む。日本における伝統的な『理趣経』の理解を通じて、真言密教の僧侶に不可欠な学問を探求する。

授業の到達目標

漢文読解力、密教経典への知識、事相・教相の理解を深める。

授業計画

1. 『理趣釈秘要鈔』第6巻①
2. 『理趣釈秘要鈔』第6巻②
3. 『理趣釈秘要鈔』第7巻①
4. 『理趣釈秘要鈔』第7巻②
5. 『理趣釈秘要鈔』第8巻①
6. 『理趣釈秘要鈔』第8巻②
7. 『理趣釈秘要鈔』第9巻①
8. 『理趣釈秘要鈔』第9巻②
9. 『理趣釈秘要鈔』第10巻①
10. 『理趣釈秘要鈔』第10巻②
11. 『理趣釈秘要鈔』第11巻①
12. 『理趣釈秘要鈔』第11巻②
13. 『理趣釈秘要鈔』第12巻①
14. 『理趣釈秘要鈔』第12巻②
15. 『理趣経』と弘法大師

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

『理趣釈』、『理趣経開題』等、『理趣経愚解鈔』、『理趣釈秘要鈔』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『弘法大師全集』、『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『国訳一切経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『理趣釈』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
 (B) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
 (A) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
 (S) 『理趣釈』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「密教学特殊研究C(大)」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	密教史特殊研究A(大)						学期	前期	
副題	南山学道の研究と実践				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	D-01-239	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山は伝統的に京都の南に位置することから「南山」と呼ばれ、弘法大師以降の教えを今に伝えている。そのため南山では、現在でも「勸学会」や「月並問講」などの法談論議が行われ、学問と修行の道場として側面を有している。本講義では、それら南山に伝えられた教学を学ぶだけでなく、実際の間講がどのように行われているのかを体験することで、南山学道に対する理解を深めることを目的とする。そのため受講者は、各論題を選択し発表を行う。

授業の到達目標

高野山の教学を学び、問講を体験することを通じて、弘法大師の思想がどのように解釈され、どのように展開されて、現代につながってきたのかについて理解するとともに、南山教学の特徴を説明できる力を身につけ、実践できるようにする。

授業計画

1. ガイダンス・総論—学道とは何か—
2. 弘法大師の著作
3. 弘法大師の教え—即身成佛—
4. 弘法大師の教え—法身説法—
5. 高野山の歴史と地理
6. 壇上伽藍と奥之院
7. 高野山の学道概説
8. 高野山の論義 (1) —綵画形像—
9. 高野山の論義 (2) —一門普門—
10. 高野山の論義 (3) —三密双修—
11. 高野山の論義 (4) —一事六度—
12. 高野山の論義 (5) —模擬問講体験—
13. 高野山の論義 (6) —受講者発表—
14. 高野山の論義 (7) —受講者発表—
15. 高野山の論義 (8) —受講者発表— 総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業計画に記載されたテーマについて辞書などで調べておくこと (30分)。・自身の発表時には、取り上げる論題を事前に選び、発表資料を作成すること (120分)。・事後学習として、講義内容や各発表内容を見直し、その思想や用語を理解しておくこと (60分)。

テキスト

・北川真寛『はじめての「弘法大師と高野山のおしえ」入門』(セルバ出版、2022年)を講師が一括で用意する。・常用経典

参考書・参考資料等

・『宗義決撰集』(『真言宗全書』巻19、統真言主全書刊行会、1935年)・小田慈舟訳『宗義決撰集』(『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社、1936年)・『密教大辞典』・『仏教語大辞典』、その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

講義内での発表 (55%)、ディスカッション等の講義への参加の積極性 (45%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 論義に引用されている典故を指摘し、語註を付した上で、本文の書き下し・現代語訳を作成できる。
 (B) 上記 (C) を踏まえた上で、論義の内容を正確に理解している。
 (A) 上記 (B) を踏まえた上で、それぞれの論題が設定された理由を考察することができる。
 (S) 上記 (A) を踏まえ、各論題の内容を自分の言葉で説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・論義を体験するため、受講者は得度修了者 (もしくは前期の内に得度を行う者) に限る。尼僧も可。・特に勸学会に出仕する者、既に出仕した者で、論義について学びたい者の受講を望む。・発表担当者を決めて、該当論義についての個人、またはグループ発表を行い、質疑応答も実施する。・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり、勸学会などに参画している教員が、学侶の立場から南山教学や論義の内容を解説、ならびに体験を指導し、特に真言宗の学侶を目指す者にとって必須の教学を身につけさせる。

科目名	密教史特殊研究B(大)						学期	後期	
副題	『不空三蔵表制集』から考察する唐代密教				授業方法	講義	担当者	岩崎日出男	
ナンバリング	D-01-240	実務経験の有無	無	関連DP	1・2・3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『不空三蔵表制集』は不空三蔵及びその弟子と唐朝との間で取り交わされた公文書を集成したものである。この文献を読み考察することによって、国家(唐朝・皇帝)と密教(不空三蔵と弟子達)とがどのような関係を持っていたのかを理解する。具体的には、肅宗・代宗皇帝と不空三蔵との関係、不空三蔵が推し進めた密教宣布のための方法と実践、不空三蔵以後の密教の状況の三点について学習し理解する。また、上記の学習と理解を通して国家(唐朝・皇帝)において密教のどのようなことが認められ評価されたのかを理解する。

授業の到達目標

国家(唐朝・皇帝)と密教(不空三蔵と弟子達)とがどのような関係を持っていたのかを知り、唐代密教の歴史と特徴を説明できるようになる。

授業計画

1. ガイダンス 授業方法の説明と評価方法の説明及び不空三蔵以前の密教 1 善無畏三蔵の密教とその布教
2. 不空三蔵以前の密教 2 金剛智三蔵の密教とその布教
3. 『不空三蔵表制集』巻1 「謝恩賜香陳情表一首」大正52、827
4. 『不空三蔵表制集』巻1 「請搜訪天下梵夾修葺翻譯制書一首」大正52、828
5. 『不空三蔵表制集』巻1 「請大興善寺置灌頂道場墨勅一首」大正52、829
6. 『不空三蔵表制集』巻1 「請每載置灌頂道場墨勅一首」大正52、830
7. 『不空三蔵表制集』巻2 「謝贈故金剛三蔵官號等表一首」大正52、833
8. 『不空三蔵表制集』巻2 「請捨衣鉢助僧道環修金閣寺制書一首」大正52、834
9. 『不空三蔵表制集』巻2 「請太原號令堂安像淨土院抽僧制書一首」大正52、837
10. 『不空三蔵表制集』巻3 「三朝所翻經請入目錄流行表一首」大正52、839～40
11. 『不空三蔵表制集』巻3 「謝恩許新翻經論入目錄流行表一首」大正52、840
12. 『不空三蔵表制集』巻4 「加開府及封肅國公制一首」大正52、845
13. 『不空三蔵表制集』巻4 「三蔵和上臨終陳情辭表一首」大正52、846
14. 『不空三蔵表制集』巻5 「請續置功德使表一首」大正52、853
15. 『不空三蔵表制集』巻6 「往五臺山修功德辭謝聖恩表一首」大正52、858 まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に学習する表制(事前に指定)を読み、内容の凡そを理解しておく(70分)。事後学習として授業で考察した表制について、その内容が密教と国家・布教の方法と実践・不空以後の状況の三点の内どれに該当する表制かを確認しておく(30分)。

テキスト

『不空三蔵表制集』六巻(『大正新脩大蔵経』巻52)

参考書・参考資料等

『国訳一切経』和漢撰述部・護教部五、「代宗朝贈司空大辯正大廣智三蔵和上表制集」大東出版社
『新アジア仏教史7中国Ⅱ隋唐 興隆・発展する仏教』第6章密教の伝播と浸透」佼成出版社

学生に対する評価

発表(60%) レポート(40%)で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 訓点を機械的に扱える。
- (B) 基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
- (A) 訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
- (S) 訓点の付いた漢文を意味の疎通した現代語訳をすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

この授業は事前学習が重要であり、それ無しでは成立しないので十分に学習しておく必要がある。

科目名	密教学演習A(大)						学期	前期	
副題	『菩提心論』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	D-01-241	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師が真言宗の僧侶に学習することを課した必須の論書である『菩提心論』の内容を理解する。前期は、まずテキスト上の問題があり、伝統的に誤読・誤解されている冒頭一段落について学ぶ。また『菩提心論』の作者・成書時期などについて、最新の研究成果を学ぶ。行願段・勝義段・三摩地段で構成される『菩提心論』の本文において、前期は行願段と勝義段を学習する。

授業の到達目標

『十卷章』本『菩提心論』の訓読の誤りを知り、正確な読解を身に着ける。最新の研究成果を踏まえた上で、『菩提心論』の全体の構成を把握する。二乗と顕教の修行法では即身成仏することができないことを理解する。

授業計画

1. 『菩提心論』の主題・副題
2. 「大阿闍梨云」について
3. 『菩提心論』における序文と目録の存在
4. 『菩提心論』の作者・龍猛菩薩造について
5. 序文：二つの発菩提心・魔宮震動・勝快樂
6. 序文：求菩提者発菩提心修菩提行
7. 行願段：利益
8. 行願段：安楽
9. 勝義段：一切法無自性
10. 勝義段：声聞の四諦法・縁覚の十二因縁法
11. 勝義段：顕教の三劫成仏
12. 勝義段：『華嚴経』所説の五十二位に修行階梯
13. 勝義段：大悲為根本
14. 勝義段：『秘藏宝鑰』第六・七・八・九住心との関係
15. 勝義段：五相成身觀と第十・九・八・七住心

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清圓校注『校注菩提心論』大遍照院(アマゾンで購入)

参考書・参考資料等

『十卷章』高野山大学出版部、1941年

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。テキストの〔解説〕を通して、『菩提心論』の内容を理解することができること。
- (B) 学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『菩提心論』の構成を学術的に説明することができること。
- (A) 学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。行願段・勝義段の主旨を把握することができること。
- (S) 学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。五相成身觀と第十・九・八・七住心との対応について理解することができること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

学期末試験はペーパーテストで行う。金剛界の結縁灌頂を受けていることが望ましい(毎年秋に壇場伽藍金堂にて行われる)。むろん伝法灌頂を受けている者は構わない。

科目名	密教学演習B(大)						学期	後期	
副題	『菩提心論』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	D-01-242	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師が真言宗の僧侶に学習することを課した必須の論書である『菩提心論』の内容を理解する。後期は密教の即身成仏に直結する三摩地段について学習する。密教の悟りの内容とは何かを金剛界三十七尊の出生を通して知る。三摩地段に説かれる①阿字観、②三密行、③五相成身観、④合蓮華と満月輪、の四つの「菩提心の三摩地法」について理解を深める。

授業の到達目標

『十卷章』本『菩提心論』の訓読の誤りを知り、正確な読解を身に着ける。なぜ即身成仏に発菩提心が不可欠であるかを理解する。五相成身観の観想法を深く理解し、自身の行法に生かすことができるようになる。

授業計画

1. 三摩地段：普賢大菩提心・三種金剛薩埵
2. 三摩地段：金剛界三十七尊（五仏・四波羅蜜菩薩）
3. 三摩地段：金剛界三十七尊（十六大菩薩）
4. 三摩地段：金剛界三十七尊（十二供養菩薩）
5. 三摩地段：自性身と受用身・自受用身と他受用身
6. 三摩地段：阿字観（第一段階・入智）
7. 三摩地段：阿字観（第二段階・纒見者）
8. 三摩地段：阿字観（第三段階・常見者）
9. 三摩地段：阿字観（第四段階・廓周法界）
10. 三摩地段：五相成身観（第一相・達達菩提心）
11. 三摩地段：五相成身観（第二相・修菩提心）
12. 三摩地段：五相成身観（第三相・修金剛心）
13. 三摩地段：五相成身観（第四相・証金剛身）
14. 三摩地段：五相成身観（第五相・仏身円満①）
15. 三摩地段：諸仏加持（仏身円満②）

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『菩提心論』の内容を、テキストの〔訓読〕と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清圓校注『校注菩提心論』大遍照院（アマゾンで購入）

参考書・参考資料等

『十卷章』高野山大学出版部、1941年

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。テキストの〔解説〕を通して、『菩提心論』の内容を理解することができること。
- (B) 学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『菩提心論』のテキスト上・読解上の問題点を学術的に説明することができること。
- (A) 学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。自性身と自受用身、自受用身と他受用身の違いを理解し、金剛界三十七尊の出生の意味を理解することができる。
- (S) 学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。五相成身観を正確に理解することができること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

学期末試験はペーパーテストで行う。金剛界の結縁灌頂を受けていることが望ましい(毎年秋に壇場伽藍金堂にて行われる)。むろん伝法灌頂を受けている者は構わない。

科目名	密教史演習A(大)						学期	前期	
副題	「史学研究法の習得と史的認識の形成」				授業方法	演習	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D-25-243	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本演習では、歴史学の研究方法を学ぶとともに、『東大寺円照上人行状』中の精読を通して、史料読解力を高める。また、自己の研究テーマを定めて、先行研究の検討や研究報告を行ない、歴史的な問題意識と研究方法を体得する。さらに、レポートの執筆を通して、独創的な修士論文・博士論文を執筆するための準備に取り組んでいく。

授業の到達目標

①歴史学における史料批判の手法を、具体的な史料読解に即して体得できるようになる。②自己の研究テーマを明確に設定し、鋭敏な史的認識に即して史実を立体的に組み立てる素地を養う。③明晰な文体や周到な史料操作、これらを具備した論文を執筆する前提を整える。

授業計画

- ガイダンス（前期演習の方針の打ち合わせ、関係文献の調査方法）
- 史学研究法の習得①
- 史学研究法の習得②
- 史学研究法の習得③
- 史学研究法の習得④
- 史学研究法の習得⑤
- 受講生による研究報告① 先行研究の検討
- 『東大寺円照上人行状』中の精読①
- 『東大寺円照上人行状』中の精読②
- 『東大寺円照上人行状』中の精読③
- 『東大寺円照上人行状』中の精読④
- 『東大寺円照上人行状』中の精読⑤
- 『東大寺円照上人行状』中の精読⑥
- 受講生による研究報告② 研究発表
- 夏期休暇中の研究活動に向けての指導（図書館での調査指導）

準備学習(予習・復習)・時間

①事前学習として、テキスト・参考書・関係論文を毎回読み、研究法・史料に關係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分）。②読解した文献の要点をノートに整理すること（80分）。③自身の研究テーマについて史料や先行研究を調査し、問題を考察しておくこと（90分）。

テキスト

①受講生が作成する資料、②中塚明『歴史家の仕事 人はなぜ歴史を研究するのか』（高文研、2000）※入手方法は教員が指示、③東大寺教学部編『円照上人行状』（東大寺図書館、1977）※コピーを配布。

参考書・参考資料等

①久野修義「中世寺院の僧侶集団」（『日本中世の寺院と社会』塙書房、1999。初出1988）、②横内裕人「続・中世東大寺律儀復興史小考」（野呂靖ほか編『東アジア仏教思想史の構想』法蔵館、2023）

学生に対する評価

前期・後期の研究レポート（60%）、演習時の取り組み（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中世史料の基本的な読解能力を会得している。
 (B) 中世史料を読解し、先行研究の内容を適切に把握できる。
 (A) 自己の研究テーマを設定し、関係史料の収集・読解や、先行研究への有効な批判を行なうことができる。
 (S) 強固な実証的基盤の上に独自の見解を打ち立て、明晰な文体や周到な史料操作を具備したレポートを執筆できる。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による研究レポートの執筆にあたっては、担当教員がテーマに即して個別に対応する。

その他

受講生は、担当教員が金剛三昧院・西南院で行なっている古文書調査にも参加すること。本演習は、史料の予復習や研究報告の準備、教員や他の受講生との積極的な討論など、全体的にアクティブ・ラーニングが求められる。水準は高いので、安直な姿勢の大学院生は履修しないこと。

科目名	密教史演習B(大)						学期	後期	
副題	「史学研究法の習得と史的認識の形成」				授業方法	演習	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	D-25-244	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本演習では、歴史学の方法を学ぶとともに、『花園天皇日記（花園院宸記）』元亨2年（1322）条の精読を通して、史料読解力を高める。また、自己の研究テーマを定めて、先行研究の検討や研究報告を行ない、歴史的な問題意識と研究方法を体得する。さらに、レポートの執筆を通して、独創的な修士論文・博士論文を執筆するための準備に取り組んでいく。

授業の到達目標

①歴史学における史料批判の手法を、具体的な史料読解に即して体得できるようになる。②自己の研究テーマを明確に設定し、鋭敏な史的認識に即して史実を立体的に組み立てる素地を養う。③明晰な文体や周到な史料操作、これらを具備した論文を執筆する前提を整える。

授業計画

1. ガイダンス（後期演習の方針の打ち合わせ、研究指導）
2. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読①
3. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読②
4. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読③
5. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読④
6. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑤
7. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑥
8. 受講生による研究報告① 研究発表
9. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑦
10. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑧
11. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑨
12. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑩
13. 『花園天皇日記』元亨2年条の精読⑪
14. 受講生による研究報告② 研究発表
15. 今後の研究に向けての指導（図書館での調査指導）

準備学習(予習・復習)・時間

①事前学習として、テキスト・参考書・関係論文を毎回読み、研究法・史料に關係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分）。②読解した文献の要点をノートに整理すること（80分）。③自身の研究テーマについて史料や先行研究を調査し、問題を考察しておくこと（90分）。

テキスト

①受講生が作成する資料、②村田正志校訂『史料纂集 花園天皇宸記』第2（続群書類従完成会、1984）※入手方法は教員が指示。

参考書・参考資料等

①岩橋小弥太『花園天皇』（吉川弘文館、1962）、②坂口太郎・芳澤元「花園天皇関係史料・研究文献目録稿」（『花園大学国際禅学研究所論叢』第2号、2007）

学生に対する評価

前期・後期の研究レポート（60%）、講義時の取り組み（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中世史料の基本的な読解能力を会得している。
 (B) 中世史料を読解し、先行研究の内容を適切に把握できる。
 (A) 自己の研究テーマを設定し、関係史料の収集・読解や、先行研究への有効な批判を行なうことができる。
 (S) 強固な実証的基盤の上に独自の見解を打ち立て、明晰な文体や周到な史料操作を具備したレポートを執筆できる。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による研究レポートの執筆にあたっては、担当教員がテーマに即して個別に対応する。

その他

受講生は、担当教員が金剛三昧院・西南院で行なっている古文書調査にも参加すること。本演習は、史料の予復習や研究報告の準備、教員や他の受講生との積極的な討論など、全体的にアクティブ・ラーニングが求められる。水準は高いので、安直な姿勢の大学院生は履修しないこと。

科目名	密教学講読A(大)						学期	前期	
副題	『三教指帰』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	D-01-245	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『三教指帰』の真偽問題の研究経緯について学び、『聾警指帰』との比較を通して『三教指帰』が弘法大師の真作であることを理解する。『三教指帰』を通読し、弘法大師の出家に対する思いを知り、弘法大師の儒教・道教・仏教に対する考えを認識する。四六駢儷体の漢文の構造を理解し、『三教指帰』の文章を解説する。

授業の到達目標

『聾警指帰』から『三教指帰』への改変意図を知る。偽作説のどこが誤りであるかを把握する。駢儷文の文章構造を理解できるようになる。十韻詩に使われている音韻技巧と、守られている音韻の規則を理解する。

授業計画

1. 『聾警指帰』と『三教指帰』・『三教指帰』の真偽問題の経緯。
2. 『聾警指帰』と『三教指帰』の序文・駢儷文の特徴。
3. 両『指帰』の本文比較①対偶・訂正。
4. 両『指帰』の本文比較②音韻・表現。
5. 両『指帰』末尾の十韻詩の比較。音韻の病と技巧。
6. 『三教指帰』の濟暹師偽作説の誤りについて。
7. 再偽作説の誤り①文字。
8. 再偽作説の誤り②音韻。
9. 再偽作説の誤り③意味内容。
10. 『三教指帰』を読む①鼈毛先生論：鼈毛の風貌・教養・蛭牙の人となり。
11. 『三教指帰』を読む②鼈毛先生論：兎角の要請と鼈毛の応答。
12. 『三教指帰』を読む③鼈毛先生論：世間の悪・人格を磨くべき事・蛭牙の品行に対する叱責。
13. 『三教指帰』を読む④鼈毛先生論：行動規範の説示・忠孝の実践・医工と学問の勧め。
14. 『三教指帰』を読む⑤鼈毛先生論：重用されて高官となるべきこと・妻を娶り友人と宴をする楽しさ。
15. 『三教指帰』を読む⑥鼈毛先生論：蛭牙に立身出世を諭す・蛭牙が鼈毛に屈する・兎角の賛辞。

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『三教指帰』の内容を、テキストの〈返り点〉の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『三教指帰』の内容を、テキストの〈書き下し文〉と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清圓『聾警指帰と三教指帰 一空海大師真作の証明—』大遍照院(アマゾンで購入)

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂有勝『三教指帰 性盡集 日本古典文学大系』岩波書店、1965年。福永光司『空海 三教指帰ほか』中公クラシックス、2003年。

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。『三教指帰』の文章に対して、書き下し文の内容を理解できること。
- (B) 学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『三教指帰』の文章に対して、返り点の文章を読むことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (A) 学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。『三教指帰』の白文に対して、正確に返り点を施すことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (S) 学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その語句の意味を正確に把握できること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

『三教指帰』を読むは、『聾警指帰』と比較しながら読んでゆく。学期末試験はペーパーテストで行う。

科目名	密教学講読B(大)						学期	後期	
副題	『三教指帰』を読む				授業方法	講義	担当者	大柴清圓	
ナンバリング	D-01-246	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『三教指帰』の真偽問題の研究経緯について学び、『響譬指帰』との比較を通して『三教指帰』が弘法大師の真作であることを理解する。『三教指帰』を通読し、弘法大師の出家に対する思いを知り、弘法大師の儒教・道教・仏教に対する考えを認識する。四六駢儷体の漢文の構造を理解し、『三教指帰』の文章を解説する。

授業の到達目標

『響譬指帰』から『三教指帰』への改変意図を知る。偽作説のどこが誤りであるかを把握する。駢儷文の文章構造を理解できるようになる。十韻詩に使われている音韻技巧と、守られている音韻の規則を理解する。

授業計画

- 『三教指帰』を読む⑦虚亡隠士論：虚亡の批判と鼈毛の懇請。
- 『三教指帰』を読む⑧虚亡隠士論：方術・道術の開示。
- 『三教指帰』を読む⑨虚亡隠士論：高潔を保ち、高禄と女色から離れるべき事。
- 『三教指帰』を読む⑩虚亡隠士論：神薬の服用・効用。
- 『三教指帰』を読む⑪虚亡隠士論：仙術による長寿・鼈毛の謝辞。
- 『三教指帰』を読む⑫仮名乞児論：仮名の生い立ち・外見・ある人の難詰①。
- 『三教指帰』を読む⑬仮名乞児論：ある人の難詰②・仮名の反論。
- 『三教指帰』を読む⑭仮名乞児論：写懐詩・仮名の書・仮名が兎角の館に到る。
- 『三教指帰』を読む⑮仮名乞児論：鼈毛と虚亡の論戦・仮名と鼈毛の問答・仮名と虚亡の問答。
- 『三教指帰』を読む⑯仮名乞児論：観無常賦（無常・身体・美人）。
- 『三教指帰』を読む⑰仮名乞児論：観無常賦（家族・友人・若き男女・貴賤）。
- 『三教指帰』を読む⑱仮名乞児論：観無常賦（地獄と救い無き事・生前に精進すべき事）。
- 『三教指帰』を読む⑲仮名乞児論：鼈毛らの問絶と説法の要請・生死海賦（生死海に溺れる者）。
- 『三教指帰』を読む⑳仮名乞児論：生死海賦（生死海に溺れる者を魚類と鳥類に譬える）。
- 『三教指帰』を読む㉑仮名乞児論：大菩提の果・鼈毛らの謝辞。

準備学習(予習・復習)・時間

(復習) 前回で学んだ『三教指帰』の内容を、テキストの〈返り点〉の文章と注釈部分を読んで、その内容を理解することができるようになること(90分)。(予習) 次回に学ぶ『三教指帰』の内容を、テキストの〈書き下し文〉と注釈部分を読んで、その概要を捉えておくこと(90分)。

テキスト

大柴清圓『響譬指帰と三教指帰 一空海大師真作の証明—』大遍照院(アマゾンで購入)

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂有勝『三教指帰 性盡集 日本古典文学大系』岩波書店、1965年。福永光司『空海 三教指帰ほか』中公クラシックス、2003年。

学生に対する評価

学期末試験(50%) 発表(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学期末試験と授業中の発表の合計が60点以上69点以下。『三教指帰』の文章に対して、書き下し文の内容を理解できること。
- (B) 学期末試験と授業中の発表の合計が70点以上79点以下。『三教指帰』の文章に対して、返り点の文章を読むことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (A) 学期末試験と授業中の発表の合計が80点以上89点以下。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その文章の意味を大略に理解することができること。
- (S) 学期末試験と授業中の発表の合計が90点以上。『三教指帰』の白文の文章に対して、正確に返り点を施すことができ、その語句の意味を正確に把握できること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

『三教指帰』を読むは、『響譬指帰』と比較しながら読んでゆく。学期末試験はペーパーテストで行う。

科目名	密教史講読(大)							学期	前期
副題	中院流の歴史				授業方法	講義	担当者	木下智雄	
ナンバリング	D-01-247	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

密教は、印度・中国・日本と伝わり、1200年以上脈々と受け継がれてきた。 釈尊や弘法大師の祖師伝のみならず、それ以後の高僧たちの伝記を学ぶことは、宗教者として欠かせない視座を獲得する。本講義では、高野山で多くの僧侶が修行し、実際に修法される中院流の歴史について、時系列をたどりながら、現在に到るまでの重要な人物について講義を行う。

授業の到達目標

・中院流の歴史と重要人物について学習し、宗学の立場から密教の流伝を説明できるようになる。 ・ 副点付きの漢文が読めるようになる。 ・ 史料批判について学び、歴史学の立場から、検証できるようになる。

授業計画

1. 概論（講義の進め方、参考文献紹介等）と予習方法について
2. 付法・持持の八祖（大日～空海）について
3. 入唐八家について—東密と台密の分流—
4. 野沢根本十二流の概説①—広沢流—
5. 野沢根本十二流の概説②—小野流—
6. 中院流の縁由について①—無空律師の離山と祈親上人の再興—
7. 中院流の縁由について②—明算大徳伝—
8. 中院流の分派について①—中院流四方（引撰院方・心南院方・大案院方・智莊院方）—
9. 中院流の分派について②—中院流八方（宝性院方・総持院方・東南院方・龍光院方）—
10. 中院流の大成について—宥快法印と宝性院院家相承—
11. 中院流の流布について①—浄厳和尚の分派と真言律—
12. 中院流の流布について②—成蓮院真源上綱と中院本流—
13. 中院流の流布について③—真別処妙瑞と有部律—
14. 中院流の流布について④—明治以後の相伝—
15. これまでの講義の振り返りと総括

準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、指定した参考文献に目を通し、(60分) 専門用語を事前に調べるなどしての意味を理解しておくこと。(30分) 事後学習として授業で学んだ内容に関して、疑問点をとりまとめ、講義で紹介した論文に目を通すこと。(90分)

テキスト

講師が配布資料を用意する。 梅尾祥雲『真言宗の宗史』、高野山出版社、2008年（書店で購入） ※品切れの場合は、該当箇所をコピーで配布する。

参考書・参考資料等

・大山公淳『中院流の研究』東方出版 ・松長有慶『密教—インドから日本への伝承』中公文庫 ・懐英『檢校明算阿闍梨伝』、維宝『南山中院真言秘密諸祖伝譜』（『続真言宗全書』32巻） ・『紀伊統風土記』（『続真言宗全書』38巻） ・『高野山先哲灌頂記録』（『続真言宗全書』41巻） 他

学生に対する評価

期末レポート（60%）、講義参加の積極性（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 中院流の人物伝について、参考書を読み上げることができ、用語の説明ができる。
 (B) 中院流の人物伝について、『続真言宗全書』等の漢文が訓読でき、本文内容の説明ができる。
 (A) 中院流の人物伝について、複数の文献史料を比較検討することができる。
 (S) 中院流の歴史について、問題意識をもって論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・伝授科目ではないが、已灌頂者・加行満了者の受講が望ましい。 ・学部との同時開講科目であるので、学部生の学習補助（予習や復習の手引き）を行ってほしい。 ・必要に応じて、簡単な発表資料を作成してもらいたい。

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶としての気構えについて、高僧の人物伝を通じて、宗教的実践の重要性を認識させる。

科目名	現代社会と宗教(大)						学期	前期
副題	密教とスピリチュアルケア				授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	D-10-248	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

この講義では、密教の世界観をベースとしたスピリチュアルケアの援助論について講義をします。スピリチュアルケアが提唱されるようになった背景には、死について真剣に向き合おうとする臨床現場からの要請があったためです。病気だけでなく戦争、災害などで大切な人を喪うといった重大な危機的体験によって、私たちは生きることそのものに意味を見出すことができず、死を考えざるを得ない状況に追い込まれることもあります。この講義では、仏教・密教の教えに触れながら、「ケアすること」について考えたいと思います。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの理解を深める。

授業計画

1. ガイダンス
2. 仏教の世界観
3. 密教の世界観
4. 喪失の悲しみ
5. 悲嘆の過程①
6. 悲嘆の過程②
7. 悲嘆の過程③
8. 悲嘆の過程④
9. 病とスピリチュアルケア①
10. 病とスピリチュアルケア②
11. 病とスピリチュアルケア③
12. 自殺防止とスピリチュアルケア①
13. 自殺防止とスピリチュアルケア②
14. 生死問題（安楽死と生殖医療）とスピリチュアルケア
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消できているか確認しておくこと（90分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教・密教の世界観の基本的な知識を身につけている。
- (B) スピリチュアルケアを理解するための基本的な知識を身につけている。
- (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上でスピリチュアルケアの概念を理解している。
- (S) 現代の社会問題について、スピリチュアルケアの視点から捉えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	密教と文化(大)／仏教と文化(大)						学期	前期	
副題	密教・仏教の学びを實踐に (1)国際交流				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	D-01-249	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

社会のグローバル化の進展に伴い、密教・仏教の研究者や僧侶も、国際的な視野を持ち、国際交流への対応力を身に付ける必要に迫られている。幸い近年の高野山は、いながらにして国際交流を實踐できる場となっている。この環境を活かして、実践的なスキルを磨き、大学での学びを社会における活動に結び付けること。これが本授業の目的である。まず近代真言宗関係者による国際交流・国際協力の歴史を学び、次いでインバウンドのための真言密教解説や高野山内の案内などを通じて、実践的な学びの体験を進める。

授業の到達目標

近代真言宗が展開してきた国際交流の歴史を知り、高野山をフィールドとした交流体験を通じて、密教・仏教の学びを国際交流に活かすスキルを身に着け、異文化理解を進める。

授業計画

1. ガイダンス (シラバス等の説明)
2. 釈尊のセイロン留学と釈雲照 1
3. 釈尊のセイロン留学と釈雲照 2
4. ブッダガヤー復興運動と真言宗 1
5. ブッダガヤー復興運動と真言宗 2
6. 土宜法龍の世界旅行 1
7. 土宜法龍の世界旅行 2
8. 中国仏教界との交流 1
9. 中国仏教界との交流 2
10. 中国仏教界との交流 3
11. 高野山真言宗における国際交流
12. 高野山における国際交流 1
13. 高野山における国際交流 2
14. 高野山における国際交流 3
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

・ 授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく (60 分) ・ 授業の内容と配布されたプリントを検討し、疑問や関心のある箇所について自分で調べる (120 分)

テキスト

・ 各回プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

草繁全宜編『釈雲照』全 3 巻、徳教会 奥山直司「近代日本仏教史の中の土宜法龍」『環』35 ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内での発表や発言 (60%)、期末レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 関連資料を正確に読解することができる。
- (B) 真言宗による国際交流・国際協力の歴史を概括的に説明できる。
- (A) 外国人を対象として高野山および高野山大学を紹介・案内する計画を立てることができる。
- (S) (A) の計画に従って外国人を案内し、高野山と高野山大学について解説できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内で質問や意見についてフィードバックを行う。

その他

気軽に出席し、自ら工夫して、国際交流を体験してもらいたい。

科目名	事相研究 I -1(大)						学期	前期	
副題	安祥寺流の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-250	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

安祥寺流は御簾流とも称され真言宗の事相流派の中で最も精緻な体系をもっている。高野山においても南山教学の大成者宥快が最も重視した流派で宝性院の本流とされたものである。安流は後に新安と古安とに分流するが、この度は古安を伝授する。古安の伝授を受けることにより日本密教史を自らの関係性の上で理解し観じることができるようになること、伝統の継承を行うことができるようになることをこの講義の目的とする。事相の専門的な講義なので伝法灌頂に入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

安祥寺流の歴史と特徴を理解するだけでなく、安祥寺流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 安祥寺流について
3. 安祥寺流について
4. 加行折紙
5. 十八道次第の研究
6. 十八道次第の研究
7. 十八道次第の研究
8. 十八道次第の研究
9. 十八道次第の研究
10. 十八道次第の研究
11. 不動次第の研究
12. 不動次第の研究
13. 不動次第の研究
14. 不動次第の研究
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい(20分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)講義のまとめ作成(70分)

テキスト

資料をコピーで配布

参考書・参考資料等

『真言密教事相概説』『四度部』『諸尊法、灌頂部上』『諸尊法、灌頂部下』(同朋舎)

学生に対する評価

レポート(70%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 安祥寺流の特徴を簡単に説明できる
- (B) 安祥寺流の所作を理解実践説明できる。
- (A) 安祥寺流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
- (S) 安祥寺流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめ毎にフィードバックを行う。

その他

本講義は已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事。院生以外の聴講は認めない。

科目名	事相研究 I -2(大)						学期	後期	
副題	子嶋流の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-251	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

子嶋流は、傳法灌頂に八印を用いるなど東密の流派の中でも特異な流派である。また、台密との関連や南都に与えた影響などを考えると極めて重要な流派である。子嶋流について伝統的な相伝と流派に伝わる文献の購読を通して専門的な知識を身に付けることを目的とする。

授業の到達目標

子嶋流の歴史と特徴を理解するだけでなく、子嶋流の実践を学ぶことによってその伝統を継承していくことができるようになる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 四度折紙の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
3. 四度折紙の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
4. 十八次第の研究 金剛界次第 金剛界次第 金剛界次第
5. 十八道次第の研究
6. 十八道次第の研究
7. 十八道次第の研究
8. 十八道次第の研究
9. 十八道次第の研究
10. 『十八契印生起』の研究
11. 『十八契印生起』の研究
12. 『十八契印生起』の研究
13. 『十八契印生起』の研究
14. 『十八契印生起』の研究
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

講義は伝授として行うので次第の予習をしてはいけない。但し次第の周辺に関する予習を積極的に行ってほしい(20分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)講義のまとめ作成(70分)

テキスト

コピーを配布

参考書・参考資料等

『子嶋流の研究』

学生に対する評価

レポート(70%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 子嶋流の特徴を簡単に説明できる
- (B) 子嶋流の所作を理解実践説明できる。
- (A) 子嶋流の口決、次第を原文で読み理解説明することができる。
- (S) 子嶋流についてしっかりと理解し次の時代に伝えていくことができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめり毎にフィードバックを行う。

その他

本講義は已灌頂者(伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。黒衣、如法衣で受講の事

科目名	事相研究Ⅱ-1(大)							学期	前期
副題	次第のルーツを探る					授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン
ナンバリング	D-01-252	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 3, 4 仏 1, 2, 3, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道次第の理解を深める。『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『烏芻澁麼儀軌』、『阿闍法』等を平行して解読しながら比較研究を行う。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

1. 秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘嚴について）
5. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（浄三業・礼拝・五悔について）
6. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（莊嚴道場法について）
9. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勸請法について）
10. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15. 十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、その他）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90分）

テキスト

浄嚴の江戸期の木版『秘密儀軌』のPDF、その他の資料のPDFを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏經』、『大日本校訂大藏經』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
- (B) 秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
- (A) 秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S) 秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者（四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。内容は後期に続くため、「事相研究Ⅱ-2（大）」を続けて受講することを推薦する。

科目名	事相研究Ⅱ-2(大)						学期	後期	
副題	次第のルーツを探る				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	D-01-253	実務経験の有無	無	関連DP	密 1, 2, 3, 4 仏 1, 2, 3, 4	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界次第と一尊法の各種次第への理解を深める。後期では金剛頂経系の儀軌として『蓮華部心軌』を参考にしながら『千手儀』、『如意輪瑜伽』、『文殊軌』、『普賢金剛薩埵軌』、『理趣会軌』などを読む。四度加行を終了して、伝法灌頂を入壇した者のみが受講できる。

授業の到達目標

密教の次第と秘密儀軌への知識、事相を理解し、意義について説明できるようになる。

授業計画

- 『金剛頂経』系の儀軌を読む① (『如意輪瑜伽』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む② (『如意輪瑜伽』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む③ (『如意輪瑜伽』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む④ (『千手儀軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤ (『千手儀軌』読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥ (『千手儀軌』読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦ (『千手儀軌』読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧ (『文殊軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨ (『文殊軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩ (『文殊軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑪ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑫ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑬ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑭ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)
- 『金剛頂経』系の儀軌を読む⑮ (『普賢金剛薩埵軌』と『理趣会軌』を読む)

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

浄厳の江戸期の木版『秘密儀軌』のPDF、その他の資料のPDFを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大藏経』、『大日本校訂大藏経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
- 秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
- 秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
- 秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「事相研究Ⅱ-1(大)」ら続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	仏教学特殊研究A(大)						学期	前期
副題	釈尊伝を読む				授業方法	講義	担当者	前谷彰
ナンバリング	D-02-254	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

『法華経』を梵・漢対照でその比喻形態に着目して読みこみ、『法華経』の思想的特徴について考察し、理解する。

授業の到達目標

諸経の王と呼ばれて来た初期大乘経典の代表格である『法華経』を講読することによって、サンスクリット語の読解能力を身に付け、仏教(密教)の思想を広く深い視野で考究することができるようになる。

授業計画

1. 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(声聞不成仏の問題)
2. 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(大迦葉への授記)
3. 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(大通地勝仏の出現)
4. 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(化城の喩え)
5. 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(富楼那の出現)
6. 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(無明の酒)
7. 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(ラーフラの登場)
8. 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(迹門の法説)
9. 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(法師による教説)
10. 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(乾土の喩え)
11. 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(宝塔出現)
12. 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(法身・応身の融合)
13. 『法華経』「提婆品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(畜生龍女の成仏)
14. 『法華経』「勸持品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。(弘教の誓い)
15. 上記の品以外で、重要な比喻が用いられている品を探す。

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として『法華経』の梵文テキストと漢訳とを照合し、梵文和訳の予習をする。(最低週に延べ300分)。事後学修として授業で学んだことを復習する(120分)

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

梵文テキストは担当者が用意する。その他、詳細については、授業で支持する。

学生に対する評価

学期末のレポート(70%)と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか(30%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
 - (B) 『法華経』の基本的な成立背景に関する知識を持っている。
 - (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 梵・漢対照の基本的な文献学的方法論を身に付けている。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊研究B(大)						学期	後期	
副題	『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読む。				授業方法	演習	担当者	前谷彰	
ナンバリング	D-02-255	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ～真訳スッタニパータ』を読解し、初期仏教思想の要を理解する。

授業の到達目標

ブッダの肉声にせまり、仏教徒はどのような思想家について把握する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「犀の一角の経」を読んで解説
3. 「いやしい人の経」を読んで解説
4. 「コラム1 自灯明」を読んで解説
5. 「なまぐさの経」を読んで解説
6. 「コラム2 慈悲」を読んで解説
7. 「失の経」を読んで解説
8. 「コラム3 中道」を読んで解説
9. 「愛欲の経」を読んで解説
10. 「論争と議論の経」を読んで解説
11. 「武器を手にすることの経」を読んで解説
12. 「コラム4 非我」を読んで解説
13. 「志あるアジタ青年の質問」を読んで解説
14. 「志あるメッター青年の質問」を読んで解説
15. 「コラム5 縁起」を読んで解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習(予習)として、1経を読んで問題点を探しておく。(180分以上) 事後学修(復習)として60分以上。論文指導については、4回生には随時アドヴァイスするが、3回生及に関しては、後期3回分で論文の書き方等の指導を行い、最終講義の際に確認作業としての論文指導を2回行う。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価

学期末のレポート(100%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
 (B) 古文の読解能力を身につけている。
 (A) 歌意に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っている。
 (S) 講義を通して、学術論文の書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

アクティブ・ラーニング(ディスカッション)を取り入れた授業である。

科目名	仏教史特殊研究A(大)						学期	前期
副題	仏伝				授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	D-02-256	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

仏教の開祖であるゴータマ・ブッダの伝記(仏伝)を扱う書物は、一般向けのものから専門的なものまで枚挙に暇がないが、その典拠となる資料の扱い方によって叙述の仕方は異なってくる。パーリ語・サンスクリット語・チベット語訳・漢訳などのかたちで部派に伝承される様々な仏伝資料について概観した上で、特徴的なエピソードを現代語訳で輪読し、各仏伝資料における基本的な用語やエピソードに関する知識を得るとともに、資料を批判的に検討する姿勢を身につけてゆく。

授業の到達目標

各仏伝資料における基本的な用語を理解し、仏伝資料を読解できる。各仏伝資料の特徴や仏伝資料の各エピソードについて、概括的に自分の言葉で説明できる。仏伝資料を用いて、問題の所在を明確にして、自分の考えを論述できる。

授業計画

1. オリエンテーション(シラバスの説明、授業の進め方等)
2. 仏伝とは何か—伝説と伝記・仏伝の大枠—
3. 初期仏教から部派仏教における聖典の伝承—結集と三蔵—
4. 初期仏教における仏伝①: 単独経典『スッタニパータ』
5. 初期仏教における仏伝②: 単独経典『サンユッタ・ニカーヤ』
6. 初期仏教における仏伝③: 単独経典『アングッタラ・ニカーヤ』・『聖求経』
7. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」①第1節～第5節
8. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」②第6節
9. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」③第7節～第11節
10. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」④第12節～第13節
11. 仏伝の基本聖典①: 『律蔵』「大品」⑤第14節～第15節
12. 仏伝の基本聖典②: 『大般涅槃経』①第1節～第5節
13. 仏伝の基本聖典②: 『大般涅槃経』②第6節～第15節
14. 仏陀の前世物語: 『ジャータカ』
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回に講読する範囲の資料を読み、必要に応じて配布される一次資料や補助資料にも目を通しておくこと(100分)。事後学習として、自分のノートやメモを見返し、専門用語や必要事項を覚えておくこと(80分)。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①谷川泰教『ブッダの伝記—その資料と解釈—(増補版)』高野山大学通信教育室、2008、②③釈尊伝研究会『釈尊および釈尊教団形成史年表』『釈尊の生涯にそって配列した事績別原始仏教聖典総覧』中央学術研究所、2019、④中村元編著『新編ブッダの世界』学習研究社、2000。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性(40%)、期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各仏伝資料における基本的な用語を理解している。
- (B) 仏伝資料を辞書などの工具を駆使して正確に読解できる。
- (A) 各仏伝資料の特徴や仏伝資料の各エピソードについて概括的に説明できる。
- (S) 仏伝資料を用いて、学術的な問題を論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。現代語訳された仏伝資料の輪読を中心に受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。パーリ語、サンスクリット語、チベット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある者であれば誰でも歓迎する。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教史特殊研究B(大)							学期	後期
副題	仏伝の展開				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	D-02-257	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

部派に伝承される仏伝資料の内容を前提として、サンスクリット語・チベット語訳・漢訳などのかたちで伝承される、大乘や密教における様々な仏伝資料について概観した上で、特徴的なエピソードを現代語訳で輪読し、大乘や密教への仏伝の展開に関する知識を得て、資料を批判的に検討する姿勢を身につけてゆくとともに、チベット仏教といった他地域やキリスト教といった他宗教、さらには聖地巡礼や文学など他文化への仏伝の展開について広い視野を獲得する。

授業の到達目標

各仏伝資料における基本的な用語を理解し、仏伝資料を読解できる。大乘や密教、他の地域・宗教・文化への仏伝の展開について、概括的に自分の言葉で説明できる。仏伝資料を用いて、問題の所在を明確にして、自分の考えを論述できる。

授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 大乘における仏伝①：仏伝としての大乘経典
3. 大乘における仏伝②：『ラリタヴィスタラ』・『首楞嚴三昧経』
4. 大乘における仏伝③：『法華経』・『華嚴経』「入法界品」
5. 大乘における仏伝④：『世間随順経』・『大智度論』
6. 密教における仏伝①：纏繞心転法輪菩薩
7. 密教における仏伝②：五相成身観をめぐる展開①—一般涅槃と成道—
8. 密教における仏伝③：五相成身観をめぐる展開②—十二支縁起と五相成身観—
9. チベット仏教における仏伝
10. キリスト教における仏伝
11. 聖地巡礼と仏伝：『ディヴィヤ・アヴァダーナ』
12. 文学と仏伝：ヘルマン・ヘッセ『シッダールタ』
13. サブカルと仏伝：手塚治虫『ブッダ』・中村光『聖☆おにいさん』
14. 映画と仏伝：『リトル・ブッダ』
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回に講読する範囲の資料を読み、必要に応じて配布される一次資料や補助資料にも目を通しておくこと（100分）。事後学習として、自分のノートやメモを見返し、専門用語や必要事項を覚えておくこと（80分）。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①谷川泰教『ブッダの伝記—その資料と解釈—（増補版）』高野山大学通信教育室、2008、②平岡聡『大乘経典の誕生—仏伝の再解釈でよみがえるブッダ—』筑摩書房、2015、③田中公明『性と死の密教』春秋社、1997、④小峯和明編『東アジアの仏伝文学』勉誠出版、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各仏伝資料における基本的な用語を理解している。
- (B) 現代語訳された仏伝資料を辞書などの工具を駆使して正確に読解できる。
- (A) 大乘や密教、他の地域・宗教・文化への仏伝の展開について概括的に説明できる。
- (S) 仏伝資料を用いて、学術的な問題を論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。現代語訳された仏伝資料の輪読を中心に受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。バリー語、サンスクリット語、チベット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある者であれば誰でも歓迎する。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教学演習A(大)						学期	前期	
副題	「十八会指帰」所伝の聖典を読む				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-25-258	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

「十八会指帰」所伝の聖典を読む『サマーヨーガタントラ』精読。「十八会指帰」に関連するインド密教聖典の精読を通じて文献学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本にもとづき写本・版本をも批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。辞書・コンコードダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学（DH）についての導入的な知識をも身につける。

授業計画

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 資料概観① インド密教における「十八会指帰」の位置
3. 資料概観② 『理趣広経』と『サマーヨーガタントラ』
4. 論文指導①
5. 『サマーヨーガタントラ』精読①
6. 『サマーヨーガタントラ』精読②
7. 『サマーヨーガタントラ』精読③
8. 論文指導②
9. 『サマーヨーガタントラ』精読④
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑤
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑥
12. 論文指導③
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑦
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑧
15. 論文指導④

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと（120分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（60分）。

テキスト

①サンスクリット語原典・Dih: A Journal of Rare Buddhist Text 58, 2018, pp. 141-201、②チベット語訳・東北 366、北京 8。資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①「梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第1-3章」『大正大学総合佛教研究所紀要』41-2、2019-20年、②“Sarvabuddhasamayogaḍākinījalasaṃvara.” In: Brill’s Encyclopedia of Buddhism, vol. 1, 2017.

学生に対する評価

ミニツペーパーならびに論文指導における検討会発表（30%）、学期末レポート（70%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学の手順を踏まえている。
 (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができています。
 (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用することができています。
 (S) 学術論文の基本的な書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、漢文を用いることができれば履修は可能なので、少しでもインド・チベット密教に興味がある希望者の積極的な参加を求めるアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学演習B(大)						学期	後期	
副題	「十八会指帰」所伝の聖典を読む				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-25-259	実務経験の有無	無	関連DP	1,4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

「十八会指帰」所伝の聖典を読む『サマーヨーガタントラ』精読。「十八会指帰」に関連するインド密教聖典の精読を通じて文献学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本にもとづき写本・版本をも批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。辞書・コンコードダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学（DH）についての導入的な知識をも身につける。

授業計画

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 『サマーヨーガタントラ』精読⑨
3. 『サマーヨーガタントラ』精読⑩
4. 論文指導⑤
5. 『サマーヨーガタントラ』精読⑪
6. 『サマーヨーガタントラ』精読⑫
7. 『サマーヨーガタントラ』精読⑬
8. 論文指導⑥
9. 『サマーヨーガタントラ』精読⑭
10. 『サマーヨーガタントラ』精読⑮
11. 『サマーヨーガタントラ』精読⑯
12. 論文指導⑦
13. 『サマーヨーガタントラ』精読⑰
14. 『サマーヨーガタントラ』精読⑱
15. 論文指導⑧

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと（120分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（60分）。

テキスト

①サンスクリット語原典・Dih: A Journal of Rare Buddhist Text 58, 2018, pp. 141-201、②チベット語訳・東北 366、北京 8。資料については担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①「梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第1-3章」『大正大学総合佛教研究所紀要』41-2、2019-20年、②“Sarvabuddhasamayogaḍakinījalasaṃvara.” In: Brill’s Encyclopedia of Buddhism, vol. 1, 2017.

学生に対する評価

ミニツペーパーならびに論文指導における検討会発表（30%）、学期末レポート（70%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学の手順を踏まえている。
 (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができています。
 (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用することができています。
 (S) 学術論文の基本的な書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることが望ましいが、漢文を用いることができれば履修は可能なので、少しでもインド・チベット密教に興味がある希望者の積極的な参加を求めるアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読A(大)						学期	前期	
副題	インド大乘仏教における空思想				授業方法	講義	担当者	那須真裕美	
ナンバリング	D-02-260	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

仏教の主要な思想である「空」は、いずれの時代・地域においても、重要な課題として盛んに論じられ、多様に解釈されてきた。東アジア仏教の淵源であるインド大乘仏教では、空をどのように理解し、議論し、実践してきたのか。このテーマをとくに精力的に扱ったのが、大乘仏教の二大学派の一であり、龍樹を祖とする中観派である。本講義では、大乘仏教に至るまでの思想的展開、龍樹が構築した空思想、さらに彼に続く論師たちの思想を学ぶことで、仏教学全般を理解するための確固たる支柱を獲得することを目的とする。

授業の到達目標

とくにインド大乘仏教における空思想の特徴と展開を体系的に把握し、仏教思想全体に対する理解を深めることができる。

授業計画

1. 仏教の思想的展開
2. 初期仏教・部派仏教の思想
3. 初期仏教・部派仏教における無我・空
4. 般若經典類と空(1)
5. 般若經典類と空(2)
6. 般若經典類と空(3)
7. ナーガールジュナ（龍樹）の思想と著作
8. 『根本中頌』が説く思想(1) 縁起と中道
9. 『根本中頌』が説く思想(2) 空と空性
10. 『根本中頌』が説く思想(3) 言語表現と「ことばの虚構」
11. 「ことばの否定」と論理学
12. 中観論師たちの思想と著作(1) パーヴィヴェーカ（清弁）
13. 中観論師たちの思想と著作(2) チャンドラキールティ（月称）
14. 空思想の展開（瑜伽行唯識思想・如来蔵思想）
15. チベット・中国仏教における空思想と全体の総括

準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する。(60分)

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

立川武蔵『空の思想史』（講談社学術文庫 1600、講談社、2003年）、正木晃『「空」論』（春秋社、2019年）など。他は随時、授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題（40%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 空思想の特徴を理解し、説明できる
- (B) 空思想の特徴と展開を把握できる
- (A) 空思想の特徴と展開を体系的に理解し、説明できる
- (S) 空思想の特徴・展開を他の仏教思想と比較し、把握できる

課題に対するフィードバックの方法

疑問・質問については、毎回の授業内で全体に対してフィードバックを行ない、知識を共有する。

その他

分からない用語や概念があれば自ら辞書や参考文献を用いて学習する等、積極的に理解するよう努めること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。なお、初回授業で全体の内容理解に必要な事項を確認するので、留意して受講すること。

科目名	仏教学講読B(大)						学期	後期
副題	『唯識三十頌』を読む				授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	D-02-261	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A

授業の目的と概要

仏教を研究するための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必要な概念を確認し、辞書や文法書など、研究に必要な「工具」について学ぶ。その基礎知識を活用して、インド大乘仏教の二大学派の一翼を担う瑜伽行派の基本典籍であるヴァスバンドゥ著『唯識三十頌』を読み進めながら、瑜伽行派の主要な教理としてアーヤ識説や三性説、唯識説について知識を得るとともに、文献に接する態度、基本的な読み方を身につけてゆく。

授業の到達目標

瑜伽行派における思想を体系的に理解できる。文献学に必要な概念を理解し、研究に必要な「工具」を駆使して、インド仏教文献(『唯識三十頌』)を読解できる。文献の読解結果を分析し、問題の所在を明確にして、自分の考えを論述できる。

授業計画

1. オリエンテーション (シラバスの説明、授業の進め方等)
2. 仏教を研究するための基礎知識
3. 唯識思想概観
4. 『瑜伽師地論』「本地分中三摩呬多地」Initial Passage 読解と読解結果の分析
5. 『唯識三十頌』第1偈～第7偈一識の働き一読解
6. 『唯識三十頌』第1偈～第7偈一識の働き一読解結果の分析
7. 『唯識三十頌』第8偈～第16偈一識の働き一読解
8. 『唯識三十頌』第8偈～第16偈一識の働き一読解結果の分析
9. 『唯識三十頌』第17偈～第19偈一識の働き一読解
10. 『唯識三十頌』第17偈～第19偈一識の働き一読解結果の分析
11. 『唯識三十頌』第20偈～第25偈一三性三無自性説一読解
12. 『唯識三十頌』第20偈～第25偈一三性三無自性説一読解結果の分析
13. 『唯識三十頌』第26偈～第30偈一修行論一読解
14. 『唯識三十頌』第26偈～第30偈一修行論一読解結果の分析
15. 授業の総括とレポートの講評

準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、『唯識三十頌』の読解箇所をの文法分析、現代語訳の作成(120分)。事後学修として、講義内容の要点をノートに整理すること(30分)、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと(30分)。

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

①加藤弘二郎『「唯識三十頌」を読む』仏典を読むシリーズ、角川書店、2006、②廣澤隆之『『唯識三十頌』を読む』TU選書、大正大学出版会、2005、③長尾雅人・梶山雄一・荒牧典俊訳『世親論集』大乘仏典15、中央公論新社、2005。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性(40%)、期末レポート(60%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 瑜伽行派における基本的な思想・用語を理解している。
- (B) 基本的な文法事項を押さえて文献を精読できる。
- (A) 精読した文献の内容を理解している。
- (S) 文献の読解結果を分析し、学術的な問題を論述できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

その他

20分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。『唯識三十頌』の輪読を中心に受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。サンスクリット語やチベット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある者であれば誰でも歓迎する。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教学講読C(大)						学期	後期	
副題	秘密集会タントラ 概論を読む				授業方法	講義	担当者	平岡宏一	
ナンバリング	D-01-262	実務経験の有無	無	関連DP	4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

ゲルク派に伝わる秘密集会タントラ聖者流の概論書である、ヤンチェン・ガロ（1740～1827）作の『吉祥秘密集会聖者流と随順する密教の〔十〕地・〔五〕道の構造の妙徳なる善説の棧橋』（略号『密教のサ・ラム』）の解説書である、拙著『秘密集会タントラ概論』（法蔵館 2018）を精読し、ゲルク派における成仏次第を理解する。本講座受講資格としては、伝法灌頂を受けている者、もしくは何らかの無上瑜伽タントラの灌頂を受けていることが望ましい。

授業の到達目標

ゲルク派の生起次第と究竟次第それぞれの次第の特徴を知り、二段階からなる成仏体系を理解し、説明できるようにする。

授業計画

1. 密教を学ぶ上の基礎知識としての顕教について①
2. 密教を学ぶ上の基礎知識としての顕教について②
3. ゲルク派における『秘密集会タントラ』の構成と学び方を知る。
4. 聖者父子の著作とされるものについての、ツォンカバの偽作と真作の判断基準
5. 『密教のサ・ラム』を解説する上で用いた注釈書の概説
6. 有相の瑜伽と無相の瑜伽の違い 密教が稀であることの根拠 五種類の人材
7. 生起次第の定義 ① 輪廻の構造を知る
8. 生起次第の定義 ② 分類 語義 成満したか否かの目安
9. 楽・空性について 楽空無別という意味を考える
10. 究竟次第 ① 心と風(ル)の関係 脈管 二つの意識など
11. 究竟次第 ② 凡庸な認識と凡庸な顕現について
12. 究竟次第 ③ 本尊瑜伽について
13. 究竟次第 ④ 究竟次第の入り口 定寂身について
14. 究竟次第 ⑤ 定寂語 について
15. 究竟次第 ⑥ 定寂心・幻身・光明・双入 について

準備学習(予習・復習)・時間

集中講義開始までに、テキスト『秘密集会タントラ概論』（法蔵館）に目を通し、各単元ごとに疑問点の整理や専門用語の下調べ等を進めておくことが望ましい（90分×15回分）

テキスト

拙著『秘密集会タントラ概論』（法蔵館 2018年）

参考書・参考資料等

拙著『ゲルク派版チベット死者の書』改訂新版（学研 2023年）

学生に対する評価

出席50% レポート課題50%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『秘密集会タントラ概論』での菩提心の重要性が説明できる。
 (B) 『秘密集会タントラ概論』の各章の概要が説明できる。
 (A) 『秘密集会タントラ概論』の語句、専門用語も説明できる。
 (S) 『秘密集会タントラ概論』の語句、専門用語は勿論、その解釈の理由も説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

その他

科目名	仏教史講読A(大)						学期	前期	
副題	弘法大師伝				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D-01-263	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

弘法大師空海の生涯を歴史学の視点から概観する。歴史学においては、史料をもとに考察するが、弘法大師空海の生涯については、空海の著述そのものが第一級の史料となる。本講義では、できる限り、空海の著述をもとにして生涯の軌跡をたどる。また、平安時代初期の基礎史料となる『日本後紀』は大部分が欠失しているため、空海の著述は平安時代初期の研究において貴重な一次資料となる。空海の生涯をたどるとともに、その著述を通して平安時代初期の社会について考察することを目指す。

授業の到達目標

弘法大師空海の著述を読み解きながら、その生涯を理解するとともに、空海が活躍した平安時代初期の社会のあり様をふまえて、日本の歴史上におけるその生涯の位置づけを考察することができる。

授業計画

1. 弘法大師空海のイメージ史実と伝承ー
2. 弘法大師空海が活躍した時代ー律令体制成熟期の社会ー
3. 誕生と青年時代ー『三教指帰』序文を読むー
4. 虚空蔵求聞持法の実修から『聾聵指帰』の撰述ー『聾聵指帰』序文を読むー
5. 唐代密教の隆盛ー『大日経』『金剛頂経』の流伝と不空・惠果ー
6. 長安での日々ー『御請来目録』からたどるー
7. 嵯峨天皇と空海ー『性霊集』にみる交流ー
8. 伝教大師最澄との交流ー『高野雄筆集』からみた交流ー
9. 真言密教の流布ー「勸縁疏」を読むー
10. 高野山の開創ー「高野山開創の上表文」を読むー
11. 真言密教による護国ー東寺・神護寺・御七日御修法ー
12. 真言密教による衆生救済ー満濟池と綜芸種智院ー
13. 真言宗の開宗ー真言宗年分度者の勅許ー
14. 弘法大師信仰の成立ー空海以後の真言宗ー
15. 平安時代初期の社会と弘法大師空海の生涯ー歴史学からみた弘法大師空海ー

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習: 事前に配信するレジュメ(配布資料)を読み、辞書等で用語・語句を調べる(60分) 事後学習: 授業で取り上げた空海の著述を熟読し、その内容を理解する(90分)

テキスト

テキストは使用せず、事前に配信するレジュメや史料にもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂宥勝『沙門空海』(ちくま学芸文庫、1993年) / 高木神元『空海の座標』(慶応義塾大学出版会、2016年) / 松長有慶『空海』(岩波新書、2022年) / 吉川真司『聖武天皇と仏都平安京』(講談社学術文庫、2018年) / 佐々木恵介『平安京の時代』(吉川弘文館、2014年)

学生に対する評価

毎回の授業コメント(40%)と期末レポート(60%)によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史学の視点から弘法大師空海の生涯について理解する。
 (B) 弘法大師空海の著述をもとに、歴史学の手法からその生涯の事績について考察することができる。
 (A) 平安時代初期の社会のあり様から弘法大師空海の歴史的な位置を考察することができる。
 (S) 弘法大師空海の著述や他の歴史資料から弘法大師空海の歴史的な位置づけを考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

歴史学は文献を読むことだけではなく、フィールドワークによる現地調査も不可欠である。授業に関連する現地を実際に訪れ、多角的に歴史事象を検討することを心がけてほしい。受講生の希望があれば、現地見学を設ける予定である。

科目名	仏教史講読B(大)						学期	後期	
副題	歴史資料からたどる真言宗の歴史				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D-01-264	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

弘法大師空海によって開宗された真言宗は、密教を教理とした日本独自の宗派である。空海は、高雄山寺（現在の神護寺）を皮切りに、高野山、東寺、東大寺、宮中真言院などを拠点として、真言宗を広める活動を展開し、それらは弟子たちに受け継がれた。本授業では、空海による開宗から初期の真言教団のあゆみについて、活動の拠点となった寺院を中心に、歴史資料を講読することを通じて、その背景を視野に入れながら考察する。

授業の到達目標

空海の著作や真言宗寺院に関する歴史資料を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、平安時代初期における真言宗のあゆみを理解することができる。

授業計画

1. 歴史学からみた空海の生涯①（講義）
2. 歴史学からみた空海の生涯②（講義）
3. 歴史学からみた空海の生涯③（講義）
4. 高野山の開創①（講読）
5. 高野山の開創②（講読）
6. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ①（講読）
7. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ②（講読）
8. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ③（講読）
9. 高雄山寺から神護寺へ①（講読）
10. 高雄山寺から神護寺へ②（講読）
11. 高雄山寺から神護寺へ③（講読）
12. 後七日御修法と宮中真言院①（講読）
13. 後七日御修法と宮中真言院②（講読）
14. 平安京周辺での真言宗寺院の展開（講義）
15. 寺院から考える真言宗の歴史（講義）

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習：授業で取り上げる歴史資料について辞書等で用語・語句を調べる（90分） 事後学習：授業で取り上げた寺院や事項について調べる（60分）。

テキスト

テキストは使用せず、歴史資料やレジュメをテーマごとに配布する。

参考書・参考資料等

平岡定海『日本寺院史の研究』（吉川弘文館、1981年）。吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018年）。その他、テーマごとの参考書や参考資料等は、授業中に紹介する。

学生に対する評価

予習・復習などを含めた授業への参加度（60%）と期末レポート（40%）によって評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史資料を読むスキルを身につける。
- (B) 歴史資料を読み、その内容を理解する。
- (A) 授業で取り上げた史料以外の真言宗寺院に関する歴史資料を読み解き、平安時代初期の真言宗の歴史的展開について考察することができる。
- (S) 歴史資料や先行研究にもとづいて、平安時代初期の真言宗の歴史的展開について、社会的背景をふまえて考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。①漢文の歴史資料を取り上げることがある。②受講生の関心によって、授業で取り上げた寺院や関連する場所を実際に訪れ、「歴史を体感する」機会を設けてもらいたい。

科目名	密教実践法の研究A(大)							学期	前期
副題	『中院流三十三尊法聞書』を読む(前半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトリン	
ナンバリング	D-01-265	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1. 中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2. 別尊次第について
3. 「金輪」
4. 「佛眼」
5. 「薬師」
6. 「阿弥陀」
7. 「釈迦」
8. 「尊勝」
9. 「聖観音」
10. 「千手」
11. 「十一面」
12. 「馬頭」
13. 「準胝」
14. 「如意輪」
15. 「白衣」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B)『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A)『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S)『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。内容は後期に続くため、「真言密教特殊講義E」を続けて受講することを推薦する。

科目名	密教実践法の研究B(大)							学期	後期
副題	『中院流三十三尊法聞書』を読む(後半)				授業方法	講義	担当者	T.ドライトイン	
ナンバリング	D-01-266	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 5	単位数	2	他	I

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべてを講義する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

『中院流三十三尊法聞書』の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1. 「弥勒」
2. 「五字文殊」
3. 「八字文殊」
4. 「延命」
5. 「地藏」
6. 「愛染」
7. 「不動」
8. 「降三世」「軍荼利」
9. 「大威徳」「金剛夜叉」「烏樞沙摩」
10. 「法華」「舍利」
11. 「光明真言」
12. 「毘沙門」
13. 「炎魔天」
14. 「水天」
15. 「聖天」「訶利帝」

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと(90分)

テキスト

高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』、高野山大学編纂『中院流三十三尊』のPDFを配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート(50%)、発表(20%)、授業参加の積極性(30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
- (B)『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
- (A)『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
- (S)『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遠隔授業です。已灌頂者(四度加行を終了して伝法灌頂を入壇した者)のみが受講できる。後期から受講はできるが、前期の「真言密教特殊講義D」から続く内容のため、その受講を推薦する。

科目名	仏教芸術の研究(大)						学期	前期	
副題	密教図像に関する体系的学習				授業方法	講義	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D-01-267	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乘仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマラー』や『ニシュパナンヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める。

授業の到達目標

密教尊像の基本的な知識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

授業計画

1. 概論（講義の進め方等）
2. 漢訳資料の基本的な扱い方
3. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経前半）
4. 漢文資料の基本的な講読練習（般若心経後半）
5. 尊格表現方法の基本知識（仏の種類）
6. 尊格表現方法の基本知識（仏の展開）
7. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅）
8. 尊格表現方法の基本知識（曼荼羅の展開）
9. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
10. 漢訳図像資料講読（図像鈔）
11. 密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12. 図像資料講読演習（経典の講読）
13. 図像資料講読演習（経典の講読）
14. 図像資料講読演習（経典の講読）
15. レポート試験・講評

準備学習(予習・復習)・時間

準備学習は必要ないが、復習を必ず実施すること。週1時間。

テキスト

大正新脩大藏経図像部

参考書・参考資料等

松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995年 頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994年 佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962年

学生に対する評価

レポート（60%）、授業内演習（30%）、ノート作成（10%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢訳資料を扱える
- (B) 密教尊像に関する知識を得る
- (A) 密教図像に関する資料を扱える
- (S) 密教図像成立を体系的に理解できる

課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教学宗教史の研究(大)							学期	前期
副題	宗教学的方法論				授業方法	講義	担当者	山脇雅夫	
ナンバリング	D-03-268	実務経験の有無	無	関連DP	1,2	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

仏教思想と西洋哲学との対話のケーススタディとして、西田幾多郎の「善の研究」の第四編「宗教」を検討する。宗教学の基礎的枠組みをふりかえったあとで、「善の研究」の当該部分を読解する。

授業の到達目標

『善の研究』を一つのモデルとして、宗教思想というものがどういう思想であるかを理解し、密教・仏教を哲学的に研究するための思考力を涵養する。

授業計画

1. 学問としての宗教学
2. 宗教の定義
3. 宗教の起源
4. 宗教の種類
5. 宗教体験
6. 西田幾多郎とは誰か？
7. 「善の研究」概論
8. 「善の研究」第四編第一章「宗教的要求」
9. 同上の検討
10. 「善の研究」第四編第二章「宗教の本質」
11. 同上の検討
12. 「善の研究」第四編第三章「神」
13. 同上の検討
14. 「善の研究」第四編第四章「神と世界」
15. 同上の検討

準備学習(予習・復習)・時間

テキスト該当部分を予習しておく、

テキスト

西田幾多郎「善の研究」(岩波文庫)

参考書・参考資料等

授業中に指示

学生に対する評価

授業に対する参加(60%)と学期末レポート(40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 宗教学の基礎的枠組みを理解している
- (B) 宗教学の基礎的枠組みを理解し、「善の研究」について基本的なことを理解している
- (A) 宗教学の基礎的枠組みを理解し、「善の研究」の宗教思想を理解している
- (S) 宗教学の基礎的枠組みを理解し、「善の研究」における仏教と西洋哲学との対話を理解している

課題に対するフィードバックの方法

参加型授業のなかでの討議を通して、フィードバックを行なう

その他

科目名	アジア地域の宗教文化の研究(大)						学期	前期	
副題	中国哲学				授業方法	講義	担当者	南昌宏	
ナンバリング	D-08-269	実務経験の有無	無	関連DP	3, 4, 5	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

中国の古典を伝統的な注釈によって読む。同時に、儒教を主とする古代中国の宗教文化について理解を深め、考察する。専門的な漢文訓読の技術を修得することを基本とするが、訓読の経験がない受講生は現代日本語訳で代用することも許容される。漢文を読解する際に必要となる対句や「典故を踏む」という手法について理解する。それは、弘法大師空海の読書法・文章作法の追体験でもある。空海思想の源泉として中国古典を認識し、密教・仏教研究の一助とする。

授業の到達目標

○専門的な漢文読解の手法を修得する。 ○中国の宗教文化について理解する。 ○弘法大師空海の知識の源泉を知る。

授業計画

- 『尚書注疏』 禹貢 「禹別九州……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「禹敷土隨山刊木……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「壺口治梁及岐……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「覃懷底績至于衡漳……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「厥田惟中中……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「夾右碣石入于河……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「九河既道……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「桑土既蠶是降丘宅土……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「浮于濟漯達于河……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「萊夷作牧……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「羽畎夏翟蟠陽孤桐……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「三江既入震澤底定……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「齒革羽毛惟木……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「荊及衡陽惟荊州……」を読む。
- 『尚書注疏』 禹貢 「沱潛既道……」を読む。

準備学習(予習・復習)・時間

○テキストを訓読する、または中国語で音読する(予習 45分)。 ○内容を読解する(予習 45分)。

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

『大漢和辞典』(大修館書店) 『漢語大詞典』(漢語大詞典出版社)

学生に対する評価

発表(50%) レポート(50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを訓読、または中国語で音読できる。
 (B) (C)に加え、漢文の修辭法を理解している。
 (A) (B)に加え、漢文読解の専門的な技法を修得している。
 (S) (A)に加え、漢文資料を独自の研究に利用することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内に対応する。オフィスアワーを利用することもできる。

その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	比較宗教の研究(大)							学期	後期
副題	高野山と周辺地域の関係					授業方法	講義	担当者	森本一彦
ナンバリング	D-11-270	実務経験の有無	無	関連DP	密1、仏1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について民俗や歴史を学ぶことによって、身近な地域について理解する。

授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗や歴史について理解するとともに、地域文化圏の意義を説明できるようになる。

授業計画

1. 高野文化圏研究の意義
2. 高野文化圏をめぐる環境（1）自然環境
3. 高野文化圏をめぐる環境（2）社会環境
4. 景観の諸問題（1）景観権
5. 景観の諸問題（2）具体的な事例
6. 生業（1）1次産業
7. 生業（2）2次産業・3次産業
8. 交通・交易（1）高野七口
9. 交通・交易（2）高野参詣
10. 社会生活（1）村について
11. 社会生活（2）近隣組織
12. 民俗宗教（1）年中行事
13. 民俗宗教（2）高野山の信仰
14. 民俗宗教（3）人生儀礼
15. 高野文化圏の特徴

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90分）。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高野町史編集委員会編『高野町史』民俗編高野町2012年、その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

最終レポート（70%）、授業時の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）で評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 高野文化圏の歴史や民俗について基本的事項を説明できる。
 (B) 授業内容を理解した上で、高野文化圏の歴史や民俗について説明できる。
 (A) 高野文化圏の歴史や民俗について自己の意見を述べることができる。
 (S) 高野文化圏の課題に対する対策を提案できる。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	現代社会と仏教の研究(大)							学期	後期
副題	密教・仏教の学びを实践に (2)社会参加仏教				授業方法	講義	担当者	奥山直司	
ナンバリング	D-01-271	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

現代社会においては密教・仏教の研究者や僧侶も、さまざまな社会問題に関心を持ち、それぞれの立場に応じて社会参加、社会貢献に努力することが求められている。社会参加仏教（エンゲイジドブuddiズム）は、21世紀の仏教の新潮流として注目されている。またSDGsやジェンダーの視点から仏教の理論と実践を捉え返そうとする動きも見られる。こうした動きを踏まえて、大学での学びを社会参加、社会貢献にどう結びつけるかを考えること。これが本授業の目的であり、様々な角度から真言密教に適した社会参加の在り方を検討してゆく。

授業の到達目標

真言密教の立場を踏まえた上で、広い視野をもって、社会参加、社会貢献について考え、実践する力を身に着ける。

授業計画

1. ガイダンス
2. 現代社会と仏教
3. 世界仏教の潮流 1
4. 世界仏教の潮流 2
5. 社会参加仏教 1
6. 社会参加仏教 2
7. 社会参加仏教 3
8. 社会参加仏教 4
9. 社会参加仏教 5
10. 社会参加仏教 6
11. ジェンダーと仏教
12. 日本型社会参加仏教
13. 真言宗の社会参加 1
14. 真言宗の社会参加 2
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

- ・ 授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく (60分)
- ・ 授業の内容と配布されたプリントを検討し、疑問や関心のある箇所について自分で調べる (120分)

テキスト

各回プリント等を配布する。

参考書・参考資料等

阿満利麿『社会をつくる仏教 エンゲイジド・ブuddiズム』人文書院
ケネス・タナカ『アメリカ仏教』武蔵野大学出版会

学生に対する評価

授業内での発表や発言 (60%)、期末レポート (40%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 関連資料を正確に読解することができる。
- (B) 仏教を介した社会参加、社会貢献の動向を世界的な視野で概括的に説明できる。
- (A) 真言密教に適した社会参加、社会貢献のあり方を自分なりに考え、発表することができる。
- (S) 真言密教に適した社会参加、社会貢献のあり方を自分なりに実践に移すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内で質問や意見についてフィードバックを行う。

その他

気軽に出席し、学習の輪に参加してもらいたい。

科目名	密教特殊演習A-1(大)							学期	前期
副題	引導作法の研究				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-272	実務経験の有無	無	関連DP	2.3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

引導作法について歴史を中心に検討を加えることによって、その形成と展開を解明することを目的とする。特に、その歴史的展開を解明したい。

授業の到達目標

引導作法の歴史について資料をもとにしながら新しい学説を立てられることを目標とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 引導作法の歴史的研究
3. 引導作法の歴史的研究
4. 引導作法の歴史的研究
5. 引導作法の歴史的研究
6. 小論文作成、口頭発表
7. 引導作法の歴史的研究
8. 引導作法の歴史的研究
9. 引導作法の歴史的研究
10. 引導作法の歴史的研究
11. 引導作法の歴史的研究
12. 小論文作成、口頭発表
13. 論文作成
14. 論文作成
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

テキスト

『葬儀の意義』(高野山真言宗布教研究所)

参考書・参考資料等

高見寛恭『真言宗引導作法具書』

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 引導作法について説明できる
- (B) 引導作法の歴史について説明できる
- (A) 引導作法の歴史について文献を用いて学術的に説明できる
- (S) 引導作法の歴史について学術的新知見を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を行うので学生が毎回発表を行いそれについて教員が講評をおこなう。(毎回授業でフィードバックを行う)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習A-2(大)							学期	後期
副題	葬送儀礼の種々相				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-273	実務経験の有無	無	関連DP	2.3	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

現代社会において葬送儀礼は実に多様化している。ペット供養(葬儀)ということについて様々な角度から検討を加えることによって葬送儀礼についての現状を記録すると共にこれまでどのようにその問題が取り扱われてきたかを解明することを目的とする。

授業の到達目標

博論の作成のための新知見の創出を目標とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 馬頭観音の信仰
3. 馬頭観音の信仰
4. 空海の六道四生観
5. 空海の六道四生観
6. ペット葬儀の現状
7. ペット葬儀の現状
8. ペット葬儀の現状
9. 小論文作成、口頭発表
10. フィールドワーク分析
11. フィールドワーク分析
12. 論文作成
13. 論文作成
14. 論文作成
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

テキスト

『秘鈔』『薄草子』その他。『葬儀の意義』(高野山真言宗布教研究所)

参考書・参考資料等

高見寛恭『真言宗引導作法具書』

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 引導作法について説明できる
- (B) 引導作法の歴史について説明できる
- (A) 葬送儀礼の現状について客観的なデータを用いて学術的に説明できる
- (S) 葬送儀礼の現状について学術的新知見を提示できる

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を行うので学生が毎回発表を行いそれについて教員が講評をおこなう。(毎回授業でフィードバックを行う)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習C-1(大)							学期	前期
副題	真言宗と天台宗の行位論の研究					授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	D-01-274	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3,	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言宗と天台宗の行位論を比較検討する事によって、日本密教における東密と台密の相違点を明確化する。さらに、行位論の相違点の源がいかなる思想（文献）によるものかを解明することが授業の目的である。

授業の到達目標

研究成果を学術誌に投稿することを目標とする。あわせて、博士論文の主要部分を作成することを最終目標にする。

授業計画

1. オリエンテーション 先行研究の整理
2. 先行研究の整理
3. 『観智儀軌』の行位論（台密の視点）
4. 『観智儀軌』の行位論（台密の視点）
5. 『観智儀軌』の行位論（台密の視点）
6. 『大日經疏』の行位論
7. 『大日經疏』の行位論
8. 『大日經疏』の行位論
9. 『大日經疏』の行位論
10. 『大日經疏』の行位論
11. 『大日經疏』の行位論
12. 『大日經疏』の行位論
13. 『大日經疏』の行位論のまとめ
14. 『大日經疏』の行位論のまとめ
15. 総括

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の準備（120分）、講義の後の復習と整理（60分）

テキスト

『冠注大日経住心品疏』『成就妙法蓮華経王瑜伽観智儀軌』

参考書・参考資料等

『大正大藏経』『国訳一切経』『国訳秘密儀軌』

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 真言宗と天台宗の行位論の違いを簡単に説明できる。
 (B) 真言宗と天台宗の行位論の違いを文献を用いて説明できる。
 (A) 真言宗と天台宗の行位論の違いを先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
 (S) 真言宗と天台宗の行位論の違いを独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習C-2(大)							学期	後期
副題	真言宗と天台宗の行位論の研究					授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦
ナンバリング	D-01-275	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

真言宗と天台宗の行位論を比較検討する事によって、日本密教における東密と台密の相違点を明確化する。さらに、行位論の相違点の源がいかなる思想（文献）によるものかを解明することが授業の目的である。

授業の到達目標

研究成果を学術誌に投稿することを目標とする。あわせて、博士論文の主要部分を作成することを最終目標にする。

授業計画

1. オリエンテーション 前期の振り返り
2. 天台宗の行位論
3. 天台宗の行位論
4. 天台宗の行位論の分析
5. 天台宗の行位論の分析
6. 真言宗の行位論の分析
7. 真言宗の行位論の分析
8. 真言宗の行位論の分析
9. 真言宗と天台宗の行位論の比較
10. 真言宗と天台宗の行位論の比較
11. 経軌の行位論の分析
12. 経軌の行位論の分析
13. 行位論の分析と批判検討
14. 行位論の分析と批判検討
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の準備 (120分)、講義の後の復習と整理 (60分)

テキスト

『冠注大日経住心品疏』『成就妙法蓮華経王瑜伽観智儀軌』

参考書・参考資料等

『大正大藏経』『国訳一切経』『国訳秘密儀軌』

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 真言宗と天台宗の行位論の違いを簡単に説明できる。
- (B) 真言宗と天台宗の行位論の違いを文献を用いて説明できる。
- (A) 真言宗と天台宗の行位論の違いを先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
- (S) 真言宗と天台宗の行位論の違いを独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習D-1(大)							学期	前期
副題	画像資料の講読				授業方法	演習	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D-01-276	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

中国における観音の成立と展開を理解するためにインド、東アジア、日本の各地域における観音の展開を文献資料、および現地に残される遺品をもとに考察する。

授業の到達目標

インドに興り日本まで展開した観音信仰の成立と展開の一連の繋がりを確認し、整理し体系づける。

授業計画

1. 演習 (1)
2. 演習 (2)
3. 演習 (3)
4. 演習 (4)
5. 演習 (5)
6. 演習 (6)
7. 演習 (7)
8. 演習 (8)
9. 演習 (9)
10. 演習 (10)
11. 演習 (11)
12. 演習 (12)
13. 演習 (13)
14. 演習 (14)
15. 演習 (15)

準備学習(予習・復習)・時間

別途指示する。

テキスト

別途指示する。

参考書・参考資料等

別途指示する。

学生に対する評価

研究に対する問題点への洞察力、研究手法の到達点により評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 研究課題に対してポイントを整理できる。
- (B) 研究課題に対して的確な研究手法が組み上げられる。
- (A) 研究課題に関して新知見が提供できる。
- (S) 学会等での確かな発表ができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の演習で指導する。

その他

科目名	密教特殊演習D-2(大)							学期	後期
副題	画像資料の講読				授業方法	演習	担当者	松長潤慶	
ナンバリング	D-01-277	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

中国における観音の成立と展開を理解するためにインド、東アジア、日本の各地域における観音の展開を文献資料、および現地に残される遺品をもとに考察する。

授業の到達目標

インドに興り日本まで展開した観音信仰の成立と展開の一連の繋がりを確認し、整理し体系づける。

授業計画

1. 演習 (1)
2. 演習 (2)
3. 演習 (3)
4. 演習 (4)
5. 演習 (5)
6. 演習 (6)
7. 演習 (7)
8. 演習 (8)
9. 演習 (9)
10. 演習 (10)
11. 演習 (11)
12. 演習 (12)
13. 演習 (13)
14. 演習 (14)
15. 演習 (15)

準備学習(予習・復習)・時間

別途指示する。

テキスト

別途指示する。

参考書・参考資料等

別途指示する。

学生に対する評価

研究に対する問題点への洞察力、研究手法の到達点により評価する。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 研究課題に対してポイントを整理できる。
- (B) 研究課題に対して的確な研究手法が組み上げられる。
- (A) 研究課題に関して新知見が提供できる。
- (S) 学会等での確かな発表ができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の演習で指導する。

その他

科目名	密教特殊演習E-1(大)						学期	前期	
副題	即身成仏思想の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-278	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

即身成仏思想は真言宗の根本教理である。「即身成仏思想」は『即身成仏義』にて大成されるが、思想に留まるだけではなく実践大系とも深い関わりを有する。特に「三密加持」とはいかなるものかを解明することは重要な問題である。さらに、「即身成仏思想」が後世に与えた影響についても「三密加持」を切り口にもう一度再検討する必要がある。これらの点を検討解明することによって博論を作成する能力を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

博論の中の一章を作成し、その内容を学術誌に投稿することを目標とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. これまでの研究の振り返り(修論の再検討)
3. これまでの研究の振り返り(修論の再検討)
4. これまでの研究の振り返り(修論の再検討)
5. 日本部教における成仏思想の研究
6. 日本仏教における成仏思想の研究
7. 修論作成時の即身成仏思想の振り替えり
8. 三密加持と即身成仏
9. 三密加持と即身成仏
10. 三密加持と即身成仏
11. 三密加持と即身成仏
12. 三密加持と密教瞑想法
13. 三密加持と密教瞑想法
14. 三密加持と密教瞑想法
15. まとめ

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の準備 (120分)、講義の後の復習と整理 (60分)

テキスト

『十卷章』(高野山大学出版部)、(『弘法大師全集』『定本弘法大師全集』)

参考書・参考資料等

中川善教『漢和对照十卷章』(高野山出版社) 『即身成仏義の研究』(密経文化研究所紀要別冊) 小田慈舟『十卷章講説』(高野山出版社) 松長有慶『訳注即身成仏義』(春秋社)

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 即身成仏思想を『即身成仏義』にしたがって説明できる。
 (B) 即身成仏思想を『即身成仏義』とその注釈を用いて説明できる。
 (A) 即身成仏思想を先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
 (S) 即身成仏思想を独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習E-2(大)							学期	後期
副題	即身成仏思想の研究				授業方法	演習	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	D-01-279	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

即身成仏思想は真言宗の根本教理である。「即身成仏思想」は『即身成仏義』にて大成されるが、思想に留まるだけではなく実践大系とも深い関わりを有する。特に「三密加持」とはいかなるものかを解明することは重要な問題である。さらに、「即身成仏思想」が後世に与えた影響についても「三密加持」を切り口にもう一度再検討する必要がある。これらの点を検討解明することによって博論を作成する能力を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

博論の中の一章を作成し、その内容を学術誌に投稿することを目標とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 『即身成仏義』の研究
3. 『即身成仏義』の研究
4. 『即身成仏義』の研究
5. 『即身成仏義』の研究
6. 『即身成仏義』の研究
7. 『即身成仏義』の研究
8. 『即身成仏義』の研究
9. 『即身成仏義』の研究
10. 『即身成仏義』の研究
11. 『即身成仏義』の注釈書研究
12. 『即身成仏義』の注釈書研究
13. 『即身成仏義』の注釈書研究
14. 『即身成仏義』の注釈書研究
15. 『即身成仏義』の注釈書研究

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の準備 (120分)、講義の後の復習と整理 (60分)

テキスト

『十卷章』(高野山大学出版部)、(『弘法大師全集』『定本弘法大師全集』)

参考書・参考資料等

中川善教『漢和对照十卷章』(高野山出版社) 『即身成仏義の研究』(密経文化研究所紀要別冊) 小田慈舟『十卷章講説』(高野山出版社) 松長有慶『訳注即身成仏義』(春秋社)

学生に対する評価

授業準備、発表 40%、発表後の修正 20%、学術論文作成 40%

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 即身成仏思想を『即身成仏義』にしたがって説明できる。
- (B) 即身成仏思想を『即身成仏義』とその注釈を用いて説明できる。
- (A) 即身成仏思想を先行研究と文献を整理したうえで客観的に説明できる。
- (S) 即身成仏思想を独自の視点で学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習形式で講義を進めるので毎回学生が発表を行いそれについて教員が講評する。(毎回授業でフィードバックする)

その他

学術誌に論文を投稿すること

科目名	密教特殊演習F-1(大)						学期	前期	
副題	『大日経義釈演密鈔』演習				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D-01-280	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『大日経義釈』の注釈書である覚苑の『大日経義釈演密鈔』は、遼代に作成された『大日経義釈』（『大日経疏』）の注釈書である。この『大日経義釈演密鈔』は、空海による顕密対弁や真言宗の教学の影響下にならずに中国独自の注釈書であり、その内容を検討することは、「中国仏教界で密教がどのように受容されたのか」をうかがうためにも重要である。この特殊演習では、受講生による『大日経義釈演密鈔』読解を中心に、中国仏教思想と密教の関連を考察する。今年度は、「文前聊簡第一」を読む。

授業の到達目標

中国仏教思想史の観点から見た『大日経疏』（『義釈』）の位置づけを、『大日経義釈演密鈔』の注釈を踏まえて検討した上で、学術論文として発表する。

授業計画

- ガイダンス
- 先行研究分析① 脇谷論文
- 〃 ② 松永論文
- 〃 ③ 鎌田論文
- 〃 ④ 木村論文
- 『大日経義釈演密鈔』演習① 序文 1
- 『大日経義釈演密鈔』演習② 序文 2
- 『大日経義釈演密鈔』演習③ 序文 3
- 『大日経義釈演密鈔』演習④ 起教因縁 1
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑤ 起教因縁 2
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑥ 起教因縁 3
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑦ 蔵教収撰 1
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑧ 蔵教収撰 2
- 『大日経義釈演密鈔』演習⑨ 蔵教収撰 3
- 前期のまとめと講評

準備学習(予習・復習)・時間

・該当箇所の読解 (120分) ・演習時の指摘箇所の修正 (60分)

テキスト

覚苑『大日経義釈演密鈔』（10巻）、『新纂卍大日本統蔵経』第23巻、国書刊行会 ※コピーを自分で用意する。

参考書・参考資料等

鎌田茂雄「華嚴思想史よりみた遼代密教の特質」、印仏研 8-2、1960。木村清孝「覚苑における法界縁起思想の受容」、『仏教思想の諸問題』、春秋社、1985。※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内の発表 (50%)、学術論文の作成 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- 『大日経義釈演密鈔』の漢文を書き下しにできる。
- 『大日経義釈演密鈔』の書き下し文を現代日本語に直せる。
- 『大日経義釈演密鈔』に引用されている諸経論の典拠を確認できる。
- 上記 (C) ~ (A) を踏まえて、学術論文を作成できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業中に指導する。

その他

・演習のため、必ず該当箇所の資料を作成すること。・この演習の取り組みを自身の研究テーマに反映させ、20,000字程度の学術論文にまとめること。・この授業は、受講生が主体となるアクティブラーニングである。

科目名	密教特殊演習F-2(大)						学期	後期	
副題	『大日経義釈演密鈔』演習				授業方法	演習	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	D-01-281	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

『大日経義釈』の注釈書である覚苑の『大日経義釈演密鈔』は、遼代に作成された『大日経義釈』（『大日経疏』）の注釈書である。この『大日経義釈演密鈔』は、空海による顕密対弁や真言宗の教学の影響下にならずに中国独自の注釈書であり、その内容を検討することは、「中国仏教界で密教がどのように受容されたのか」をうかがうためにも重要である。この特殊演習では、受講生による『大日経義釈演密鈔』読解を中心に、中国仏教思想と密教の関連を考察する。今年度は、「文前聊簡第一」を読む。

授業の到達目標

中国仏教思想史の観点から見た『大日経疏』（『義釈』）の位置づけを、『大日経義釈演密鈔』の注釈を踏まえて検討した上で、学術論文として発表する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 『大日経義釈演密鈔』演習⑩ 説経会処1
3. 『大日経義釈演密鈔』演習⑪ 説経会処2
4. 『大日経義釈演密鈔』演習⑫ 説経会処3
5. 『大日経義釈演密鈔』演習⑬ 弁教浅深1
6. 『大日経義釈演密鈔』演習⑭ 弁教浅深2
7. 『大日経義釈演密鈔』演習⑮ 弁教浅深3
8. 『大日経義釈演密鈔』演習⑯ 明経宗趣1
9. 『大日経義釈演密鈔』演習⑰ 明経宗趣2
10. 『大日経義釈演密鈔』演習⑱ 明経宗趣3
11. 『大日経義釈演密鈔』演習⑲ 翻訳伝通1
12. 『大日経義釈演密鈔』演習⑳ 翻訳伝通2
13. 『大日経義釈演密鈔』演習㉑ 翻訳伝通3
14. 『大日経義釈演密鈔』演習㉒ 翻訳伝通4
15. 後期のまとめと展望

準備学習(予習・復習)・時間

・該当箇所の読解 (120分) ・演習時の指摘箇所の修正 (60分)

テキスト

覚苑『大日経義釈演密鈔』(10巻)、『新纂卍大日本統蔵経』第23巻、国書刊行会 ※コピーを自分で用意する。

参考書・参考資料等

鎌田茂雄「華嚴思想史よりみた遼代密教の特質」、印仏研 8-2、1960。木村清孝「覚苑における法界縁起思想の受容」、『仏教思想の諸問題』、春秋社、1985。 ※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内の発表 (50%)、学術論文の作成 (50%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『大日経義釈演密鈔』の漢文を書き下しにできる。
- (B) 『大日経義釈演密鈔』の書き下し文を現代日本語に直せる。
- (A) 『大日経義釈演密鈔』に引用されている諸経論の典拠を確認できる。
- (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえて、学術論文を作成できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業中に指導する。

その他

・演習のため、必ず該当箇所の資料を作成すること。 ・この演習の取り組みを自身の研究テーマに反映させ、20,000字程度の学術論文にまとめること。 ・この授業は、受講生が主体となるアクティブラーニングである。

科目名	密教特殊演習G-1(大)							学期	前期
副題	歴史学の研究方法を用いて研究論文を作成する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D-01-282	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

修士論文の成果をふまえ、課題や問題点を明らかにし、完成度をより高めるために、最近の研究成果を報告してもらい、研究史を批判的に検討し、史料の読み込みを深めるとともに、史料収集状況を確認しながら、博士論文の作成にむけて今後の方向性を探るようにしたい。

授業の到達目標

①研究史の批判的な検討をすることができる。 ②関係史料の読み込みをさらに深める。

授業計画

1. 授業計画と方法について
2. 奈良・平安時代史研究の最新動向①（講義）
3. 奈良・平安時代史研究の最新動向②（講義）
4. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議①
5. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議②
6. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議③
7. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議④
8. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑤
9. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑥
10. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑦
11. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑧
12. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑨
13. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑩
14. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑪
15. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑫

準備学習(予習・復習)・時間

①年に1本は研究論文を書けるように、研究を進める。 ②学内の学会のほか、外部の学会や研究会に参加し、研究情報を集める。

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①報告内容(50%)・レポート(30%)・討議への参加度(20%)によって評価する。 ②全授業の3分の2以上(10回以上)に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史学の研究方法を理解し、研究史を批判的に検討することができる。
- (B) 関係史料を深く読み込み、正確に解釈することができる。
- (A) 研究テーマの現状と問題点を把握して、自分なりの見解を論じることができる。
- (S) 学内外の学会や研究会に積極的に参加して研究情報を集め、研究論文を書くための準備を進めることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	密教特殊演習G-2(大)							学期	後期
副題	歴史学の研究方法を用いて研究論文を執筆する				授業方法	演習	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	D-01-283	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

春学期までの研究成果をふまえ、課題や問題点を明らかにし、完成度をより高めるために、最近の研究成果を報告してもらおう。研究史を批判的に検討し、史料の読み込みをさらに深めるとともに、史料収集状況を再確認しながら、博士論文の作成にむけて今後の方向性を探るようにしたい。

授業の到達目標

①通説を乗り越える道を模索する。 ②文献史料のより深い読み込みを学ぶ。

授業計画

1. 授業計画と方法について
2. 奈良・平安時代史研究の最新動向①（講義）
3. 奈良・平安時代史研究の最新動向②（講義）
4. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議①
5. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議②
6. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議③
7. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議④
8. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑤
9. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑥
10. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑦
11. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑧
12. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑨
13. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑩
14. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑪
15. 受講生による研究テーマに沿った報告と討議⑫

準備学習(予習・復習)・時間

①研究論文の完成に向けて、研究を進める。 ②外部の学会や研究会に積極的に参加し、研究情報を集める。

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。講義回については、配布するレジュメを用いる。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①報告内容（50%）・レポート（30%）・討議への参加度（20%）によって評価する。 ②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 研究史を批判的に検討し、通説を乗り越える道を模索することができる。
- (B) 文献史料をより深く読み込み、正確に解釈することができる。
- (A) 研究テーマの現状と問題点を把握して、自分なりの見解を論じることができる。
- (S) 外部の学会や研究会に積極的に参加して研究情報を集め、研究論文を完成させることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	仏教特殊演習A-1(大)							学期	前期
副題	『瑜祇経』の読解					授業方法	演習	担当者	大学院委員長
ナンバリング	D-01-284	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

『瑜祇経』を徹底的に解説する

授業の到達目標

本経の成立背景や思想的特徴を明らかにする

授業計画

1. 『瑜祇経』解説 序文
2. 『瑜祇経』解説 第一章①
3. 『瑜祇経』解説 第一章②
4. 『瑜祇経』解説 第二章
5. 注釈書を参考にする
6. 頼瑜の注釈
7. 梟宝の注釈
8. 同経成立の思想的背景
9. 同経成立の思想的意義
10. タントラ文献の中の位置
11. 無上ユガタントラと『瑜祇経』の比較①
12. 無上ユガタントラと『瑜祇経』の比較②
13. 密教における『瑜祇経』の役割
14. 弘法大師と本経の関係①
15. 弘法大師と本経の関係②

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の予習 (60分)、復習 (30分)

テキスト

『瑜祇経』と幾つかの注釈書 (詳細は授業中に指示する)

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

研究に対する意欲 (100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『瑜祇経』の位置について考えることができる
- (B) 『瑜祇経』の特殊性について考えることができる
- (A) 注釈書を調べることができる
- (S) 『瑜祇経』全体の思想的特徴について考えることができる

課題に対するフィードバックの方法

授業時に毎回フィードバックする

その他

科目名	仏教特殊演習A-2(大)							学期	後期
副題	『瑜祇経』の読解					授業方法	演習	担当者	大学院委員長
ナンバリング	D-01-285	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

博士論文『瑜祇経』の研究を仕上げる。

授業の到達目標

博士論文を完成させる

授業計画

1. 博士論文作成作業①
2. 博士論文作成作業②
3. 博士論文作成作業③
4. 博士論文作成作業④
5. 博士論文作成作業⑤
6. 博士論文作成作業⑥
7. 博士論文作成作業⑦
8. 博士論文作成作業⑧
9. 博士論文作成作業⑨
10. 博士論文作成作業⑩
11. 博士論文作成作業⑪
12. 博士論文作成作業⑫
13. 博士論文作成作業⑬
14. 博士論文作成作業⑭
15. 博士論文作成作業⑮

準備学習(予習・復習)・時間

毎回の予習 (60分)、復習 (30分)

テキスト

『瑜祇経』と幾つかの注釈書(詳細は授業中に指示する)

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

論文作成を意欲的にするか(100%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 『瑜祇経』の成立背景を調べることができる
- (B) 『瑜祇経』の思想的基盤を調べることができる
- (A) 『瑜祇経』の密教経典としての位置について考えることができる
- (S) 『瑜祇経』の研究についての論文を作成することができる

課題に対するフィードバックの方法

授業時に毎回フィードバックする

その他

科目名	仏教特殊演習B-1(大)							学期	前期
副題	チベット選述文献を活用した仏教学の再構築				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-02-286	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

ブトゥン「カーラチャクラ史」校訂・訳注研究。シャル寺の学僧ブトゥン・リンチェントップ (1290—1364) の『タントラ部における甚深なる意味内容の門を開くもの「宝庫の愛重すべき鍵」』(「カーラチャクラ史」) を文献学的手法にもとづき精密な校訂テキストと訳注を制定することによってインド学・チベット学・仏教学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本の制定にあたって写本・版本を批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。辞書・コンコーダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学 (DH) についての応用的な知識をも身につける。

授業計画

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 資料概観① レニングラード学派と羽田野伯猷・チベット選述文献と仏教学研究
3. 資料概観② シャーリプトラとチベタン・ルネサンス
4. 論文指導①
5. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注①
6. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注②
7. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注③
8. 論文指導②
9. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注④
10. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注⑤
11. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注⑥
12. 論文指導③
13. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注⑦
14. 「カーラチャクラ史」校訂・訳注⑧
15. 論文指導④

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し校訂・訳注のドラフトを用意しておくこと (270分)。事後学習としてドラフトを修正し、次回のドラフトにフィードバックしたうえで必要事項を覚えておくこと (180分)。

テキスト

rGyud sde' i zab don sgo ' byed, Rin chen gces pa' i lde mig of Bu ston Rin chen grub (東北 5011)。

参考書・参考資料等

羽田野伯猷『チベット・インド学集成』, 京都・法蔵館, 1986—1988. Jonathan A. Silk(eds.). Brill' s Encyclopedia of Buddhism, Brill Academic Pub, 2015—2023. 他のマテリアルについては授業でその都度指示する。

学生に対する評価

ドラフトの内容ならびに論文指導における検討会発表 (70%)、学期末レポート (30%)

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
- (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえ、校訂・訳注研究における基本的な方法論を身につけている。
- (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学 (DH) の技術を活用しつつ、個別の学術論文を作成しうる水準に達している。
- (S) 学位請求論文の水準に達する学術論文の書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。次回授業の開始前に毎回の前回までのフィードバックを終えた校訂テキストと訳注のドラフト提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることを前提とする。

科目名	仏教特殊演習B-2(大)						学期	後期	
副題	注釈文献とチベット語訳にもとづく原典復元				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	D-02-287	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

アヌバマラクシタ「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注研究。ヴィクラマシーラ僧院の法灯を受け継ぐ学僧アヌバマラクシタ（10—11世紀）に帰される「シャッダーンガヨーガ（六項目からなる達成目標＝ヨーガ）」を対象に、文献学的手法にもとづき精密な校訂テキストと訳注を制定することによってインド学・チベット学、仏教学に不可欠な基礎知識を修得する。講読演習と並行して定期的に行われる論文指導の検討会に参加する。

授業の到達目標

校訂本の制定にあたって先行する研究、写本・版本とを批判的に対照することで基本的な文献学的手法を身につけ、精密な訳注の作成を通じて学術論文の書き方を学ぶ。梵文写本の文字形態学はもちろん、辞書・コンコーダンスなど文献学における従来の工具類に加えて人文情報学（DH）についての応用的な知識をも身につける。

授業計画

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 資料概観①
3. 資料概観②
4. 論文指導①
5. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注①
6. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注②
7. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注③
8. 論文指導②
9. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注④
10. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注⑤
11. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注⑥
12. 論文指導③
13. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注⑦
14. 「シャッダーンガヨーガ」校訂・訳注⑧
15. 論文指導④

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のサンスクリット語・チベット訳テキストならびに対応する現代語訳とを対照し校訂・訳注のドラフトを用意しておくこと（270分）。事後学習としてドラフトを修正し、次回のドラフトにフィードバックしたうえで必要事項を覚えておくこと（180分）。

テキスト

Francesco Sferra. *The Sadangayoga by Anupamaraksita: with Ravisrijnana's Gunabharaninamasadangayogatippani*, Roma: IsIAO, 2000.

参考書・参考資料等

羽田野伯猷『チベット・インド学集成』、京都・法蔵館、1986—1988。Jonathan A. Silk(eds.). Brill's Encyclopedia of Buddhism, Brill Academic Pub, 2015—2023。他のマテリアルについては授業でその都度指示する。

学生に対する評価

ドラフトの内容ならびに論文指導における検討会発表（70%）、学期末レポート（30%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
 (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえ、校訂・訳注研究における基本的な方法論を身につけている。
 (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用しつつ、個別の学術論文を作成しうる水準に達している。
 (S) 学位請求論文の水準に達する学術論文の書き方を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席とみなす。次回授業の開始前に毎回の前回までのフィードバックを終えた校訂テキストと訳注のドラフト提出を求める。サンスクリット語・チベット語をあらかじめ履修していることを前提とする。

教員別索引

あ	有松 孝雄	企画科目(仏画)	文-112	か	川崎 一洋	密教学特殊講義T【LSO】	文-75
		仏教芸術(別)	文-112				祖典講読ⅡT【LSO】
い	足立 信行	キャリアデザインVA	文-67			真言宗典講読2(別)	文-66
		キャリアデザインVIA	文-68			密教学特殊研究A(大)	院-6
い	五十嵐 啓道	真言密教特殊講義T【IP】	文-210			密教学特殊研究B(大)	院-7
	井内 真帆	チベット語S【LSO】	文-134	き	菊谷 竜太	サンスクリット語A	文-8
	チベット語(別)	文-134					サンスクリット語(別)
い	伊藤佳世子	英語Ⅰ	文-3			仏教学概論S	文-51
		企画科目(高野山国際ガイド体験)	文-132			仏教学概論S【LSO】	文-51
い	岩崎 日出男	密教史特殊研究B(大)	院-11			仏教学概説S	文-53
	う	上野 和久	企画科目(発達心理学)	文-114		仏教史概説S【LSO】	文-53
い		企画科目(発達心理学)【LSO】	文-114			密教学演習G	文-105
		企画科目(カウンセリング論)	文-115			密教学演習T【LSO】	文-216
い		企画科目(カウンセリング論)【LSO】	文-115			仏教学講義(大)	院-2
		企画科目(学校臨床心理学)	文-116			仏教学演習A(大)	院-29
い		企画科目(学校臨床心理学)【LSO】	文-116			仏教学演習B(大)	院-30
		教育相談	文-190			仏教特殊演習B-1(大)	院-57
い		教育相談【LSO】	文-190			仏教特殊演習B-2(大)	院-58
	お	大河内 大博	企画科目(スピリチュアルケア論)【LS】	文-225	木	地 茂典	情報処理
い		企画科目(スピリチュアルケア論)【LS】	文-226	北	川 真寛	密教学概論S	文-50
	大	柴 清圓	祖典講読ⅡA	文-63		密教学概論S【OD】	文-50
い		密教学演習A(大)	院-12			祖典講読ⅠB	文-60
		密教学演習B(大)	院-13			真言密教講読演習B	文-97
い		密教学講読A(大)	院-16			密教学演習N	文-108
		密教学講読B(大)	院-17			法式上級	文-138
い	岡田 英作	密教学演習H(再履修)	文-106			空海の思想入門S【LSO】	文-201
		仏教学特殊講義T【LSO】	文-210			真言宗の教えB(別)	文-50
い		仏教学特殊講義W	文-80			法式上級(別)	文-138
		仏教学特殊講義W【LSO】	文-80			密教学講義(大)	院-1
い		仏教学講読演習T【LSO】	文-214			密教史特殊研究A(大)	院-10
		仏教学講読演習V	文-95	木	下 智雄	真言密教講読演習G	文-101
い		仏教学講読演習V【LSO】	文-95			企画科目(高野山の歴史と文化S)	文-113
		仏教学講読演習W	文-96			企画科目(高野山の歴史と文化S)【LSO】	文-113
い		仏教学講読演習W【LSO】	文-96			漢文S【LSO】	文-202
		パーリ語S	文-135			密教史講読(大)	院-18
い		パーリ語S【LSO】	文-135	こ	高 祖・辻	宗教芸能(宗教舞踊)	文-31
		パーリ語(別)	文-135		五 味 和樹	伝統文化(茶道)	文-30
い		教育心理学	文-182		五 明 優介	企画科目(心理統計学)【OD】	文-227
		教育心理学【LSO】	文-182			企画科目(心理測定法)【OD】	文-228
い		道徳教育指導論	文-186	き	齋藤 天譽	梵字悉曇A	文-28
		宗教科教育法Ⅲ	文-193			梵字悉曇(別)	文-28
い		釈尊の生涯(別)	文-95		坂 口 太郎	歴史学	文-54
		仏教史特殊研究A(大)	院-27			密教学講読演習B	文-89
い		仏教史特殊研究B(大)	院-28			密教学演習K	文-107
		仏教学講読B(大)	院-32			企画科目(歴史学入門)	文-123
い	岡本 文音	伝統文化(茶道)	文-29			企画科目(歴史学入門演習)	文-124
	奥山 直司	密教と文化(大)	院-20			書誌学	文-144
い		仏教と文化(大)	院-20			古文書学	文-145
		現代社会と仏教の研究(大)	院-42			歴史学S【LSO】	文-205
い	小田 龍哉	宗教思想ⅠS	文-34			仏教学講読演習U【IP】	文-213
		宗教思想ⅠS【LSO】	文-34			密教史演習A(大)	院-14
い		宗教学ⅠS	文-55			密教史演習B(大)	院-15
		宗教学ⅠS【LSO】	文-55	櫻	木 潤	宗教思想ⅡS	文-35
い		宗教学ⅡS	文-56			宗教思想ⅡS【LSO】	文-35
		宗教学ⅡS【LSO】	文-56			密教学演習D	文-103
い		世界の宗教(別)	文-55			生涯学習概論	文-171
		世界の宗教(別)	文-56			博物館教育論	文-178
い		宗教学方法論S	文-149			博物館実習	文-179
		宗教学方法論S【LSO】	文-149			密教学特殊講義V【LSO】	文-208
い	か	加藤 善弘	法式	文-23		密教学講読演習U【LSO】	文-211
		法式(別)	文-23			密教学演習S【LSO】	文-215
い		亀位 卓英	英語Ⅱ	文-5		仏教史講読A(大)	院-34
		川崎 一洋	宗典講読T	文-66		仏教史講読B(大)	院-35
い		密教学特殊講義S	文-74			密教特殊演習G-1(大)	院-53
		密教学特殊講義S【LSO】	文-74			密教特殊演習G-2(大)	院-54
い		密教学特殊講義T	文-75	佐	々 木 聡	教育方法論-ICT活用論	文-188
						生徒指導・進路指導	文-189

教員別索引

さ	佐藤隆彦	真言密教特殊講義F	文-85	と	土居夏樹	祖典講読 I S[LSO]	文-62
		真言密教特殊講義G	文-86			密教学講読演習S	文-90
		真言密教特殊講義U[IP]	文-87			密教学講読演習S[LSO]	文-90
		観法の理論と実習B(別)	文-87			密教学演習U[LSO]	文-214
		真言密教講読演習C	文-98			密教学演習U[LSO]	文-217
		事相研究 I-1(大)	院-21			宗教の歴史(別)	文-57
		事相研究 I-2(大)	院-22			宗教の歴史(別)	文-58
		密教特殊演習A-1(大)	院-43			密教特殊演習F-1(大)	院-51
		密教特殊演習A-2(大)	院-44			密教特殊演習F-2(大)	院-52
		密教特殊演習C-1(大)	院-45	徳	重弘志	密教史概説S	文-52
		密教特殊演習C-2(大)	院-46			密教史概説S[LSO]	文-52
		密教特殊演習E-1(大)	院-49			サンسكريット語上級S	文-133
		密教特殊演習E-2(大)	院-50			サンسكريット語上級S[LSO]	文-133
し	塩野三恵子	かなI	文-27			サンسكريット語S[LSO]	文-203
		かなII	文-163			宗典講読S[LSO]	文-207
		条幅制作B(かな)	文-166			真言宗の教えA(別)	文-52
	柴谷宗叔	密教学特殊講義U	文-76			インド学講義(大)	院-3
		密教学特殊講義U[LSO]	文-76		富田向真	宗教科教育法IV	文-194
		巡礼・遍路T	文-143		T.トライタン	宗典講読B[LS]	文-65
		巡礼・遍路T[LSO]	文-143			真言密教特殊講義D[LS]	文-83
	徐東軍	祖典講読 I C	文-61			真言密教特殊講義E[LS]	文-84
		企画科目(中国語で学ぶ仏教の歴史)	文-121			真言密教講読演習D[LS]	文-99
		企画科目(中国語で学ぶ仏教の歴史)[LS]	文-121			真言密教講読演習E[LS]	文-100
		企画科目(中国語で仏典を読む)	文-122			密教学特殊研究C(大)[LS]	院-8
		企画科目(中国語で仏典を読む)[LSO]	文-122			密教学特殊研究D(大)[LS]	院-9
		企画科目(仏画S)[IP]	文-221			事相研究 II-1(大)[LS]	院-23
			文-13			事相研究 II-2(大)[LS]	院-24
す	鈴木晴久	密教学基礎ゼミB1	文-14			密教実践法の研究A(大)[LS]	院-36
		密教学基礎ゼミB2	文-13			密教実践法の研究B(大)[LS]	院-37
		国語学 I	文-150	な	内藤栄	企画科目(仏教美術入門S)[IP]	文-220
		国語学 II	文-151		中西雄泰	真言密教特殊講義A	文-81
		教育原論	文-180			真言密教特殊講義B	文-82
		教職入門	文-181			密教儀礼の理論と実習(別)	文-81
		教育課程論	文-185			密教儀礼の理論と実習(別)	文-81
		総合的な学習の時間・特別活動	文-187			密教特殊講義V	文-79
		国語科教育法 I	文-195		那須真裕美	仏教学特殊講義V[LSO]	文-79
		国語科教育法 II	文-196			博物館資料保存論	文-175
		教育実習の研究	文-199			博物館情報・メディア論	文-177
		教職実践演習(中・高)	文-200			仏教学講読A(大)	院-31
			文-1	に	西川哲矢	古文書解読A	文-146
そ	添田隆昭	空海の思想入門A	文-204			博物館資料論	文-174
	添野了	梵字悉曇S[IP]	文-46			漢字 I	文-26
た	高田綾子	キャリアデザイン I	文-47		の	野田悟	密教学演習A
		キャリアデザイン II	文-48			漢字 II	文-162
		キャリアデザイン III	文-48			篆刻	文-164
		キャリアデザイン IV	文-49			条幅制作A(漢字)	文-165
	竹村和也	現代の人権	文-148			書道史(中国)	文-167
		教養講義(人権論)	文-148	は	橋本真人	布教A	文-24
		日本国憲法	文-161			布教(別)	文-24
		人権と福祉(別)	文-148			中国語 I	文-136
つ	辻秀道	声明	文-22		土生川正賢	中国語 II	文-137
		声明上級	文-139			企画科目(産業心理学)[OD]	文-118
		声明(別)	文-22			企画科目(コミュニケーション心理学)[OD]	文-119
		声明上級(別)	文-139			企画科目(人間関係論)[OD]	文-120
	辻・西山・岩田	布教B(詠歌)	文-25	ひ	東正訓	仏教学講読演習F	文-94
		企画科目(詠歌上級)	文-127		東真由美	仏教学講読C(大)	院-33
て	テンジンウセル	仏教学講読演習A	文-91	ふ	藤井知枝	日本語A	文-9
		仏教学講読演習B	文-92			日本語B	文-10
		総合科目(仏教入門 I A)	文-110			企画科目(寺院経営入門)	文-117
		総合科目(仏教入門 II A)	文-111	ま	前谷彰	密教学特殊講義A	文-77
		総合科目(仏教入門 I S)[LSO]	文-218			密教学特殊講義B	文-78
		総合科目(仏教入門 II S)[LSO]	文-219			密教学特殊講義S[IP]	文-209
			文-11			密教学講読演習S[IP]	文-212
と	土居夏樹	密教学基礎ゼミA1	文-12			密教学特殊研究A(大)	院-25
		密教学基礎ゼミA2	文-12			密教学特殊研究B(大)	院-26
		宗教史 I	文-57				
		宗教史 II	文-58				
		祖典講読 I S[LSO]	文-62				

教員別索引

ま	松下 歩睦	企画科目(社会心理学)[LSO]	文-229	も	森本 一彦	企画科目(民俗調査B)	文-126
	松長 潤慶	祖典講読 I A	文-59			企画科目(地域連携)	文-128
		密教学講読演習A	文-88			ポランティア	文-141
		密教学演習F	文-104			社会学	文-147
		宗教科教育法 I	文-191			インターンシップ	文-170
		宗教科教育法II	文-192			教育社会学	文-183
		真言宗典講読I(別)	文-59			地域福祉B(別)	文-128
		仏教芸術の研究(大)	院-38			社会保障A(別)	文-147
		密教特殊演習D-1(大)	院-47			比較宗教の研究(大)	院-41
		密教特殊演習D-2(大)	院-48		森本 敦子	英語 I (再履修)[LS]	文-4
	松本 貴子	日本文化A	文-40			英語 II (再履修)[LS]	文-6
		日本文化B	文-41	や	山口 文章	博物館概論	文-172
		日本文化C	文-42			博物館経営論	文-173
		日本文化D	文-43		山口 隆介	博物館展示論[LS]	文-176
		日本文化E	文-44		山 添 正	企画科目(スーパーヴィジョン I)[LS]	文-223
		日本文化F	文-45		山 添 正	企画科目(スーパーヴィジョン II)[LS]	文-224
み	溝 渕 淳	社会福祉論	文-168		山本 和美	企画科目(マインドフルネス)[IP]	文-222
		社会保障論	文-169		山 脇 雅夫	宗教学宗教学史の研究(大)	院-39
		社会保障B(別)	文-168	よ	米田 弘仁	祖典講読 II B[LS]	文-64
		地域福祉A(別)	文-169			祖典演習A(大)[LS]	院-4
		密教学基礎ゼミC1	文-15			祖典演習B(大)[LS]	院-5
	溝 端 悠朗	密教学基礎ゼミC2	文-16	わ	和田 圭子	密教学特殊講義B	文-71
		国文法 I	文-152			密教学特殊講義C	文-72
		国文法 II	文-153			密教学科主任 導入研修	文-2
		日本文学史概説 I	文-154			密教学基礎ゼミF1(再履修)	文-19
		日本文学史概説 II	文-155			密教学基礎ゼミF2(再履修)	文-20
		日本文学 I S	文-156			加行 I	文-32
		日本文学 I S[LSO]	文-156			加行 II	文-33
		日本文学 II S	文-157			巡礼・還路S	文-142
		日本文学 II S[LSO]	文-157			大学院委員長 仏教特殊演習A-1(大)	院-55
		国語科教育法III	文-197			仏教特殊演習A-2(大)	院-56
	南 昌 宏	漢文	文-7				
		哲学S	文-36				
		哲学S[LSO]	文-36				
		漢文学概論 I	文-158				
		漢文学概論 II	文-159				
		中国文化特殊講義S	文-160				
		中国文化特殊講義S[LSO]	文-160				
		国語科教育法IV	文-198				
		アジア地域の宗教文化の研究(大)	院-40				
	宮田 永明	常用経典	文-21				
		常用経典(別)	文-21				
	宮本 直美	特別支援教育	文-184				
も	本 山 司	体育実技	文-140				
	森崎 雅好	心理学 I S	文-37				
		心理学 I S[LSO]	文-37				
		心理学 II S	文-38				
		心理学 II S[LSO]	文-38				
		密教学講読演習T	文-91				
		密教学講読演習T[LSO]	文-91				
		密教学演習O	文-109				
		企画科目(死生観)	文-129				
		企画科目(死生観)[LSO]	文-129				
		企画科目(グリーンケア)	文-130				
		企画科目(グリーンケア)[LSO]	文-130				
		企画科目(宗教間対話)	文-131				
		心の科学(別)	文-37				
		心の科学(別)	文-38				
		現代社会と宗教(大)	院-19				
	森本 一彦	密教学基礎ゼミD1	文-17				
		密教学基礎ゼミD2	文-18				
		キャリアデザインVIB	文-69				
		キャリアデザインVIB	文-70				
		密教学特殊講義D	文-73				
		企画科目(民俗調査A)	文-125				

講義概要・授業計画 令和6年度(2024)

2024年4月1日発行

編集・発行 高野山大学
〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385
T E L : (0736) 56-5027 (学務課教務係)
F A X : (0736) 56-5048
E-mail : kyomu@koyasan-u.ac.jp
U R L : <https://www.koyasan-u.ac.jp>
